

令和4年度
宮崎県ヤングケアラーの実態に関する調査

調査報告書

令和5年3月
宮崎県 こども家庭課

目 次

I	調査概要	1
II	調査結果概要	3
III	調査結果（小学生）	8
IV	調査結果（中高生）	67
V	調査結果（学校）	164
VI	自由意見	237
VII	考察	254
VIII	調査票	256

I 調査概要

1. 調査対象

【児童・生徒の生活実態に関するアンケート調査】

・県内の小学6年生、中学2年生、高校2年生（公立、私立、定時制も含む）の全数調査約3万人

【学校におけるヤングケアラーへの対応に関するアンケート調査】

・上記の県内小学校、中学校及び高等学校 428 校

2. 調査時期

令和4年9月～令和5年1月

3. 回答形式

PC、タブレット、スマートフォンの通信端末を用いてWEB上で回答する。

（一部、紙調査を郵送配布・郵送回収）

4. 回答状況

	小学生（人）	中学生（人）	高校生（人）	学校（校）
有効回答数	9,642	8,653	7,295	377
調査母数(概算)	10,163	10,046	9,179	428
回答率	94.9%	86.1%	79.5%	88.1%

【調査母数 出典】

小学生：宮崎県の推計人口と世帯数（令和4年：年報） 12歳人口

中高生：宮崎県の推計人口と世帯数（令和4年：年報） 14歳人口

中高生：宮崎県の推計人口と世帯数（令和4年：年報） 17歳人口

学校：令和4年度宮崎県学校一覧 総括表（学校数、生徒数、学級数、教職員数の集計）

：令和4年度宮崎県私立学校一覧

5. 報告書の見方

○ 四捨五入による有効数字の関係上、単数回答であっても合計値が100%にならない場合があります。

○ 複数回答の設問の場合、有効回答者数に対してそれぞれの割合を示しています。

○ グラフの値については、レイアウトの関係上省略することがあります。

○ サンプル数が5人未満（※）の場合は、グラフの掲載のみとなっております。

※ 学校調査については5校未満の場合

○ 追加集計の家族構成について、

『二世代世帯』は、問3で「母親」かつ「父親」を選択している人（単身赴任も含む）

『三世代世帯』は、問3で「母親」または（かつ）「父親」を選択し、「祖父」または（かつ）「祖母」を選択している人

『ひとり親家庭』は、問3で「母親」または「父親」のみを選択している人

『一人暮らし・寮・施設』は、問3で「その他」を選択し、記述欄から該当すると判別できた人

『その他の世帯』は、それ以外の人

に分類しています。

○ 追加集計の世話の開始時期について、

『就学前』は、6歳以下

『小学生（低学年）』は、7歳以上10歳未満

『小学生（高学年）』は、10歳以上13歳未満

『中高生以降』は、13歳以上

に分類しています。

○ 追加集計の世話を必要としている家族による世話の状況等について、

『父母のみ』は、問11①で「母親」または「父親」のみを選択している人

『祖父母のみ』は、問11①で「祖母」または「祖父」のみを選択している人

『きょうだいのみ』は、問11①で「きょうだい」のみを選択している人

『複数人』は、問11①で「母親」「父親」「祖母」「祖父」「きょうだい」「その他」を複数選択している人

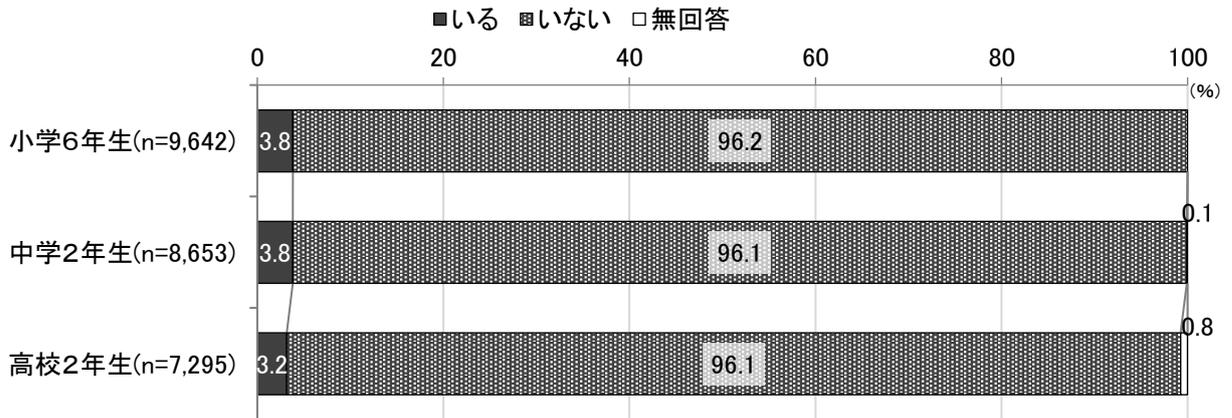
に分類しています。

Ⅱ 調查結果概要

1. ヤングケアラーの実態について

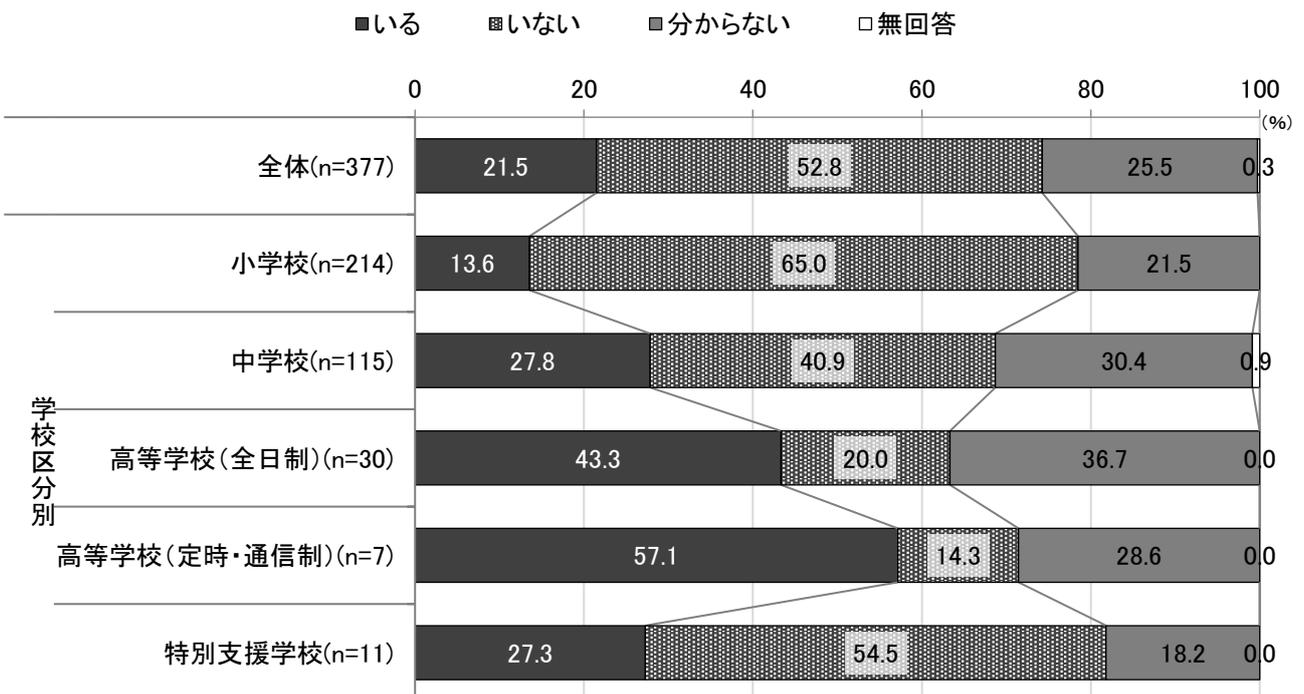
家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか（小学生・中学生 問 10）

家族の中に自分がお世話をしている人がいるかについて、「いる」と回答した割合は、小学6年生が3.8%、中学2年生が3.8%、高校2年生が3.2%となっています。



ヤングケアラーの定義を見て、現在、貴校にヤングケアラーと思われる（可能性も含めて）子どもはいますか。（学校 問 14）

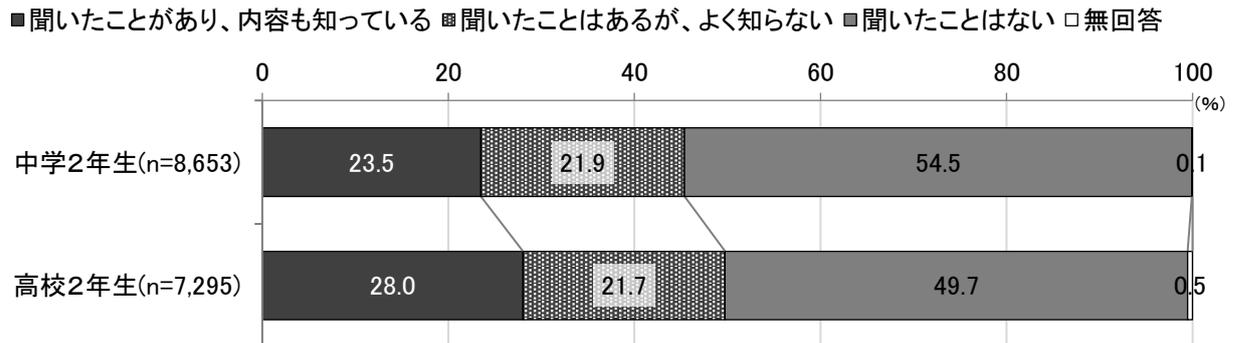
校内にヤングケアラーと思われる（可能性も含めて）子どもがいるかについて、「いる」と回答した割合は、小学校が13.6%、中学校が27.8%、高等学校（全日制）が43.3%、高等学校（定時・通信制）が57.1%となっています。



2. ヤングケアラーの認知度について

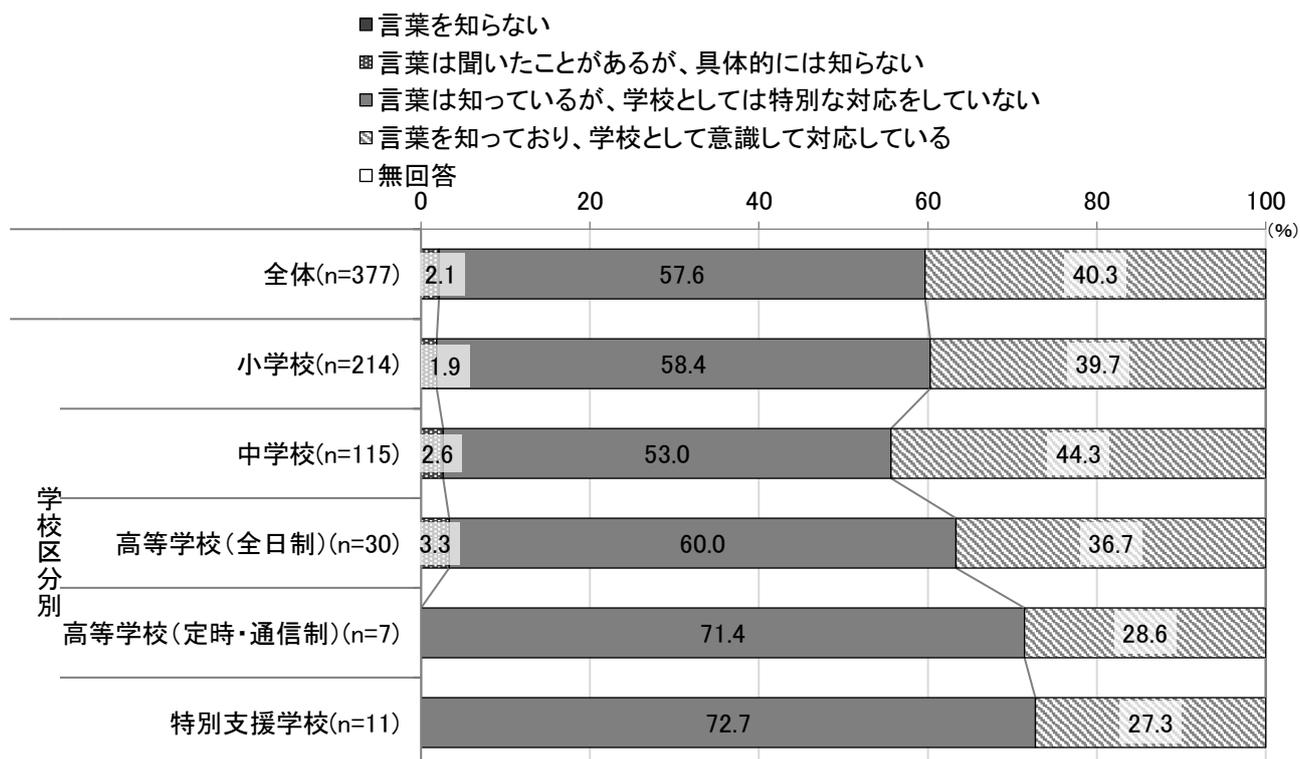
「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありますか。(中高生問 21)

「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがあったかについて、『聞いたことがある(「聞いたことがあり、内容も知っている」+「聞いたことはあるが、よく知らない」)』と回答した割合は、中学2年生が45.4%、高校2年生が49.7%となっています。



貴校では「ヤングケアラー」という概念を認識していますか。(学校 問 11)

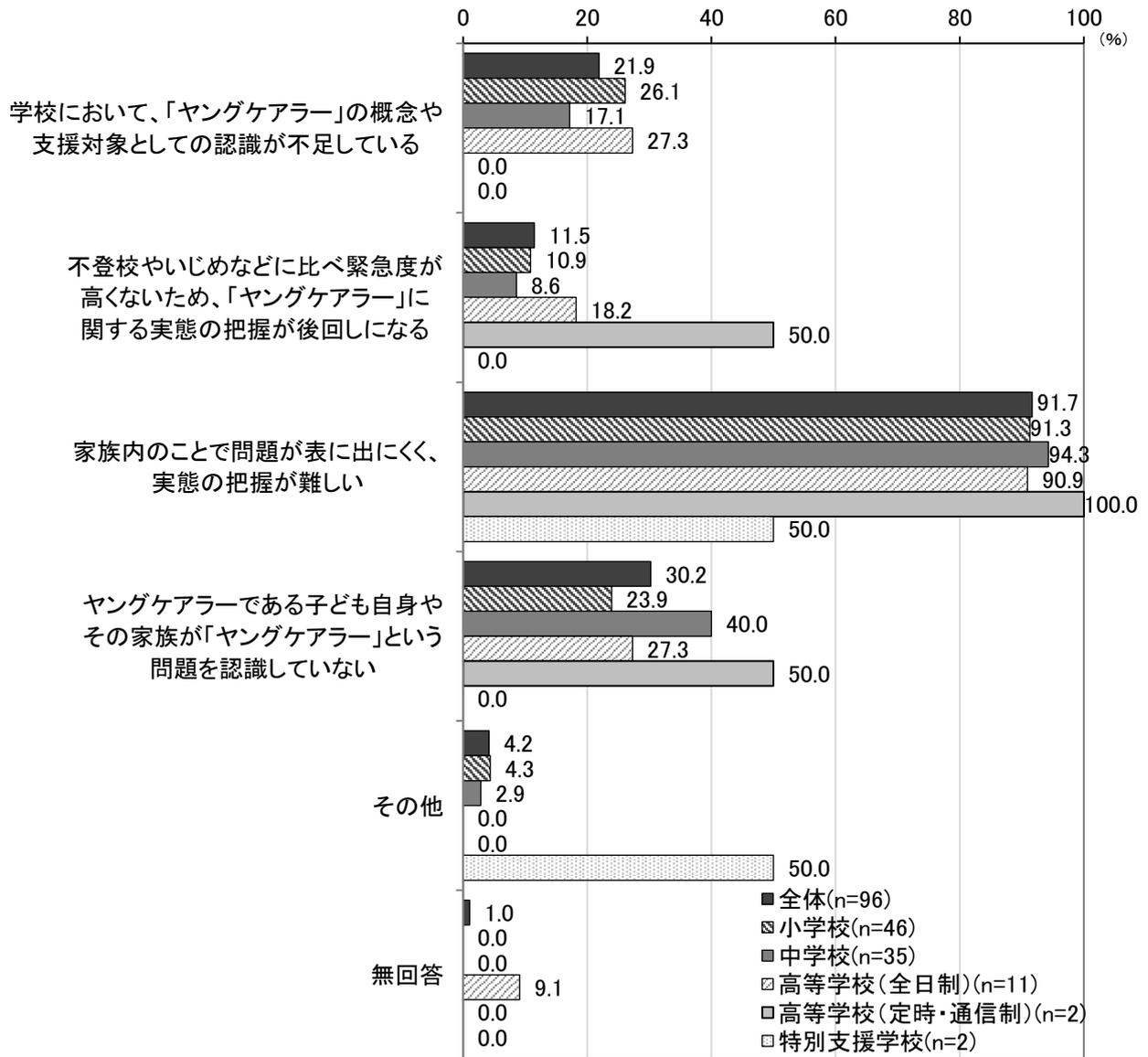
「ヤングケアラー」という概念を認識しているかについて、全体では「言葉を知らない」が 0.0%、「言葉は聞いたことがあるが、具体的には知らない」が 2.1%、「言葉は知っているが、学校としては特別な対応をしていない」が 57.6%、「言葉は知っており、学校として意識して対応している」が 40.3%となっています。学校区分別では、学校区分別でみると、「言葉を知っており、学校として意識して対応している」は、中学校が 44.3%、小学校が 39.7%となっています。



3. ヤングケアラーへの支援について

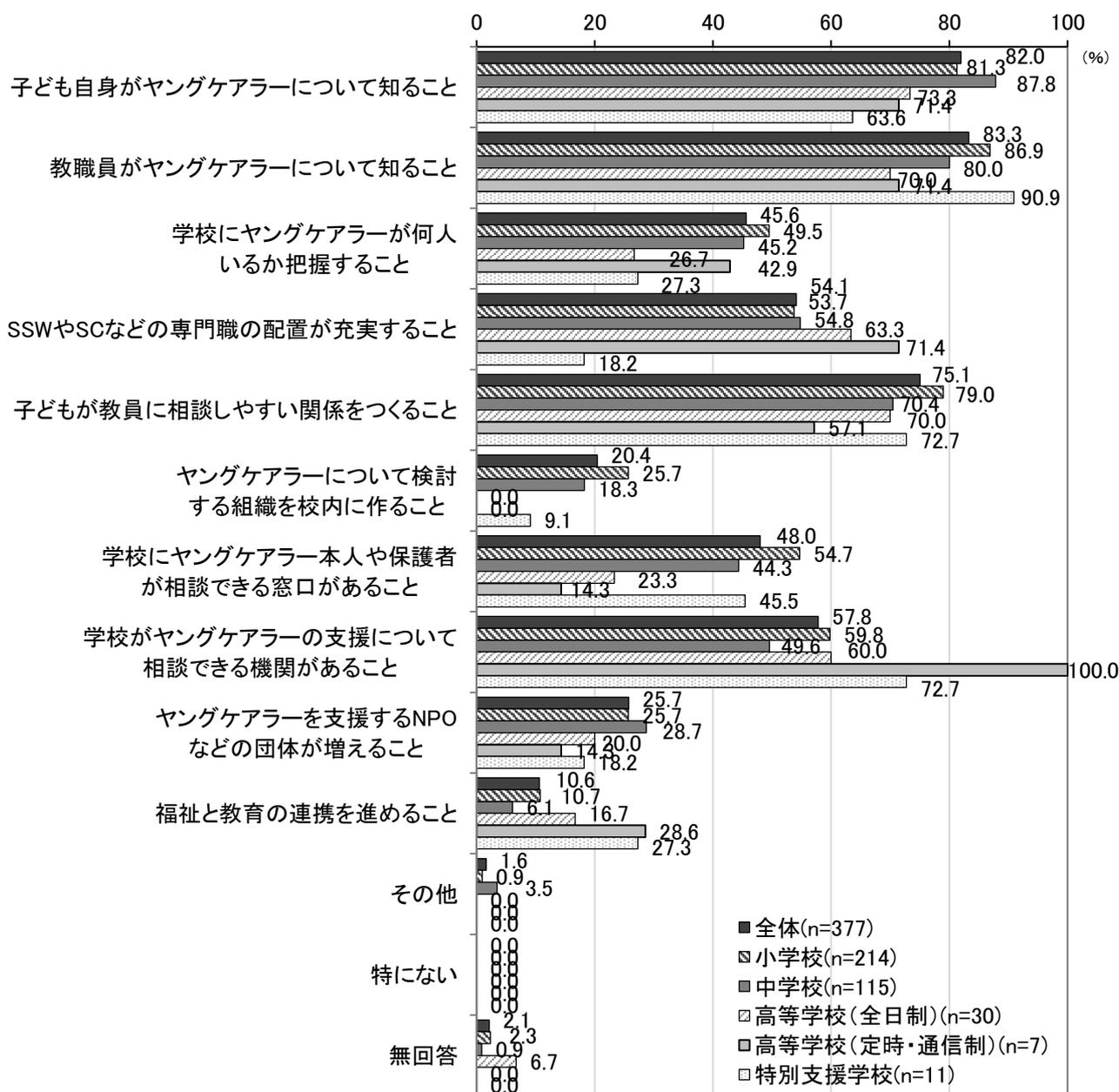
問 14 (『現在、貴校にヤングケアラーと思われる(可能性も含めて)子どもはいますか。』)で「3. 分からない」と回答した方にお伺いします。その理由をお教えてください。(学校 問 16)

ヤングケアラーと思われる(可能性も含めて)子どもがいるか分からない理由について、「家庭内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい」が91.7%となっています。



ヤングケアラーを支援するために、必要だと思うことはどのようなことですか。(学校 問17)

ヤングケアラーを支援するために、必要だと思うことについて、「教職員がヤングケアラーについて知ること」が83.3%、「子ども自身がヤングケアラーについて知ること」が82.0%となっています。

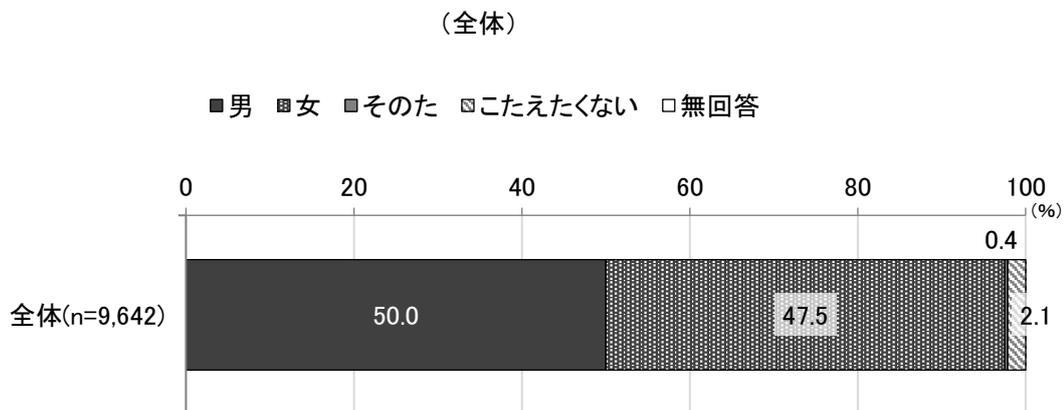


Ⅲ 調査結果（小学生）

1. 調査結果

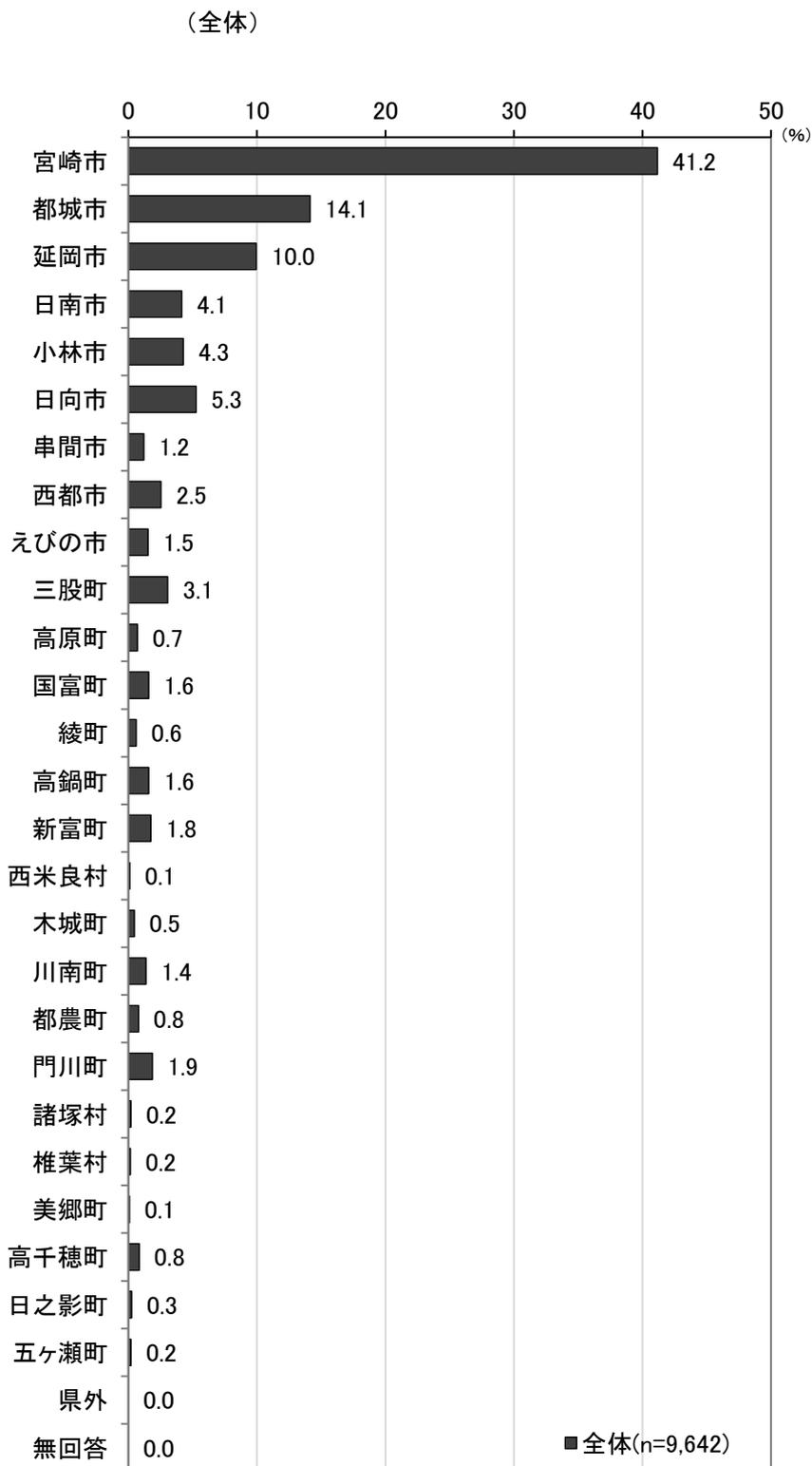
問1 あなたの性別を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

全体で見ると、「男」が50.0%、「女」が47.5%、「その他」が0.4%、「こたえたくない」が2.1%となっています。



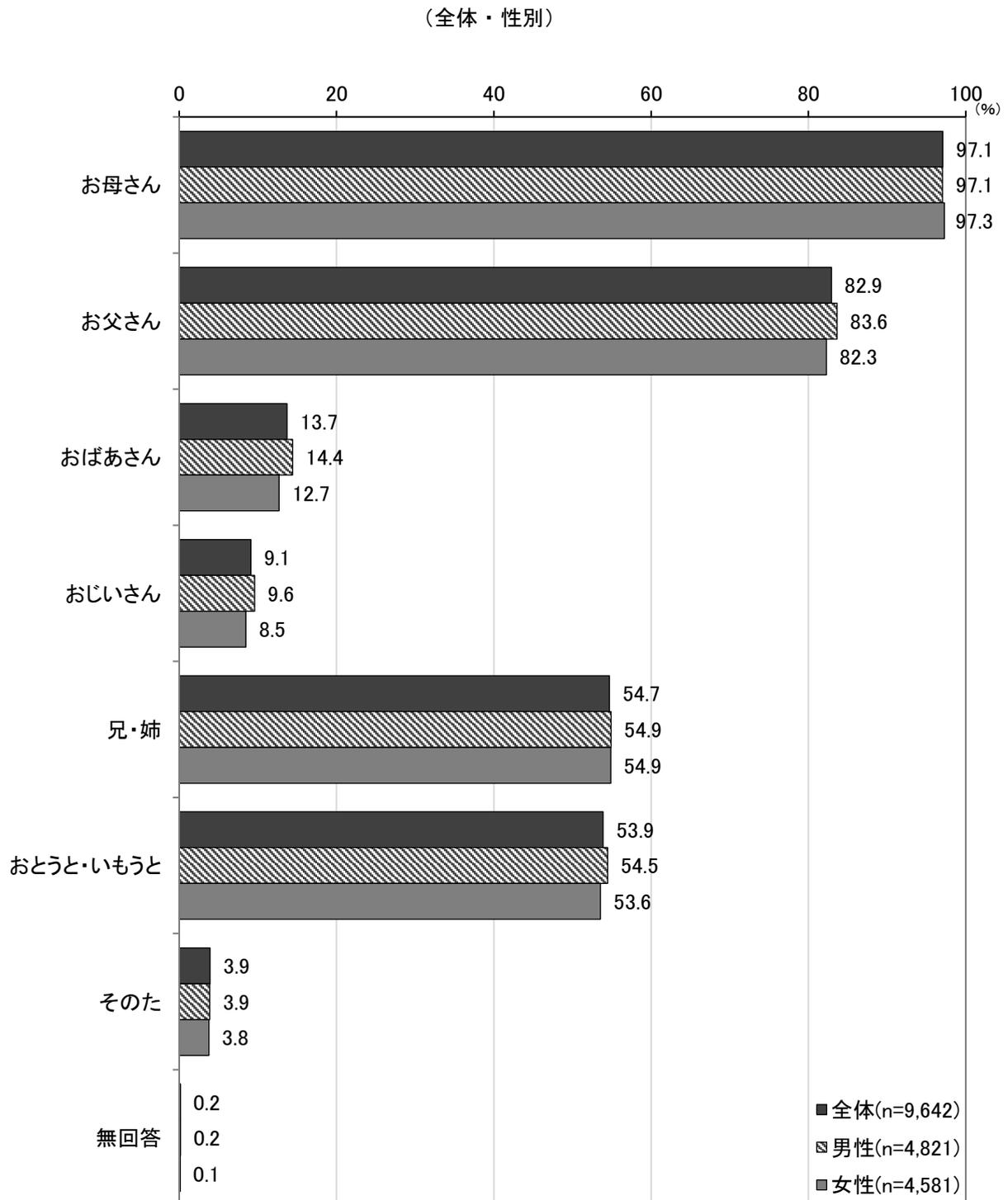
問2 あなたの住んでいる市町村をおしえてください。

全体でみると、「宮崎市」が41.2%と最も高く、次いで「都城市」が14.1%、「延岡市」が10.0%となっています。



問3 あなたと一緒に住んでいるのは誰ですか。(あてはまる番号すべてに○)

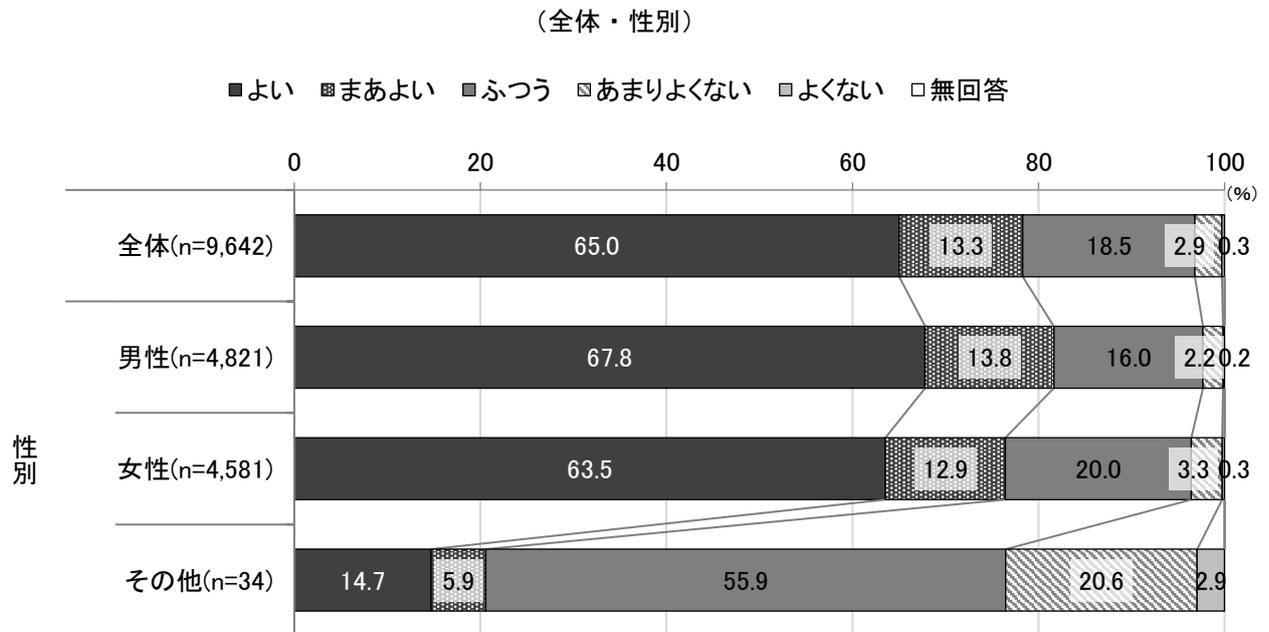
全体でみると、「お母さん」が97.1%と最も高く、次いで「お父さん」が82.9%、「兄・姉」が54.7%、「おとうと・いもうと」が53.9%となっています。



問4 あなたの体調についておしえてください。(あてはまる番号1つに○)

全体で見ると、「よい」が65.0%、「まあよい」が13.3%、「ふつう」が18.5%、「あまりよくない」が2.9%、「よくない」が0.3%となっています。

性別で見ると、「よい」の割合は、男性67.8%、女性63.5%と、男性が4.3ポイント高くなっています。

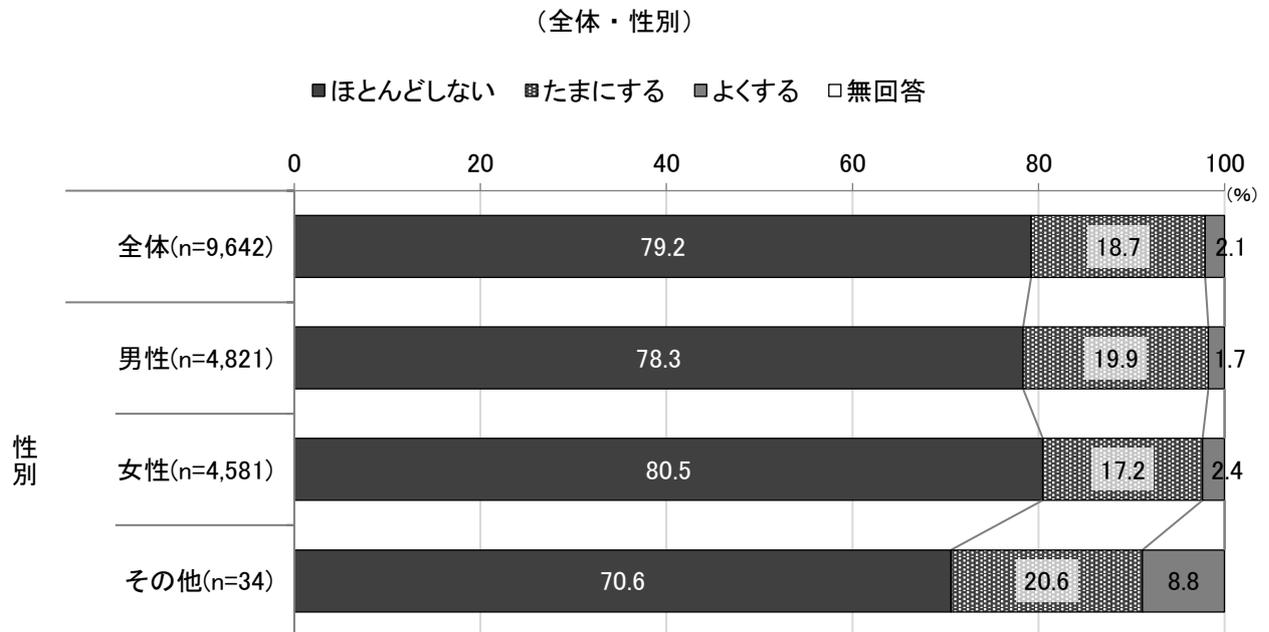


問5 あなたは学校を欠席したり、遅刻や早退をしたりすることがありますか。

① 欠席について（あてはまる番号1つに○）

全体で見ると、「ほとんどしない」が79.2%、「たまにする」が18.7%、「よくする」が2.1%となっています。

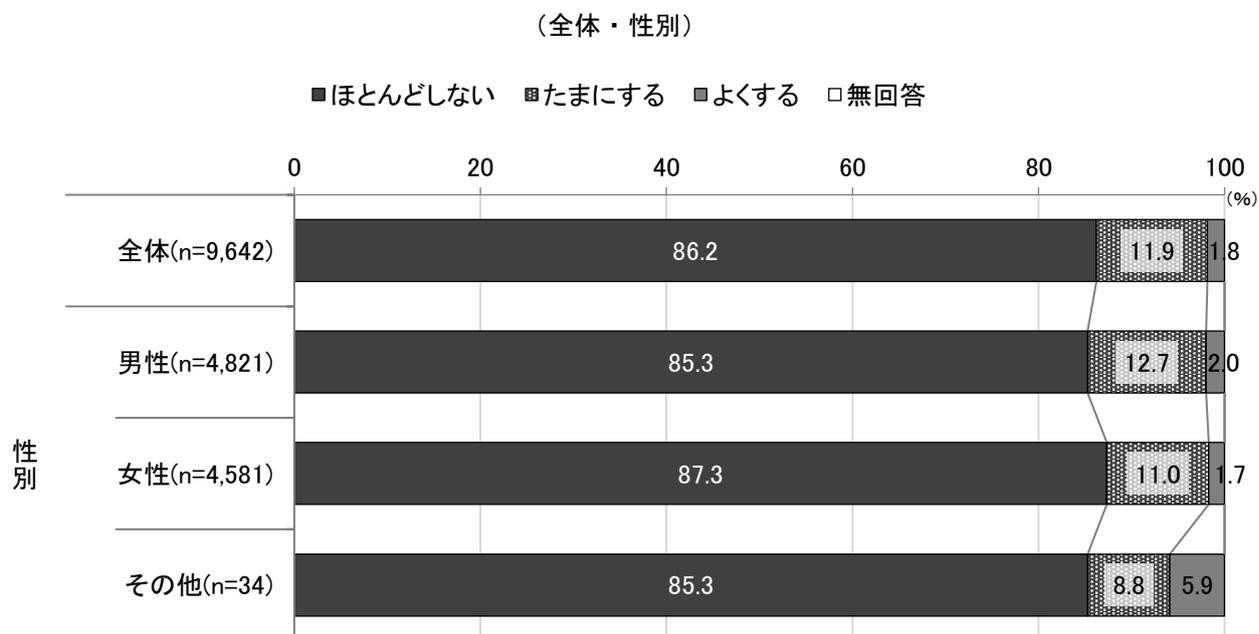
性別では、大きな差異はみられません。



② 遅刻や早退について（あてはまる番号1つに○）

全体で見ると、「ほとんどしない」が86.2%、「たまにする」が11.9%、「よくする」が1.8%となっています。

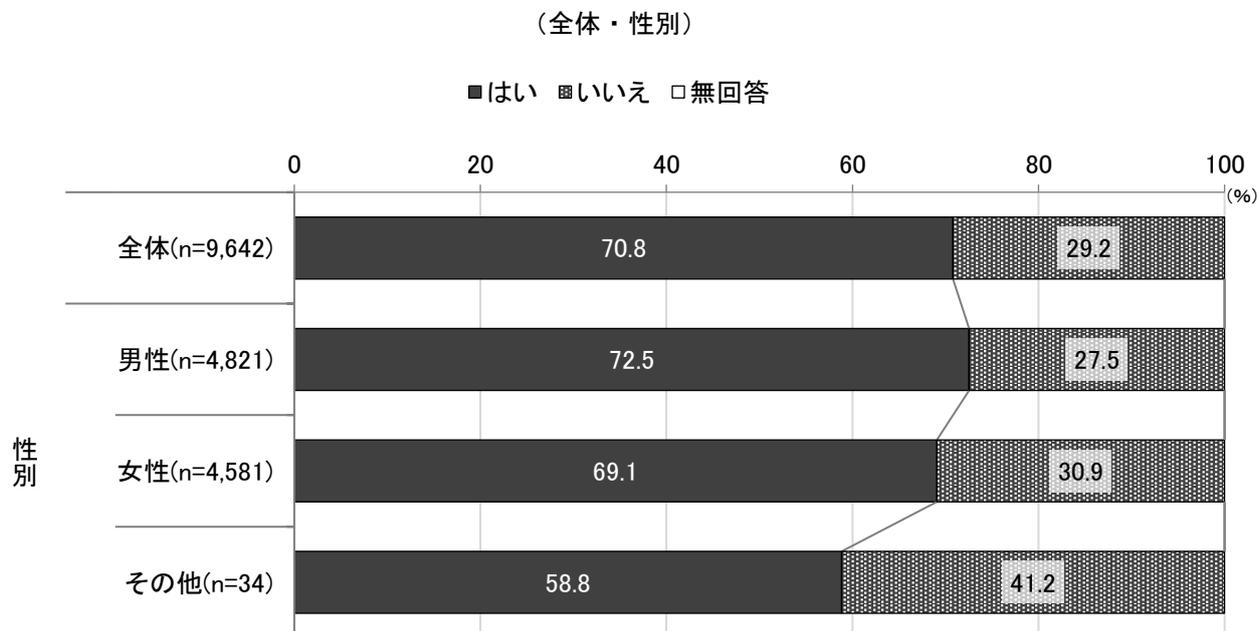
性別では、大きな差異はみられません。



問6 放課後、習い事などをしてますか。(あてはまる番号1つに○)

全体でみると、「はい」が70.8%、「いいえ」が29.2%となっています。

性別でみると、「はい」は男性72.5%、女性69.1%と、男性が3.4ポイント高くなっています。

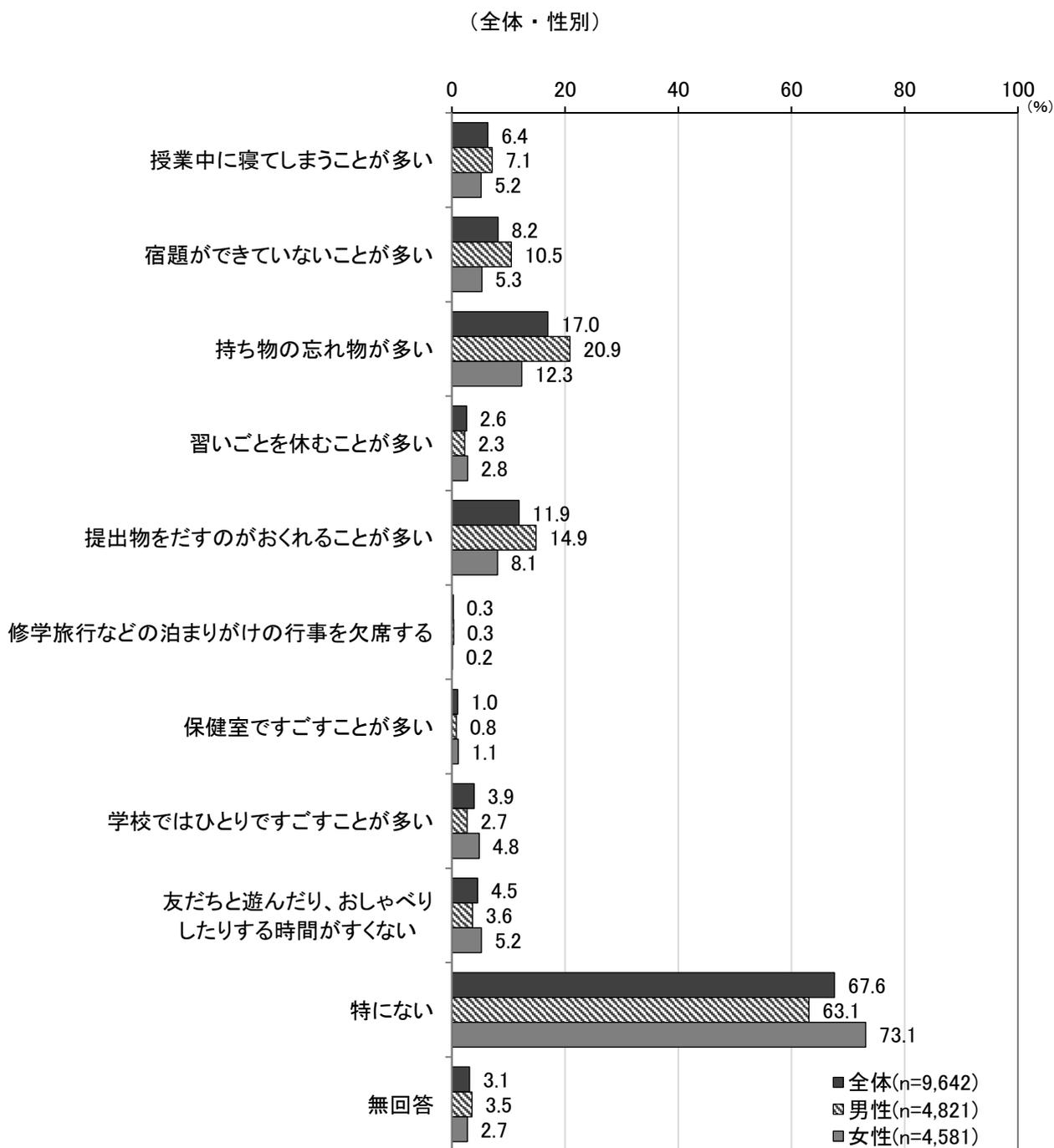


問7 ふだんの学校生活などにおいて、以下の中であてはまるものはありますか。

(あてはまる番号すべてに○)

全体でみると、「特にない」が67.6%と最も高く、次いで「持ち物の忘れ物が多い」が17.0%、「提出物をだすのがおくれることが多い」が11.9%、「宿題ができていないことが多い」が8.2%となっています。

性別でみると、「特にない」は男性63.1%、女性73.1%と、女性が10.0ポイント高くなっており、「持ち物の忘れ物が多い」は男性20.9%、女性12.3%と、男性が8.6ポイント高くなっていきます。

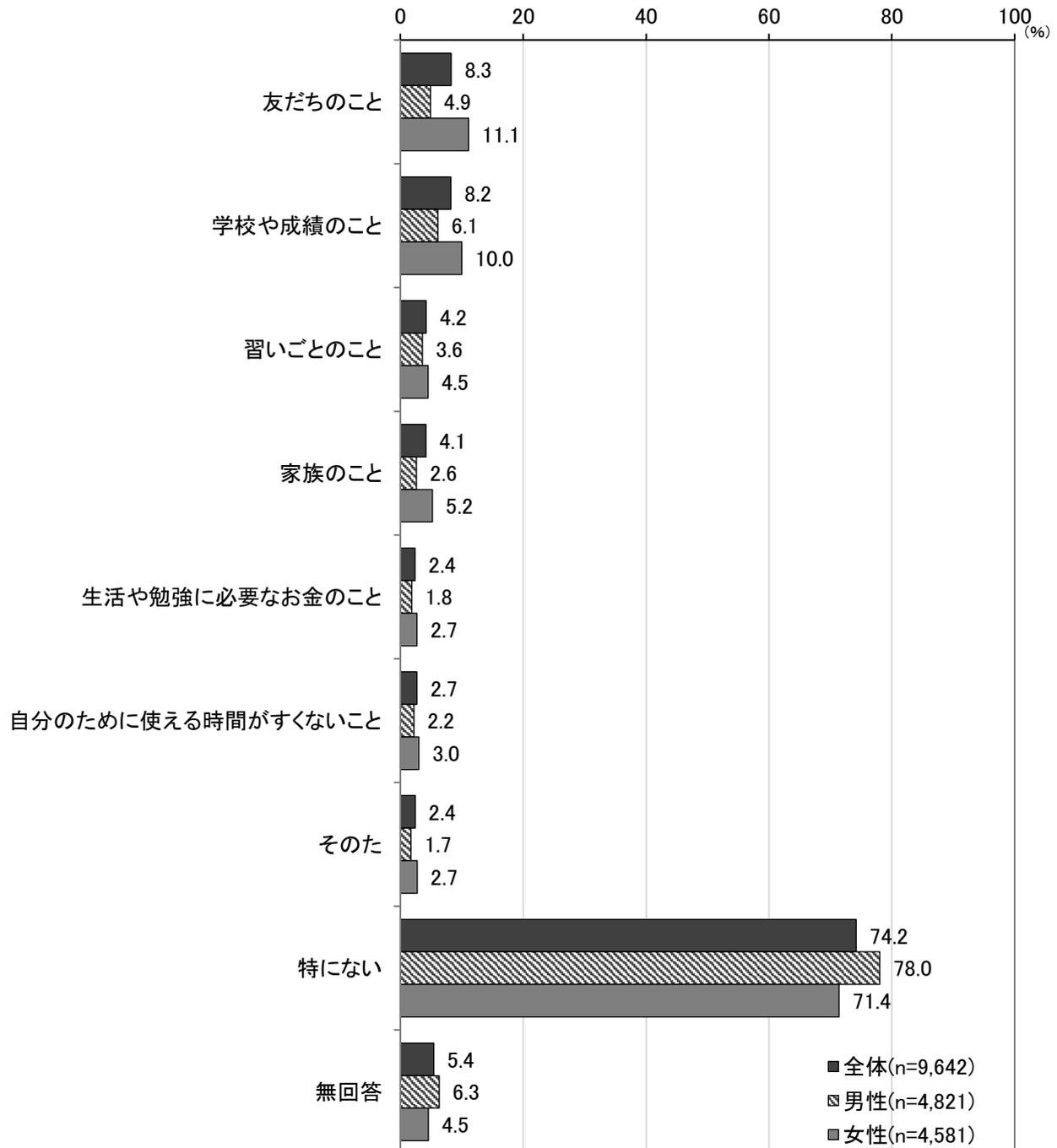


問8 あなたが悩んでいることはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

全体で見ると、「特にない」が74.2%と最も高く、次いで「友だちのこと」が8.3%、「学校や成績のこと」が8.2%、「習いごとのこと」が4.2%となっています。

性別で見ると、「特にない」は男性78.0%、女性71.4%と、男性が6.6ポイント高くなっており、「友だちのこと」は男性4.9%、女性11.1%と、女性が6.2ポイント高くなっていきます。

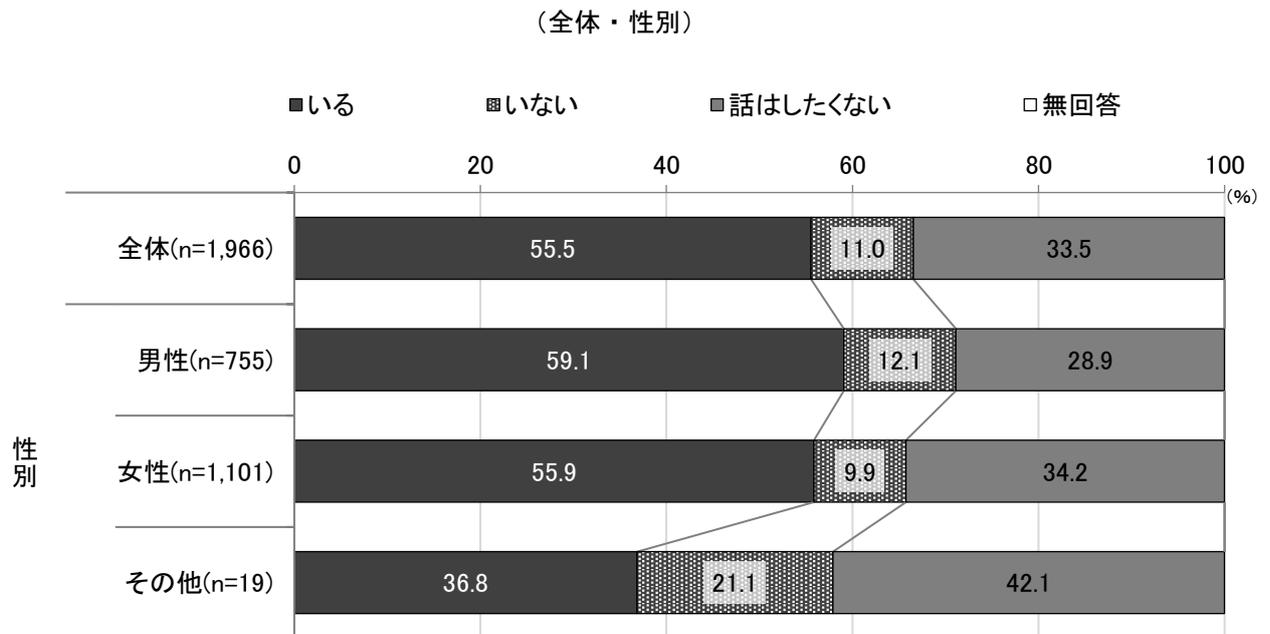
(全体・性別)



問9 問8でどれかに○をつけた人におききします。○をつけた悩みについて、話をきいてくれる人はいますか。(あてはまる番号1つに○)

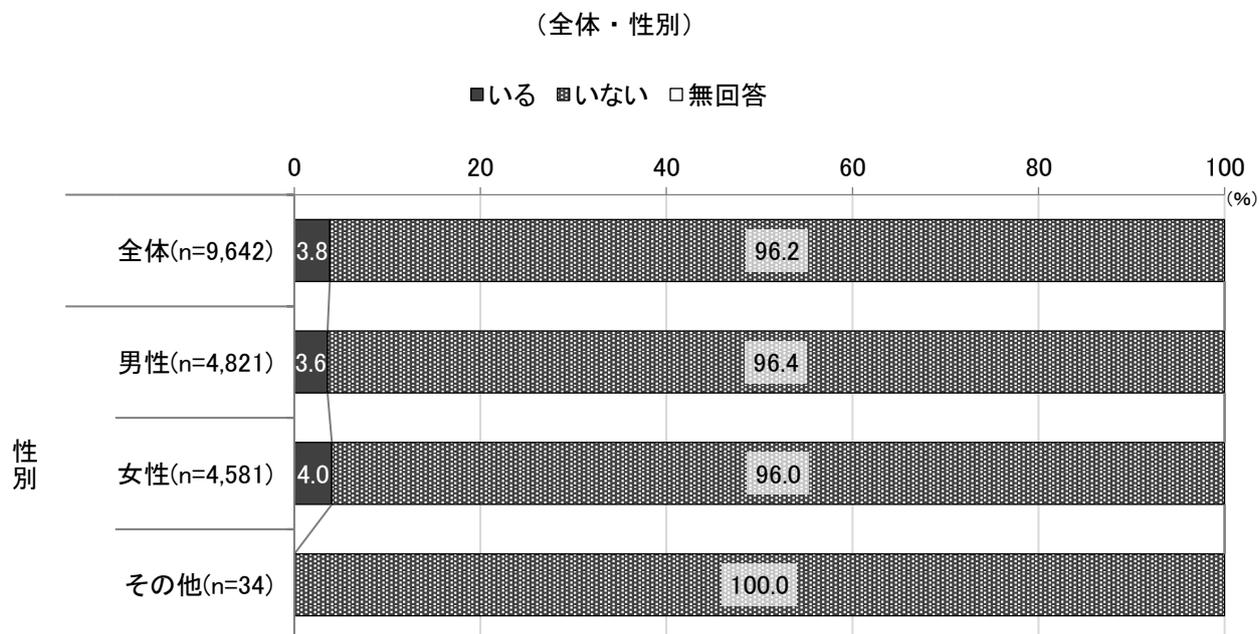
全体でみると、「いる」が55.5%、「いない」が11.0%、「話はしたくない」が33.5%となっています。

性別でみると、「話はしたくない」は男性28.9%、女性34.2%と、女性が5.3ポイント高くなっています。



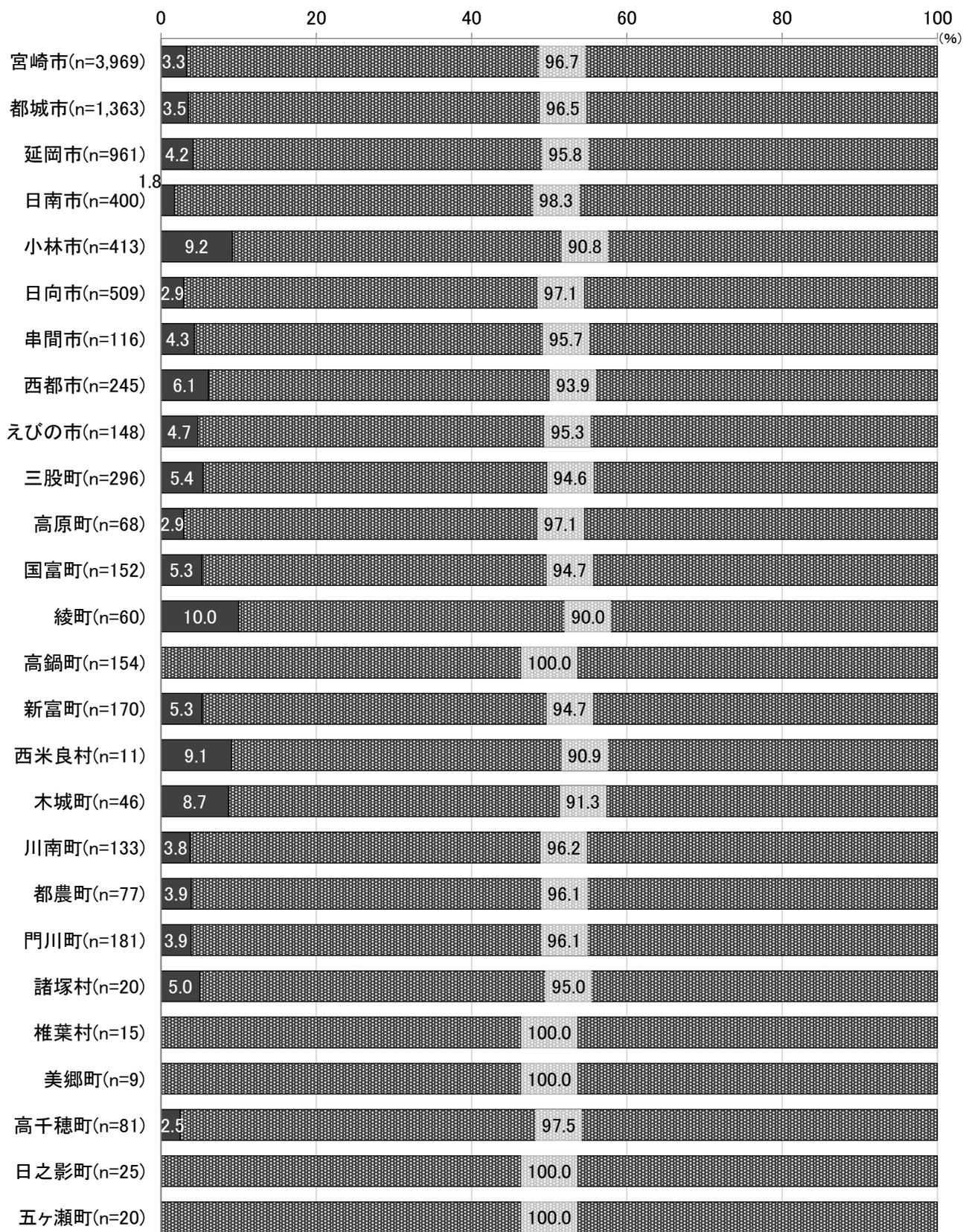
問 10 家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか。(ここで「お世話」とは、ふつう大人がおこなうような家事や家族のお世話のことです。)(あてはまる番号1つに○)

全体でみると、「いる」が3.8%、「いない」が96.2%となっています。
性別では、大きな差異はみられません。



(市町村別)

■いる ■いない □無回答

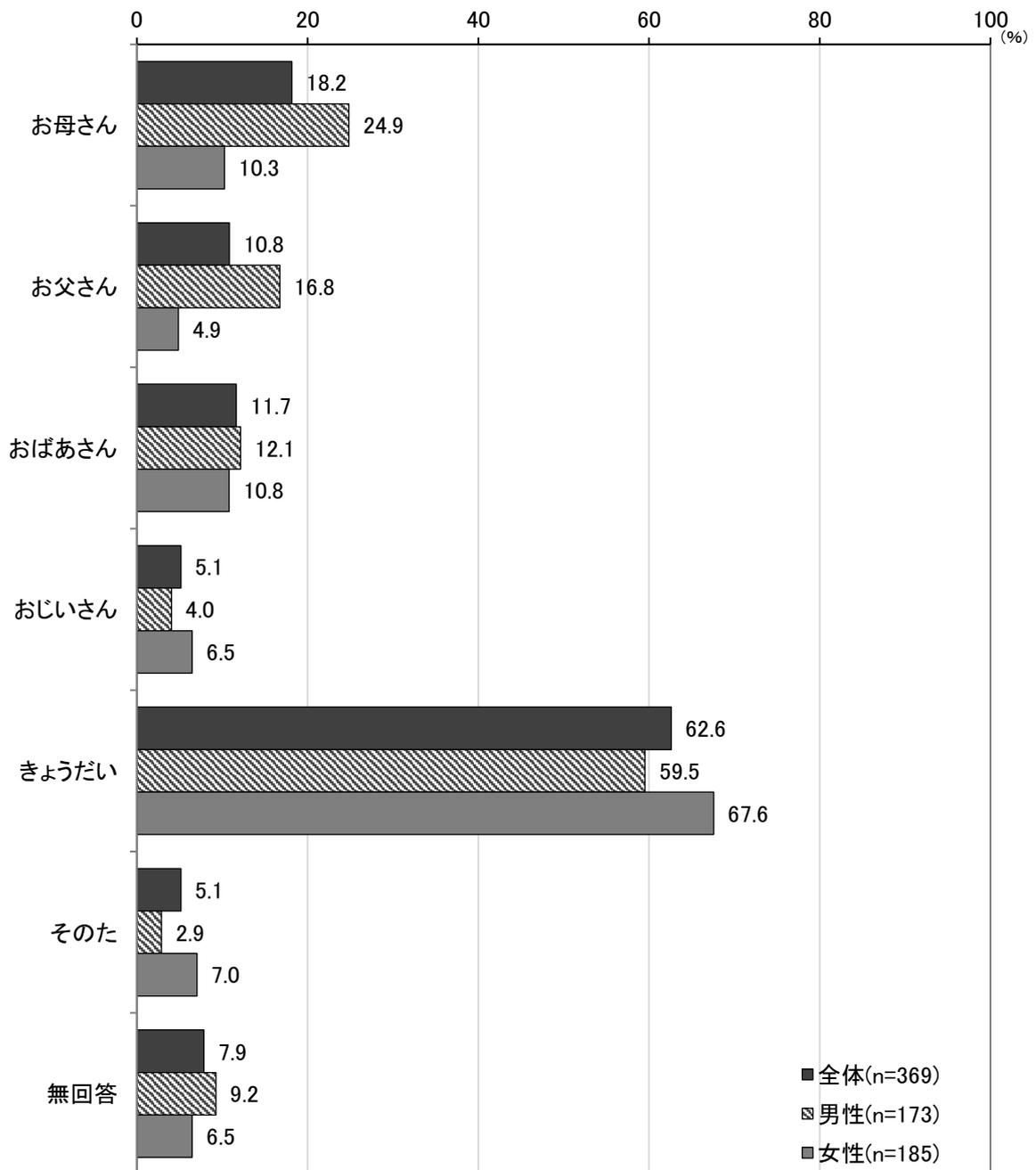


問 11 10で「1. いる」と答えた人におききします。あなたは誰に、どのようなお世話をしていますか。

① あなたがお世話をしている人（あてはまる番号すべてに○）

全体でみると、「きょうだい」が62.6%と最も高く、次いで「お母さん」が18.2%、「おばあさん」が11.7%、「お父さん」が10.8%、「おじいさん」と「そのた」が5.1%となっています。
性別でみると、「お母さん」は男性24.9%、女性10.3%と、男性が14.6ポイント高くなっています。

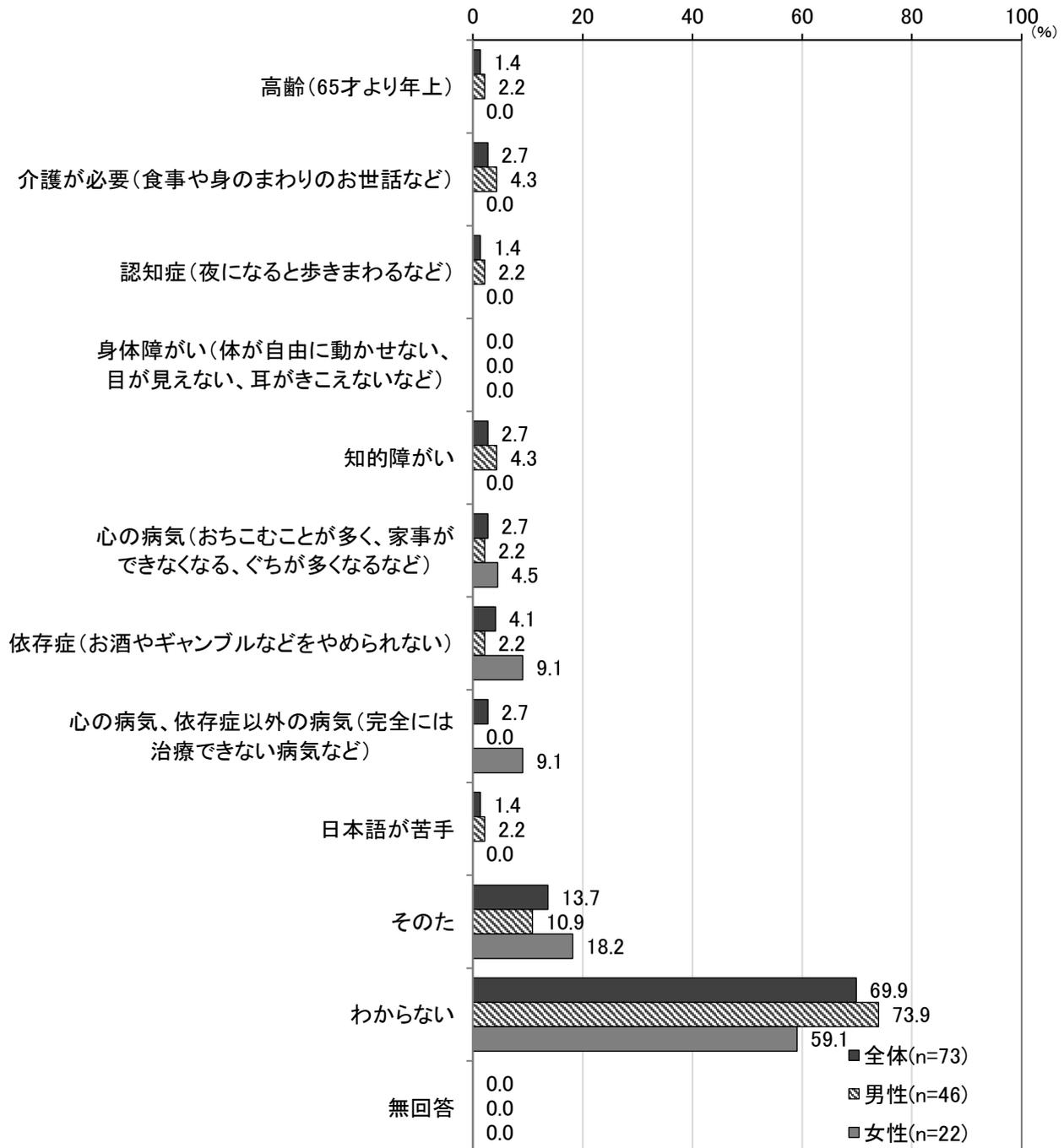
(全体・性別)



- ② お世話を必要としている人の状況についておしえてください。
- ②-a お母さん、あるいはお父さんのお世話をしている人におききします。
それはどのような理由ですか。(あてはまる番号すべてに○)

全体でみると、「わからない」が69.9%と最も高く、次いで「そのた」が13.7%、「依存症（お酒やギャンブルなどをやめられない）」が4.1%となっています。

(全体・性別)

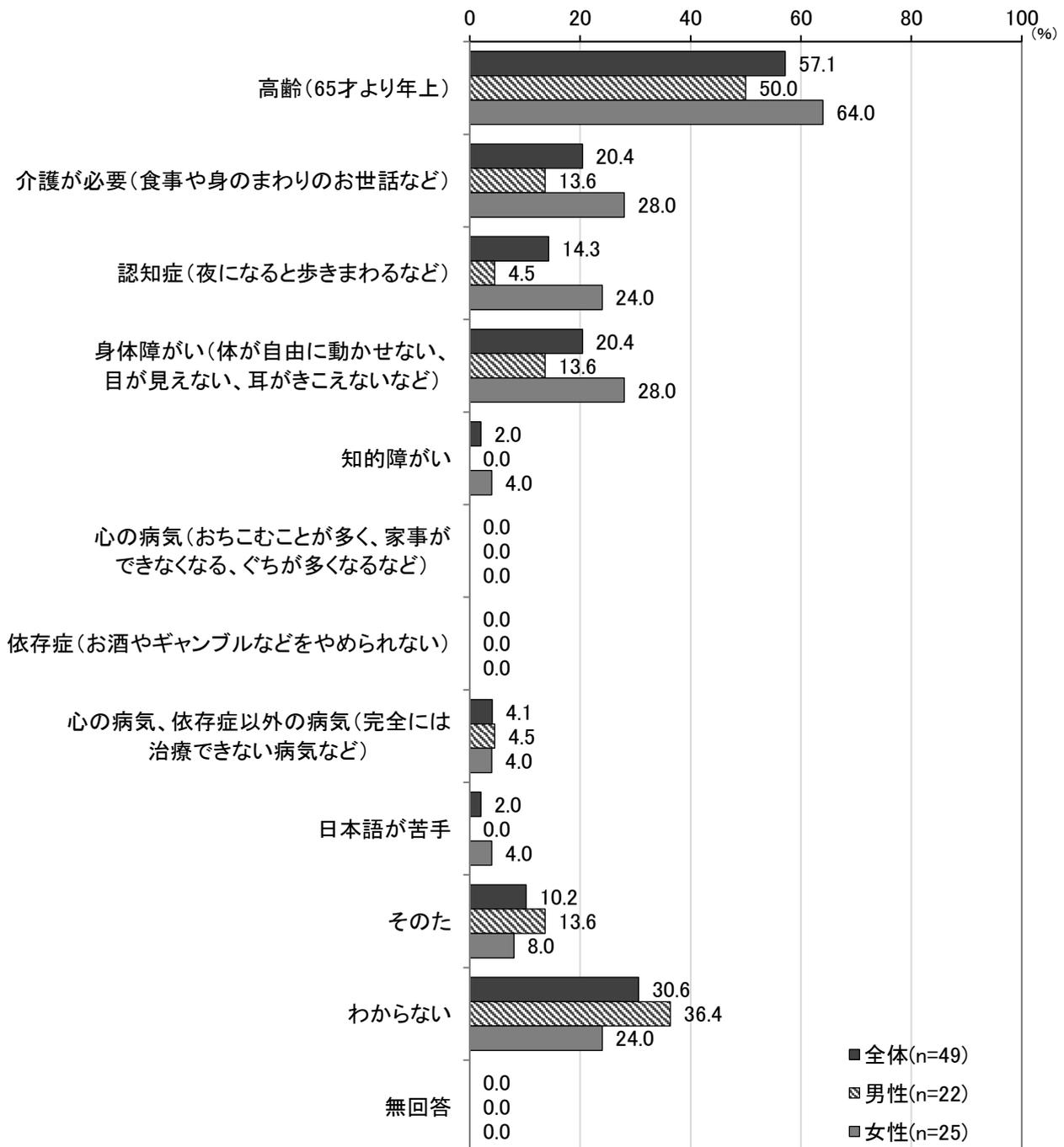


②ーb おばあさん、あるいはおじいさんをお世話している人におききます。

それはどのような理由ですか。(あてはまる番号すべてに○)

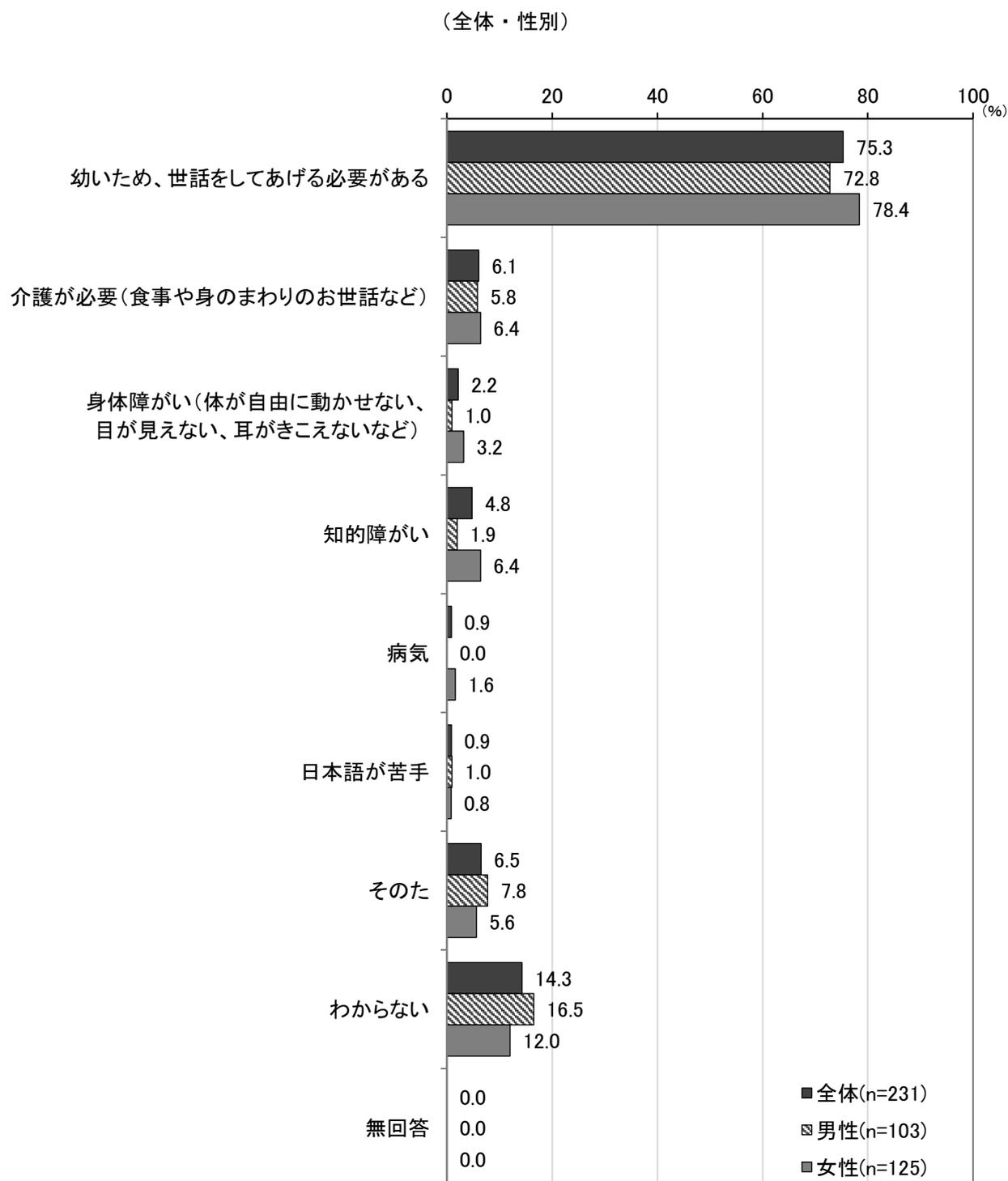
全体でみると、「高齢(65才より年上)」が57.1%と最も高く、次いで「わからない」が30.6%、「介護が必要(食事や身のまわりのお世話など)」と「身体障がい(体が自由に動かせない、目が見えない、耳がきこえないなど)」が20.4%となっています。

(全体・性別)



②- c きょうだいをお世話している人におききます。
それはどのような理由ですか。(あてはまる番号すべてに○)

全体でみると、「幼いため、世話をしなくてはならない必要がある」が75.3%と最も高く、次いで「わからない」が14.3%、「その他」が6.5%となっています。

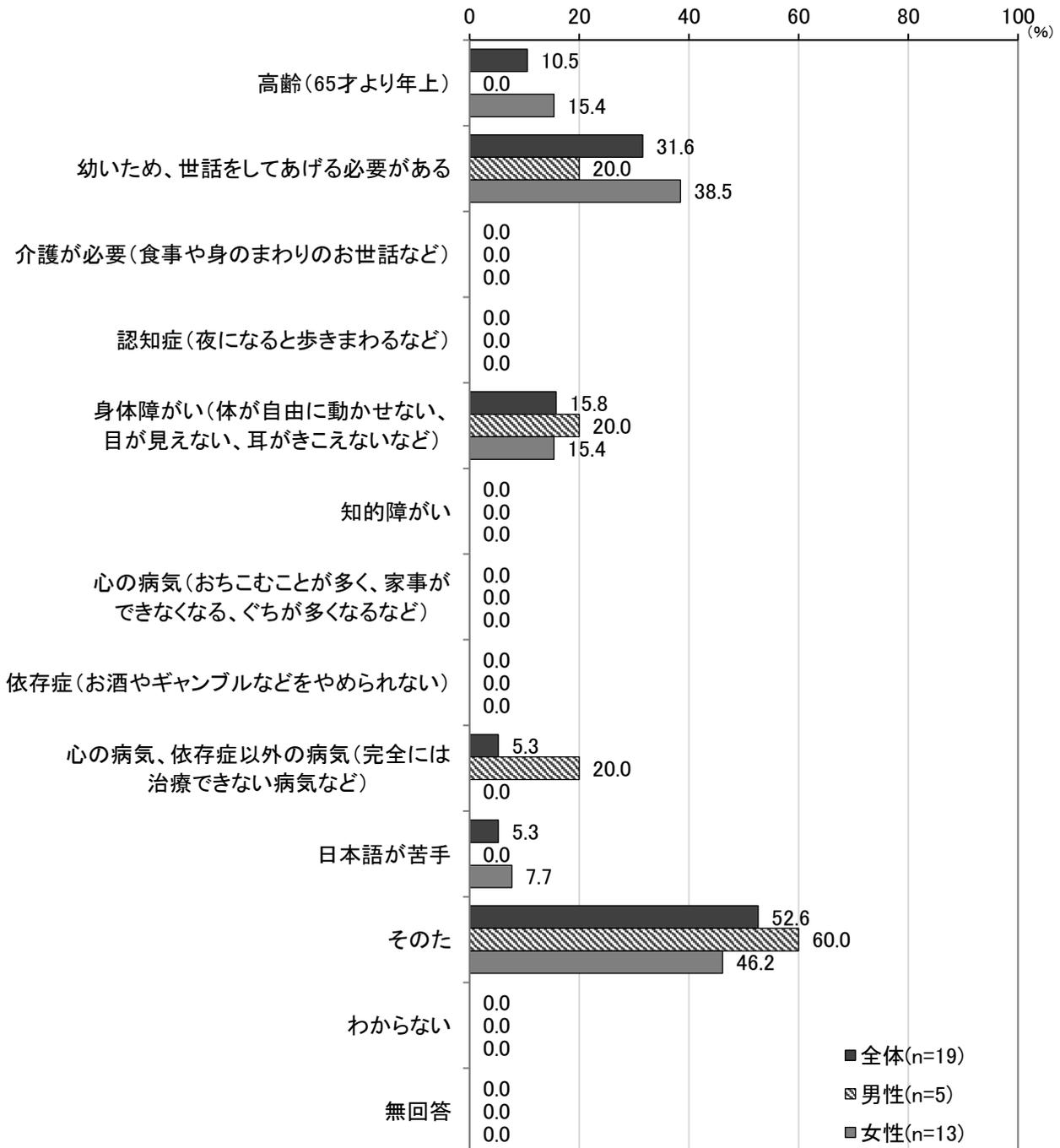


②-d そのたの人をお世話している人におききます。

それはどのような理由ですか。(あてはまる番号すべてに○)

全体でみると、「そのた」が52.6%と最も高く、次いで「幼いため、世話をしてあげる必要がある」が31.6%、「身体障がい（体が自由に動かせない、目が見えない、耳がきこえないなど）」が15.8%となっています。

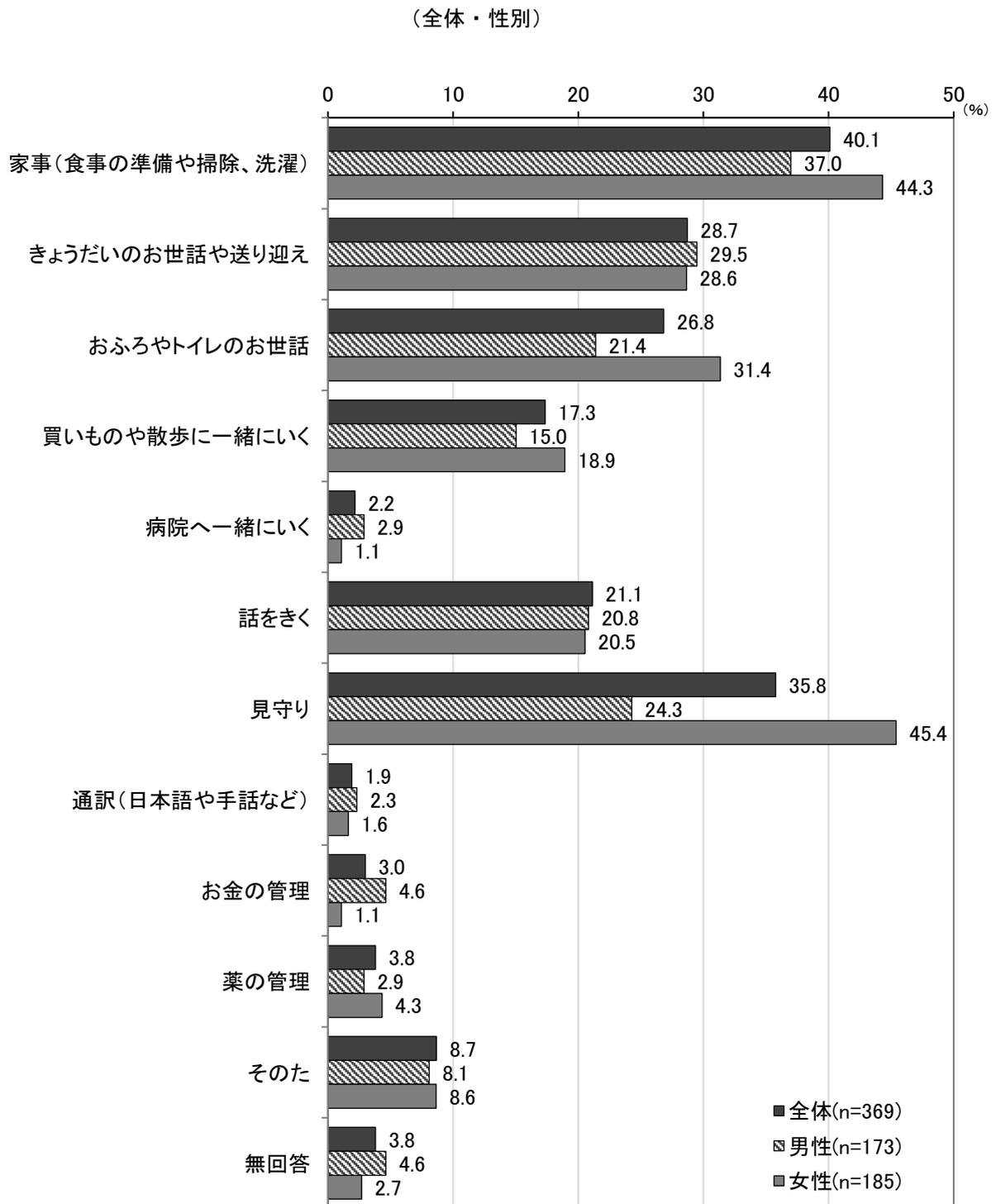
(全体・性別)



③ あなたはどのようなお世話をしていますか。お世話をしている人が何人かいる場合には、あてはまる番号すべてに○をしてください。

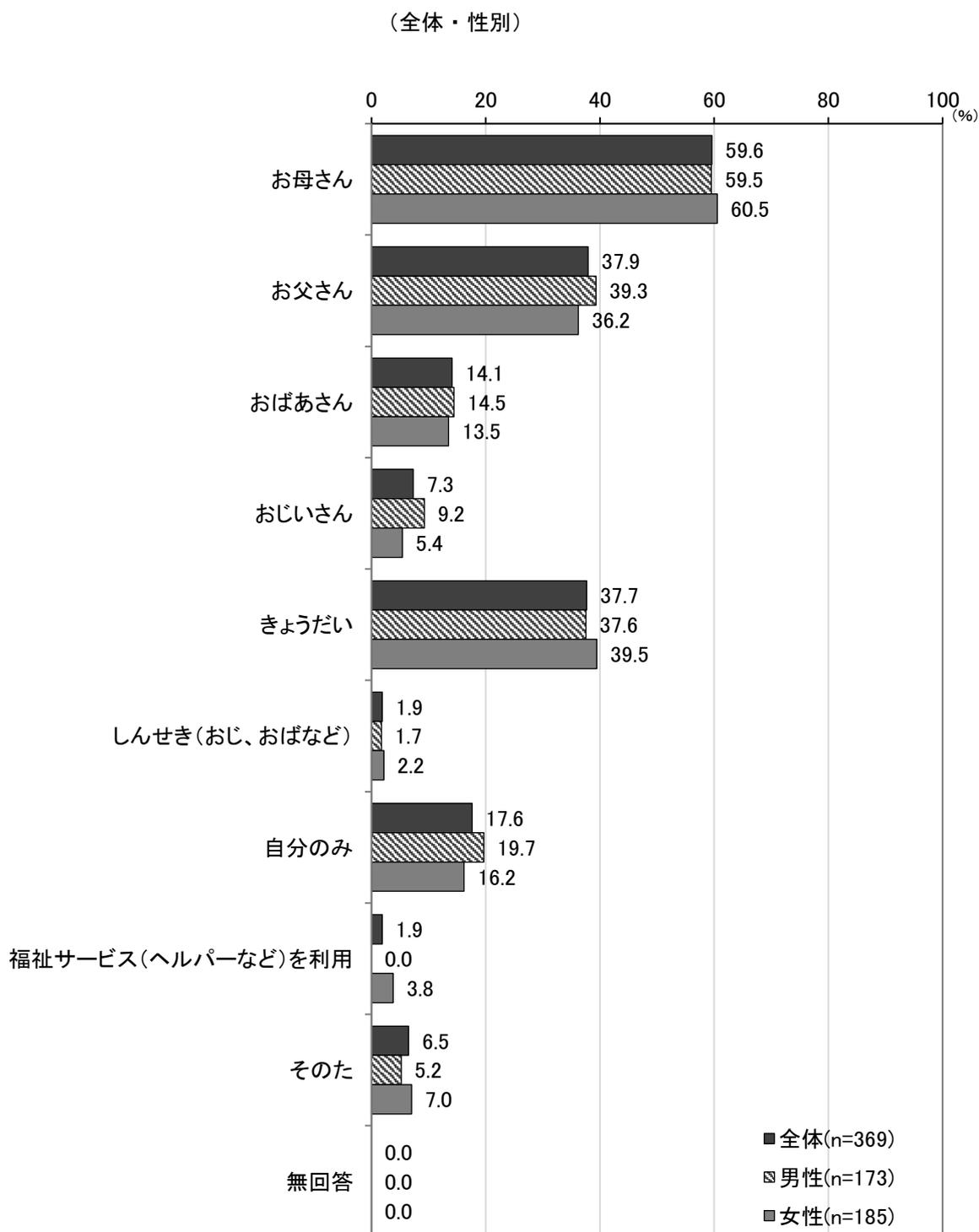
全体でみると、「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」が 40.1%と最も高く、次いで「見守り」が 35.8%、「きょうだいのお世話や送り迎え」が 28.7%となっています。

性別でみると、「見守り」は男性 24.3%、女性 45.4%と、女性が 21.1 ポイント高く、「お風呂やトイレのお世話」は男性 21.4%、女性 31.4%と、女性が 10.0 ポイント高くなっています。



④ あなたはお世話を誰と一緒にしていますか。何人かお世話をしている人がいる場合には、あてはまる番号すべてに○をしてください。

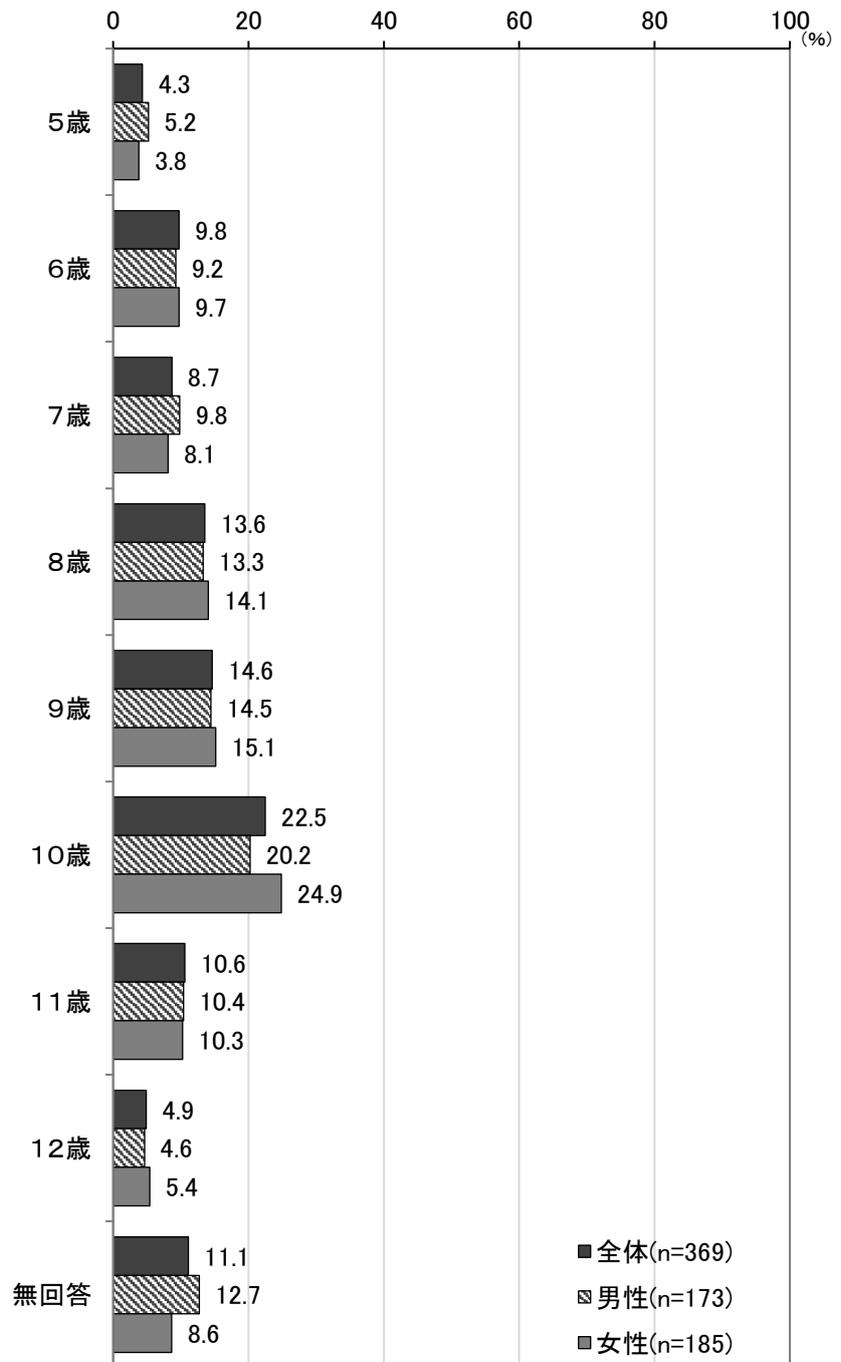
全体でみると、「お母さん」が59.6%と最も高く、次いで「お父さん」が37.9%、「きょうだい」が37.7%となっています。



⑤ あなたは何才からお世話をしていますか。(はっきりとわからない場合は、だいたいの年でかまいません)

全体で見ると、「10歳」が22.5%と最も高く、次いで「9歳」が14.6%、「8歳」が13.6%となっています。

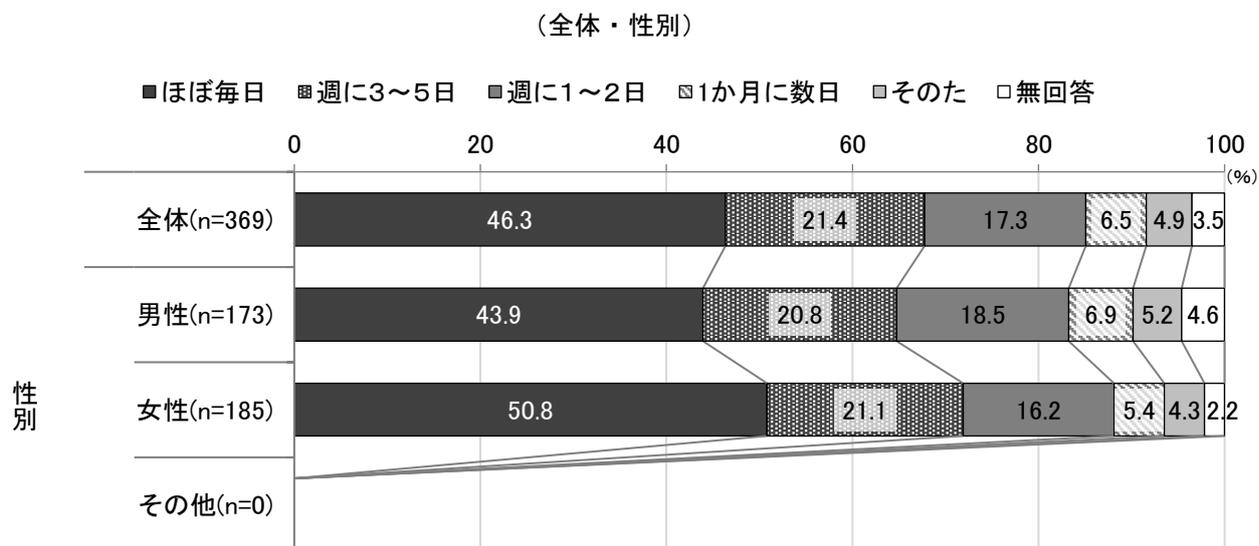
(全体・性別)



⑥ あなたはどのくらいお世話をしていますか。(あてはまる番号1つに○)

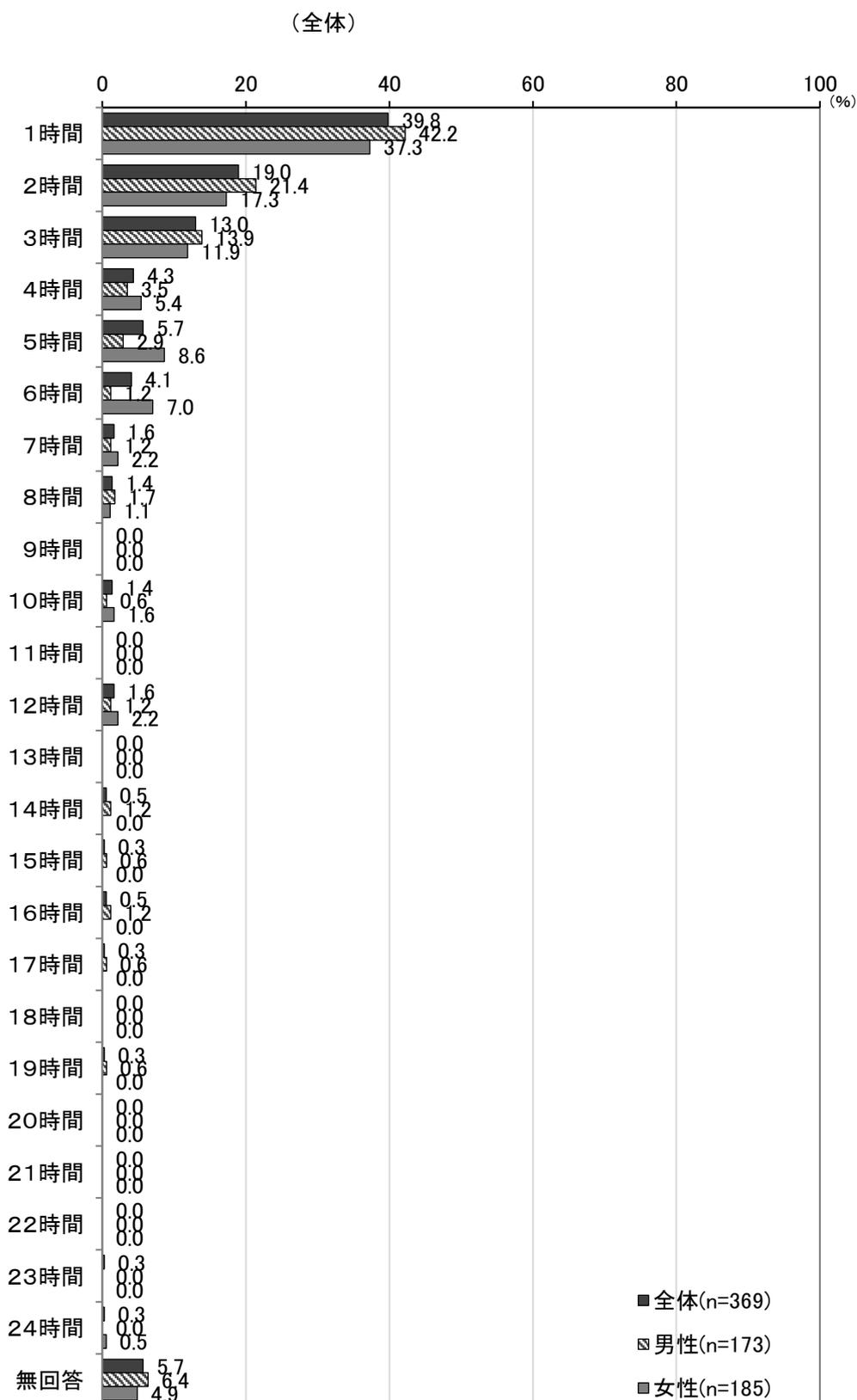
全体で見ると、「ほぼ毎日」が46.3%と最も高く、次いで「週に3～5日」が21.4%、「週に1～2日」が17.3%となっています。

性別で見ると、「ほぼ毎日」は男性43.9%、女性50.8%と、女性が6.9ポイント高くなっています。



⑦ あなたは平日何時間くらいお世話をしていますか。(日によってちがう場合は、この1か月の中でいちばん長かった日の時間をおしえてください)

全体でみると、「1時間」が39.8%と最も高く、次いで「2時間」が19.0%、「3時間」が13.0%となっています。

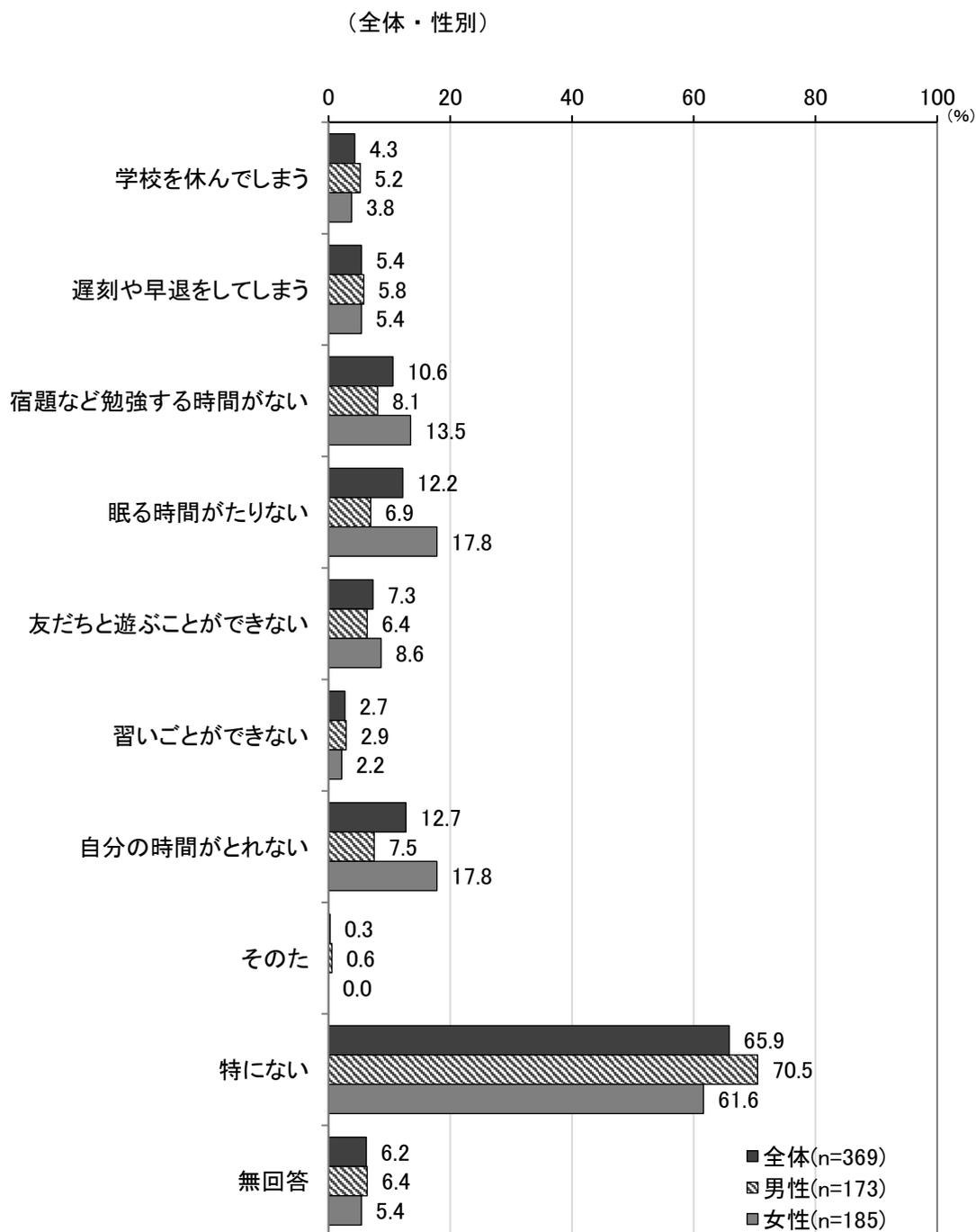


問 12 お世話をしていることで、以下のような経験をしたことはありますか。

(あてはまる番号すべてに○)

全体で見ると、「特にない」が65.9%と最も高く、次いで「自分の時間がとれない」が12.7%、「眠る時間がたりない」が12.2%となっています。

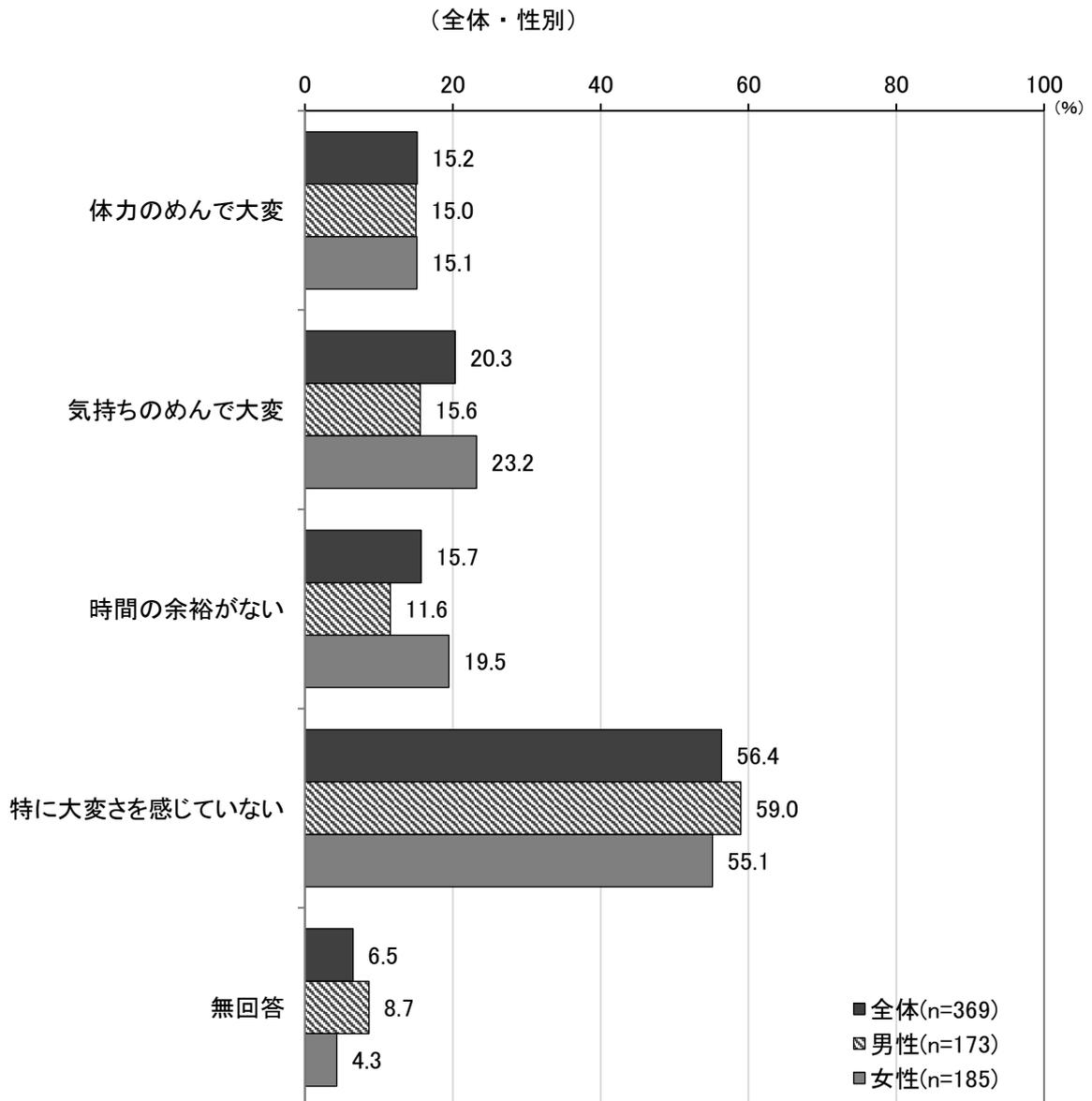
性別で見ると、「眠る時間がたりない」は男性6.9%、女性17.8%と、女性が10.9ポイント高く、「自分の時間がとれない」は男性7.5%、女性17.8%と、女性が10.3ポイント高くなっています。



問 13 お世話をすることに大変さを感じていますか。(あてはまる番号すべてに○)

全体で見ると、「特に大変さを感じていない」が56.4%と最も高く、次いで「気持ちのめんで大変」が20.3%、「時間の余裕がない」が15.7%となっています。

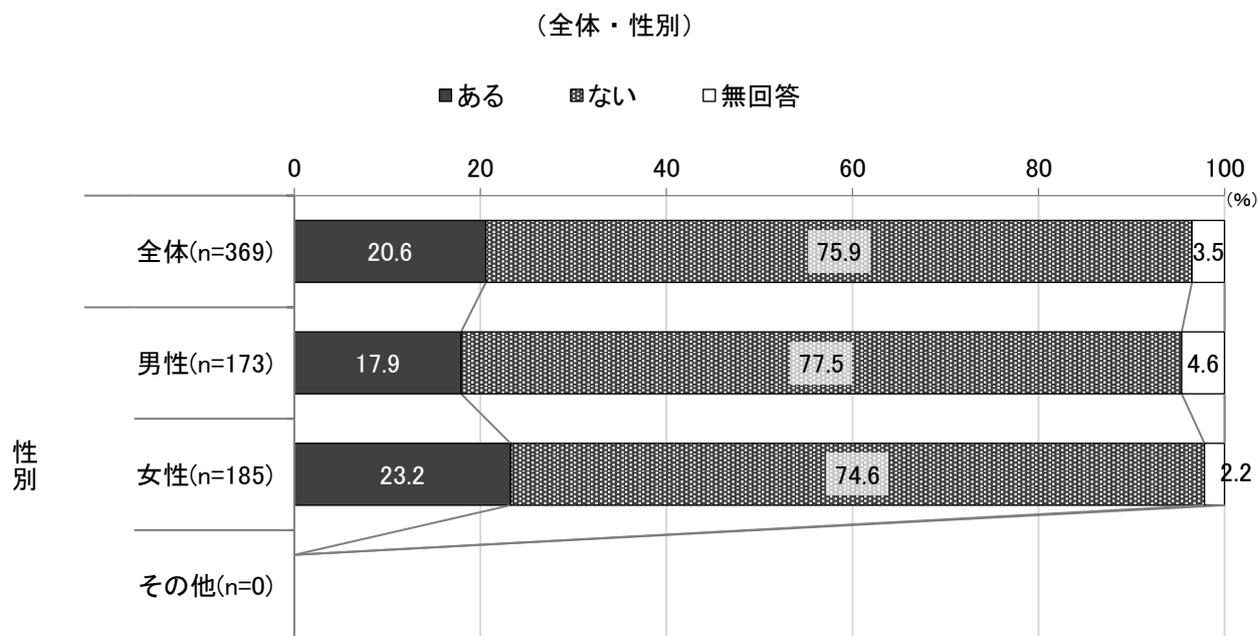
性別で見ると、「時間の余裕がない」は男性11.6%、女性19.5%と、女性が7.9ポイント高く、「気持ちのめんで大変」は男性15.6%、女性23.2%と、女性が7.6ポイント高くなっています。



問 14 あなたがお世話をしている家族のことや、お世話の悩みについて誰かに相談したことはありますか。(あてはまる番号 1 つに○)

全体でみると、「ある」は 20.6%、「ない」は 75.9%となっています。

性別でみると、「ある」は男性 17.9%、女性 23.2%と、女性が 5.3 ポイント高くなっています。



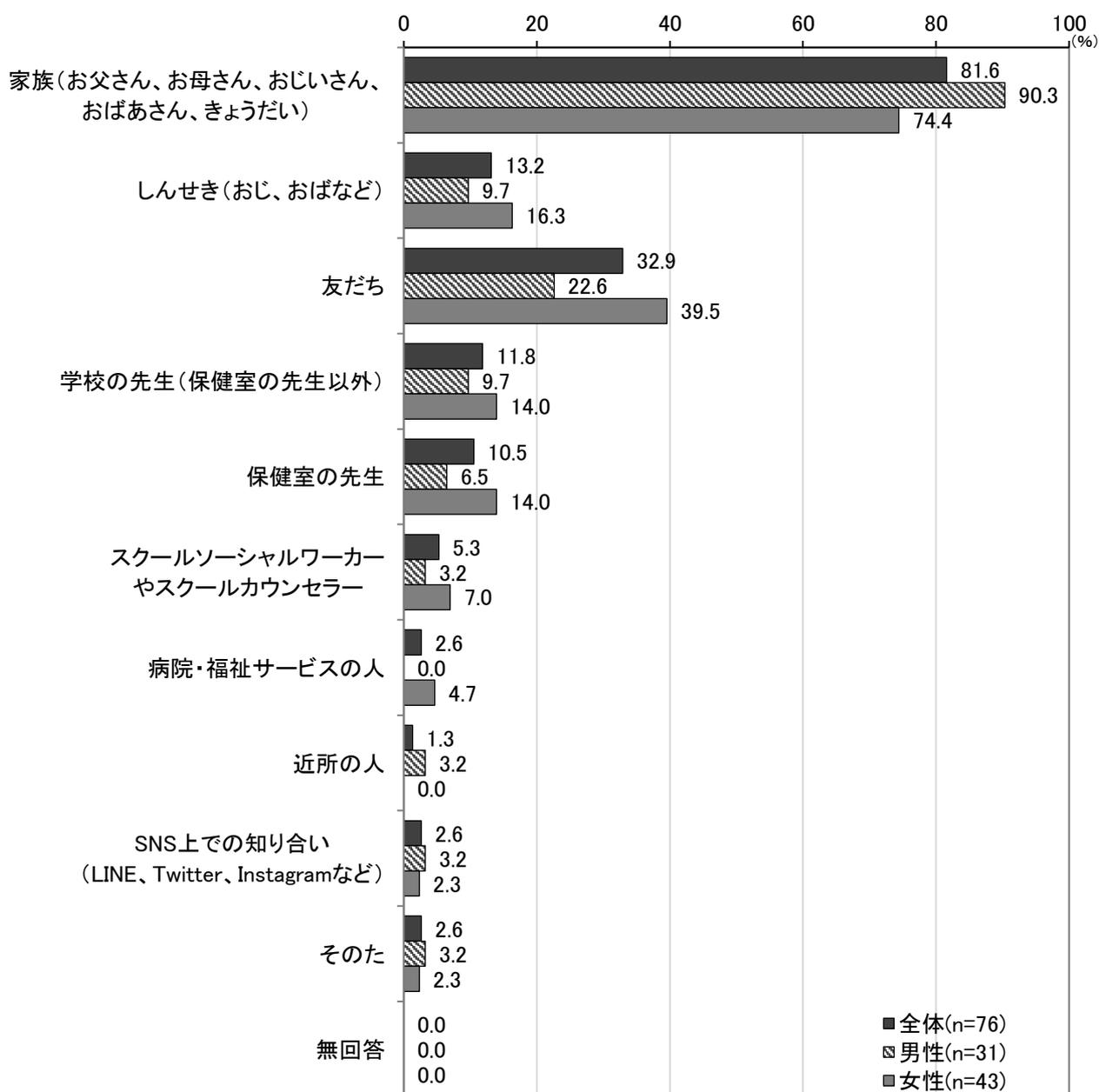
問 15 問 14で「1. ある」と回答した人におききします。それは誰ですか。

(あてはまる番号すべてに○)

全体で見ると、「家族（お父さん、お母さん、おじいさん、おばあさん、きょうだい）」が81.6%と最も高く、次いで「友だち」が32.9%、「しんせき（おじ、おばなど）」が13.2%となっています。

性別で見ると、「友だち」は男性22.6%、女性39.5%と、女性が16.9ポイント高く、「家族（お父さん、お母さん、おじいさん、おばあさん、きょうだい）」は男性90.3%、女性74.4%と、男性が15.9ポイント高くなっています。

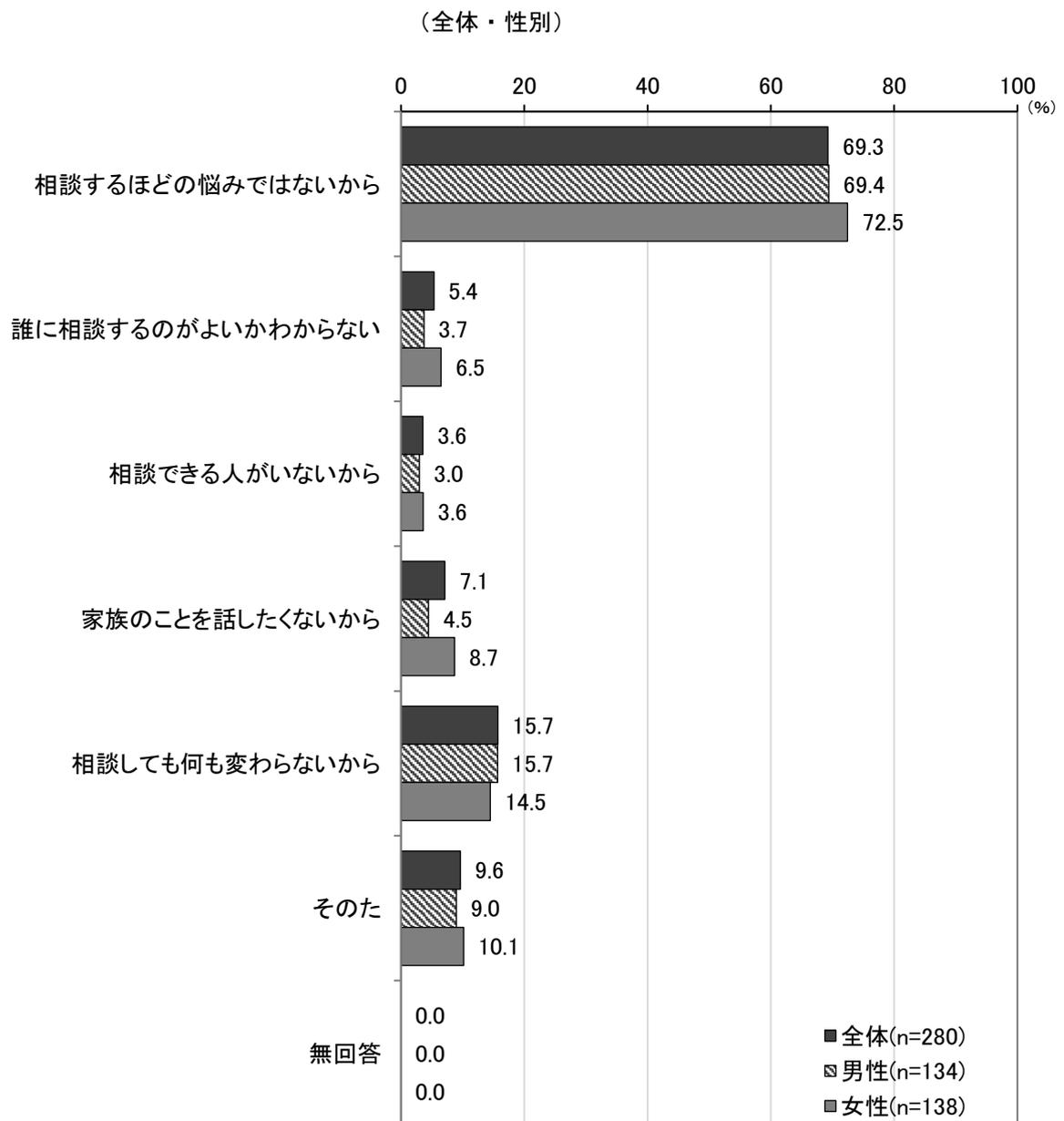
(全体・性別)



問 16 問 14で「2. ない」と回答した人におききます。相談していない理由をおしえてください。（あてはまる番号すべてに○）

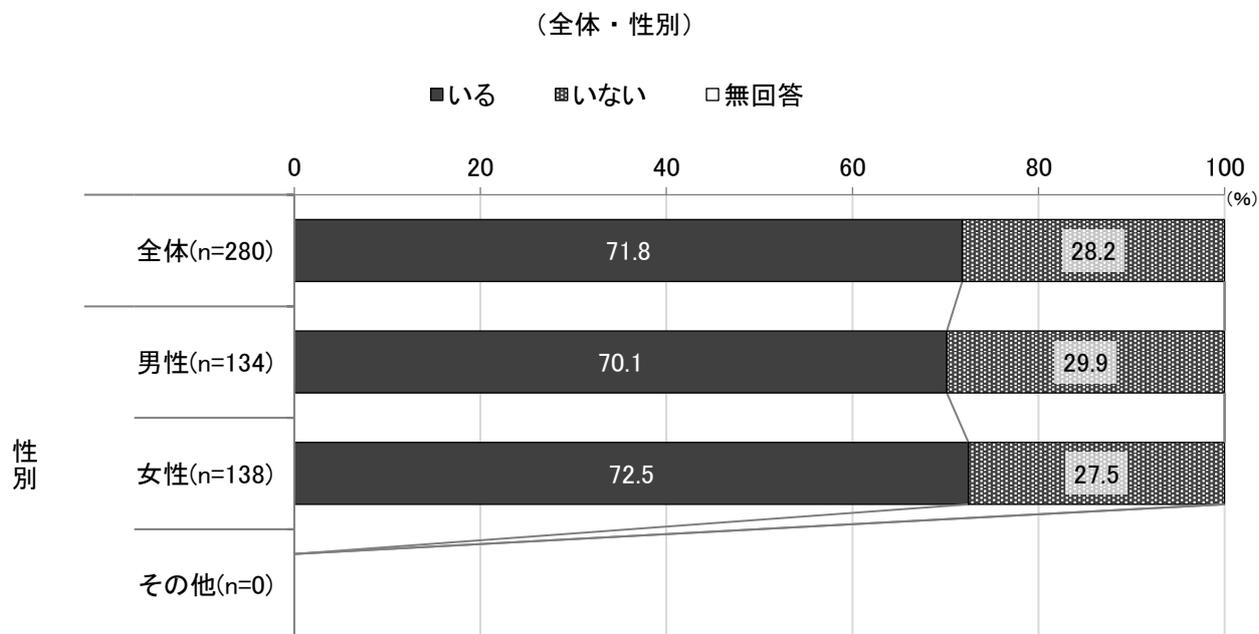
全体でみると、「相談するほどの悩みではないから」が69.3%と最も高く、次いで「相談しても何も変わらないから」が15.7%、「家族のことを話したくないから」が7.1%となっています。

性別でみると、「家族のことを話したくないから」は男性4.5%、女性8.7%と、女性が4.2ポイント高くなっています。



問 17 問 14で「2. ない」と回答した人におききします。あなたがお世話をしている家族のことや、お世話の悩みをきいてくれる人はいますか。(あてはまる番号 1 つに○)

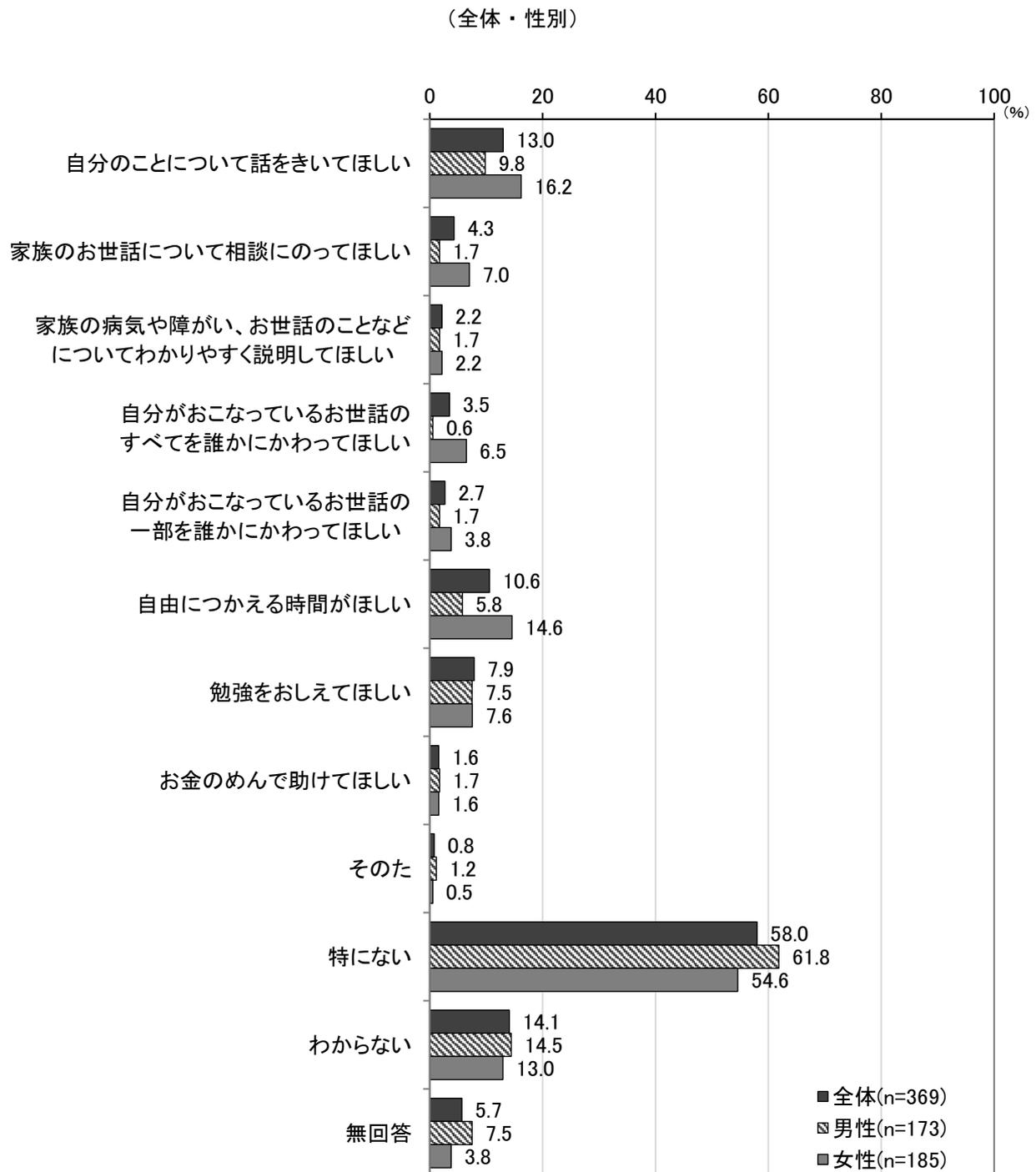
全体でみると、「いる」は71.8%、「いない」は28.2%となっています。
性別では、大きな差異はありません。



問 18 学校やまわりの大人にしてもらいたいことはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

全体でみると、「特にない」が58.0%と最も高く、次いで「わからない」が14.1%、「自分のことについて話をきいてほしい」が13.0%となっています。

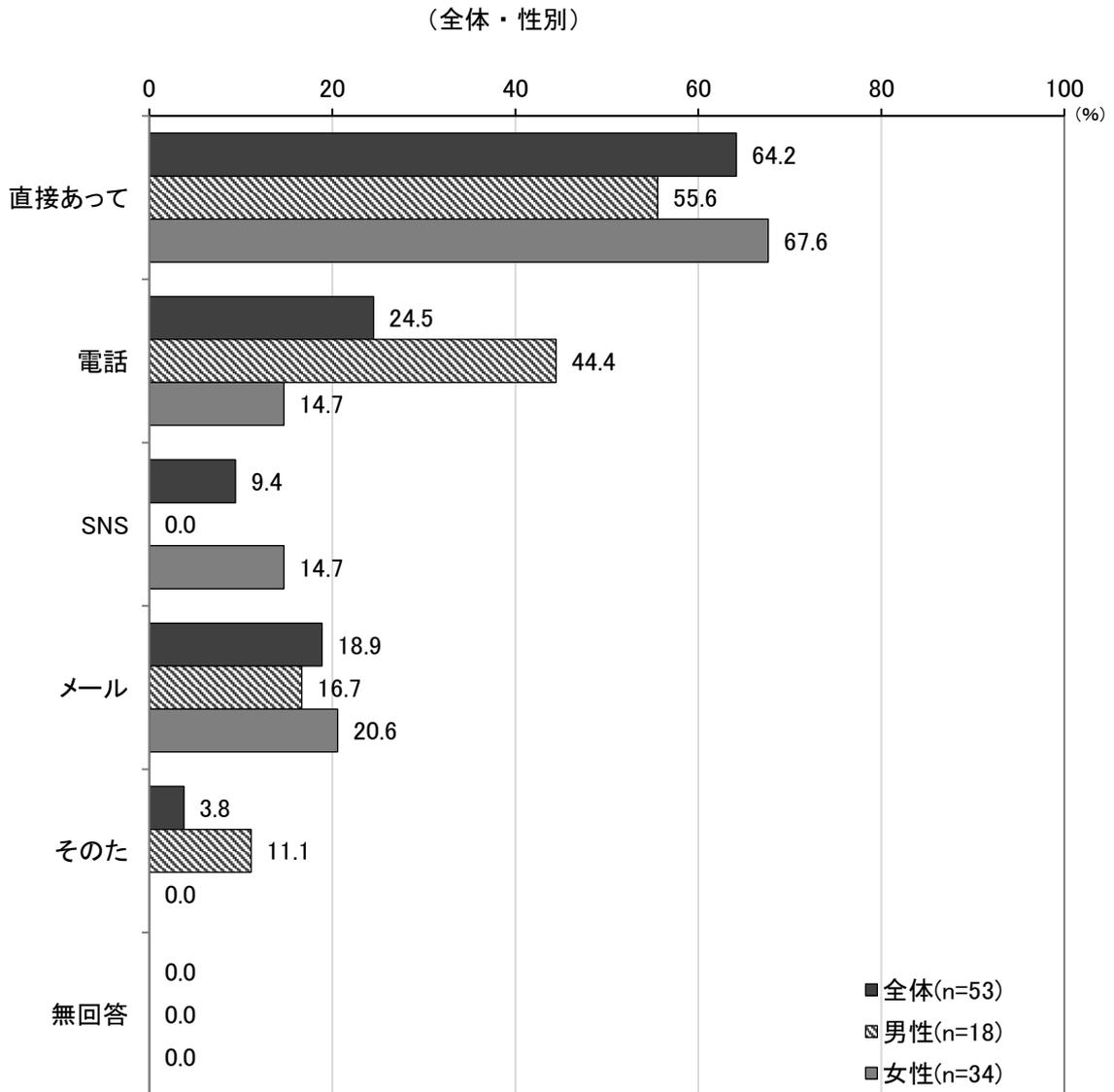
性別でみると、「自由につかえる時間がほしい」は男性5.8%、女性14.6%と、女性が8.8ポイント高く、「自分のことについて話をきいてほしい」は男性9.8%、女性16.2%と、女性が6.4ポイント高くなっています。



問 19 問 18で「1. 自分のことについて話をきいてほしい」「2. 家族のお世話について相談にのってほしい」と回答した人におききします。どのような方法で話をきいたり相談にのってほしいですか。(あてはまる番号すべてに○)

全体で見ると、「直接あって」が 64.2%と最も高く、次いで「電話」が 24.5%、「メール」が 18.9%となっています。

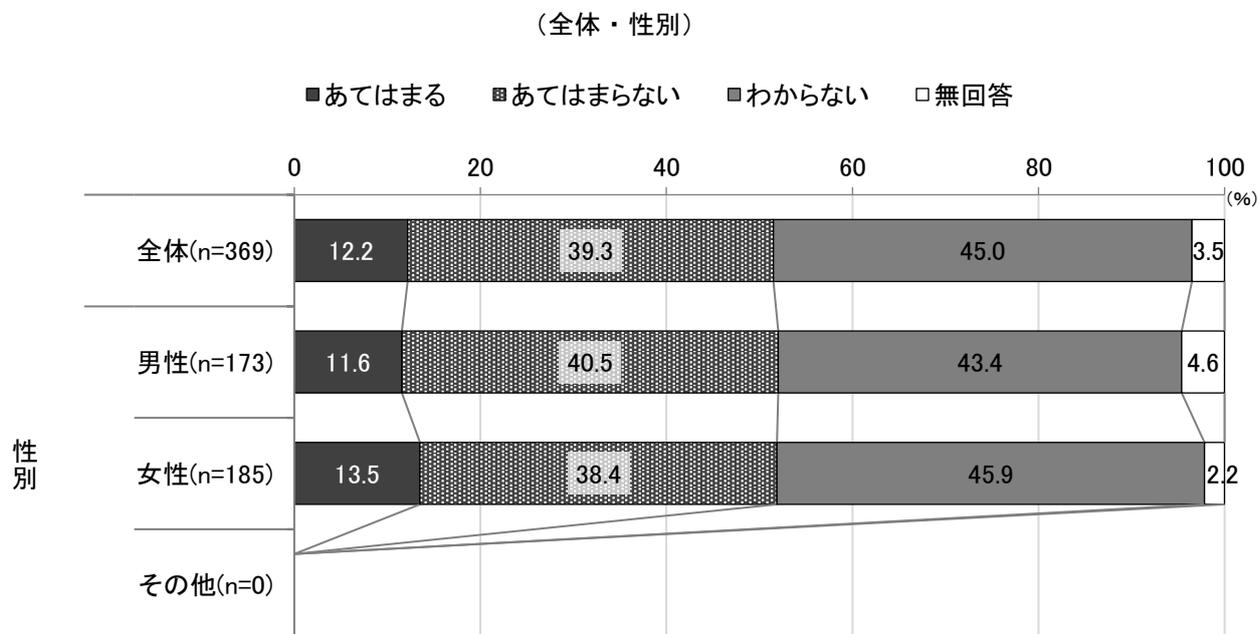
性別で見ると、「電話」は男性 44.4%、女性 14.7%と、男性が 29.7 ポイント高く、「SNS」は男性 0.0%に対し、女性 14.7%となっています。



問 20 あなたは「ヤングケアラー」にあてはまると思いますか。(あてはまる番号1つに○)

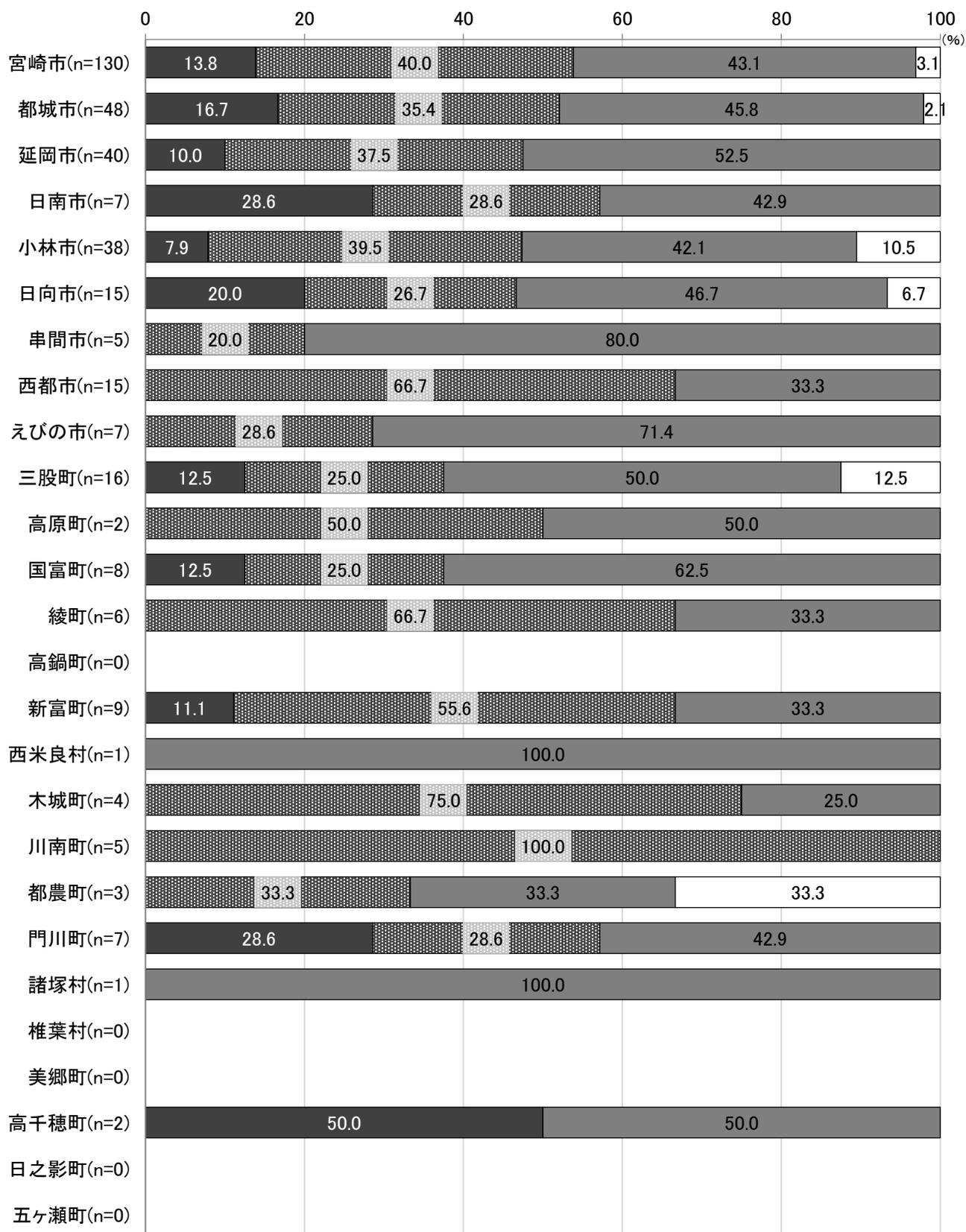
問 10で「いる」と回答した人のうち「あてはまる」は 12.2%、「あてはまらない」は 39.3%、「わからない」は 45.0%となっています。

性別では、大きな差異はありません。



(市町村別)

■あてはまる ■あてはまらない ■わからない □無回答



2. 追加集計

(1) 家族の世話の有無による学校生活等の状況

家族の世話の有無×家族構成

家族の世話の有無×家族構成

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	二 世 代 世 帯	三 世 代 世 帯	ひ と り 親 家 庭	一 人 暮 ら し ・ 寮 ・ 施 設	そ の 他 の 世 帯	無 回 答
いる	369	64.5	17.1	15.2	0.5	2.7	0.0
いない	9,273	72.2	14.3	12.3	0.2	0.8	0.2

家族の世話の有無×健康状態

家族の世話の有無×健康状態

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	よ い	ま あ よ い	ふ つ う	あ ま り よ く な い	よ く な い	無 回 答
いる	369	52.0	16.3	24.9	6.5	0.3	0.0
いない	9,273	65.5	13.2	18.2	2.8	0.3	0.0

家族の世話の有無×出席状況

家族の世話の有無×出席状況

※サンプル数は数 ※項目は%	サンプル数	ほとんど欠席しない	たまに欠席する	よく欠席する	無回答
いる	369	65.3	31.7	3.0	0.0
いない	9,273	79.8	18.2	2.0	0.0

家族の世話の有無×遅刻や早退の状況

家族の世話の有無×遅刻や早退の状況

※サンプル数は数 ※項目は%	サンプル数	ほとんどしない	たまにする	よくする	無回答
いる	369	69.4	26.3	4.3	0.0
いない	9,273	86.9	11.4	1.7	0.0

家族の世話の有無×学校生活等であてはまること

家族の世話の有無×学校生活等であてはまること

※サンプル数は数 ※項目は%	サンプル数	授業中に寝てしまうことが多い	宿題ができていないことが多い	持ち物の忘れ物が多い	習いごとを休むことが多い	提出物をだすのがおくれることが多い	修学旅行などの泊まりがけの行事を欠席する	保健室ですぐすすることが多い	学校ではひとりですぐすことが多い	友だちと遊んだり、おしゃべりしたりする時間がすくない	特にない	無回答
いる	369	12.5	14.9	29.3	5.4	23.3	0.3	2.4	8.4	11.1	48.5	1.9
いない	9,273	6.1	7.9	16.5	2.5	11.4	0.3	1.0	3.8	4.3	68.4	3.2

家族の世話の有無×現在の悩みや困りごと

家族の世話の有無×現在の悩みや困りごと

※サンプル数は数 ※項目は%	サンプル数	友だちのこと	学校や成績のこと	習いごとのこと	家族のこと	生活や勉強に必要なお金のこと	自分のために使える時間がすくないこと	その他	特にない	無回答
いる	369	17.1	18.4	7.6	15.4	8.7	8.1	3.3	53.4	5.4
いない	9,273	7.9	7.8	4.1	3.7	2.2	2.5	2.4	75.0	5.4

家族の世話の有無×相談相手の有無

家族の世話の有無×相談相手の有無

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	い る	い な い	話 は し た く な い	無 回 答
いる	152	58.6	11.2	30.3	0.0
いない	1,814	55.3	11.0	33.7	0.0

(2) 家族構成による世話の状況の違い

家族構成×世話を必要としている家族

家族構成×世話を必要としている家族

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	お 母 さ ん	お 父 さ ん	お ば あ さ ん	お じ い さ ん	き よ う だ い	そ の た	無 回 答
二世帯世帯	238	18.1	13.0	5.0	2.9	70.6	3.4	8.4
三世帯世帯	63	11.1	9.5	38.1	15.9	39.7	6.3	7.9
ひとり親家庭	56	28.6	5.4	5.4	3.6	58.9	7.1	5.4
一人暮らし・寮・施設	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
その他の世帯	10	10.0	0.0	40.0	0.0	50.0	10.0	10.0

家族構成×世話の内容

家族構成×世話の内容

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	家事 (食事の準備や掃除、洗濯)	き よ う だ い の お 世 話 や 送 り 迎 え	お ふ ろ や ト イ レ の お 世 話	買 い も の や 散 歩 に 一 緒 に い く	病 院 へ 一 緒 に い く	話 を き く	見 守 り	通 訳 (日 本 語 や 手 話 な ど)	お 金 の 管 理	薬 の 管 理	そ の た	無 回 答
二世帯世帯	238	40.8	30.7	27.7	16.0	2.5	21.8	37.8	1.3	2.5	2.9	8.4	3.8
三世帯世帯	63	33.3	25.4	22.2	19.0	1.6	19.0	41.3	3.2	4.8	7.9	4.8	4.8
ひとり親家庭	56	42.9	26.8	32.1	23.2	1.8	21.4	26.8	3.6	3.6	3.6	12.5	1.8
一人暮らし・寮・施設	2	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
その他の世帯	10	60.0	20.0	10.0	0.0	0.0	20.0	10.0	0.0	0.0	0.0	10.0	10.0

家族構成×世話を一緒にしている人

家族構成×世話を一緒にしている人

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	お 母 さ ん	お 父 さ ん	お ば あ さ ん	お じ い さ ん	き よ う だ い	し ん せ き (お じ 、 お ば な ど)	自 分 の み	利 用 福 祉 サ ー ビ ス (へ ル パ ー な ど) を	そ の た	無 回 答
二世帯世帯	238	58.4	46.6	12.2	6.7	39.1	1.3	16.8	0.8	5.5	0.0
三世帯世帯	63	66.7	30.2	25.4	14.3	31.7	6.3	22.2	7.9	4.8	0.0
ひとり親家庭	56	62.5	8.9	3.6	1.8	41.1	0.0	17.9	0.0	8.9	0.0
一人暮らし・寮・施設	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0
その他の世帯	10	40.0	50.0	50.0	10.0	30.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0

家族構成×世話の頻度

家族構成×世話の頻度

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	ほ ぼ 毎 日	週 に 3 〜 5 日	週 に 1 〜 2 日	1 か 月 に 数 日	そ の 他	無 回 答
二世帯世帯	238	49.6	20.6	15.5	5.9	4.6	3.8
三世帯世帯	63	36.5	31.7	17.5	9.5	1.6	3.2
ひとり親家庭	56	50.0	12.5	19.6	7.1	8.9	1.8
一人暮らし・寮・施設	2	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0
その他の世帯	10	20.0	30.0	40.0	0.0	0.0	10.0

家族構成×世話に費やす時間

家族構成×世話に費やす時間

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	3 時 間 未 満	3 ～ 7 時 間	7 時 間 以 上	無 回 答
二世帯世帯	238	59.2	28.2	6.7	5.9
三世帯世帯	63	58.7	23.8	11.1	6.3
ひとり親家庭	56	53.6	32.1	10.7	3.6
一人暮らし・寮・施設	2	100.0	0.0	0.0	0.0
その他の世帯	10	70.0	0.0	20.0	10.0

家族構成×世話による制約

家族構成×世話による制約

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	学 校 を 休 ん で し ま う	遅 刻 や 早 退 を し て し ま う	宿 題 な ど 勉 強 す る 時 間 が な い	眠 る 時 間 が た り な い	友 だ ち と 遊 ぶ こ と が で き な い	習 い ご と が で き な い	自 分 の 時 間 が と れ な い	そ の た	特 に な い	無 回 答
二世帯世帯	238	3.8	4.2	10.5	12.6	6.3	1.7	13.4	0.4	65.5	7.1
三世帯世帯	63	1.6	4.8	6.3	9.5	4.8	1.6	11.1	0.0	73.0	4.8
ひとり親家庭	56	10.7	12.5	16.1	16.1	14.3	7.1	12.5	0.0	57.1	3.6
一人暮らし・寮・施設	2	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0
その他の世帯	10	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	80.0	10.0

家族構成×世話をすることを感じているきつさ

家族構成×世話をすることを感じているきつさ

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	体 力 の め ん で 大 変	気 持 ち の め ん で 大 変	時 間 の 余 裕 が な い	特 に 大 変 さ を 感 じ て い な い	無 回 答
二世帯世帯	238	15.1	19.3	14.3	57.6	5.9
三世帯世帯	63	12.7	25.4	19.0	52.4	7.9
ひとり親家庭	56	19.6	19.6	19.6	57.1	5.4
一人暮らし・寮・施設	2	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0
その他の世帯	10	10.0	10.0	10.0	50.0	20.0

家族構成×世話について相談した経験

家族構成×世話について相談した経験

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	あ る	な い	無 回 答
二世帯世帯	238	18.9	77.3	3.8
三世帯世帯	63	25.4	71.4	3.2
ひとり親家庭	56	21.4	76.8	1.8
一人暮らし・寮・施設	2	50.0	50.0	0.0
その他の世帯	10	20.0	70.0	10.0

家族構成×世話についての相談相手

家族構成×世話についての相談相手

※サンプル数は数 ※項目は%	サンプル数	家族（お父さん、おばあさん、お母さん、おじいさん、おばなど）	しんせき（おじ、おばなど）	友だち	学校の先生（保健室の先生以外）	保健室の先生	スクールカウンセラー	病院・福祉サービスの人	近所の人	InstaGramなど）	SNS上の知り合い（LINE、Twitter、	その他	無回答
二世帯世帯	45	77.8	11.1	44.4	8.9	11.1	4.4	0.0	2.2	0.0	2.2	0.0	
三世帯世帯	16	87.5	18.8	31.3	18.8	6.3	6.3	12.5	0.0	6.3	0.0	0.0	
ひとり親家庭	12	100.0	16.7	0.0	8.3	8.3	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	
一人暮らし・寮・施設	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	
その他の世帯	2	50.0	0.0	0.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

家族構成×世話について相談したことがない理由

家族構成×世話について相談したことがない理由

※サンプル数は数 ※項目は%	サンプル数	相談するほどの悩みではないから	誰に相談するのがよいかわからないから	相談できる人がいないから	家族のことを話したくないから	相談しても何も変わらないから	その他	無回答
二世帯世帯	184	70.1	6.0	3.3	5.4	15.2	8.7	0.0
三世帯世帯	45	71.1	2.2	6.7	11.1	15.6	6.7	0.0
ひとり親家庭	43	65.1	7.0	0.0	9.3	20.9	16.3	0.0
一人暮らし・寮・施設	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
その他の世帯	7	71.4	0.0	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0

家族構成×世話について話を聞いてくれる人の有無

家族構成×世話について話を聞いてくれる人の有無

※サンプル数は数 ※項目は%	サンプル数	いる	いない	無回答
二世帯世帯	184	75.5	24.5	0.0
三世帯世帯	45	75.6	24.4	0.0
ひとり親家庭	43	53.5	46.5	0.0
一人暮らし・寮・施設	1	100.0	0.0	0.0
その他の世帯	7	57.1	42.9	0.0

家族構成×学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援

家族構成×学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援

※サンプル数は数 ※項目は%	サンプル数	自分のことについて話をきいてほしい	家族のお世話について相談してほしい	家族の病気や障がい、お世話の明細などについてわかりやすく説明してほしい	自分がおこなっているお世話を誰かにかわってほしい	自分がおこなっているお世話を誰かにかわってほしい	自由につかえる時間がほしい	勉強をおしえてほしい	お金のめんで助けてほしい	その他	特になし	わからない	無回答
二世帯世帯	238	12.6	3.8	1.3	2.1	2.5	11.8	7.6	0.4	0.8	59.2	12.6	6.3
三世帯世帯	63	12.7	3.2	4.8	7.9	1.6	9.5	6.3	6.3	1.6	57.1	17.5	4.8
ひとり親家庭	56	14.3	8.9	1.8	5.4	3.6	7.1	10.7	1.8	0.0	50.0	19.6	3.6
一人暮らし・寮・施設	2	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
その他の世帯	10	10.0	0.0	10.0	0.0	0.0	10.0	10.0	0.0	0.0	80.0	0.0	10.0

(3) 平日1日あたりの世話に費やす時間による生活状況等

平日1日あたりの世話に費やす時間×健康状態

平日1日あたりの世話に費やす時間×健康状態

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	よ い	ま あ よ い	ふ つ う	あ ま り よ く な い	よ く な い	無 回 答
3時間未満	217	57.6	16.6	20.7	5.1	0.0	0.0
3～7時間	100	40.0	17.0	35.0	8.0	0.0	0.0
7時間以上	31	54.8	12.9	22.6	6.5	3.2	0.0

平日1日あたりの世話に費やす時間×出席の状況

平日1日あたりの世話に費やす時間×出席の状況

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	ほ と ん ど 欠 席 し な い	た ま に 欠 席 す る	よ く 欠 席 す る	無 回 答
3時間未満	217	69.6	28.1	2.3	0.0
3～7時間	100	58.0	38.0	4.0	0.0
7時間以上	31	61.3	32.3	6.5	0.0

平日1日あたりの世話に費やす時間×遅刻や早退の状況

平日1日あたりの世話に費やす時間×遅刻や早退の状況

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	ほ と ん ど し な い	た ま に す る	よ く す る	無 回 答
3時間未満	217	74.7	21.7	3.7	0.0
3～7時間	100	61.0	33.0	6.0	0.0
7時間以上	31	58.1	35.5	6.5	0.0

平日1日あたりの世話に費やす時間×学校生活等であてはまること

平日1日あたりの世話に費やす時間×学校生活等であてはまること

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	授 業 中 に 寝 て し ま う こ と が 多 い	宿 題 が で き て い な い こ と が 多 い	持 ち 物 の 忘 れ 物 が 多 い	習 い こ と を 休 む こ と が 多 い	多 い 提 出 物 を だ す の が お く れ る こ と が	修 学 旅 行 な ど の 泊 ま り が け の 行 事 を 欠 席 す る	保 健 室 で す ご す こ と が 多 い	い 学 校 で は ひ と り で す ご す こ と が 多	友 だ ち と 遊 ん だ り 、 お し ゃ べ り し た り す る 時 間 が す く な い	特 に な い	無 回 答
3時間未満	217	12.4	14.3	27.6	3.7	22.1	0.0	1.8	8.8	9.2	49.3	2.3
3～7時間	100	13.0	13.0	34.0	10.0	27.0	0.0	3.0	7.0	15.0	42.0	1.0
7時間以上	31	12.9	29.0	29.0	6.5	22.6	3.2	6.5	9.7	16.1	54.8	3.2

平日1日あたりの世話に費やす時間×現在の悩みや困りごと

平日1日あたりの世話に費やす時間×現在の悩みや困りごと

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	友 だ ち の こ と	学 校 や 成 績 の こ と	習 い ご と の こ と	家 族 の こ と	生 活 や 勉 強 に 必 要 な お 金 の こ と	自 分 の た め に 使 え る 時 間 が す く な い こ と	そ の た	特 に な い	無 回 答
3時間未満	217	15.7	14.7	7.4	10.1	5.1	6.9	2.3	57.1	6.9
3～7時間	100	18.0	22.0	10.0	25.0	13.0	10.0	4.0	47.0	3.0
7時間以上	31	22.6	35.5	3.2	25.8	19.4	12.9	6.5	41.9	6.5

平日1日あたりの世話に費やす時間×世話をすることを感じているきつさ

平日1日あたりの世話に費やす時間×世話をすることを感じているきつさ

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	体 力 の め ん で 大 変	気 持 ち の め ん で 大 変	時 間 の 余 裕 が な い	特 に 大 変 さ を 感 じ て い な い	無 回 答
3時間未満	217	9.2	16.6	9.2	68.7	4.1
3～7時間	100	25.0	32.0	33.0	37.0	2.0
7時間以上	31	35.5	19.4	16.1	48.4	0.0

平日1日あたりの世話に費やす時間×世話について相談した経験

平日1日あたりの世話に費やす時間×世話について相談した経験

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	あ る	な い	無 回 答
3時間未満	217	18.9	81.1	0.0
3～7時間	100	23.0	77.0	0.0
7時間以上	31	35.5	64.5	0.0

平日1日あたりの世話に費やす時間×世話についての相談相手

平日1日あたりの世話に費やす時間×世話についての相談相手

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	家 族 （お父さん、お母さん、おじいさん、おばあさん、きょうだい）	しんせき（おじ、おばなど）	友 だ ち	学 校 の 先 生 （保 健 室 の 先 生 以 外）	保 健 室 の 先 生	ス ク ー ル カ ウ ン セ ラ ー	病 院 ・ 福 祉 サ ー ビ ス の 人	近 所 の 人	I n s t a g r a m な ど	S N S 上 で の 知 り 合 い （L I N E、T w i t t e r、	そ の た	無 回 答
3時間未満	41	80.5	2.4	36.6	2.4	0.0	2.4	0.0	0.0	0.0	2.4	0.0	
3～7時間	23	87.0	13.0	39.1	13.0	17.4	0.0	8.7	0.0	4.3	0.0	0.0	
7時間以上	11	72.7	45.5	9.1	36.4	27.3	18.2	0.0	9.1	9.1	9.1	0.0	

平日1日あたりの世話に費やす時間×世話について相談したことがない理由

平日1日あたりの世話に費やす時間×世話について相談したことがない理由

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	相 談 す る ほ ど の 悩 み で は な い か ら	誰 に 相 談 す る の が よ い か わ か ら な い か ら	相 談 で き る 人 が い な い か ら	家 族 の こ と を 話 し た く な い か ら	相 談 し て も 何 も 変 わ ら な い か ら	そ の た	無 回 答
3時間未満	176	73.3	3.4	3.4	7.4	10.8	10.2	0.0
3～7時間	77	66.2	10.4	3.9	7.8	19.5	7.8	0.0
7時間以上	20	60.0	5.0	5.0	5.0	25.0	10.0	0.0

(4) 世話を必要としている家族による世話の状況等

世話を必要としている家族×回答者の性別

世話を必要としている家族×回答者の性別

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	男	女	そ の た	こ た え た く な い	無 回 答
父母のみ	25	48.0	44.0	0.0	8.0	0.0
祖父母のみ	28	46.4	50.0	0.0	3.6	0.0
きょうだいのみ	216	43.1	55.6	0.0	1.4	0.0
複数人	58	62.1	32.8	0.0	5.2	0.0

世話を必要としている家族×世話の内容

世話を必要としている家族×世話の内容

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	家 事 （ 食 事 の 準 備 や 掃 除 、 洗 濯 ）	き ょ う だ い の お 世 話 や 送 り 迎 え	お ふ ろ や ト イ レ の お 世 話	買 い も の や 散 歩 に 一 緒 に い く	病 院 へ 一 緒 に い く	話 を き く	見 守 り	通 訳 （ 日 本 語 や 手 話 な ど ）	お 金 の 管 理	薬 の 管 理	そ の た	無 回 答
父母のみ	25	60.0	4.0	0.0	24.0	4.0	20.0	12.0	0.0	0.0	0.0	16.0	0.0
祖父母のみ	28	42.9	3.6	14.3	17.9	3.6	32.1	32.1	0.0	3.6	14.3	3.6	3.6
きょうだいのみ	216	38.4	42.6	33.3	17.1	0.9	20.8	45.4	0.5	1.4	1.4	5.1	0.0
複数人	58	48.3	10.3	20.7	22.4	6.9	24.1	22.4	6.9	10.3	8.6	20.7	0.0

世話を必要としている家族×世話を一緒にしている人

世話を必要としている家族×世話を一緒にしている人

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	お 母 さ ん	お 父 さ ん	お ば あ さ ん	お じ い さ ん	き よ う だ い	し ん せ き （ お じ 、 お ば な ど ）	自 分 の み	福 祉 サ ー ビ ス （ ヘル パー な ど ） を 利 用	そ の た	無 回 答
父母のみ	25	32.0	28.0	4.0	0.0	20.0	0.0	24.0	0.0	8.0	0.0
祖父母のみ	28	60.7	25.0	25.0	10.7	25.0	10.7	7.1	14.3	0.0	0.0
きょうだいのみ	216	62.0	43.5	13.9	7.4	46.3	0.9	17.1	0.5	3.7	0.0
複数人	58	63.8	34.5	19.0	8.6	27.6	1.7	20.7	3.4	17.2	0.0

世話を必要としている家族×世話を始めた年齢

世話を必要としている家族×世話を始めた年齢

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	就 学 前	小 学 生 （ 低 学 年 ）	小 学 生 （ 高 学 年 ）	無 回 答
父母のみ	25	8.0	28.0	56.0	8.0
祖父母のみ	28	14.3	32.1	46.4	7.1
きょうだいのみ	216	17.1	42.6	33.8	6.5
複数人	58	10.3	29.3	48.3	12.1

世話を必要としている家族×世話の頻度

世話を必要としている家族×世話の頻度

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	ほ ぼ 毎 日	週 に 3 〜 5 日	週 に 1 〜 2 日	1 か 月 に 数 日	そ の 他	無 回 答
父母のみ	25	12.0	40.0	28.0	12.0	8.0	0.0
祖父母のみ	28	28.6	21.4	39.3	10.7	0.0	0.0
きょうだいのみ	216	63.0	21.8	10.6	3.2	1.4	0.0
複数人	58	29.3	19.0	24.1	10.3	17.2	0.0

世話を必要としている家族×世話に費やす時間

世話を必要としている家族×世話に費やす時間

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	3 時 間 未 満	3 〜 7 時 間	7 時 間 以 上	無 回 答
父母のみ	25	76.0	16.0	8.0	0.0
祖父母のみ	28	64.3	28.6	7.1	0.0
きょうだいのみ	216	57.4	33.8	7.9	0.9
複数人	58	62.1	22.4	8.6	6.9

世話を必要としている家族×世話による制約

世話を必要としている家族×世話による制約

※サンプル数は数 ※項目は%	サンプル数	学校を休んでしまう	遅刻や早退をしてしまう	宿題など勉強する時間がない	眠る時間がたりない	友だちと遊ぶことができない	習いごとができない	自分の時間がとれない	その他	特にない	無回答
父母のみ	25	16.0	4.0	8.0	12.0	8.0	0.0	4.0	0.0	60.0	0.0
祖父母のみ	28	3.6	0.0	0.0	3.6	0.0	0.0	7.1	0.0	85.7	0.0
きょうだいのみ	216	3.7	6.9	13.4	16.2	9.3	2.8	16.7	0.5	63.0	3.2
複数人	58	5.2	6.9	6.9	8.6	5.2	5.2	8.6	0.0	75.9	5.2

世話を必要としている家族×世話をすることに感じているきつさ

世話を必要としている家族×世話をすることに感じているきつさ

※サンプル数は数 ※項目は%	サンプル数	体力のめんで大変	気持ちのめんで大変	時間の余裕がない	特に大変さを感じていない	無回答
父母のみ	25	8.0	40.0	8.0	48.0	8.0
祖父母のみ	28	7.1	21.4	3.6	75.0	0.0
きょうだいのみ	216	19.0	20.4	19.4	54.2	2.8
複数人	58	13.8	20.7	20.7	62.1	3.4

世話を必要としている家族×世話について相談した経験

世話を必要としている家族×世話について相談した経験

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	あ る	な い	無 回 答
父母のみ	25	20.0	80.0	0.0
祖父母のみ	28	28.6	71.4	0.0
きょうだいのみ	216	22.7	77.3	0.0
複数人	58	17.2	82.8	0.0

世話を必要としている家族×世話について相談したことがない理由

世話を必要としている家族×世話について相談したことがない理由

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	相 談 す る ほ ど の 悩 み で は な い か ら	誰 に 相 談 す る の が よ い か わ か ら な い か ら	相 談 で き る 人 が い な い か ら	家 族 の こ と を 話 し た く な い か ら	相 談 し て も 何 も 変 わ ら な い か ら	そ の た	無 回 答
父母のみ	20	50.0	10.0	10.0	15.0	25.0	20.0	0.0
祖父母のみ	20	80.0	5.0	15.0	0.0	5.0	5.0	0.0
きょうだいのみ	167	74.9	4.2	2.4	6.6	12.0	6.6	0.0
複数人	48	54.2	8.3	2.1	8.3	33.3	14.6	0.0

世話を必要としている家族×世話について話を聞いてくれる人の有無

世話を必要としている家族×世話について話を聞いてくれる人の有無

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	い る	い な い	無 回 答
父母のみ	20	65.0	35.0	0.0
祖父母のみ	20	60.0	40.0	0.0
きょうだいのみ	167	76.6	23.4	0.0
複数人	48	60.4	39.6	0.0

世話を必要としている家族×学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援

世話を必要としている家族×学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	自 分 の こ と に つ い て 話 を き い て ほ し い	家 族 の お 世 話 に つ い て 相 談 に の つ て ほ し い	家 族 の 病 気 や 障 が い 、 お 世 話 の こ と な ど に つ い て わ か り や す く 説 明 し て ほ し い	自 分 が お こ な っ て い る お 世 話 の す べ て を 誰 か に か わ っ て ほ し い	自 分 が お こ な っ て い る お 世 話 の 一 部 を 誰 か に か わ っ て ほ し い	自 由 に つ か え る 時 間 が ほ し い	勉 強 を お し え て ほ し い	お 金 の め ん で 助 け て ほ し い	そ の た	特 に な い	わ か ら な い	無 回 答
父母のみ	25	20.0	8.0	0.0	0.0	0.0	12.0	4.0	0.0	0.0	52.0	16.0	4.0
祖父母のみ	28	14.3	0.0	3.6	7.1	3.6	7.1	3.6	3.6	0.0	57.1	21.4	0.0
きょうだいのみ	216	13.0	4.6	1.4	3.2	3.2	10.6	7.9	0.5	0.5	64.8	11.1	1.4
複数人	58	13.8	6.9	6.9	3.4	0.0	17.2	13.8	6.9	3.4	48.3	27.6	1.7

(5) 世話をすることに感じているきつさによる世話の状況の違い

世話をすることに感じているきつさ×世話対象の状況

世話をすることに感じているきつさ×父母の状況

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	高 齢 (65才より年上)	介 護 が 必 要 (食 事 や 身 の ま わ り の お 世 話 な ど)	認 知 症 (夜 に な る と 歩 き ま わ ら な い な ど)	身 体 障 が い (体 が 自 由 に 動 か せ な い 、 目 が 見 え な い 、 耳 が き こ え な い な ど)	知 的 障 が い	心 の 病 気 (お ち こ む こ と が 多 く 、 家 事 が で き な く な る 、 ぐ ち が 多 く な る な ど)	依 存 症 (お 酒 や ギ ャ ン プ ル な ど を や め ら れ な い)	心 の 病 気 、 依 存 症 以 外 の 病 気 (完 全 に は 治 療 で き な い 病 気 な ど)	日 本 語 が 苦 手	そ の た	わ か ら な い	無 回 答
身体的にきつい	7	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	57.1	0.0
精神的にきつい	19	0.0	5.3	0.0	0.0	5.3	5.3	10.5	5.3	0.0	21.1	47.4	0.0
時間的余裕がない	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	87.5	0.0
特にきつさは感じていない	44	0.0	2.3	2.3	0.0	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	11.4	77.3	0.0

世話をすることに感じているきつさ×祖父母の状況

身体的にきつい	6	50.0	33.3	33.3	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0
精神的にきつい	12	58.3	25.0	33.3	25.0	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0
時間的余裕がない	8	62.5	50.0	25.0	37.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	25.0	0.0
特にきつさは感じていない	30	60.0	16.7	6.7	20.0	0.0	0.0	0.0	3.3	3.3	6.7	30.0	0.0

世話をすることに感じているきつさ×きょうだいの状況

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	幼 い た め 、 世 話 を し て あ げ る 必 要 が あ る	介 護 が 必 要 (食 事 や 身 の ま わ り の お 世 話 な ど)	身 体 障 が い (体 が 自 由 に 動 か せ な い 、 目 が 見 え な い 、 耳 が き こ え な い な ど)	知 的 障 が い	病 気	日 本 語 が 苦 手	そ の た	わ か ら な い	無 回 答
身体的にきつい	43	86.0	7.0	0.0	4.7	0.0	4.7	4.7	7.0	0.0
精神的にきつい	46	76.1	8.7	0.0	10.9	0.0	0.0	6.5	8.7	0.0
時間的余裕がない	46	78.3	15.2	0.0	4.3	2.2	0.0	13.0	4.3	0.0
特にきつさは感じていない	127	72.4	3.1	3.1	3.1	0.8	0.0	6.3	18.1	0.0

世話をすることに感じているきつさ×世話の内容

世話をすることに感じているきつさ×世話の内容

※サンプル数は数 ※項目は%	サンプル数	家事 (食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいのお世話や送り迎え	おふろやトイレのお世話	買い物や散歩と一緒にいく	病院へ一緒にいく	話をきく	見守り	通訳 (日本語や手話など)	お金の管理	薬の管理	その他	無回答
身体的にきつい	56	55.4	50.0	46.4	30.4	0.0	33.9	50.0	3.6	5.4	7.1	3.6	0.0
精神的にきつい	75	46.7	30.7	38.7	18.7	0.0	34.7	52.0	2.7	2.7	8.0	4.0	0.0
時間的余裕がない	58	51.7	43.1	44.8	24.1	1.7	32.8	53.4	1.7	6.9	10.3	8.6	0.0
特にきつさは感じていない	208	35.6	23.6	21.2	15.9	3.4	17.3	28.4	1.9	2.4	1.9	12.0	0.5

世話をすることに感じているきつさ×世話による制約

世話をすることに感じているきつさ×世話による制約

※サンプル数は数 ※項目は%	サンプル数	学校を休んでしまう	遅刻や早退をしてしまう	宿題など勉強する時間がない	眠る時間がたりない	友だちと遊ぶことができない	習いごとができない	自分の時間がとれない	その他	特にない	無回答
身体的にきつい	56	14.3	10.7	23.2	32.1	16.1	5.4	33.9	0.0	41.1	3.6
精神的にきつい	75	8.0	6.7	21.3	24.0	13.3	2.7	28.0	0.0	42.7	5.3
時間的余裕がない	58	1.7	6.9	25.9	36.2	13.8	1.7	41.4	0.0	39.7	1.7
特にきつさは感じていない	208	2.9	3.8	4.8	4.3	2.9	1.9	2.4	0.5	84.6	1.4

世話をすることに感じているきつさ×世話について相談した経験

世話をすることに感じているきつさ×世話について相談した経験

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	あ る	な い	無 回 答
身体的にきつい	56	32.1	67.9	0.0
精神的にきつい	75	29.3	70.7	0.0
時間的余裕がない	58	32.8	67.2	0.0
特にきつさは感じていない	208	14.9	85.1	0.0

世話をすることに感じているきつさ×世話について相談したことがない理由

世話をすることに感じているきつさ×世話について相談したことがない理由

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	相 談 す る ほ ど の 悩 み で は な い か ら	誰 に 相 談 す る の が よ い か わ か ら な い か ら	相 談 で き る 人 が い な い か ら	家 族 の こ と を 話 し た く な い か ら	相 談 し て も 何 も 変 わ ら な い か ら	そ の た	無 回 答
身体的にきつい	38	68.4	15.8	7.9	15.8	13.2	7.9	0.0
精神的にきつい	53	56.6	18.9	13.2	24.5	22.6	3.8	0.0
時間的余裕がない	39	66.7	10.3	2.6	15.4	17.9	7.7	0.0
特にきつさは感じていない	177	72.9	1.1	1.7	2.3	15.3	10.7	0.0

世話をすることに感じているきつさ×世話について話を聞いてくれる人の有無

世話をすることに感じているきつさ×世話について話を聞いてくれる人の有無

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	い る	い な い	無 回 答
身体的にきつい	38	60.5	39.5	0.0
精神的にきつい	53	60.4	39.6	0.0
時間的余裕がない	39	69.2	30.8	0.0
特にきつさは感じていない	177	72.9	27.1	0.0

世話をすることに感じているきつさ×学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援

世話をすることに感じているきつさ×学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	自 分 の こ と に つ い て 話 を き い て ほ し い	家 族 の お 世 話 に つ い て 相 談 に の つ て ほ し い	家 族 の 病 気 や 障 が い 、 お 世 話 の こ と な ど に つ い て わ か り や す く 説 明 し て ほ し い	自 分 が お こ な っ て い る お 世 話 の す べ て を 誰 か に か わ っ て ほ し い	自 分 が お こ な っ て い る お 世 話 の 一 部 を 誰 か に か わ っ て ほ し い	自 由 に つ か え る 時 間 が ほ し い	勉 強 を お し え て ほ し い	お 金 の め ん で 助 け て ほ し い	そ の た	特 に な い	わ か ら な い	無 回 答
身体的にきつい	56	23.2	10.7	3.6	10.7	7.1	25.0	17.9	3.6	0.0	44.6	14.3	0.0
精神的にきつい	75	26.7	13.3	8.0	6.7	4.0	25.3	13.3	5.3	1.3	32.0	12.0	2.7
時間的余裕がない	58	27.6	8.6	5.2	13.8	6.9	34.5	19.0	8.6	1.7	31.0	12.1	0.0
特にきつさは感じていない	208	7.2	1.9	1.0	0.5	1.0	3.8	4.8	0.5	0.5	71.6	14.9	2.9

世話をすることを感じているきつさ×希望する相談方法

世話をすることを感じているきつさ×希望する相談方法

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	直 接 会 っ て	電 話	S N S	メ ー ル	そ の た	無 回 答
身体的にきつい	15	46.7	33.3	26.7	20.0	6.7	0.0
精神的にきつい	23	65.2	17.4	8.7	30.4	4.3	0.0
時間的余裕がない	17	58.8	17.6	23.5	17.6	0.0	0.0
特にきつさは感じていない	17	70.6	35.3	0.0	17.6	5.9	0.0

(6) 世話について相談した経験

世話について相談した経験×世話による制約

世話について相談した経験×世話による制約

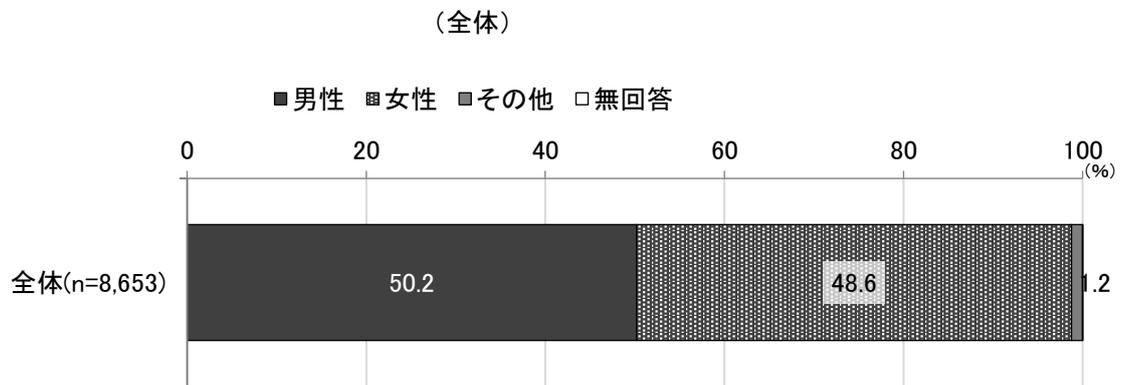
※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	学 校 を 休 ん で し ま う	遅 刻 や 早 退 を し て し ま う	宿 題 な ど 勉 強 す る 時 間 が な い	眠 る 時 間 が た り な い	友 だ ち と 遊 ぶ こ と が で き な い	習 い ご と が で き な い	自 分 の 時 間 が と れ な い	そ の た	特 に な い	無 回 答
ある	76	2.6	7.9	19.7	21.1	18.4	6.6	23.7	0.0	53.9	1.3
ない	280	5.0	5.0	8.6	10.4	4.6	1.8	10.4	0.4	72.1	3.2

IV 調査結果（中高生）

1. 調査結果（中学生）

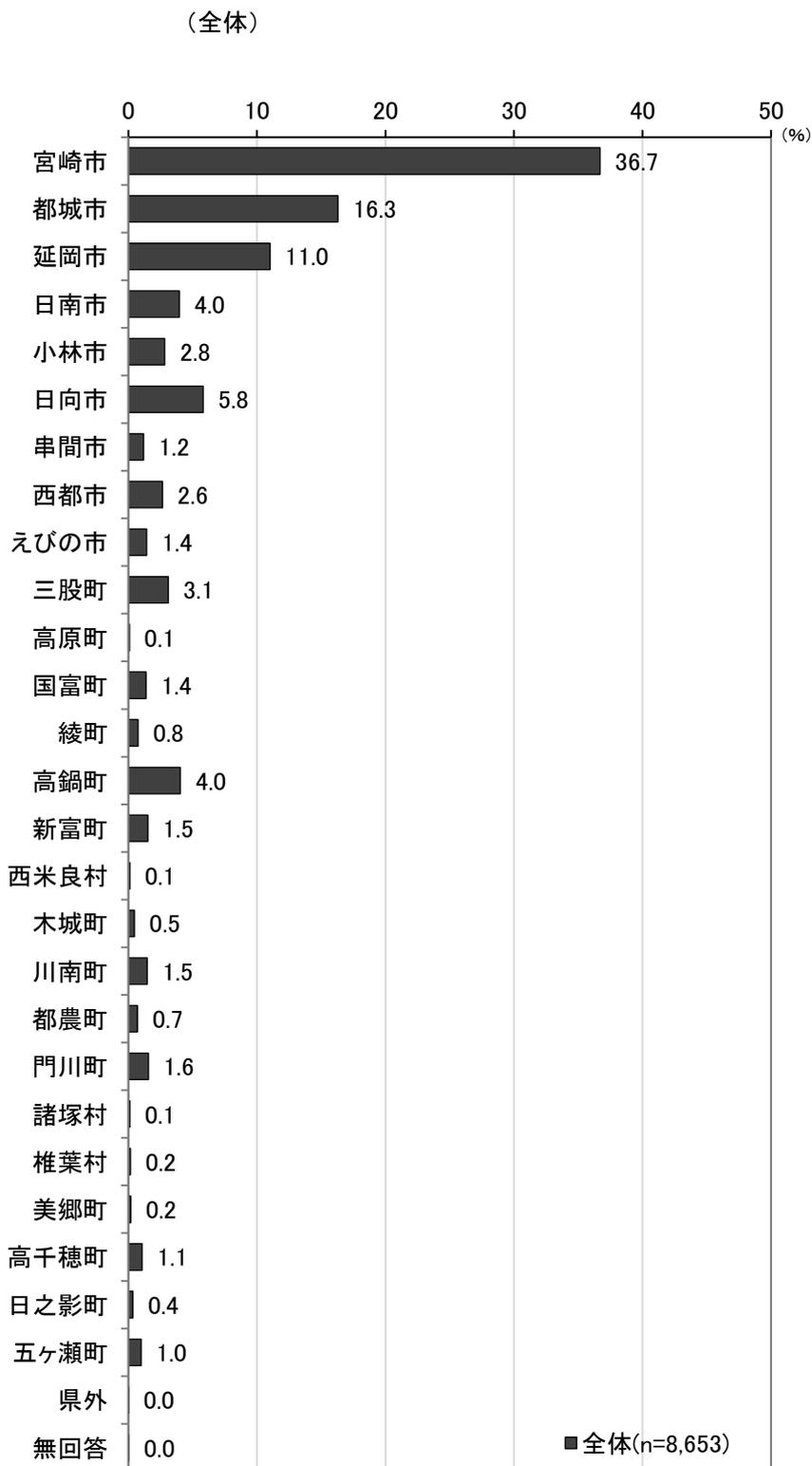
問 1 あなたの性別を教えてください。（あてはまる番号1つに○）

全体で見ると、「男性」が50.2%、「女性」が48.6%、「その他」が1.2%となっています。



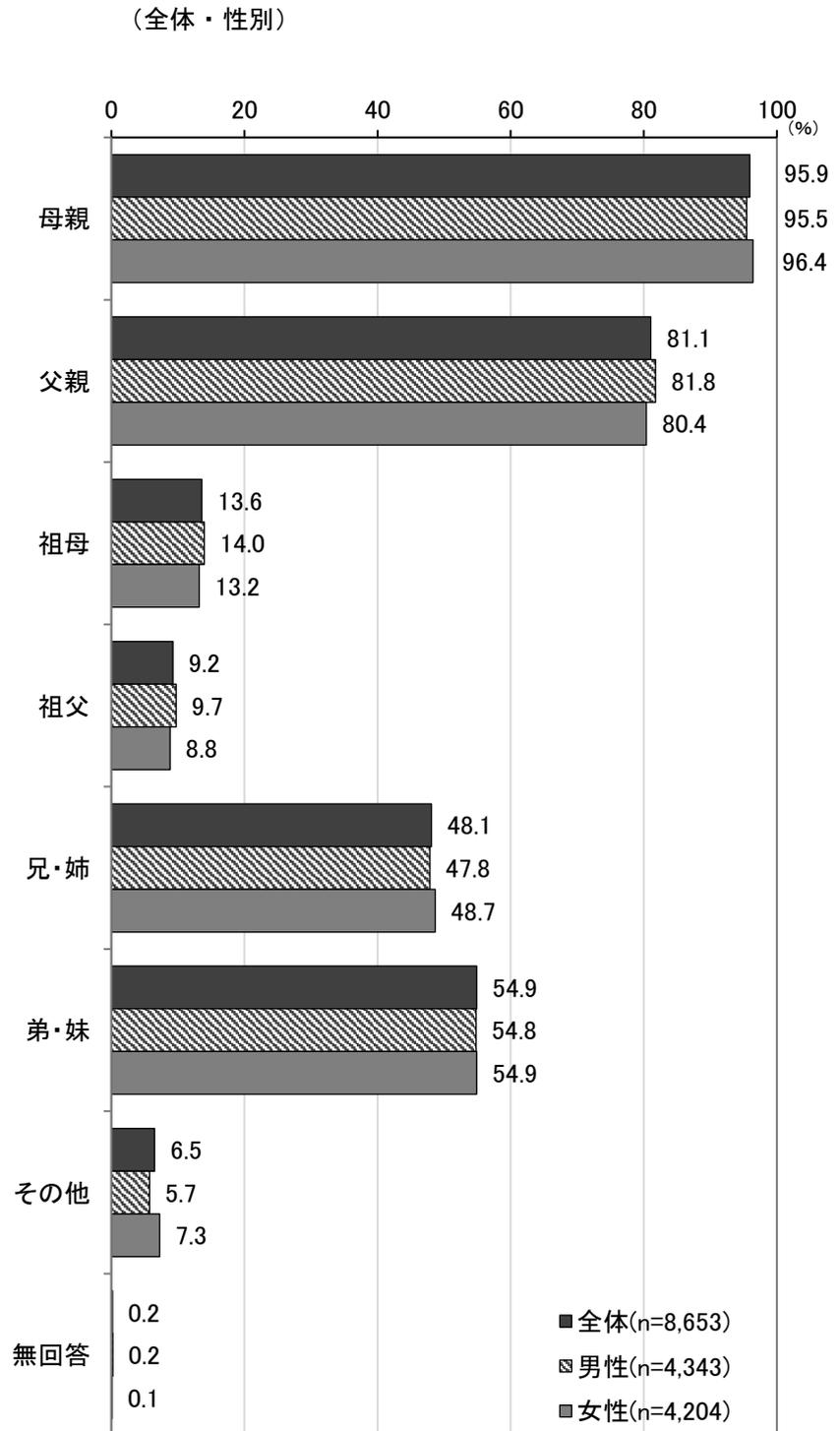
問2 現在住んでいる市町村を教えてください。

全体でみると、「宮崎市」が36.7%と最も高く、次いで「都城市」が16.3%、「延岡市」が11.0%となっています。



問3 一緒に住んでいる家族について教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

全体で見ると、「母親」が95.9%と最も高く、次いで「父親」が81.1%、「弟・妹」が54.9%、「兄・姉」が48.1%となっています。

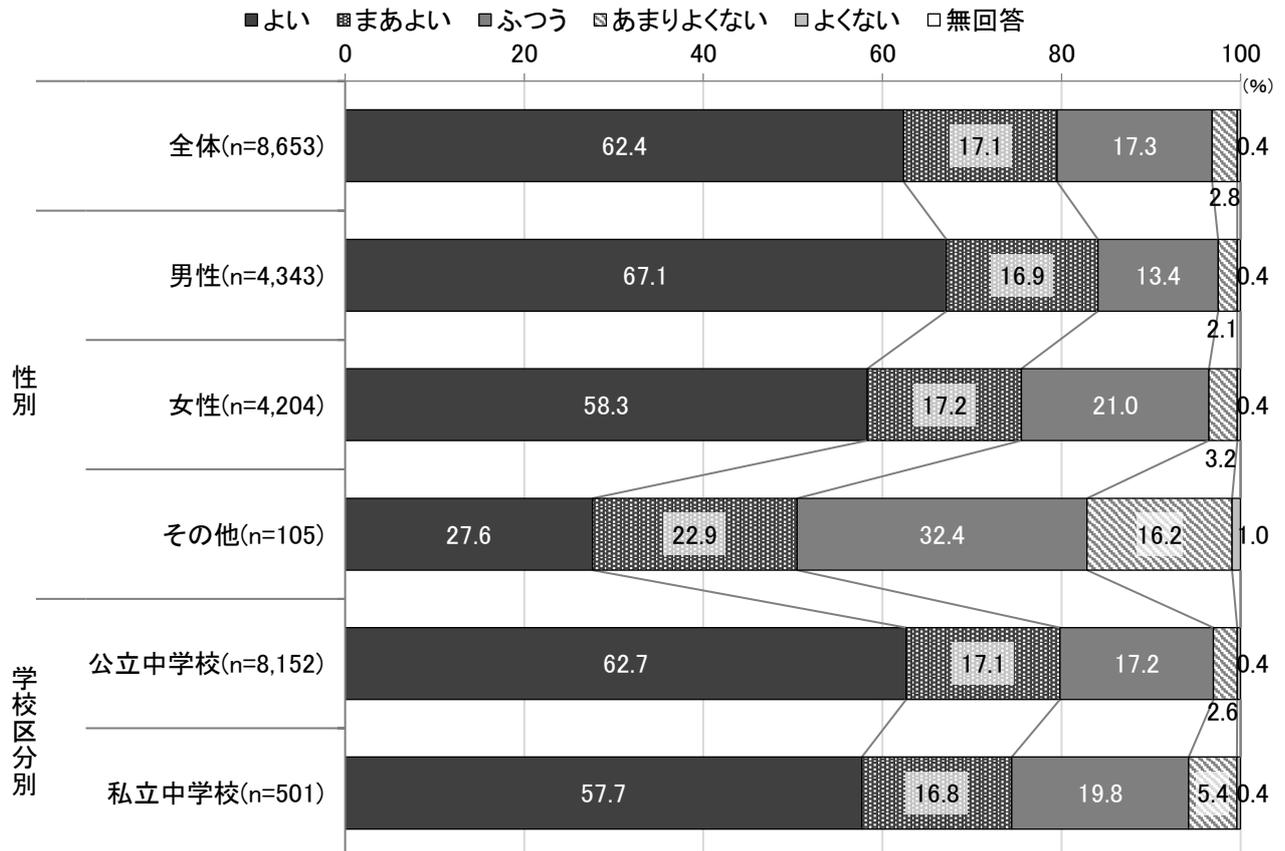


問 4 あなたの健康状態について教えてください。(あてはまる番号1つに○)

全体で見ると、「よい」が62.4%、「まあよい」が17.1%、「ふつう」が17.3%、「あまりよくない」が2.8%、「よくない」が0.4%となっています。

性別で見ると、「よい」は男性67.1%、女性58.3%と、男性が8.8ポイント高くなっています。

(全体・性別・学校区分別)

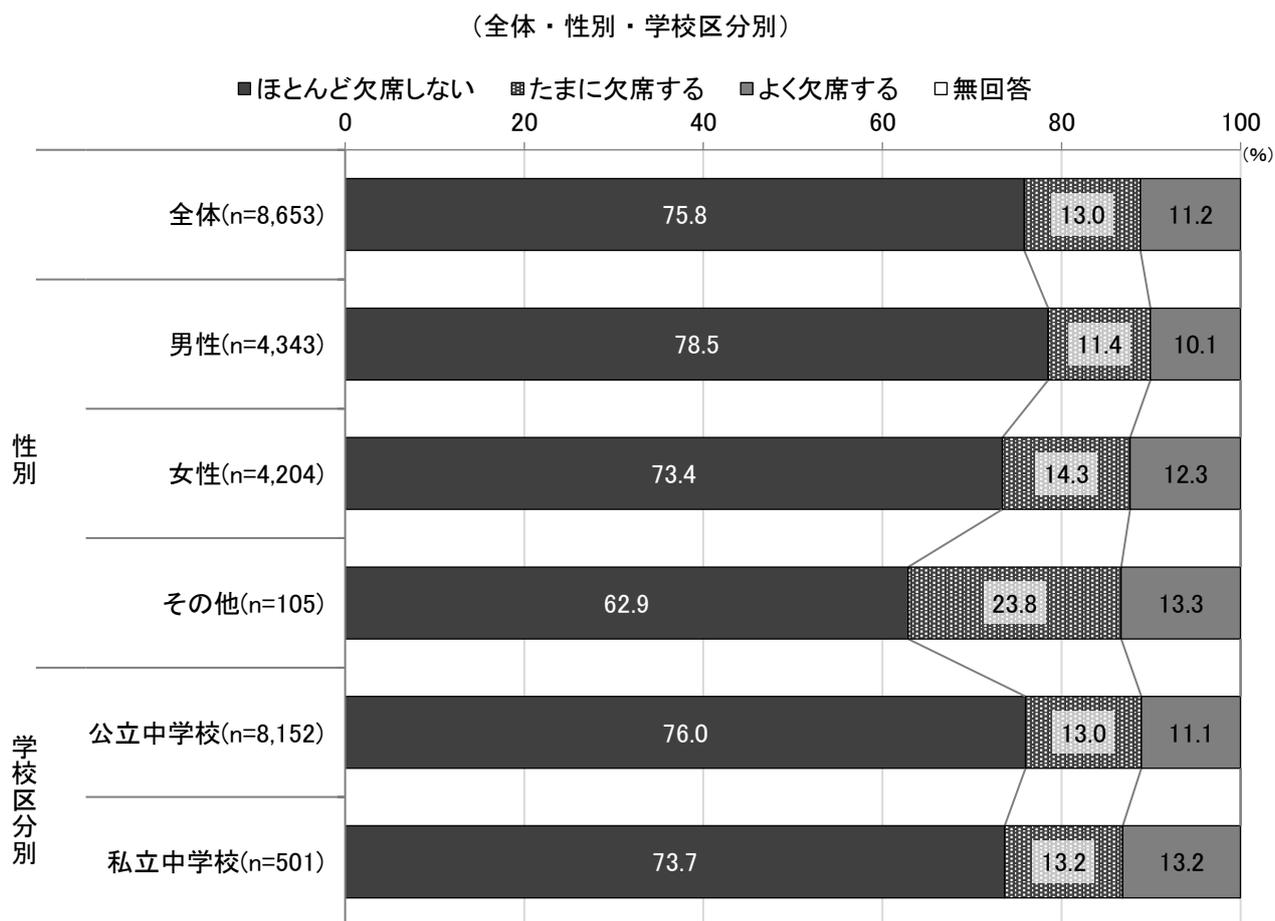


問5 学校への通学状況等について教えてください。(あてはまる番号1つに○)

① 出席状況

全体で見ると、「ほとんど欠席しない」が75.8%、「たまに欠席する」が13.0%、「よく欠席する」が11.2%となっています。

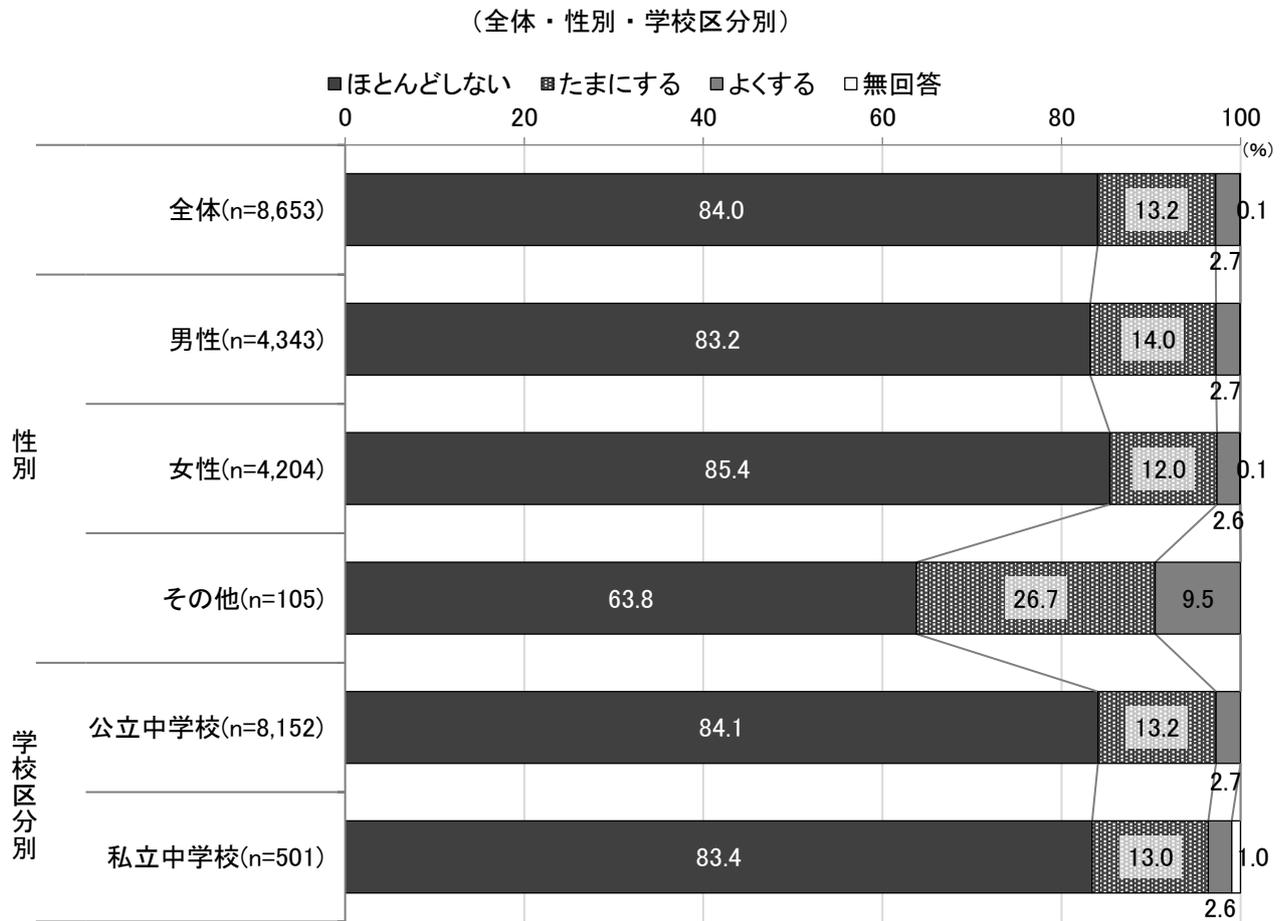
性別で見ると、「ほとんど欠席しない」は男性78.5%、女性73.4%と、男性が5.1ポイント高くなっています。



② 遅刻や早退の状況

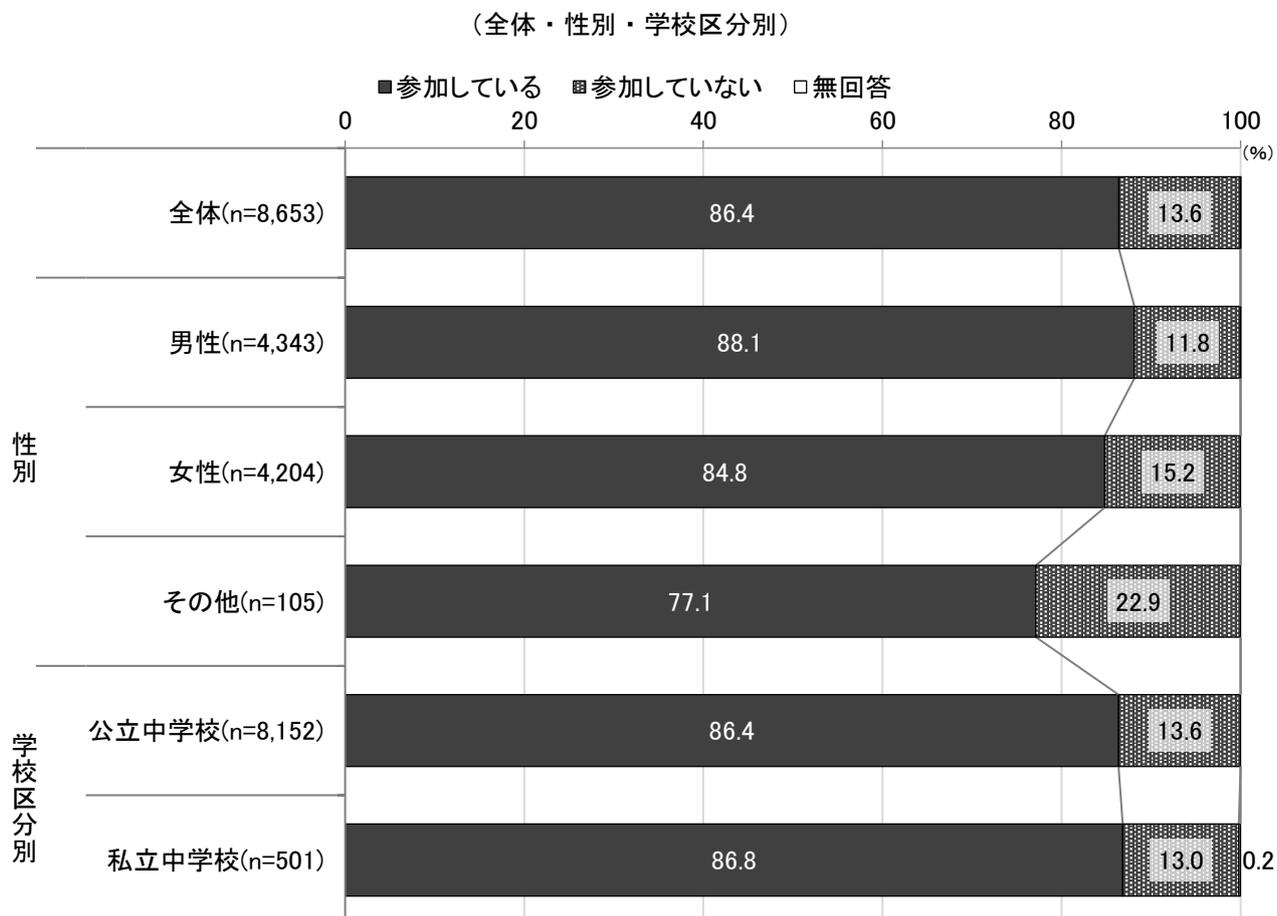
全体で見ると、「ほとんどしない」が84.0%、「たまにする」が13.2%、「よくする」が2.7%となっています。

性別で見ると、「ほとんどしない」は男性83.2%、女性85.4%と、女性が2.2ポイント高くなっています。



問 6 部活動（学校外での活動を含む）に参加していますか。（あてはまる番号1つに○）

全体でみると、「参加している」が86.4%、「参加していない」が13.6%となっています。
性別でみると、「参加している」は男性88.1%、女性84.8%と、男性が3.3ポイント高くなっています。



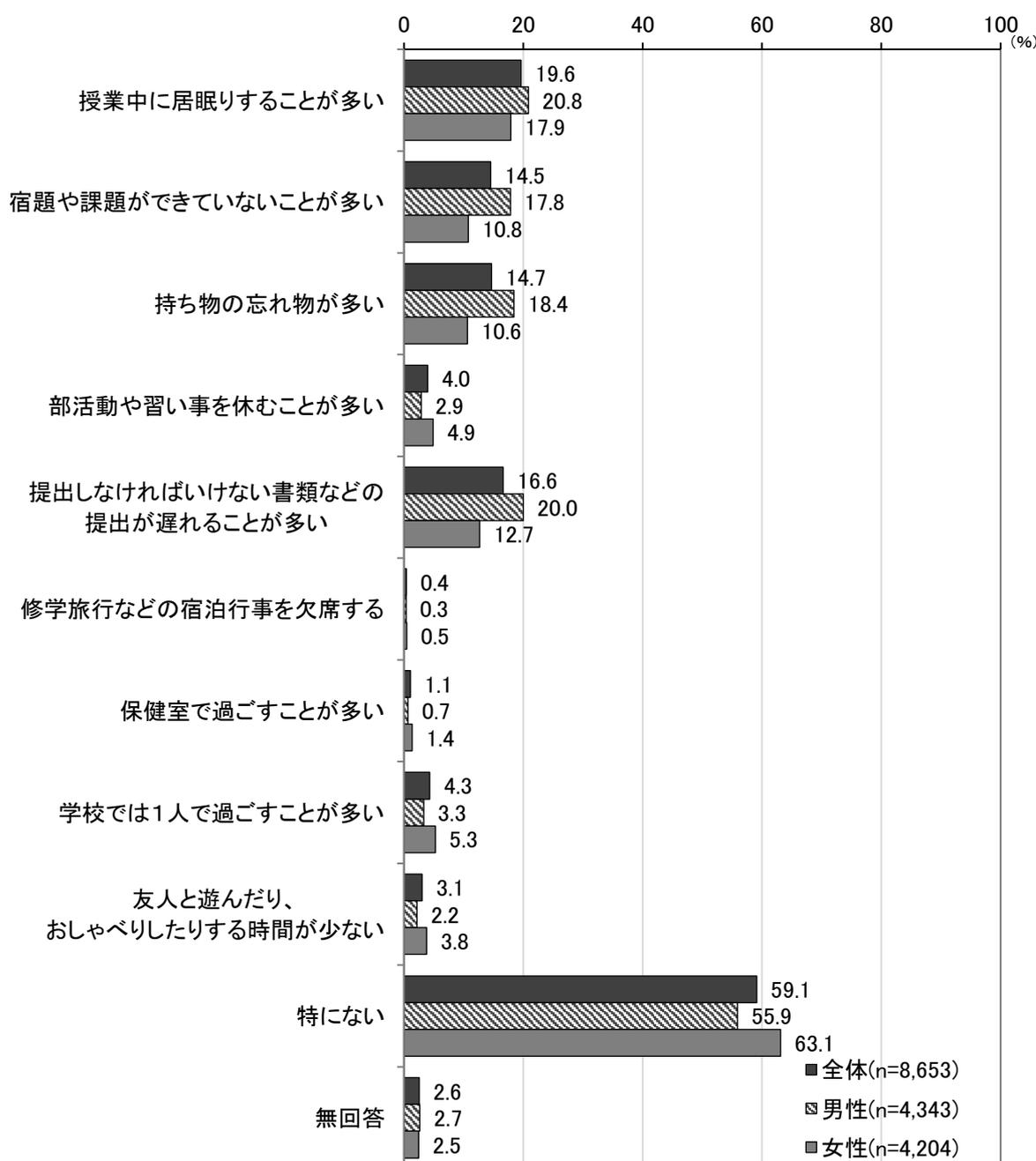
問7 ふだんの学校生活等において、以下の中であてはまるものはありますか

(あてはまる番号すべてに○)

全体でみると、「特にない」が59.1%と最も高く、次いで「授業中に居眠りすることが多い」が19.6%、「提出しなければいけない書類などの提出が遅れる事が多い」が16.6%、「持ち物の忘れ物が多い」が14.7%となっています。

性別でみると、「持ち物の忘れ物が多い」は男性18.4%、女性10.6%と、男性が7.8ポイント高くなっており、「提出しなければいけない書類などの提出が遅れる事が多い」は男性20.0%、女性12.7%と、男性が7.3ポイント高くなっています。

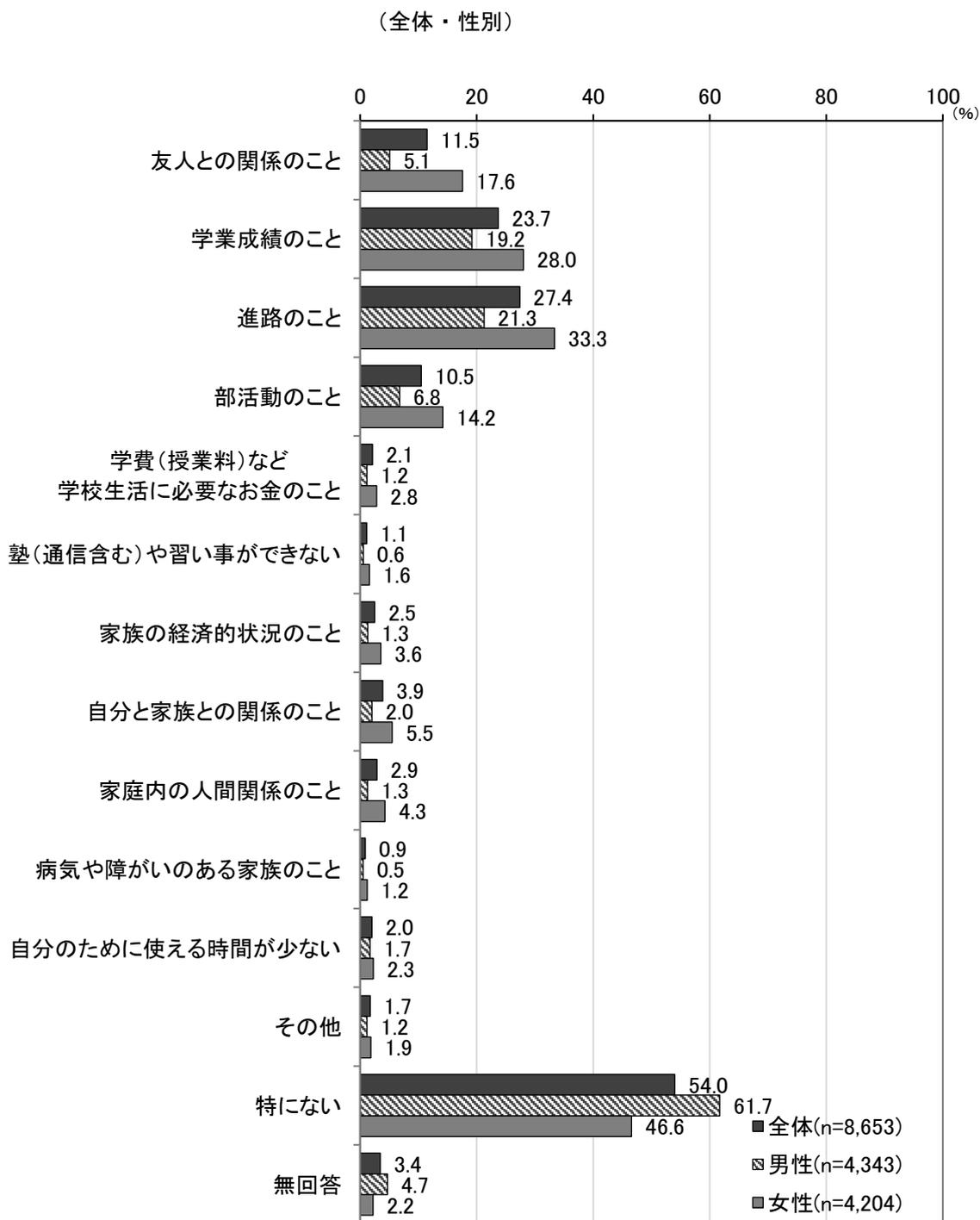
(全体・性別)



問8 現在、悩んだり困っていることはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

全体でみると、「特にない」が54.0%と最も高く、次いで「進路のこと」が27.4%、「学業成績のこと」が23.7%、「友人との関係のこと」が11.5%となっています。

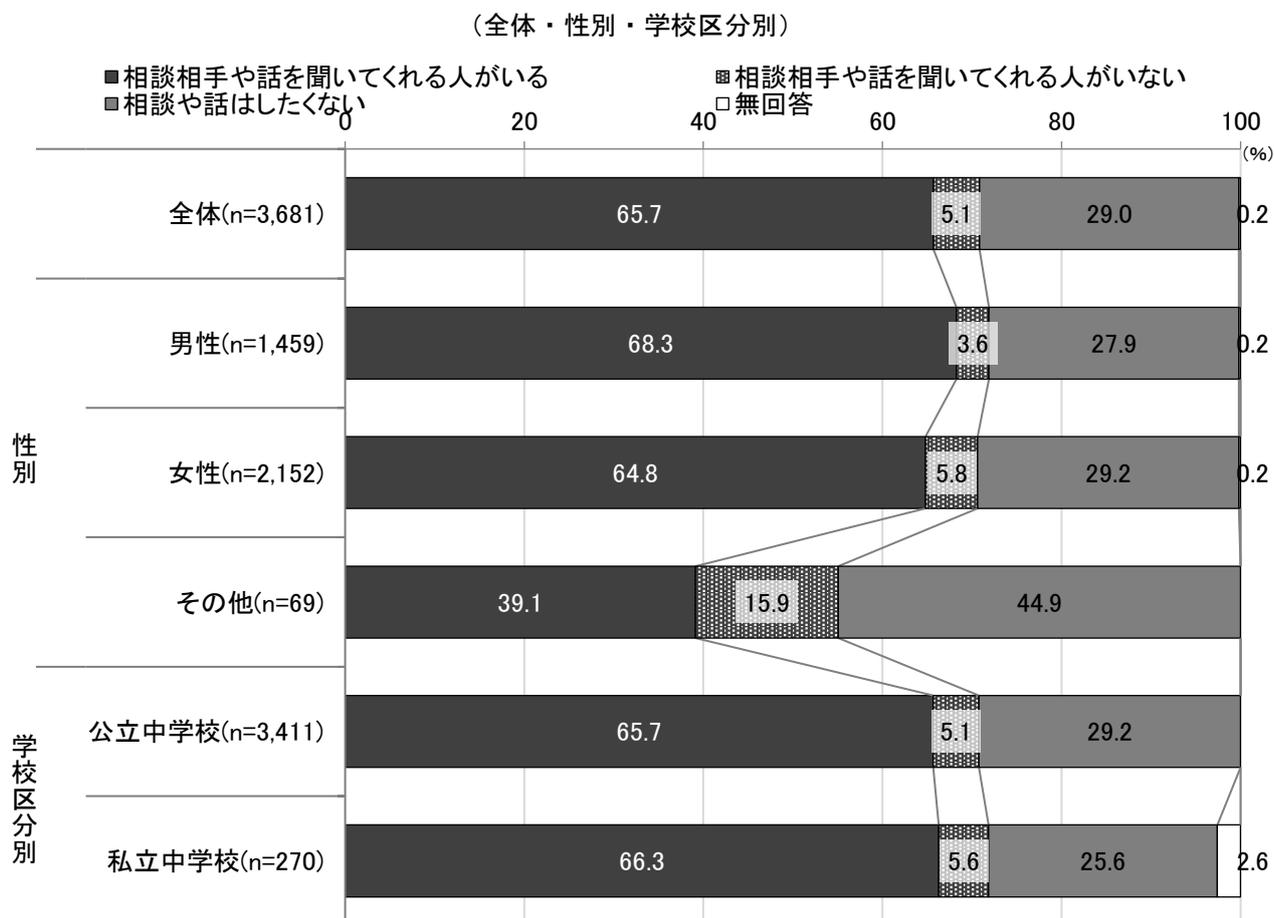
性別でみると、「特にない」は男性61.7%、女性46.6%と、男性が15.1ポイント高くなっており、「友人との関係のこと」は男性5.1%、女性17.6%と、女性が12.5ポイント高くなっていきます。



問9 問8で1~12のいずれかを回答した方にお聞きします。回答した悩みや困りごとについて、相談に乗ってくれたり、話を聞いてくれる人がいますか（あてはまる番号1つに○）

全体でみると、「相談相手や話を聞いてくれる人がいる」が65.7%、「相談や話はしたくない」が29.0%、「相談相手や話を聞いてくれる人がいない」が5.1%となっています。

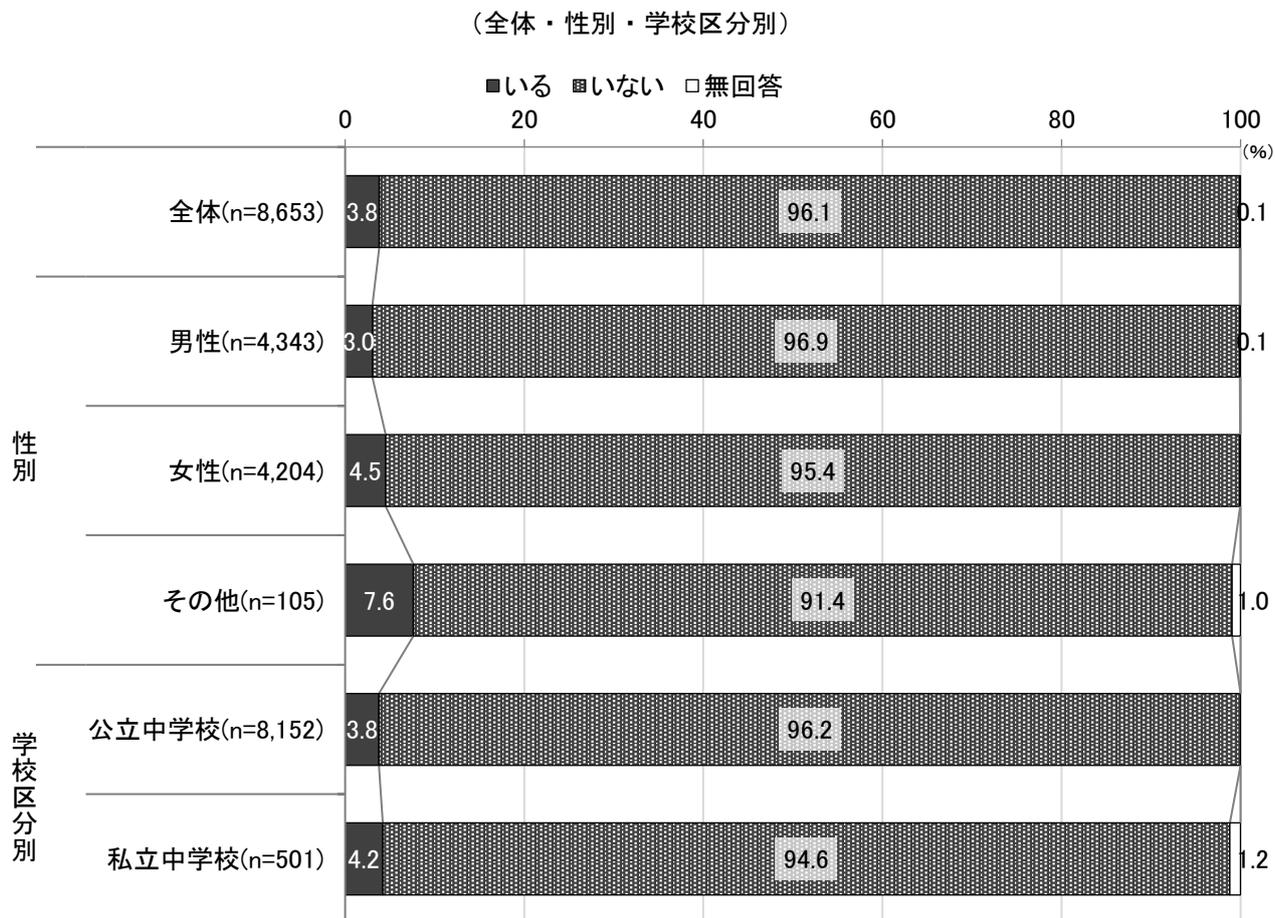
性別では、大きな差異はみられません。



問 10 家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか。

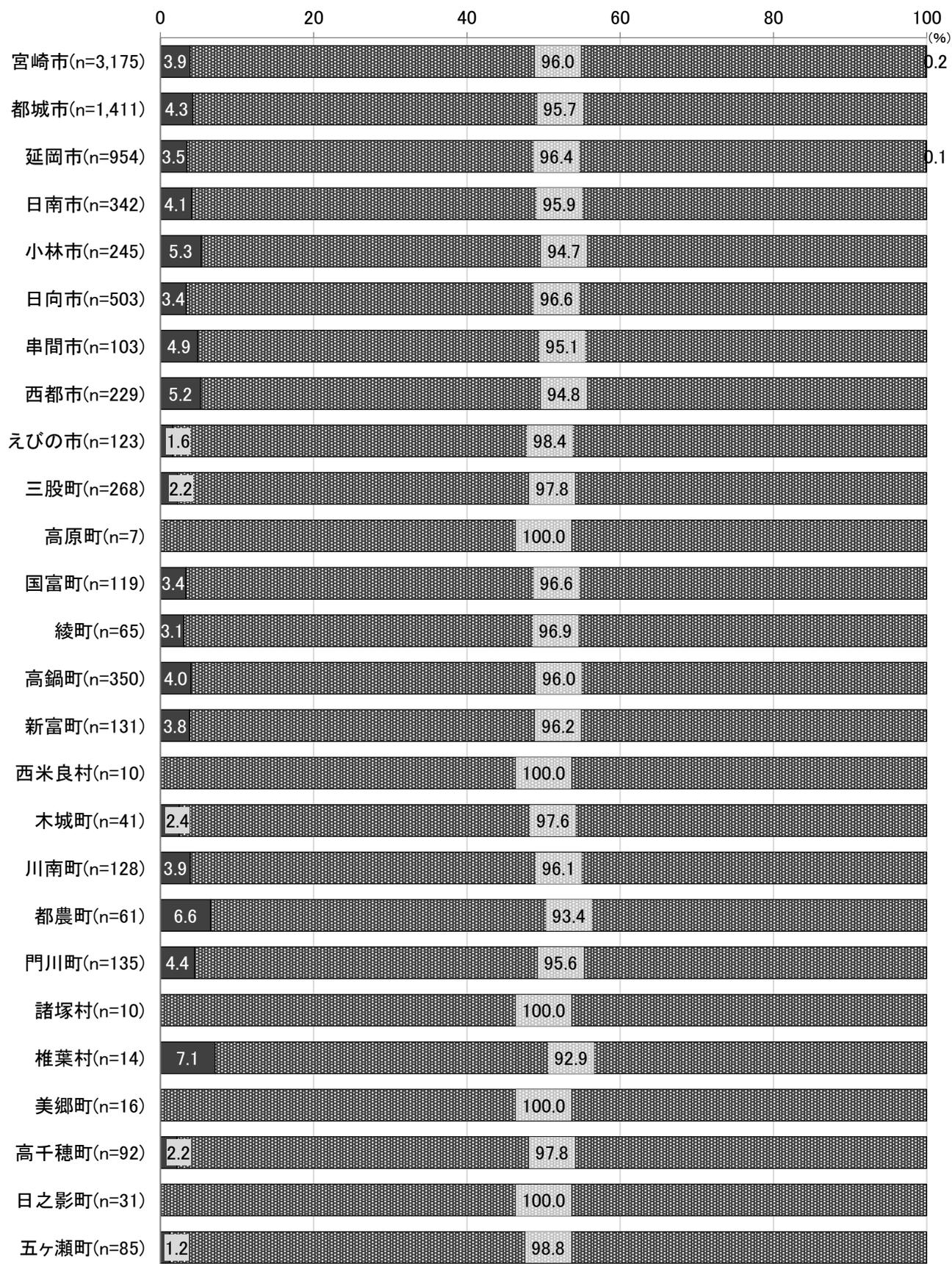
(ここで「お世話」とは、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などをする
 ことです。)(あてはまる番号1つに○)

全体でみると、「いる」が3.8%、「いない」が96.1%となっています。
 性別では、大きな差異はみられません。



(市町村別)

■いる ■いない □無回答



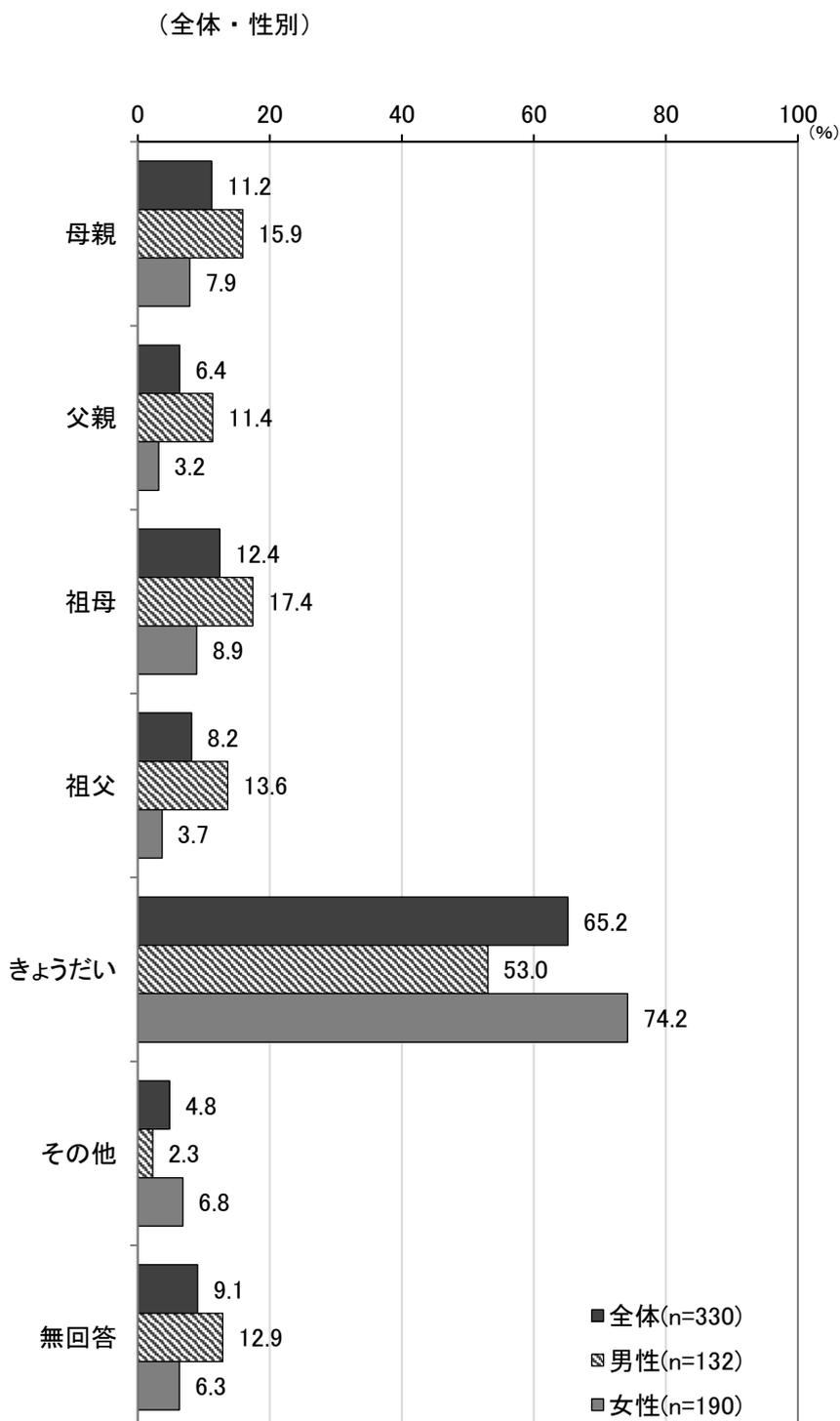
問 11 問 10で「1. いる」と答えた方にお聞きします。

お世話の状況についてお教えてください。

① お世話を必要としている方（あてはまる番号すべてに○）

全体で見ると、「きょうだい」が65.2%と最も高く、次いで「祖母」が12.4%、「母親」が11.2%、「祖父」が8.2%、「父親」が6.4%、「その他」が4.8%となっています。

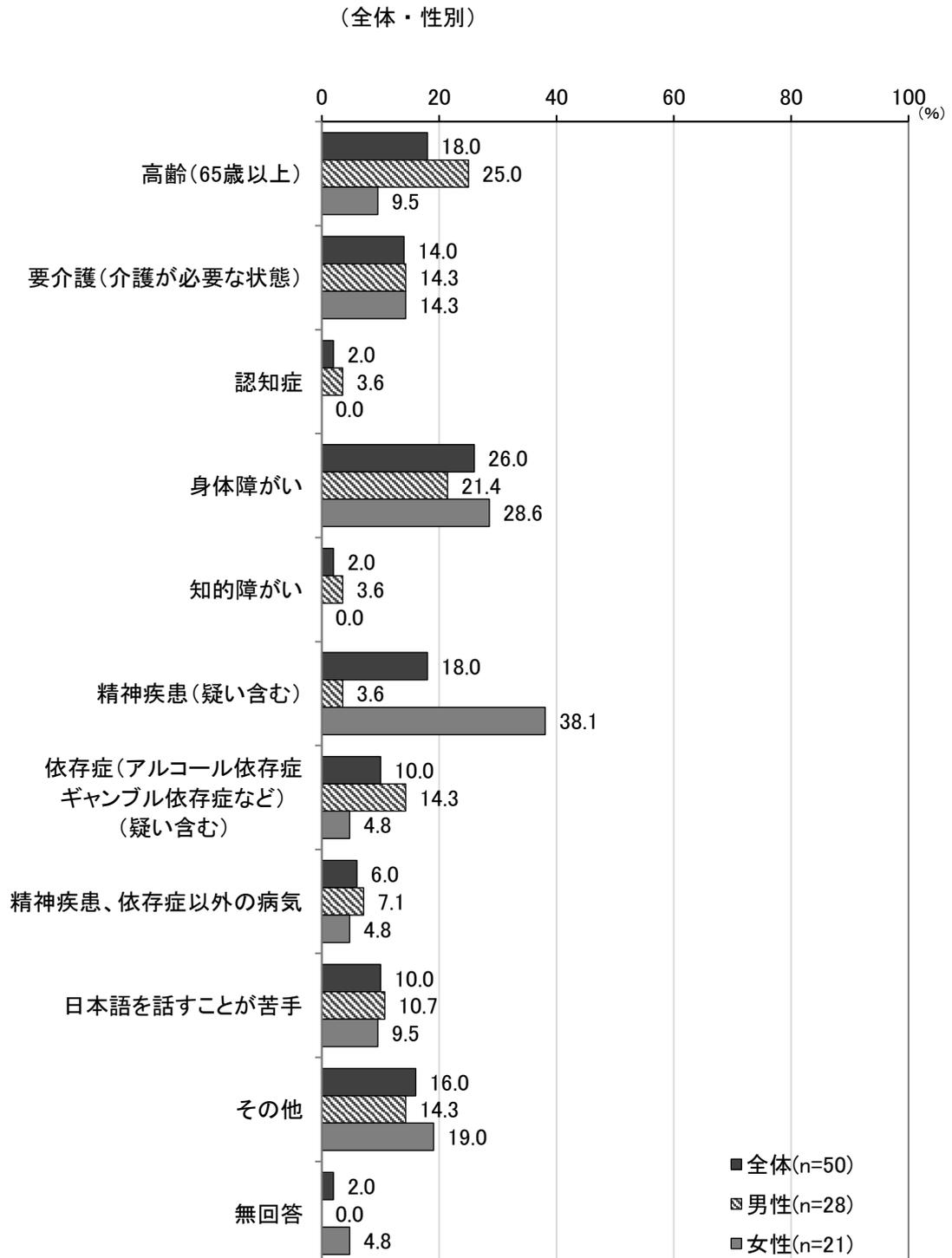
性別で見ると、「きょうだい」は男性53.0%、女性74.2%と、女性が21.2ポイント高くなっています。



- ② お世話を必要としている方が複数いる場合はそれぞれの方についてお答えください。
- ②-a 母親、あるいは父親のお世話をしている人におききします。
- お世話を必要としている方の状況を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

全体でみると、「身体障がい」が26.0%と最も高く、次いで「精神疾患(疑い含む)」と「高齢(65歳以上)」が18.0%、「その他」が16.0%となっています。

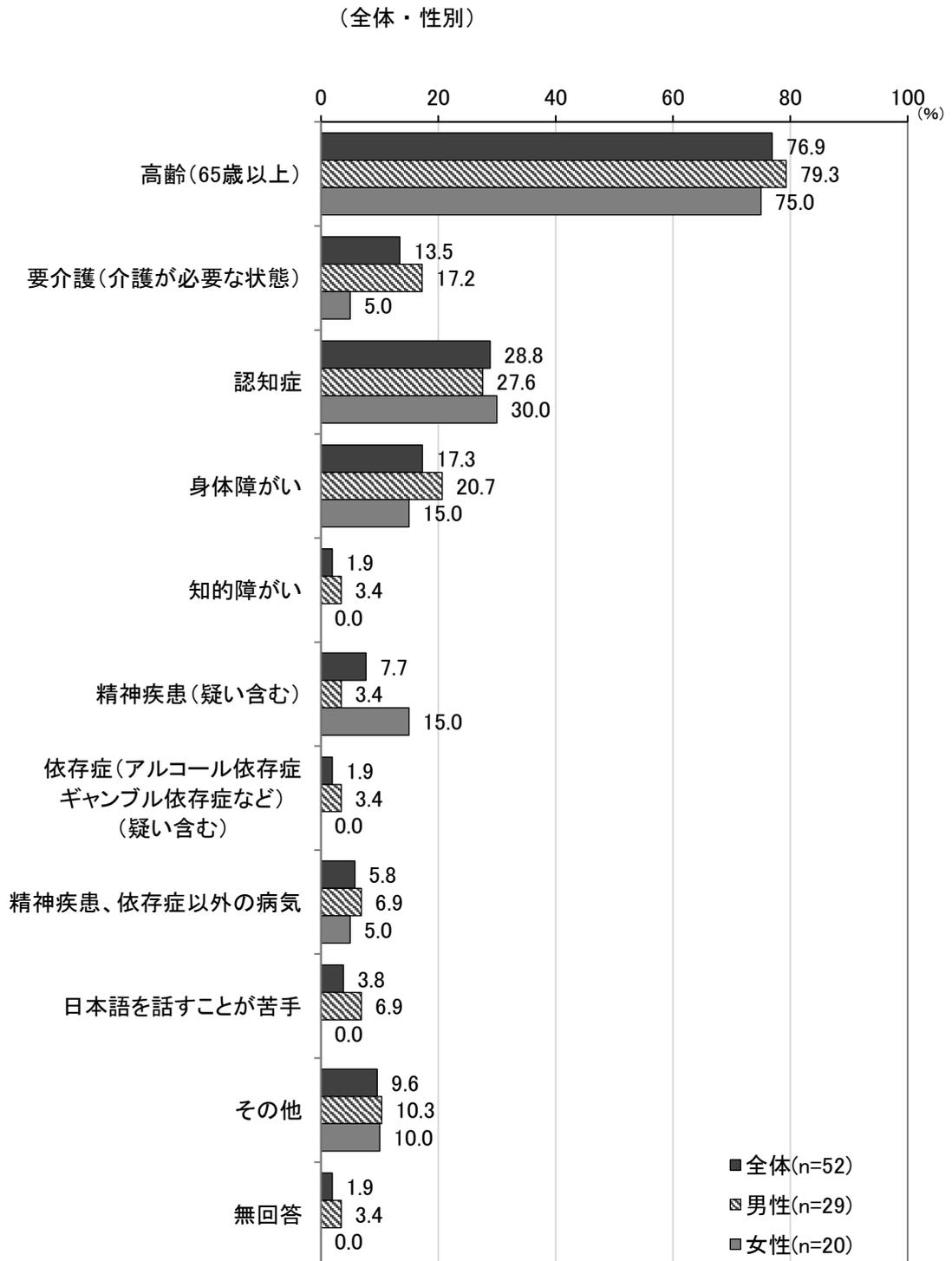
性別でみると、「精神疾患(疑い含む)」は男性3.6%、女性38.1%と、女性が34.5ポイント高くなっています。



②ーb 祖母、あるいは祖父のお世話をしている人におききします。

お世話を必要としている方の状況を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

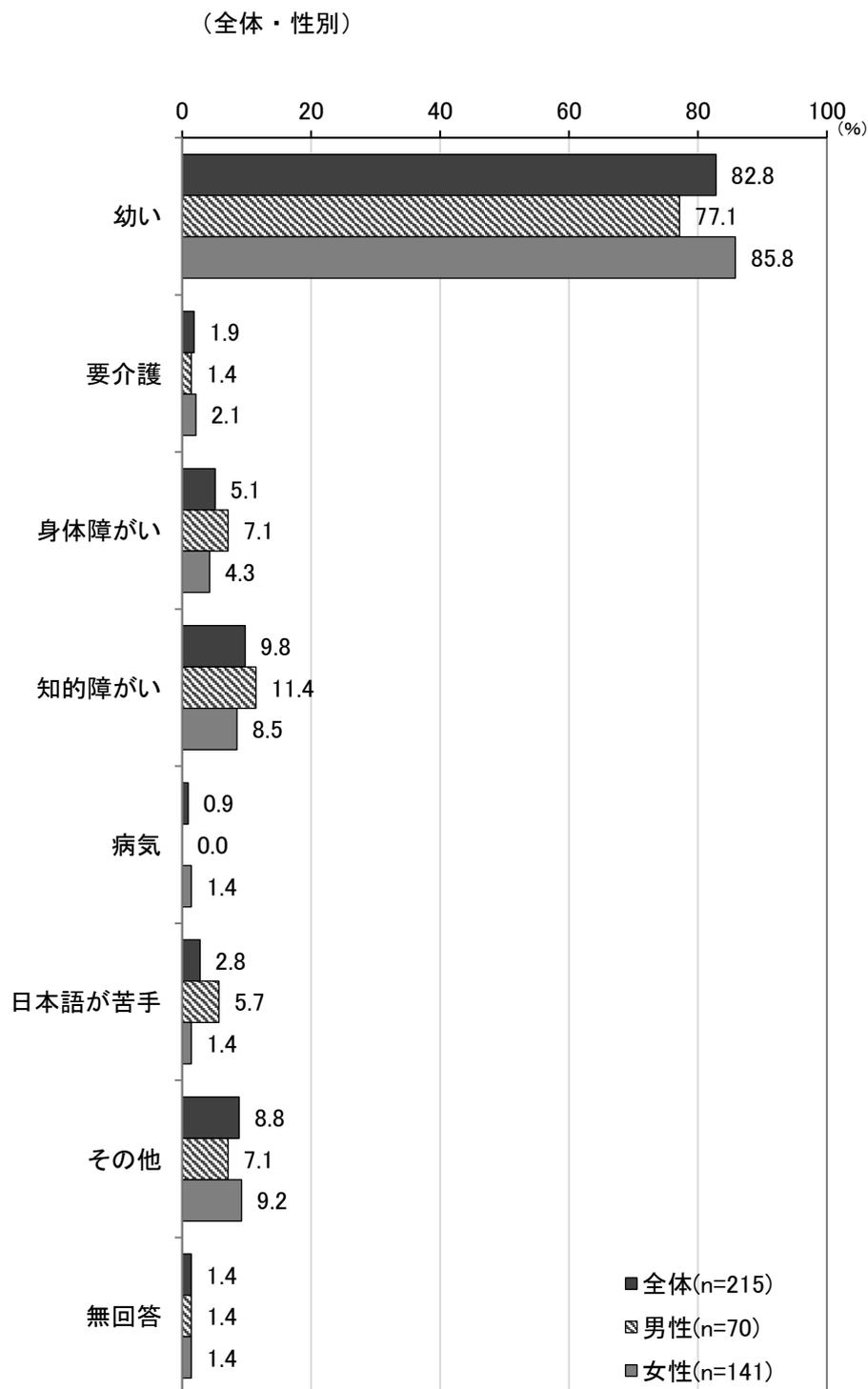
全体でみると、「高齢(65歳以上)」が76.9%と最も高く、次いで「認知症」が28.8%、「身体障がい」が17.3%となっています。



②ーc きょうだいのお世話をしている人におききます。

お世話を必要としている方の状況を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

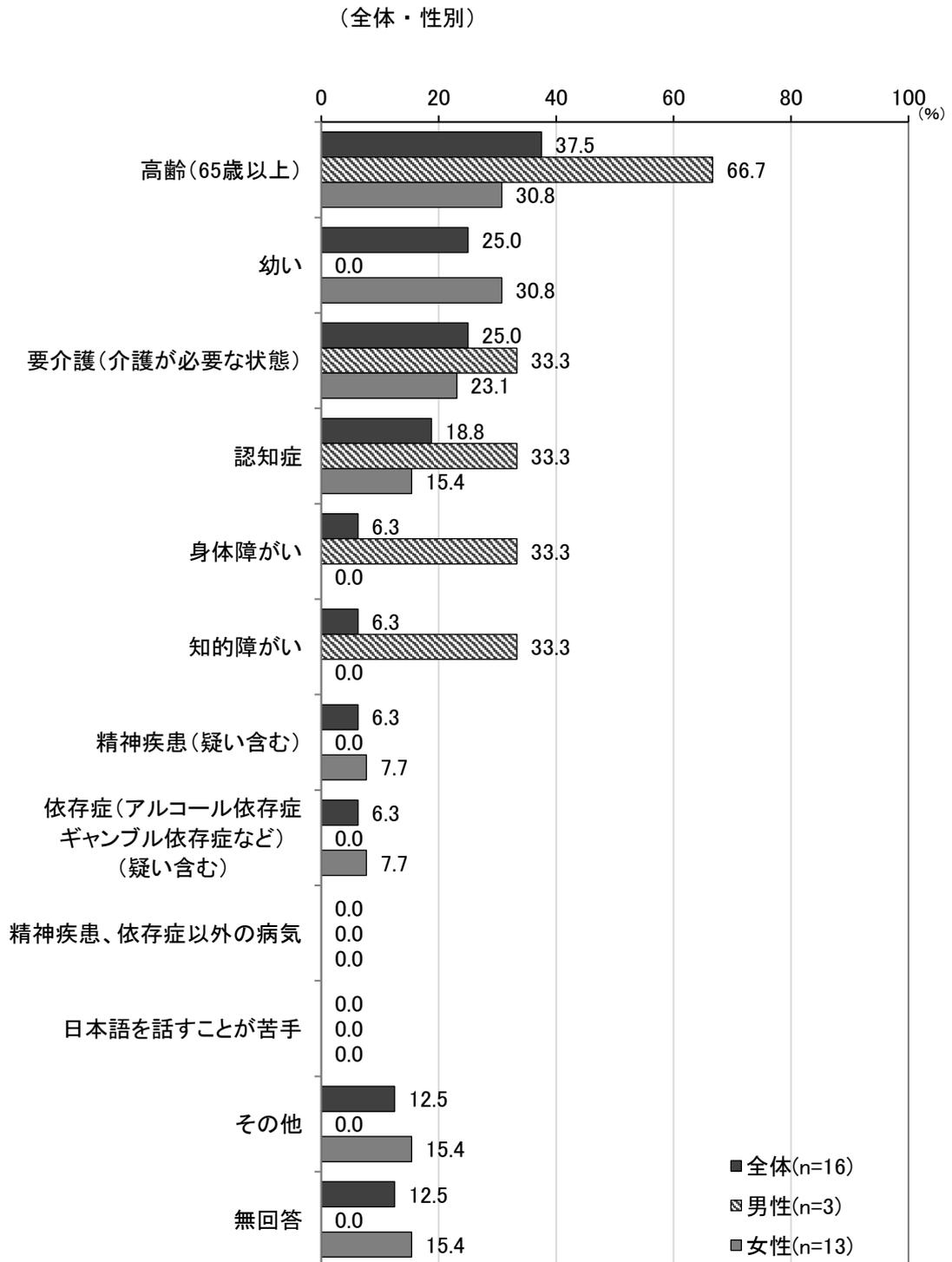
全体で見ると、「若い」が82.8%と最も高く、次いで「知的障がい」が9.8%、「その他」が8.8%となっています。



②-d その他のお世話をしている人におききます。

お世話を必要としている方の状況を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

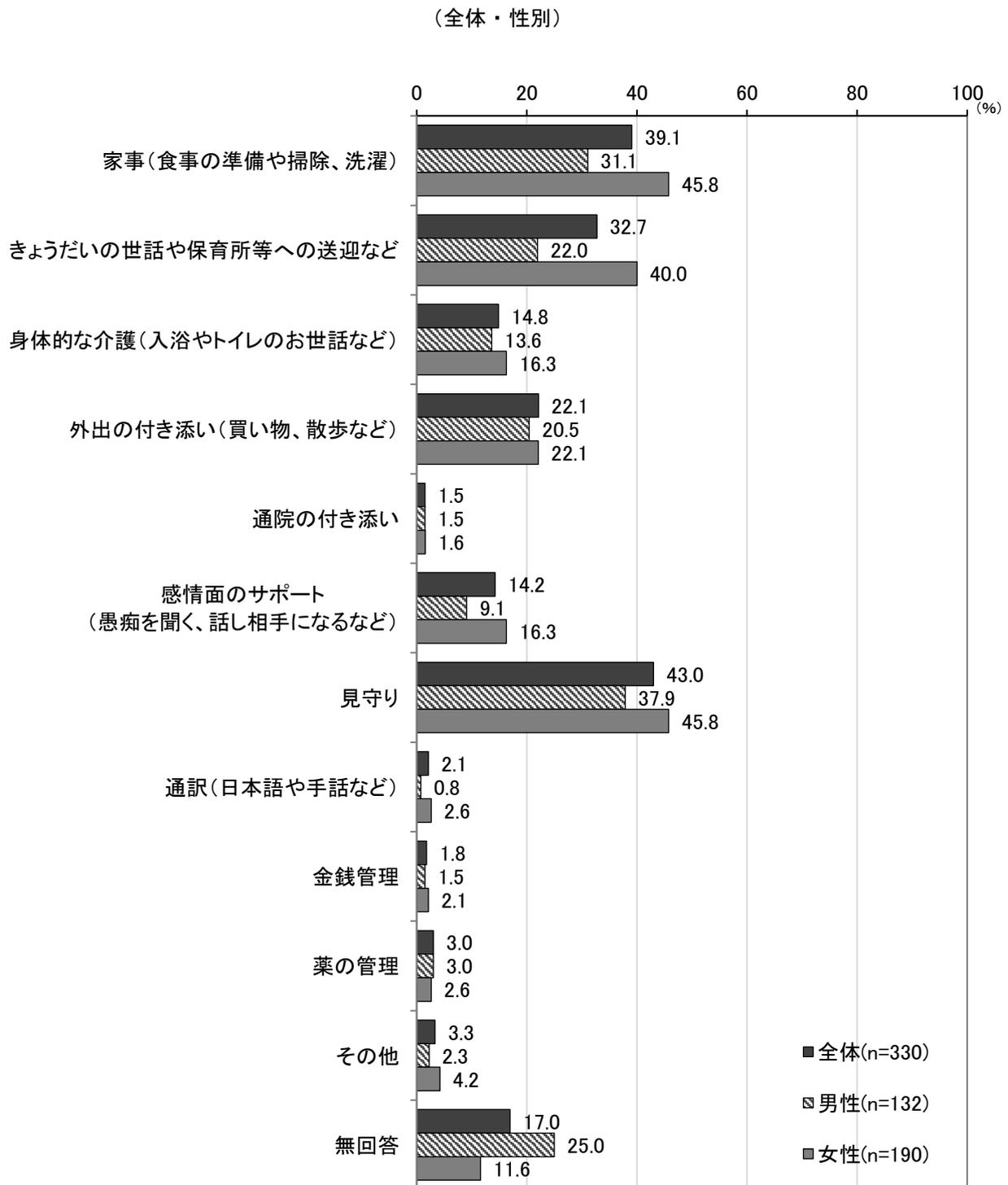
全体でみると、「高齢(65歳以上)」が37.5%と最も高く、次いで「若い」と「要介護(介護が必要な状態)」が25.0%、「認知症」が18.8%となっています。



③ あなたが行っているお世話の内容を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

全体で見ると、「見守り」が 43.0%と最も高く、次いで「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」が 39.1%、「きょうだいのお世話や保育所等への送迎など」が 32.7%となっています。

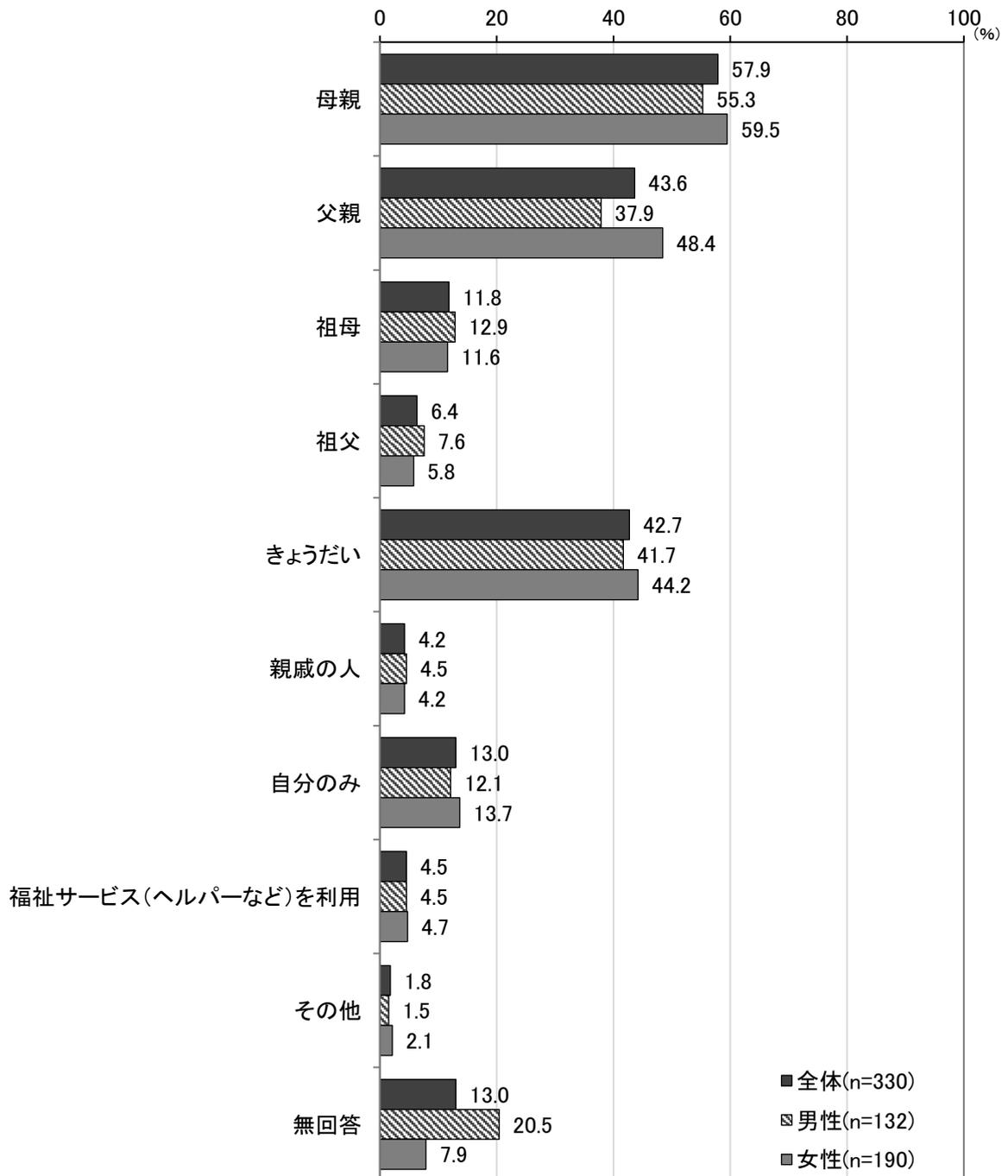
性別で見ると、「きょうだいのお世話や保育所等への送迎など」は男性 22.0%、女性 40.0%と、女性が 18.0 ポイント高く、「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」は男性 31.1%、女性 45.8%と、女性が 14.7 ポイント高くなっています。



④ お世話は誰と行っていますか（あてはまる番号すべてに○）

全体でみると、「母親」が57.9%と最も高く、次いで「父親」の43.6%、「きょうだい」の42.7%となっています。

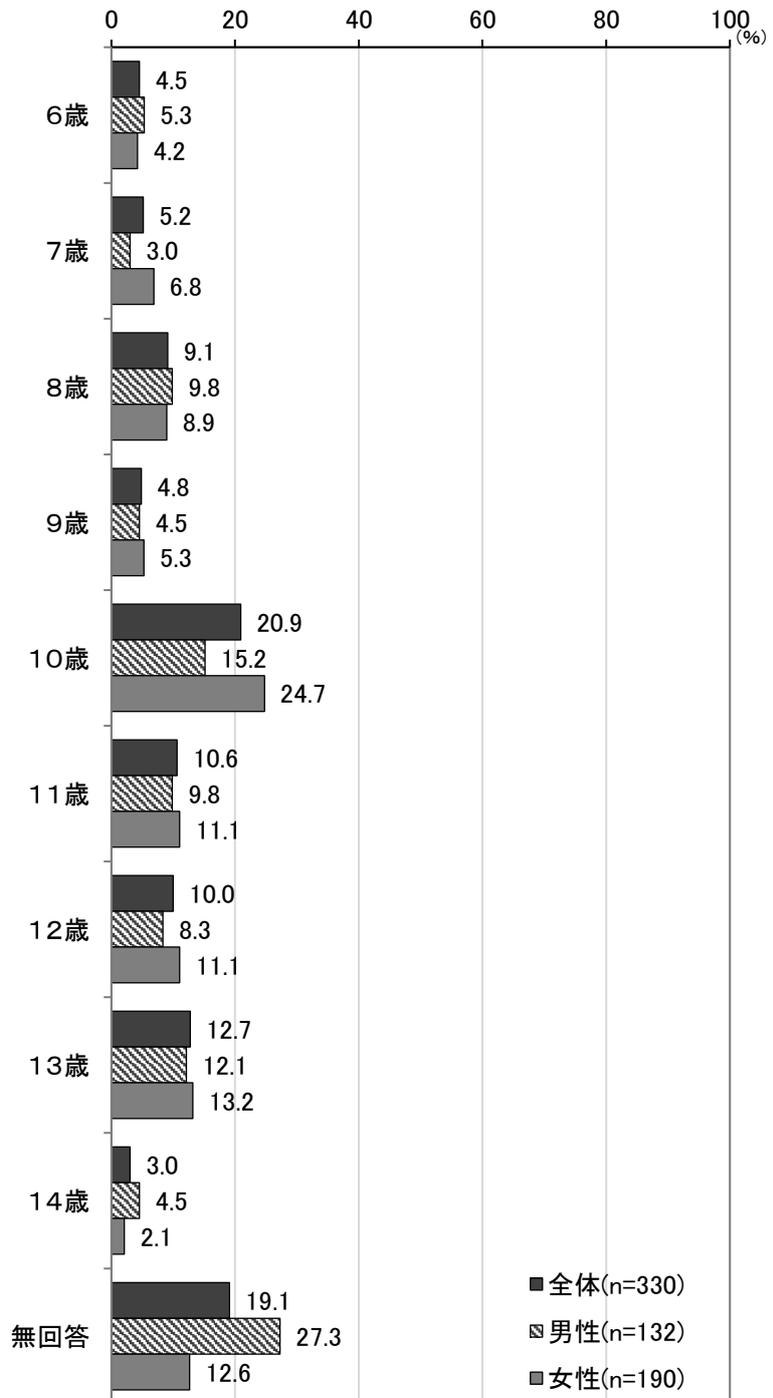
(全体・性別)



⑤ お世話はいつから行っていますか。お世話を始めた年齢をお答えください。(はっきりとわからない場合は、だいたいの年齢でかまいません)

全体で見ると、「10歳」が20.9%と最も高く、次いで「13歳」が12.7%、「11歳」が10.6%となっています。

(全体・性別)

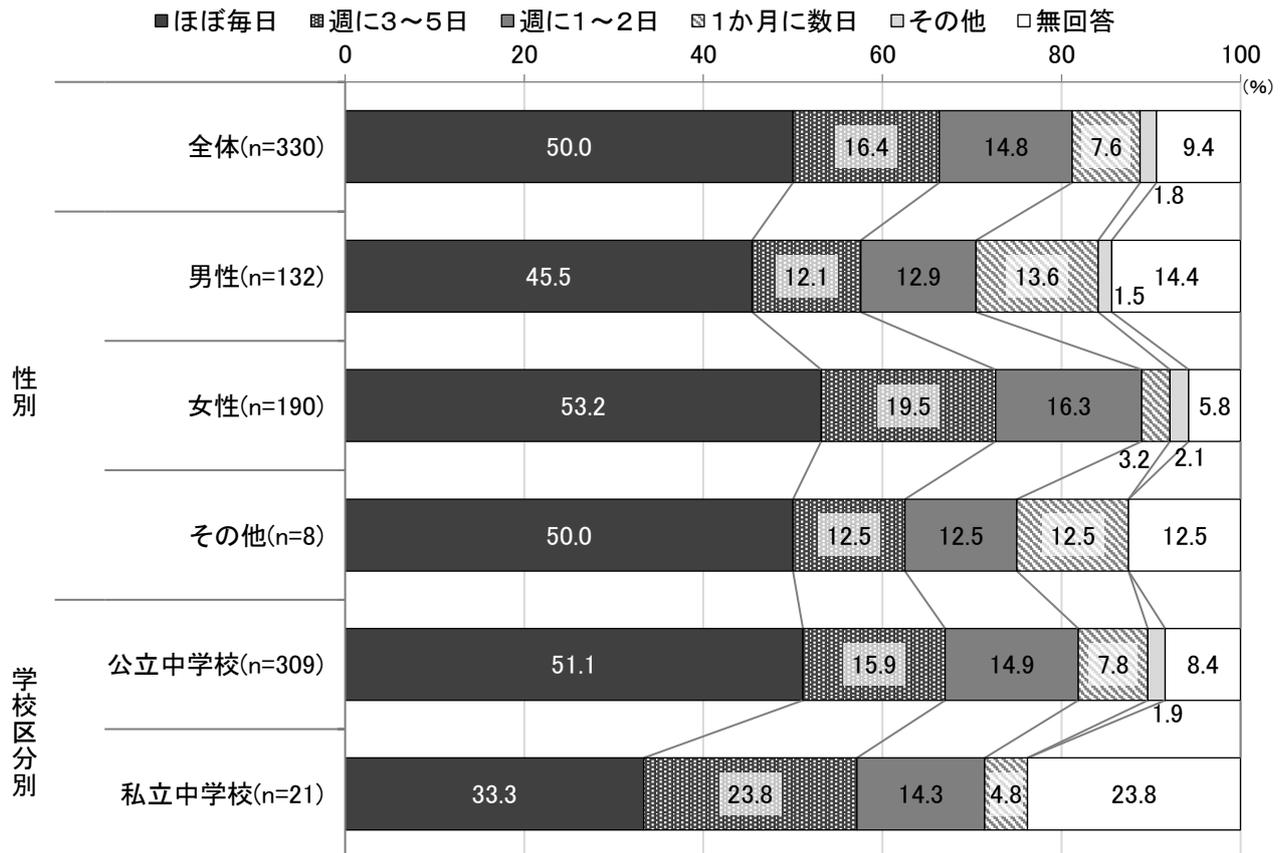


⑥ お世話をしている頻度を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

全体でみると、「ほぼ毎日」が50.0%と最も高く、次いで「週に3~5日」の16.4%、「週に1~2日」の14.8%となっています。

性別でみると、「ほぼ毎日」は男性45.5%、女性53.2%と、女性が7.7ポイント高くなっています。

(全体・性別・学校区分別)

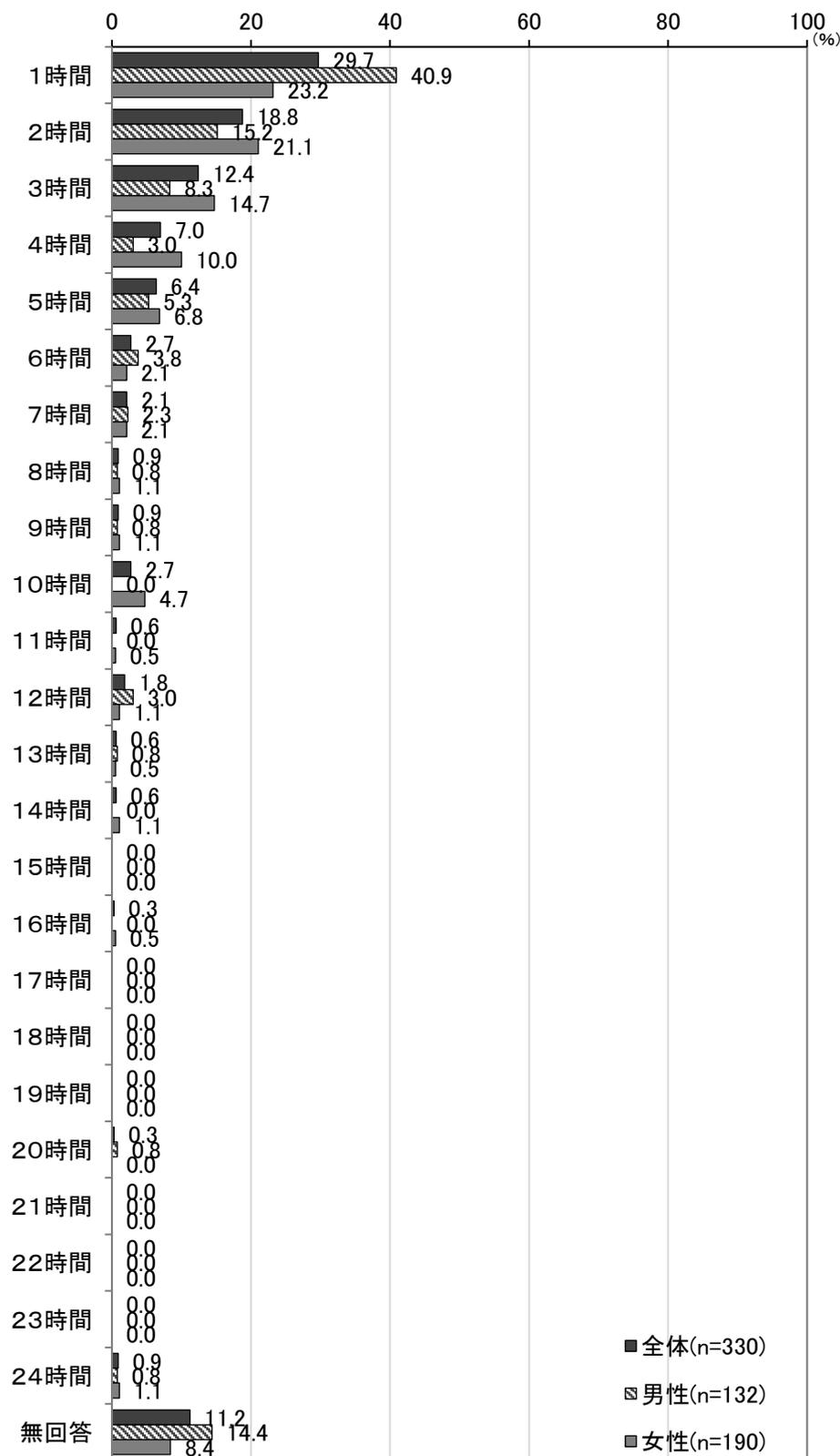


⑦ 平日にお世話はどれくらい行っていますか。時間数をお答えください。

(日によって異なる場合は、この1か月の中で最も長かった日の時間をお答えください)

全体で見ると、「1時間」が29.7%と最も高く、次いで「2時間」が18.8%、「3時間」が12.4%となっています。

(全体・性別)

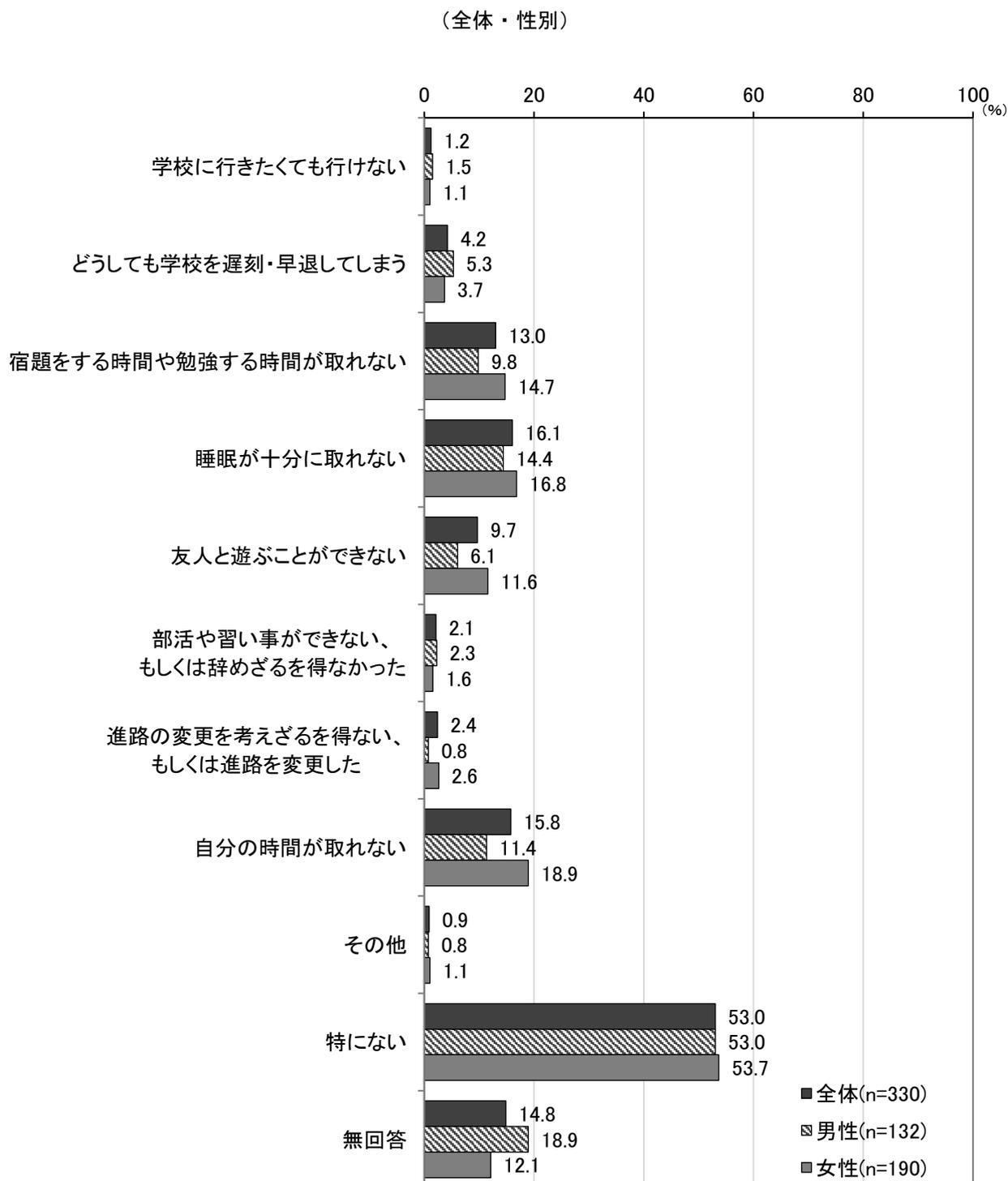


問 12 お世話をしていることで、やりたいけど、できていないことはありますか。

(あてはまる番号すべてに○)

全体で見ると、「特にない」が53.0%と最も高く、次いで「睡眠が十分に取れない」が16.1%、「自分の時間が取れない」が15.8%となっています。

性別で見ると、「自分の時間が取れない」は男性11.4%、女性18.9%と、女性が7.5ポイント高く、「宿題をする時間や勉強する時間が取れない」は男性9.8%、女性14.7%と、女性が4.9ポイント高くなっています。

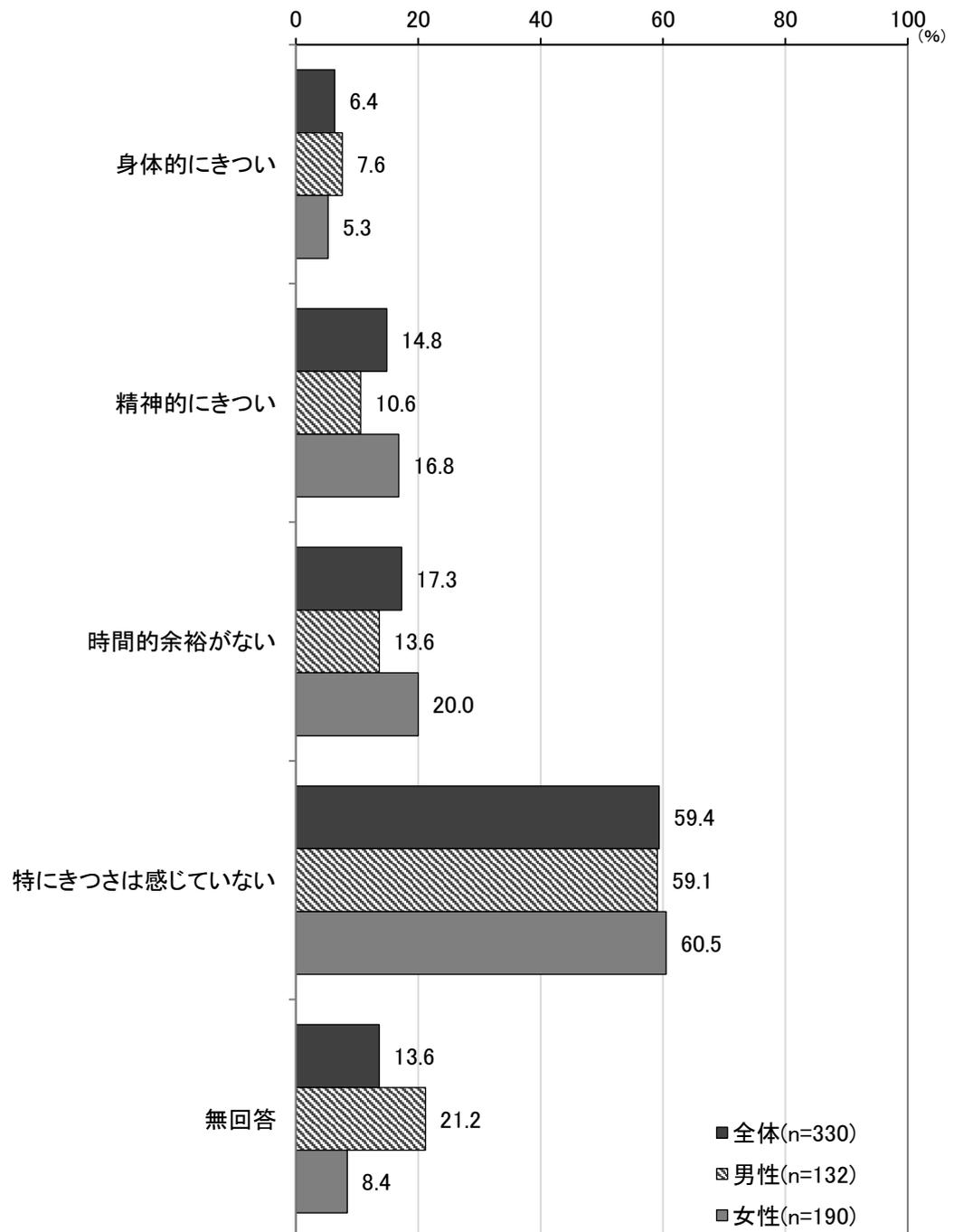


問 13 お世話をすることにつさを感じていますか。(あてはまる番号すべてに○)

全体で見ると、「特にきつさは感じていない」が 59.4%と最も高く、次いで「時間的余裕がない」が 17.3%、「精神的にきつい」が 14.8%となっています。

性別で見ると、「時間的余裕がない」は男性 13.6%、女性 20.0%と、女性が 6.4 ポイント高く、「精神的にきつい」は男性 10.6%、女性 16.8%と、女性が 6.2 ポイント高くなっています。

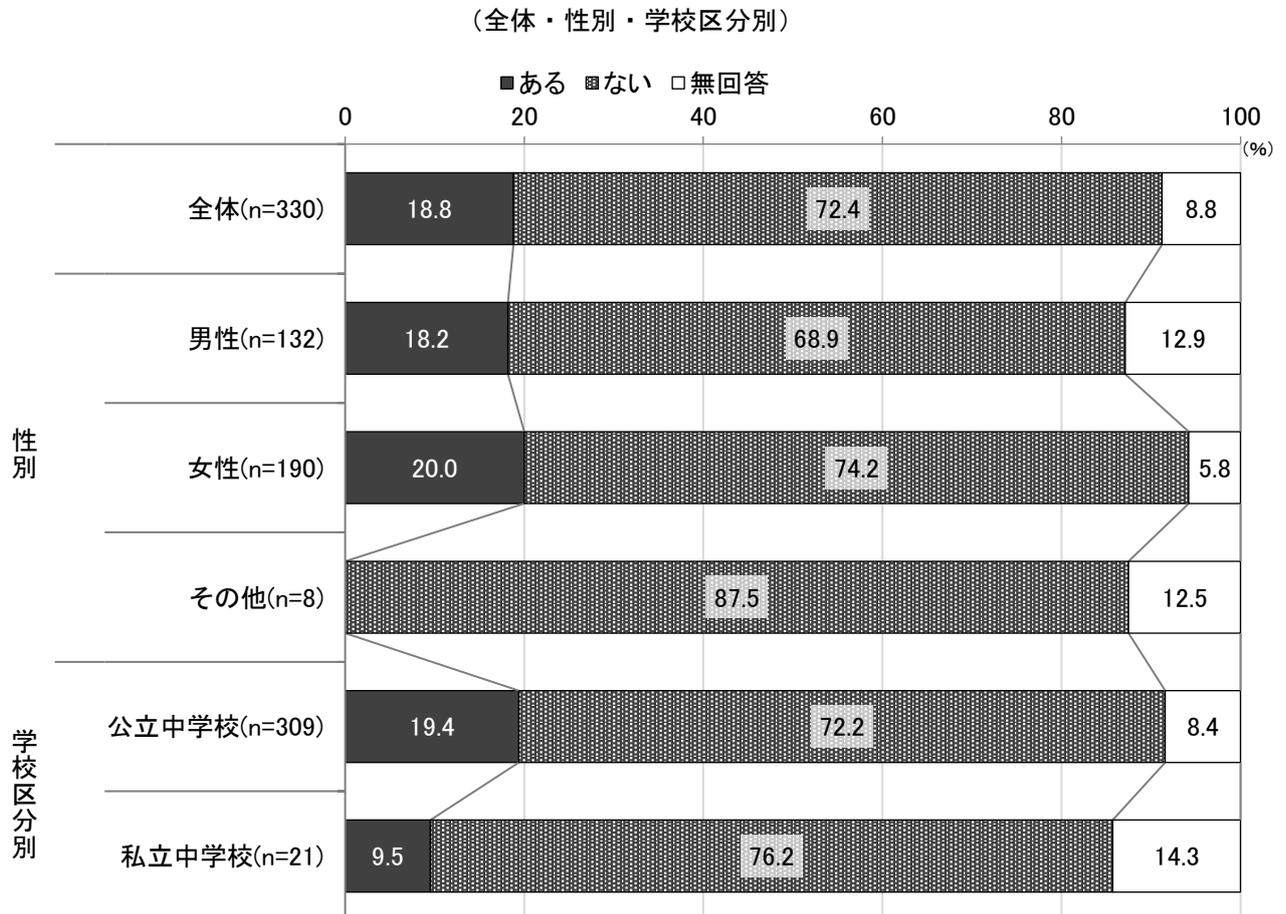
(全体・性別)



問 14 お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを誰かに相談したことはありますか。(あてはまる番号 1 つに○)

全体でみると、「ある」は 18.8%、「ない」は 72.4%となっています。

性別でみると、「ある」は男性 18.2%、女性 20.0%と、女性が 1.8 ポイント高くなっています。

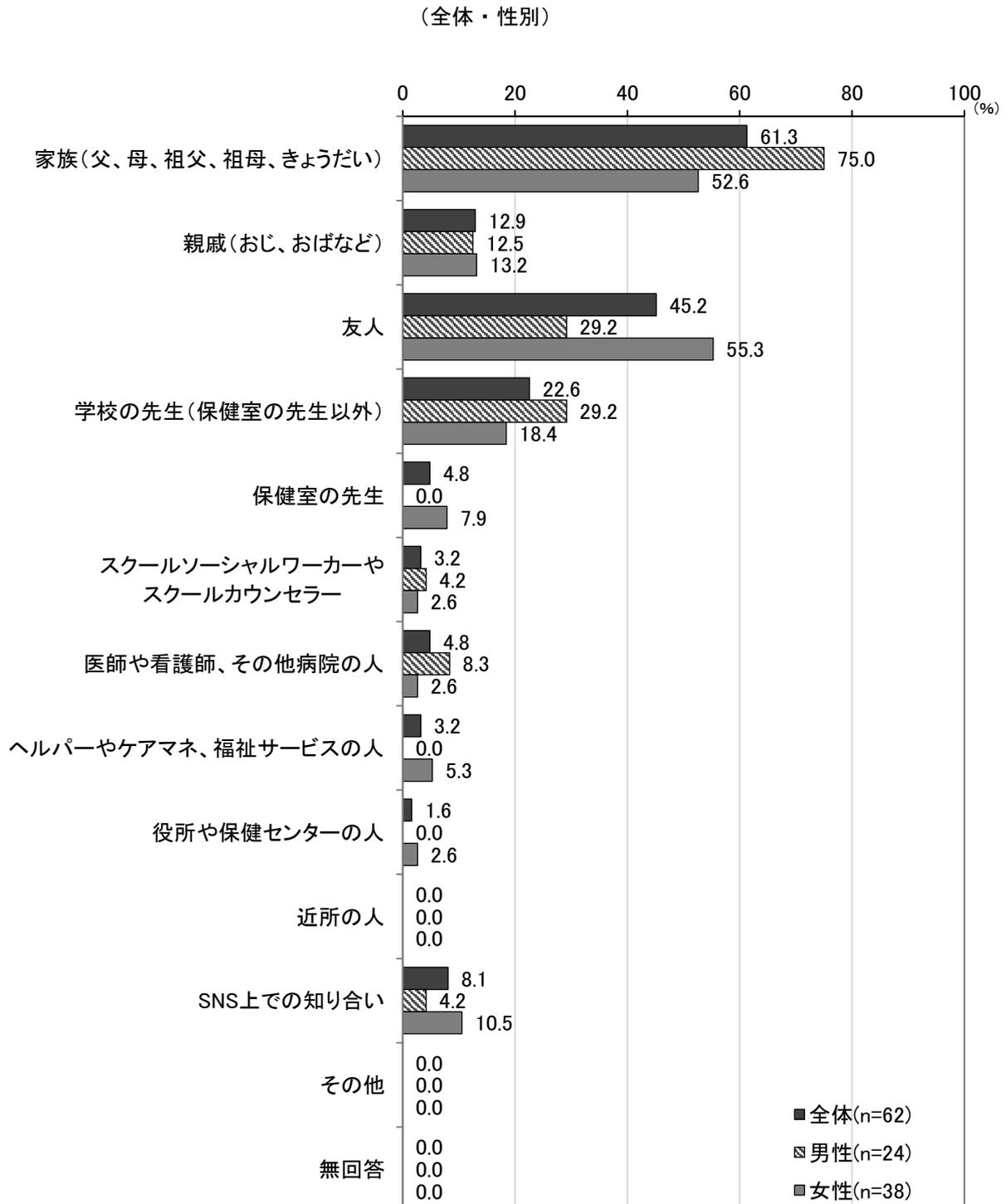


問 15 問 14で「1. ある」と回答した方にお聞きします。それは誰ですか。

(あてはまる番号すべてに○)

全体でみると、「家族（父、母、祖父、祖母、きょうだい）」が61.3%と最も高く、次いで「友人」の45.2%、「学校の先生（保健室の先生以外）」の22.6%となっています。

性別でみると、「友人」は男性29.2%、女性55.3%と、女性が26.1ポイント高く、「家族（父、母、祖父、祖母、きょうだい）」は男性75.0%、女性52.6%と、男性が22.4ポイント高くなっています。

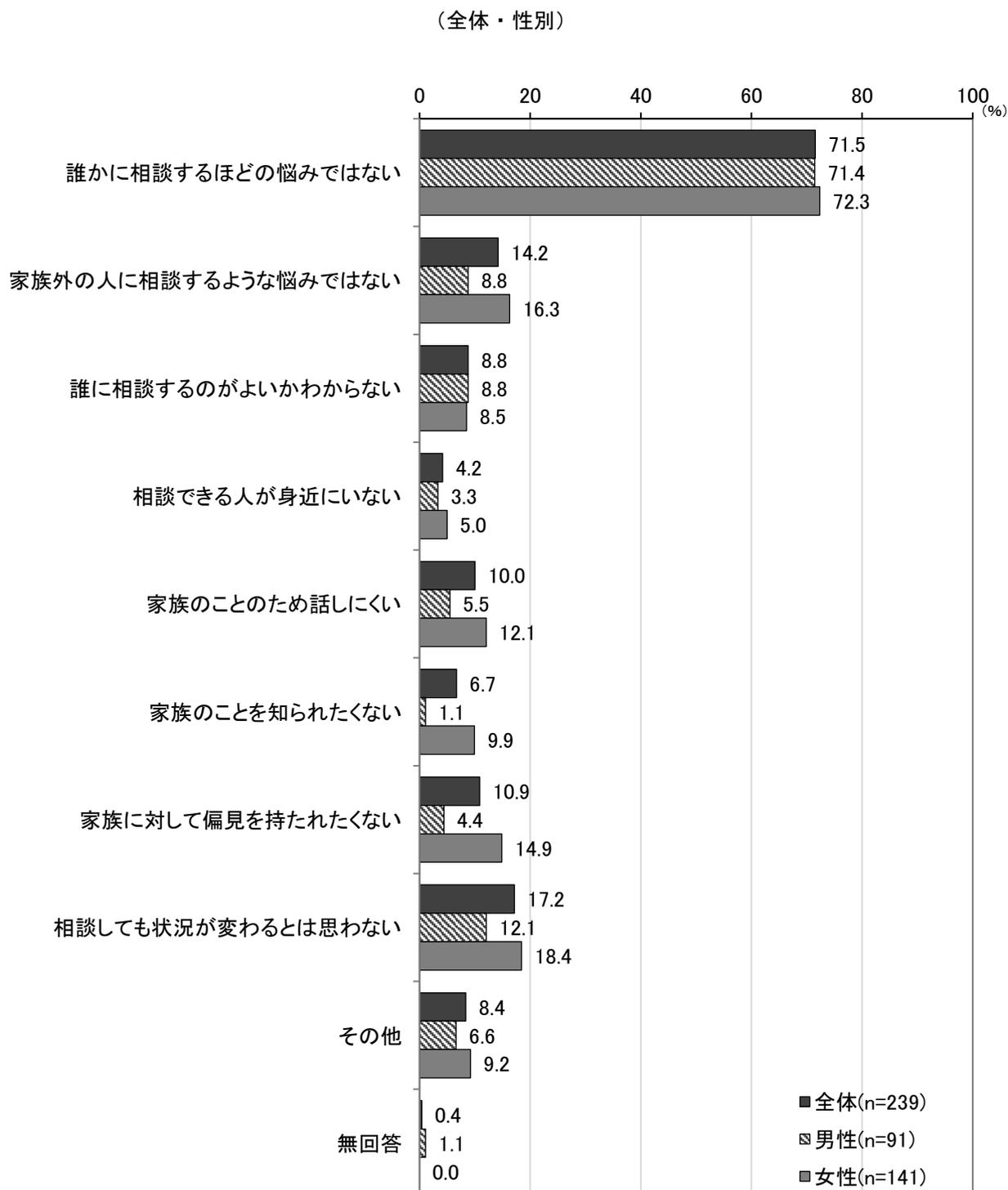


問 16 問 14で「2. ない」と回答した方にお聞きします。

相談していない理由を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

全体でみると、「誰かに相談するほどの悩みではない」が71.5%と最も高く、次いで「相談しても状況が変わるとは思わない」が17.2%、「家族外の人に相談するような悩みではない」が14.2%となっています。

性別でみると、「家族に対して偏見を持たれたくない」は、男性4.4%、女性14.9%と、女性が10.5ポイント高くなっています。



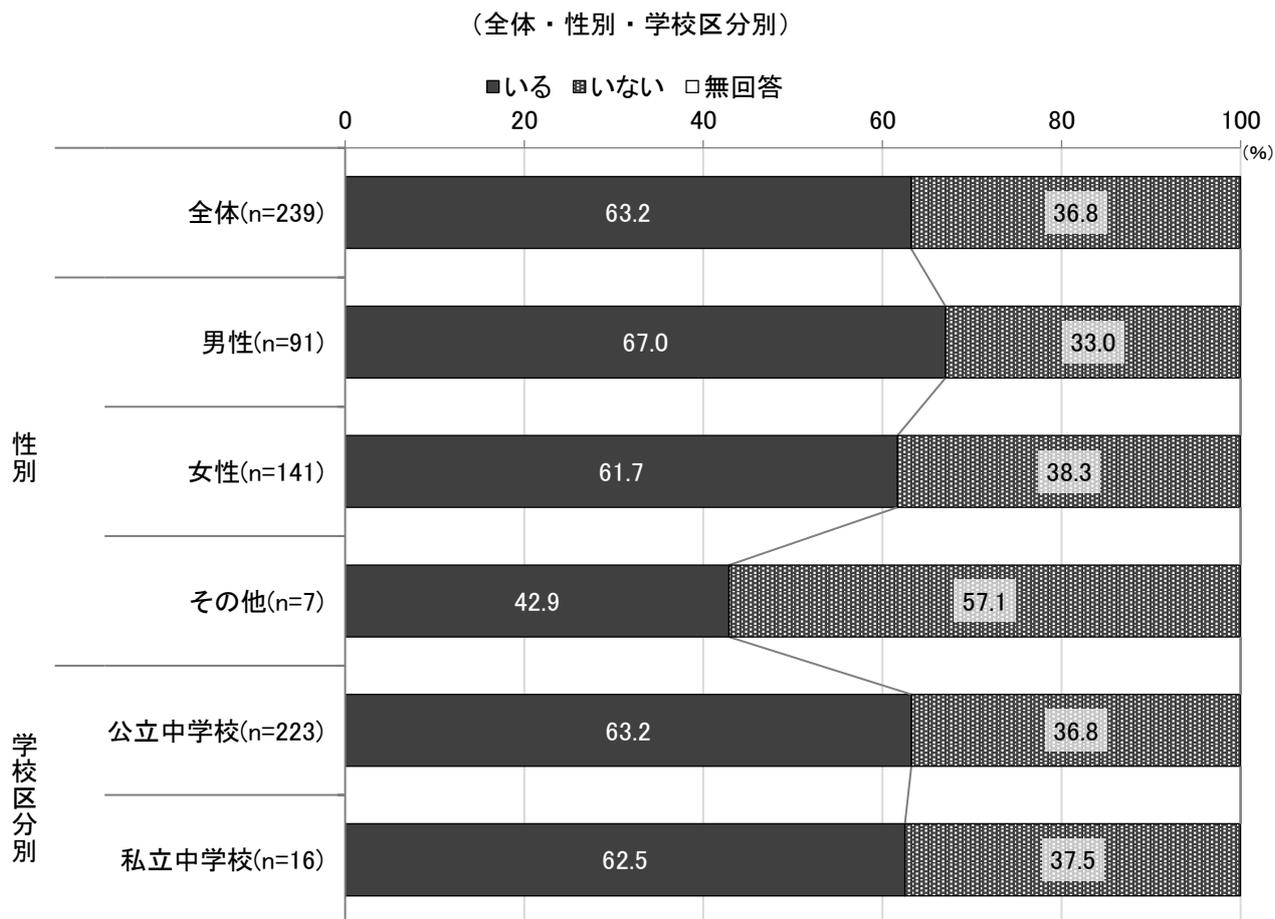
問 17 問 14で「2. ない」と回答した方にお聞きします。

お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを聞いてくれる人はいますか。

(あてはまる番号 1 つに○)

全体でみると、「いる」は63.2%、「いない」は36.8%となっています。

性別でみると、「いない」は男性33.0%、女性38.3%と、女性が5.3ポイント高くなっています。

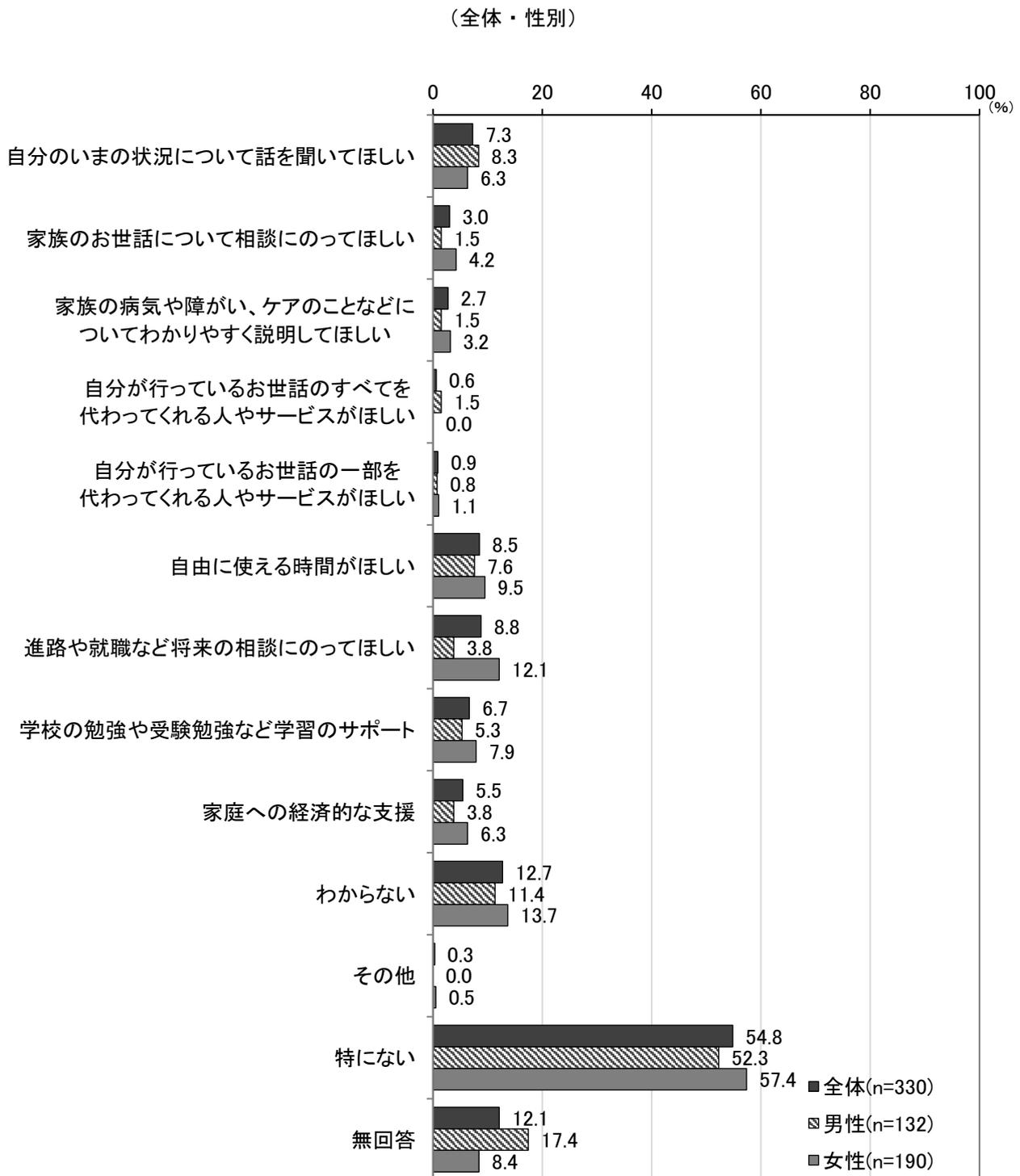


問 18 学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援はありますか。

(あてはまる番号すべてに○)

全体で見ると、「特にない」が54.8%と最も高く、次いで「わからない」が12.7%、「進路や就職など将来の相談にのってほしい」が8.8%となっています。

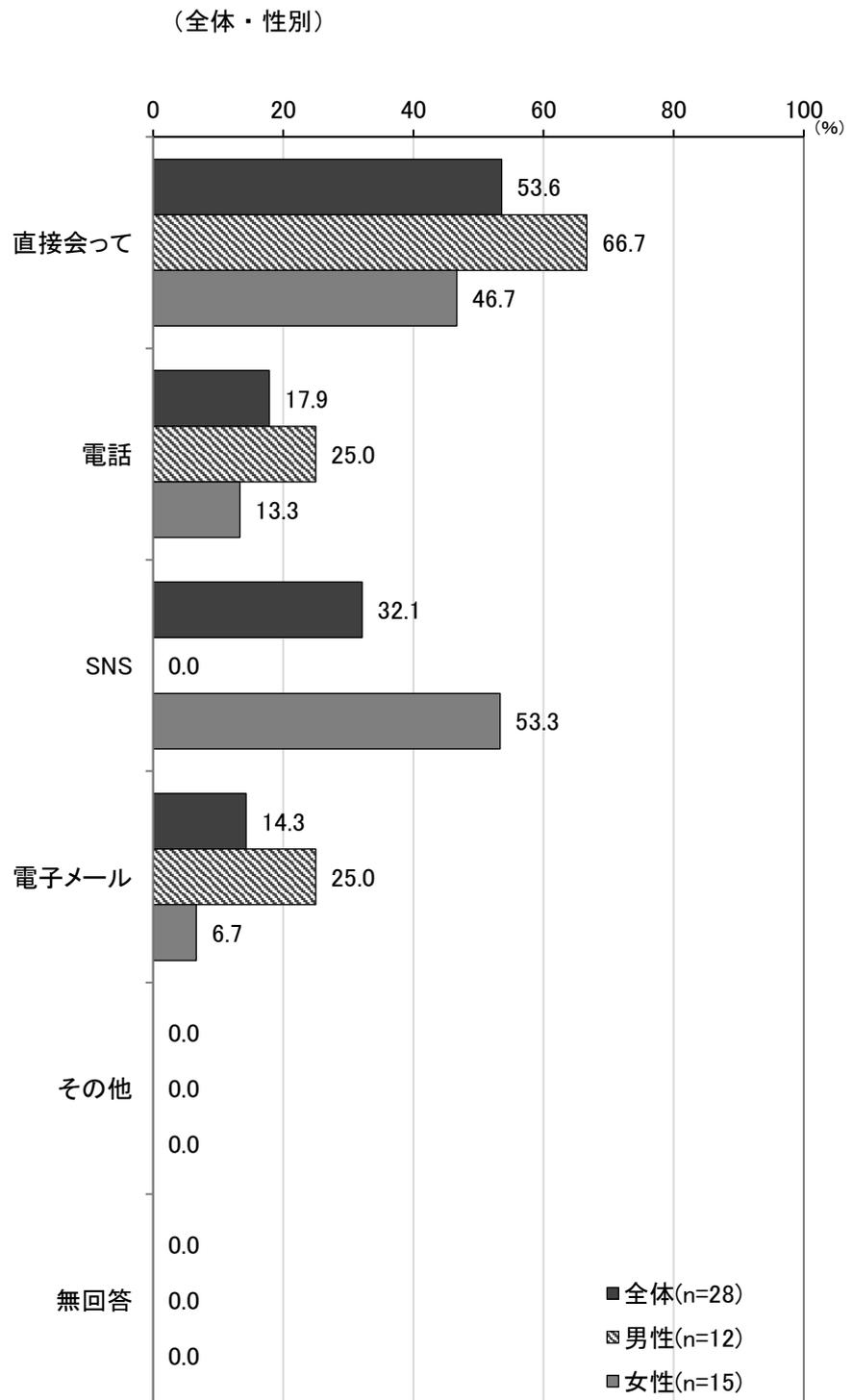
性別で見ると、「進路や就職など将来の相談にのってほしい」は、男性3.8%、女性12.1%と、女性が8.3ポイント高くなっています。



問 19 問 18 で「1. 自分のいまの状況について話を聞いてほしい」「2. 家族のお世話について相談にのってほしい」と回答した方にお聞きします。どのような方法で話を聞いて欲しいですか。(あてはまる番号すべてに○)

全体で見ると、「直接会って」が 53.6%と最も高く、次いで「SNS」が 32.1%、「電話」が 17.9% となっています。

性別で見ると、「SNS」は男性の 0.0%に対し、女性は 53.3%となっています。

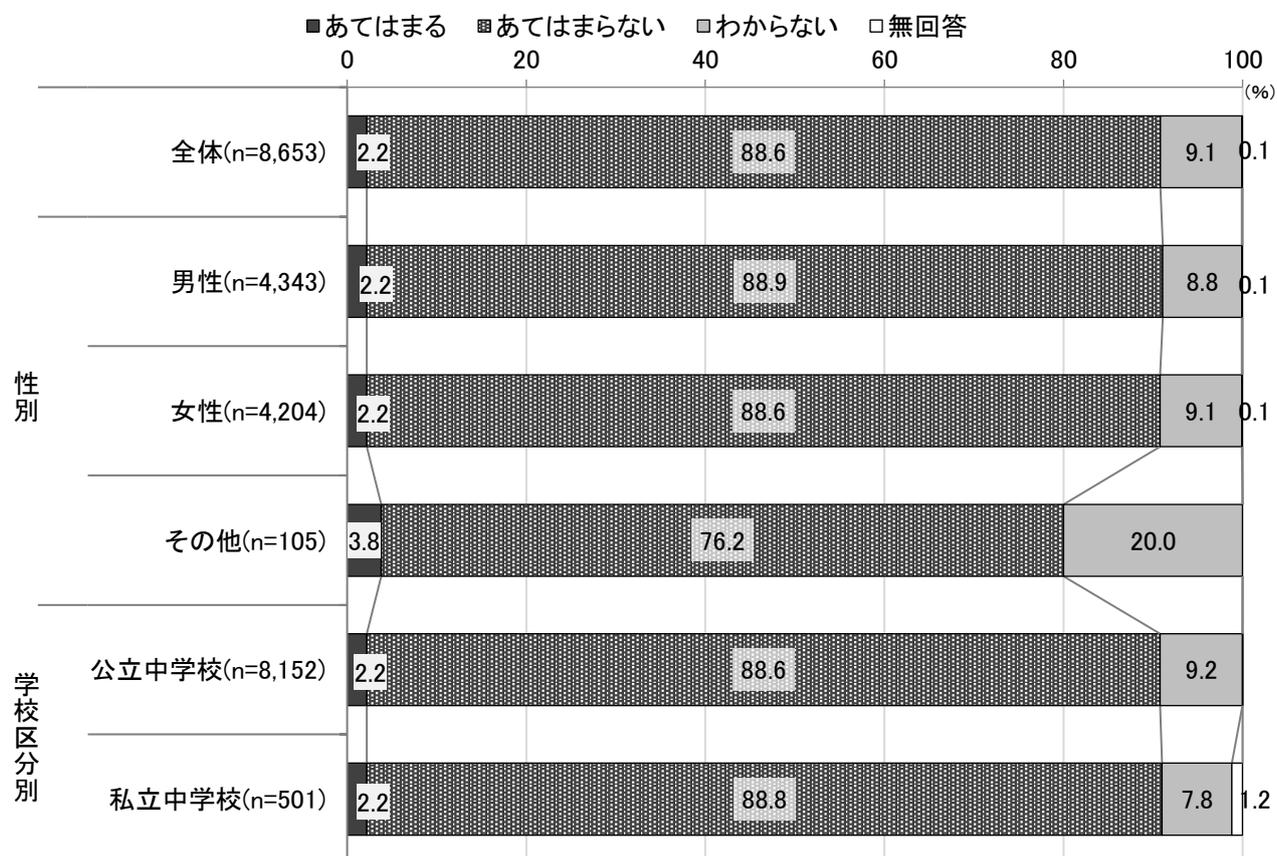


問 20 あなた自身は「ヤングケアラー」にあてはまると感じますか。(あてはまる番号1つに○)

全体で見ると、「あてはまる」は 2.2%、「あてはまらない」は 88.6%、「わからない」は 9.1% となっています。

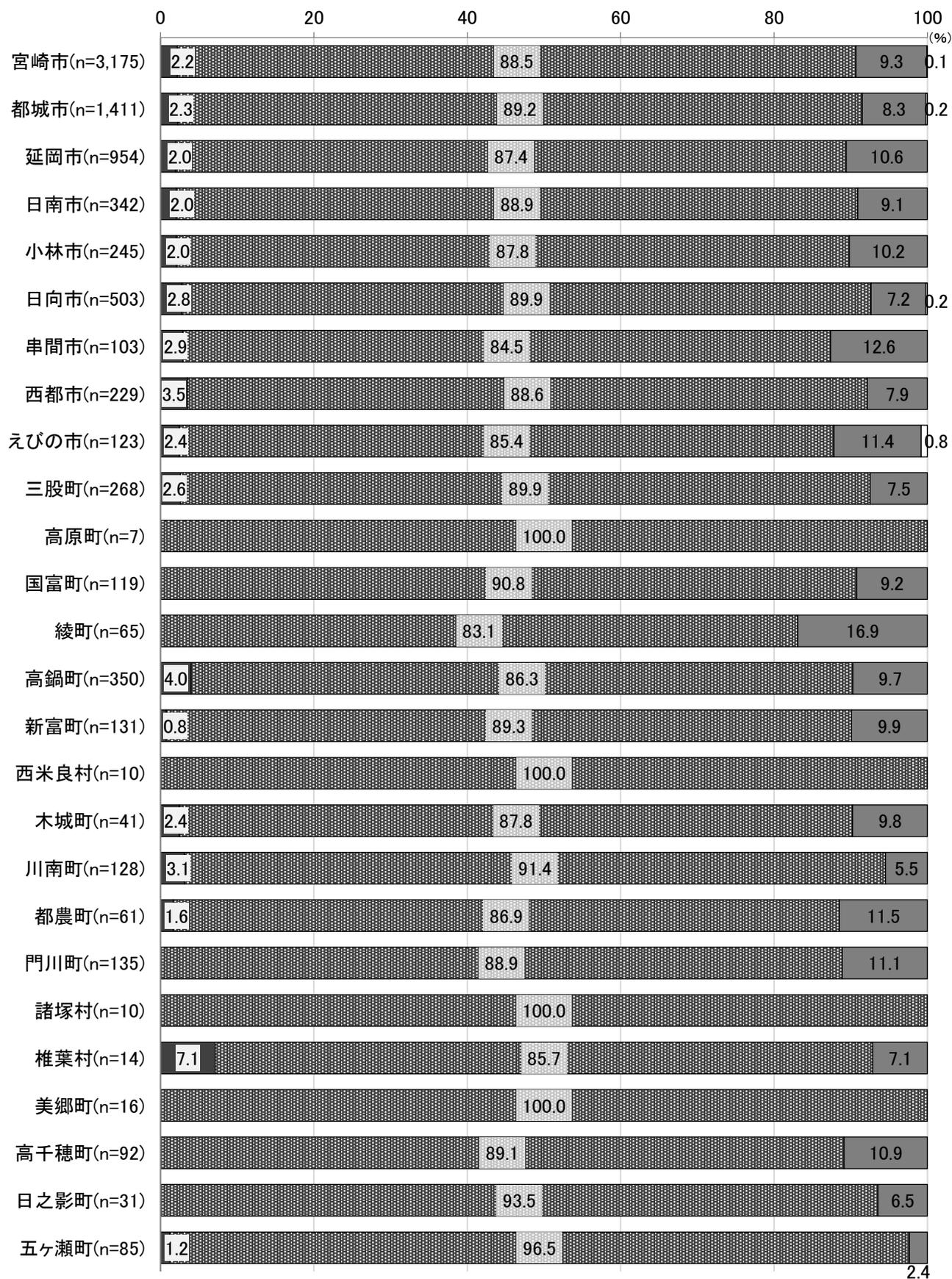
性別では、大きな差異はみられません。

(全体・性別・学校区分別)



(市町村別)

■あてはまる ■あてはまらない ■わからない □無回答



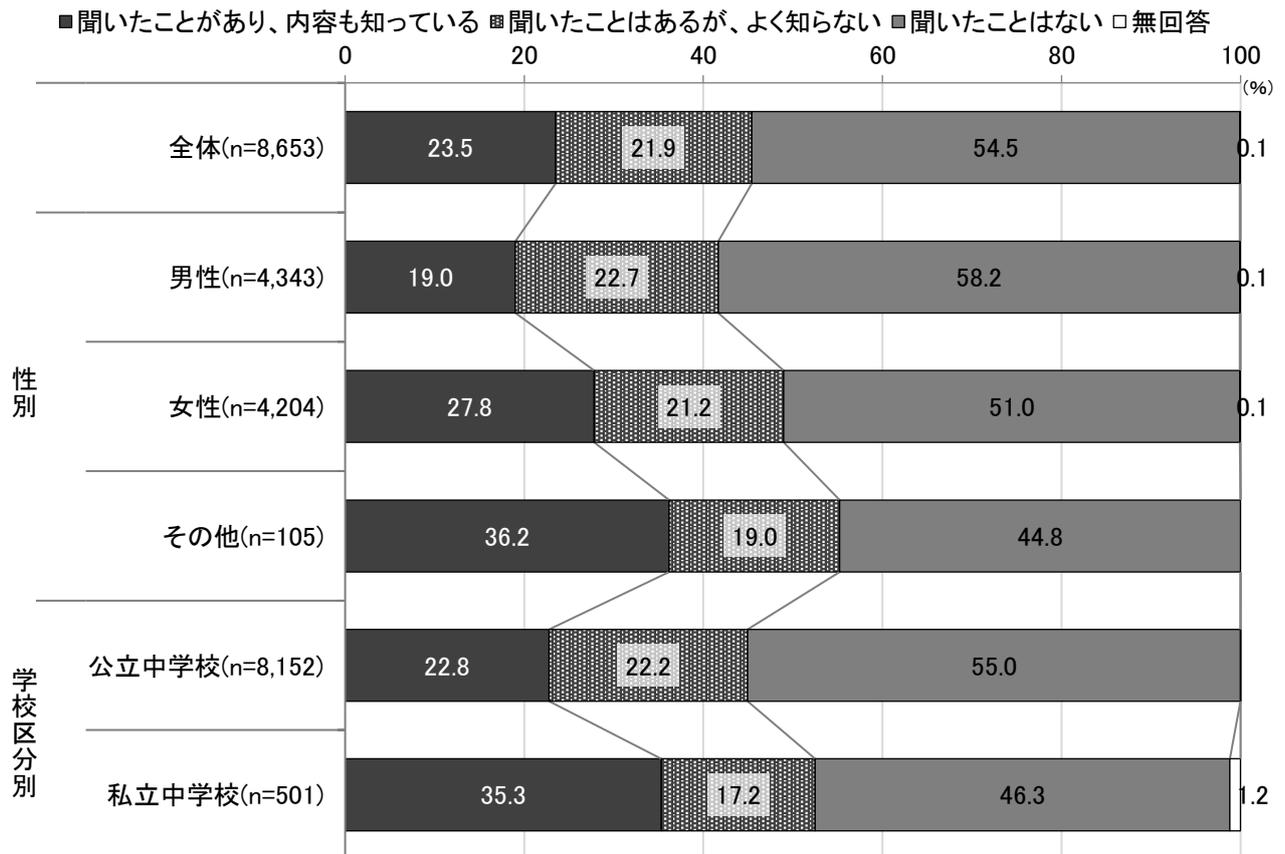
問 21 「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありましたか。

(あてはまる番号1つに○)

全体で見ると、「聞いたことがあります、内容も知っている」が23.5%、「聞いたことはあるが、よく知らない」が21.9%、「聞いたことはない」が54.5%となっています。

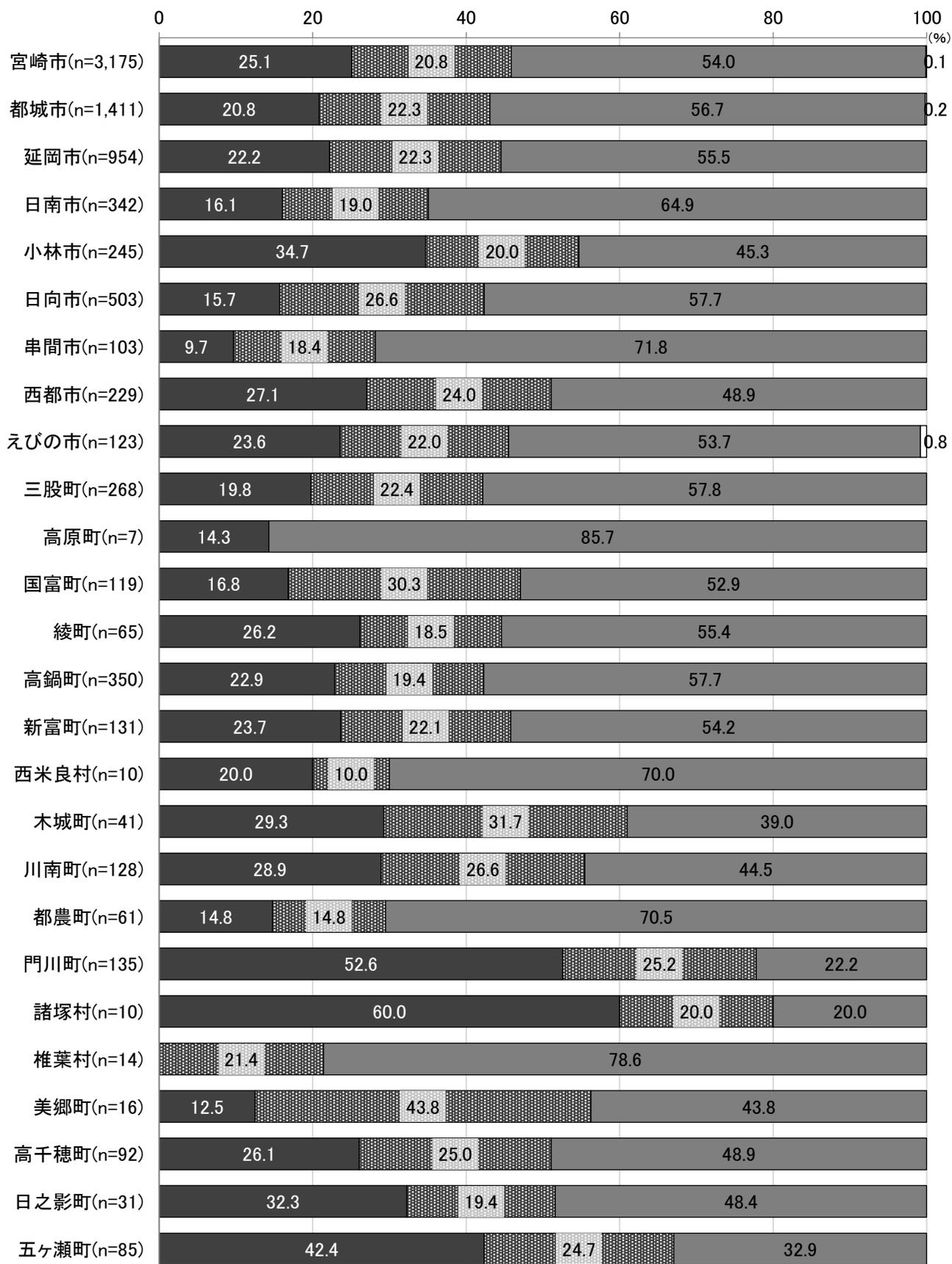
性別で見ると、「聞いたことがあります、内容も知っている」は、男性19.0%、女性27.8%と、女性が8.8ポイント高くなっています。

(全体・性別・学校区分別)



(市町村別)

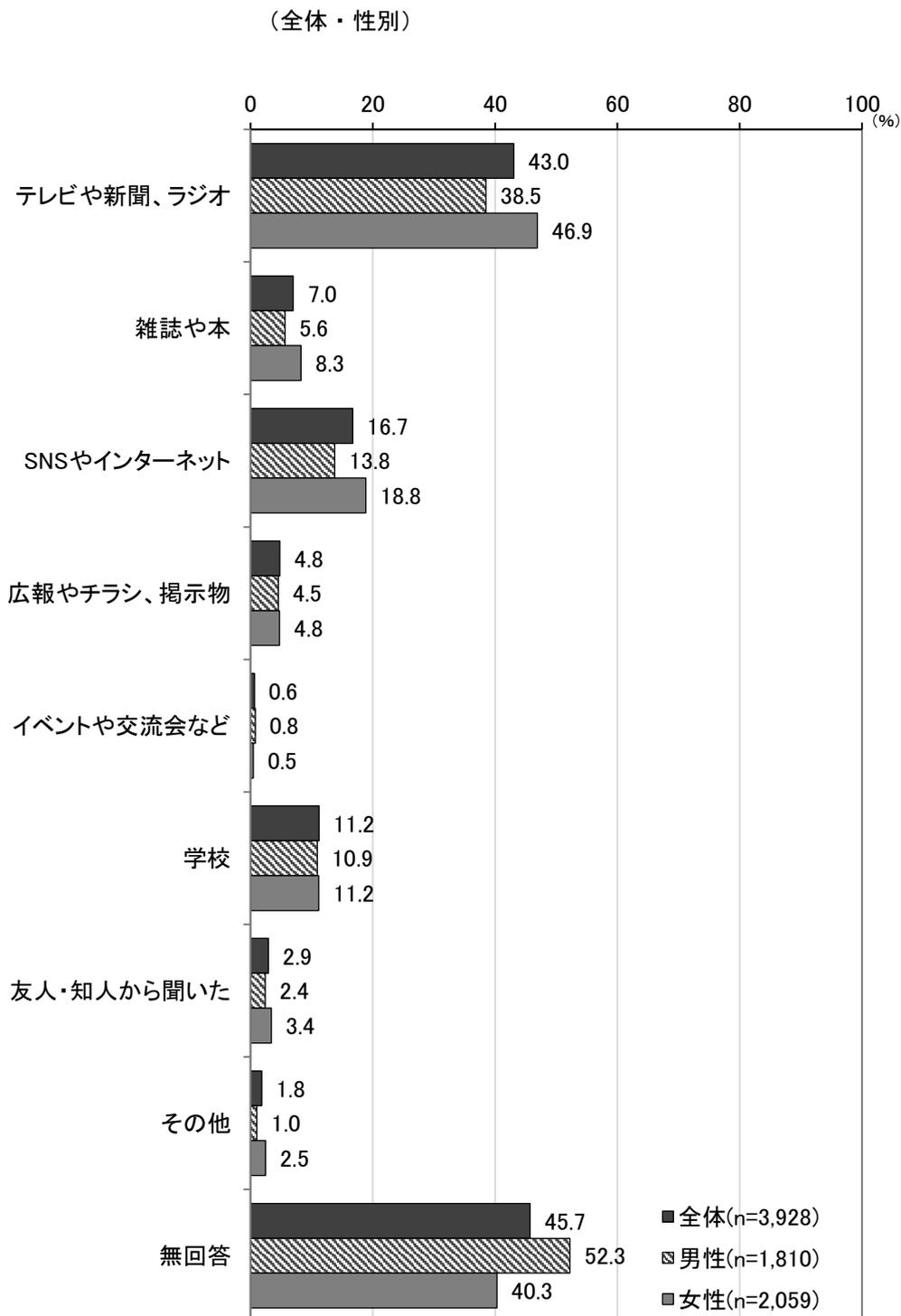
■聞いたことがあり、内容も知っている ■聞いたことはあるが、よく知らない ■聞いたことはない □無回答



問 22 問 21 で「1. 聞いたことがあり、内容も知っている」「2. 聞いたことはあるが、よく知らない」と回答した方にお聞きします。「ヤングケアラー」という言葉をどこで知りましたか。(あてはまる番号すべてに○)

全体で見ると、「テレビや新聞、ラジオ」が 43.0%と最も高く、次いで「SNS やインターネット」が 16.7%、「学校」が 11.2%となっています。

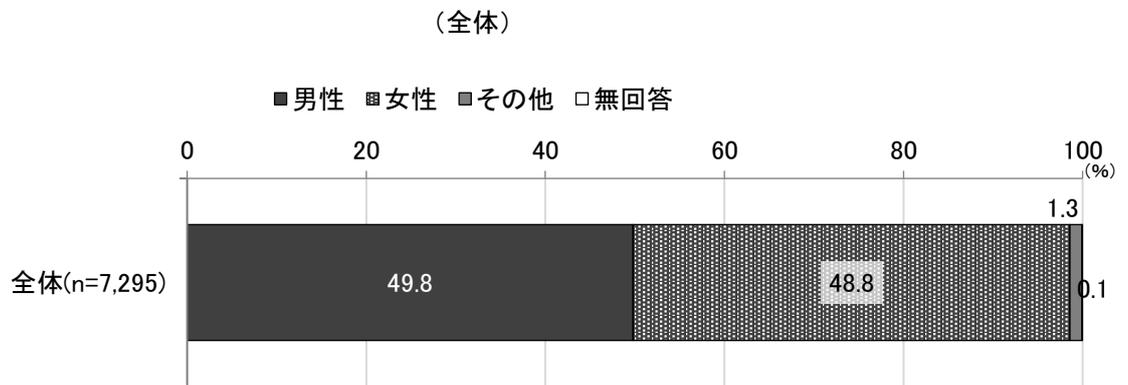
性別で見ると、「テレビや新聞、ラジオ」は、男性 38.5%、女性 46.9%と、女性が 8.4 ポイント高くなっています。



2. 調査結果（高校生）

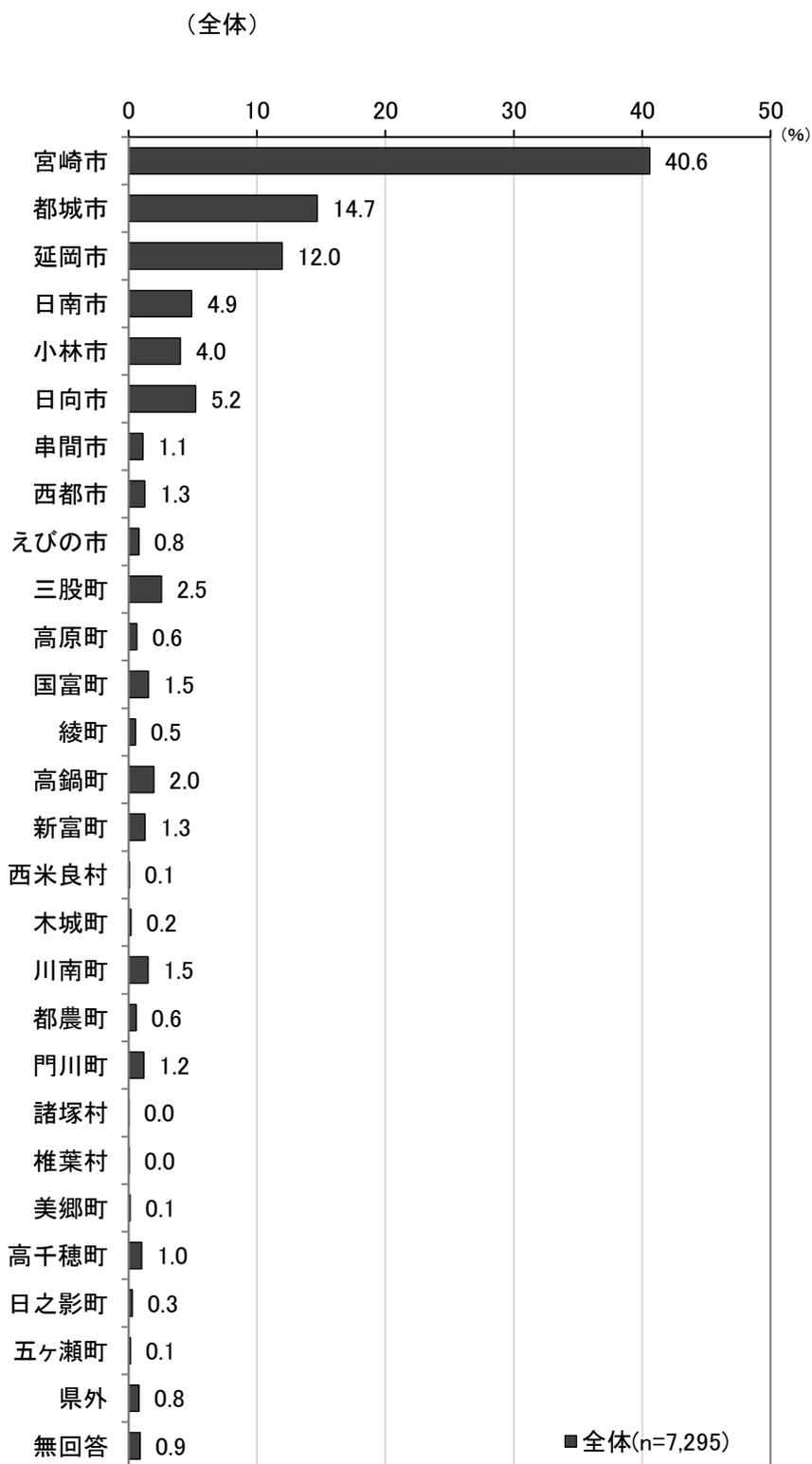
問 1 あなたの性別を教えてください。（あてはまる番号1つに○）

全体でみると、「男性」が49.8%、「女性」が48.8%、「その他」が1.3%となっています。



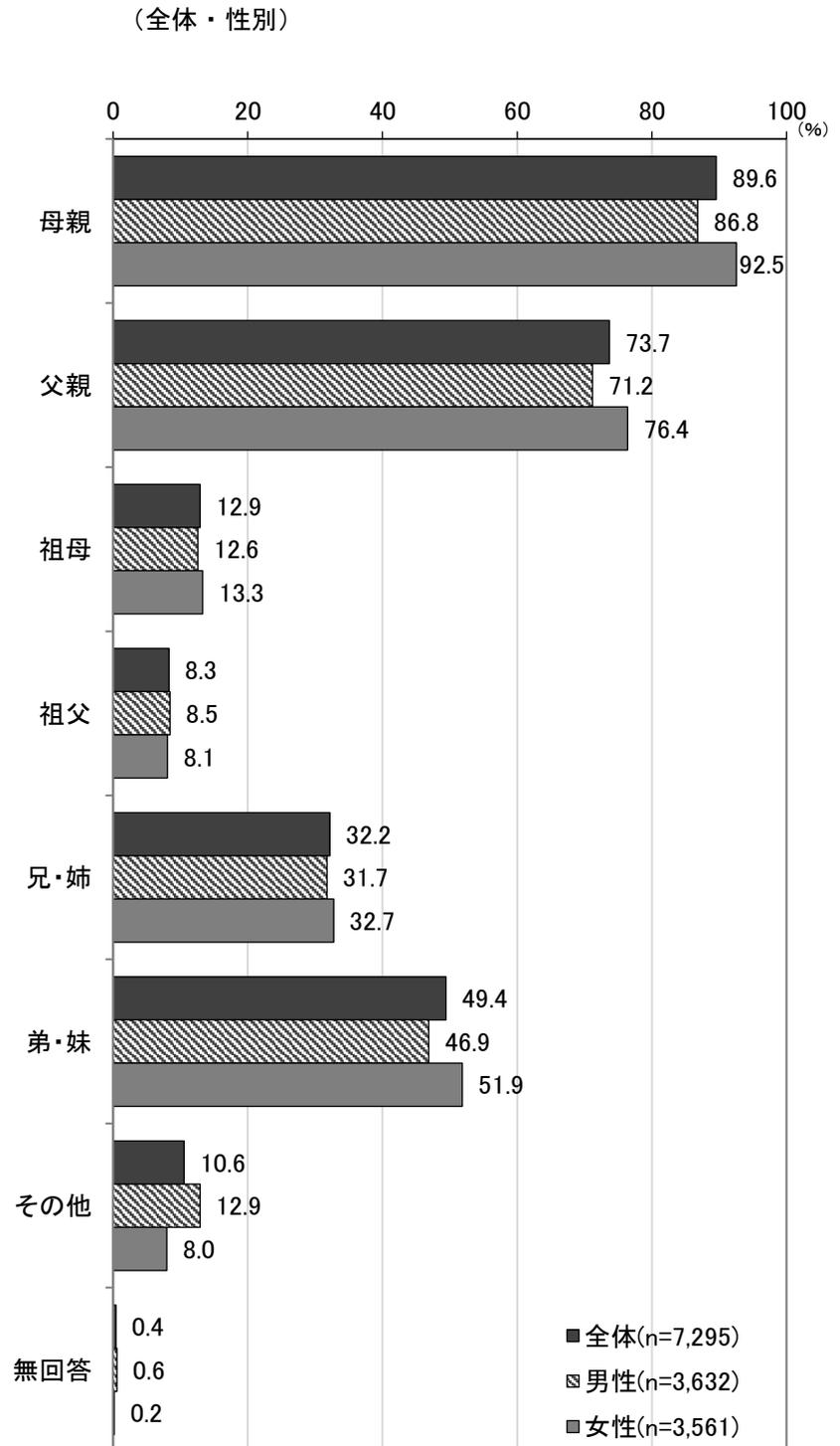
問2 現在住んでいる市町村を教えてください。

全体で見ると、「宮崎市」が40.6%と最も高く、次いで「都城市」が14.7%、「延岡市」が12.0%となっています。



問3 一緒に住んでいる家族について教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

全体で見ると、「母親」が89.6%と最も高く、次いで「父親」が73.7%、「弟・妹」が49.4%、「兄・姉」が32.2%となっています。

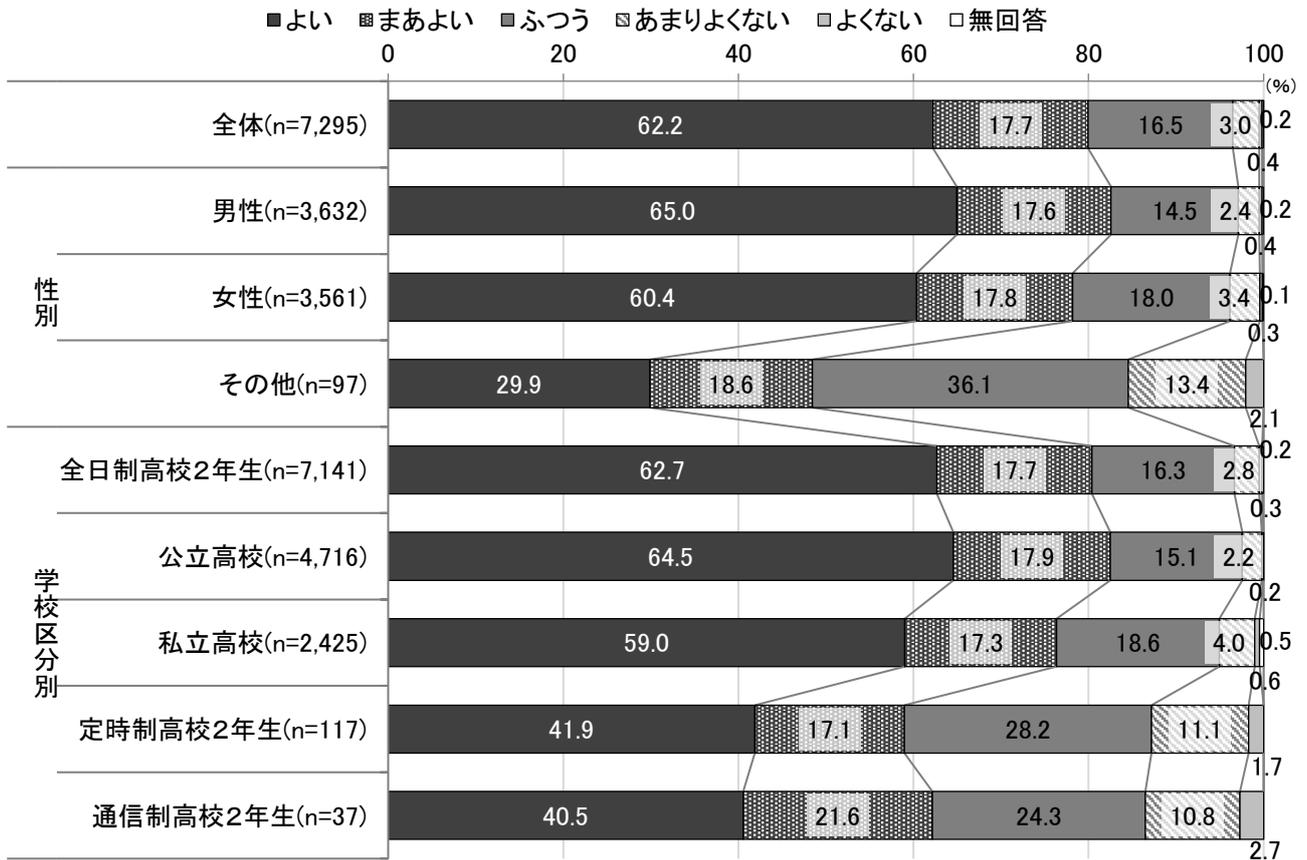


問 4 あなたの健康状態について教えてください。(あてはまる番号1つに○)

全体で見ると、「よい」が62.2%、「まあよい」が17.7%、「ふつう」が16.5%、「あまりよくない」が3.0%、「よくない」が0.4%となっています。

性別で見ると、「よい」は男性65.0%、女性60.4%と、男性が4.6ポイント高くなっています。

(全体・性別・学校区分別)



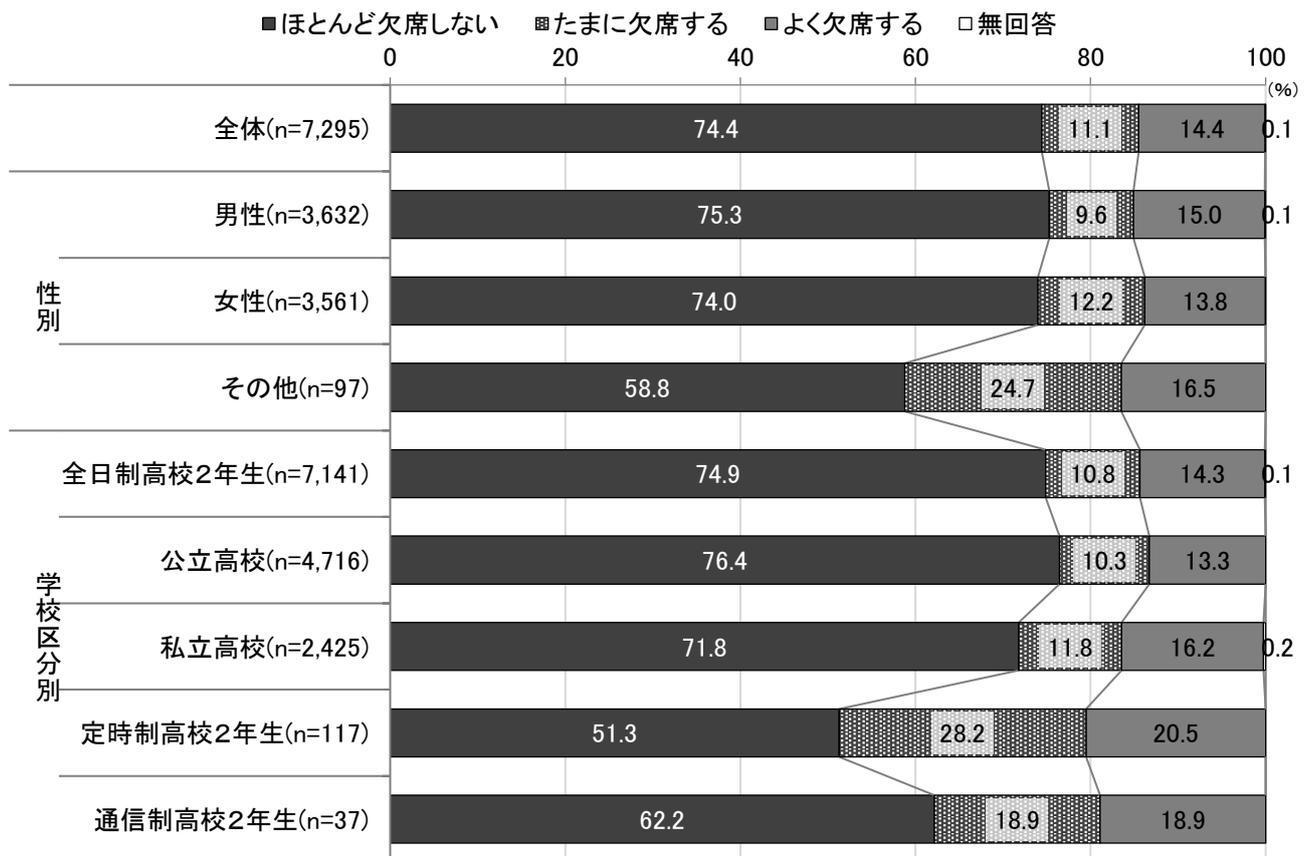
問5 学校への通学状況等について教えてください。(あてはまる番号1つに○)

① 出席状況

全体でみると、「ほとんど欠席しない」が74.4%、「たまに欠席する」が11.1%、「よく欠席する」が14.4%となっています。

性別でみると、「たまに欠席する」は男性9.6%、女性12.2%と、女性が2.6ポイント高くなっています。

(全体・性別・学校区分別)

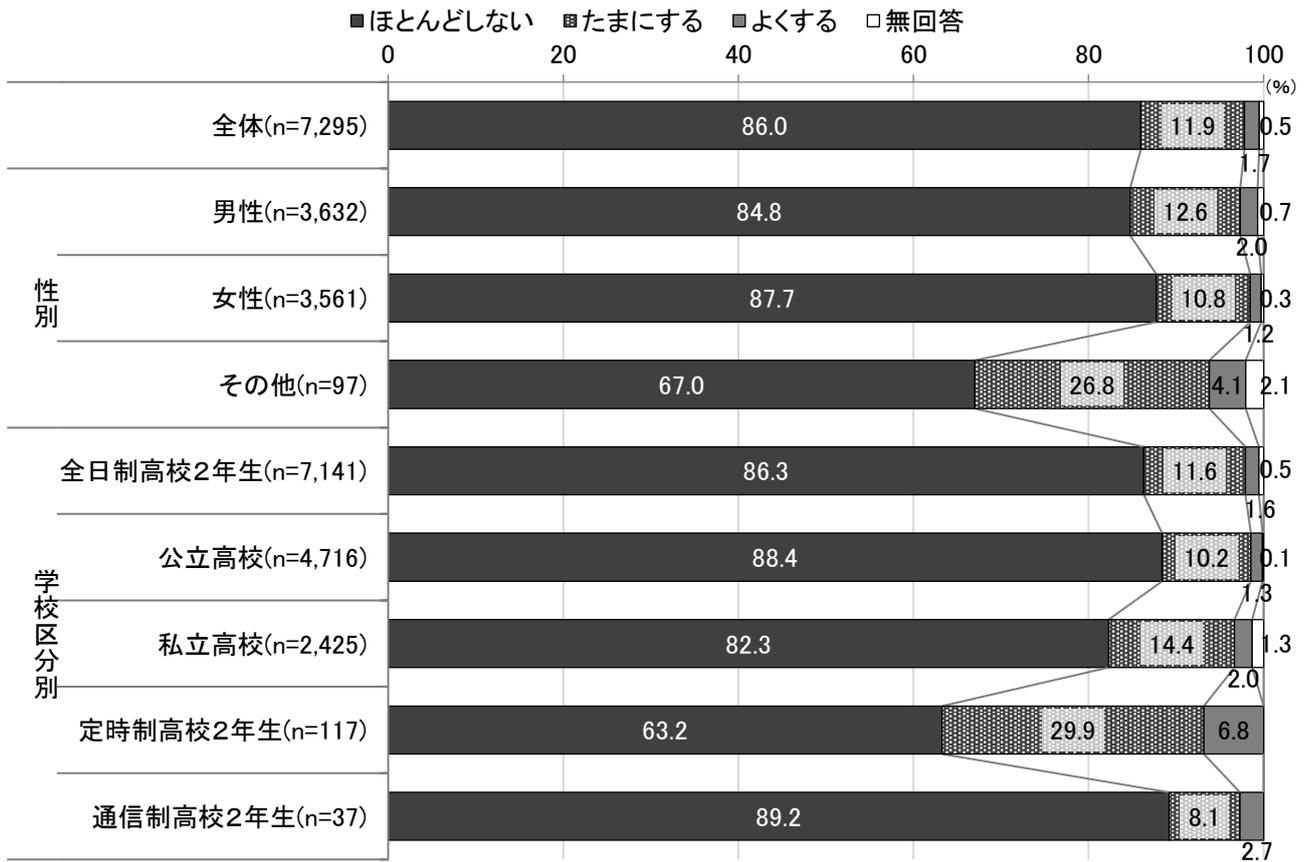


② 遅刻や早退の状況

全体で見ると、「ほとんどしない」が86.0%、「たまにする」が11.9%、「よくする」が1.7%となっています。

性別で見ると、「ほとんどしない」は男性84.8%、女性87.7%と、女性が2.9ポイント高くなっています。

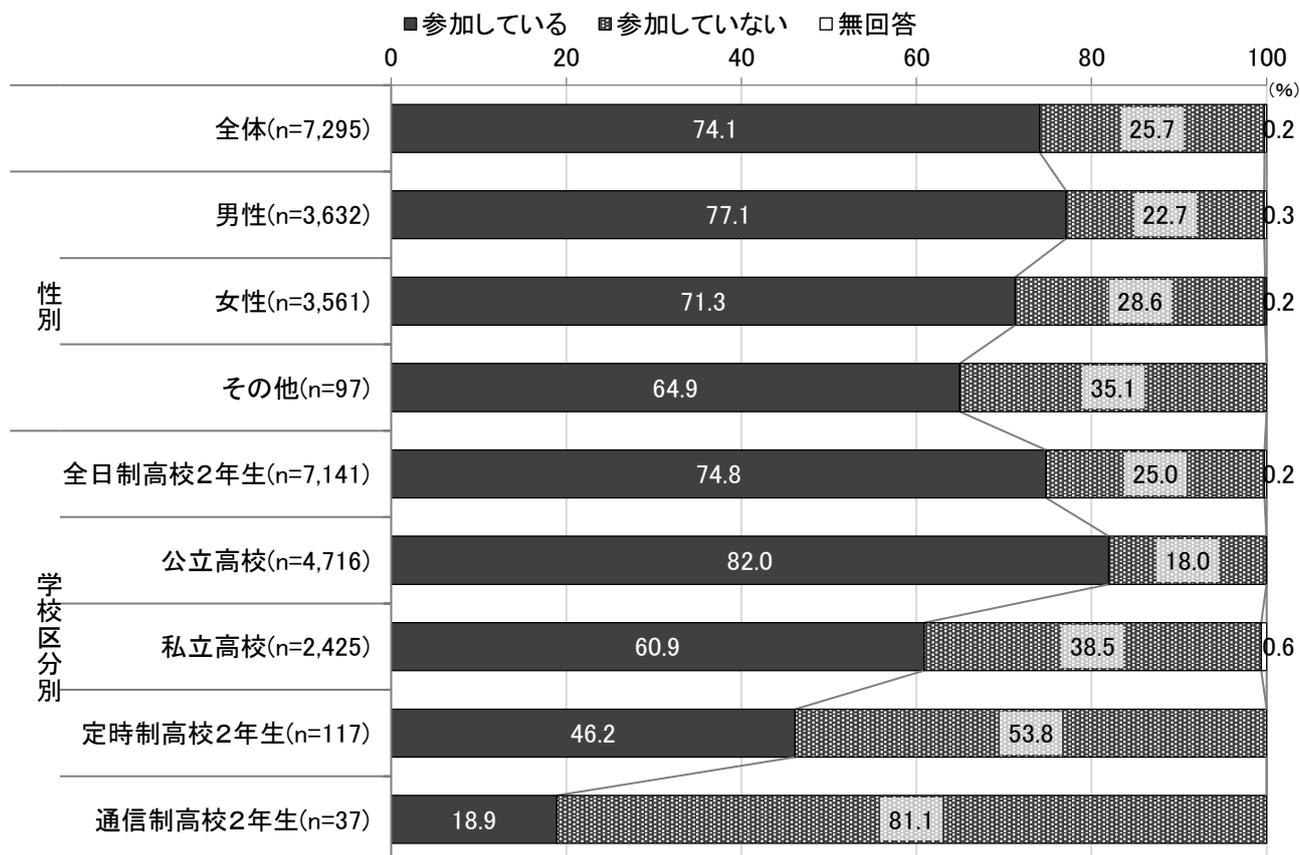
(全体・性別・学校区分別)



問6 部活動（学校外での活動を含む）に参加していますか。（あてはまる番号1つに○）

全体でみると、「参加している」が74.1%、「参加していない」が25.7%となっています。
性別でみると、「参加している」は男性77.1%、女性71.3%と、男性が5.8ポイント高くなっています。

（全体・性別・学校区分別）

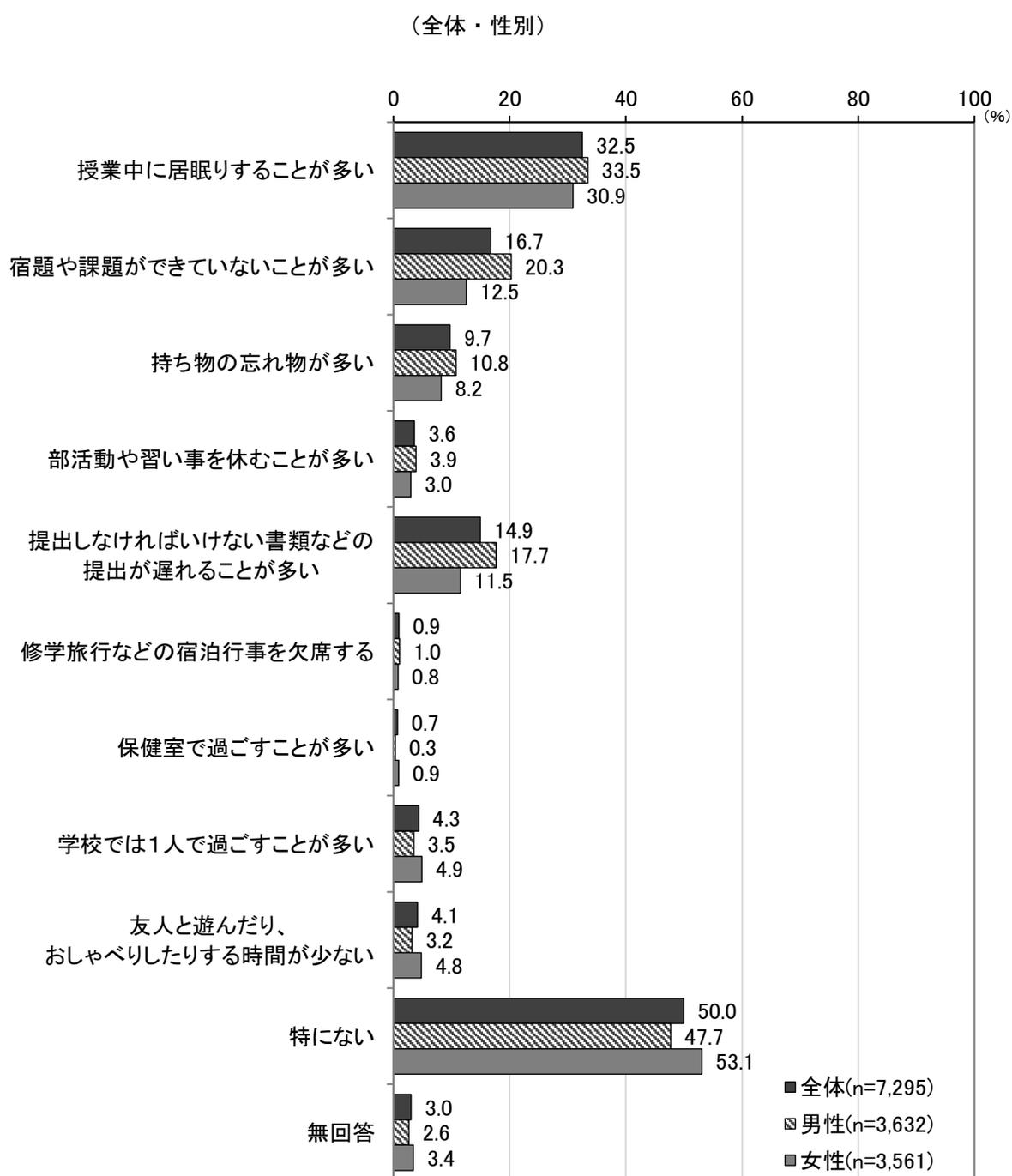


問7 ふだんの学校生活等において、以下の中であてはまるものはありますか

(あてはまる番号すべてに○)

全体でみると、「特にない」が50.0%と最も高く、次いで「授業中に居眠りすることが多い」が32.5%、「宿題や課題ができていないことが多い」が16.7%、「提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い」が14.9%となっています。

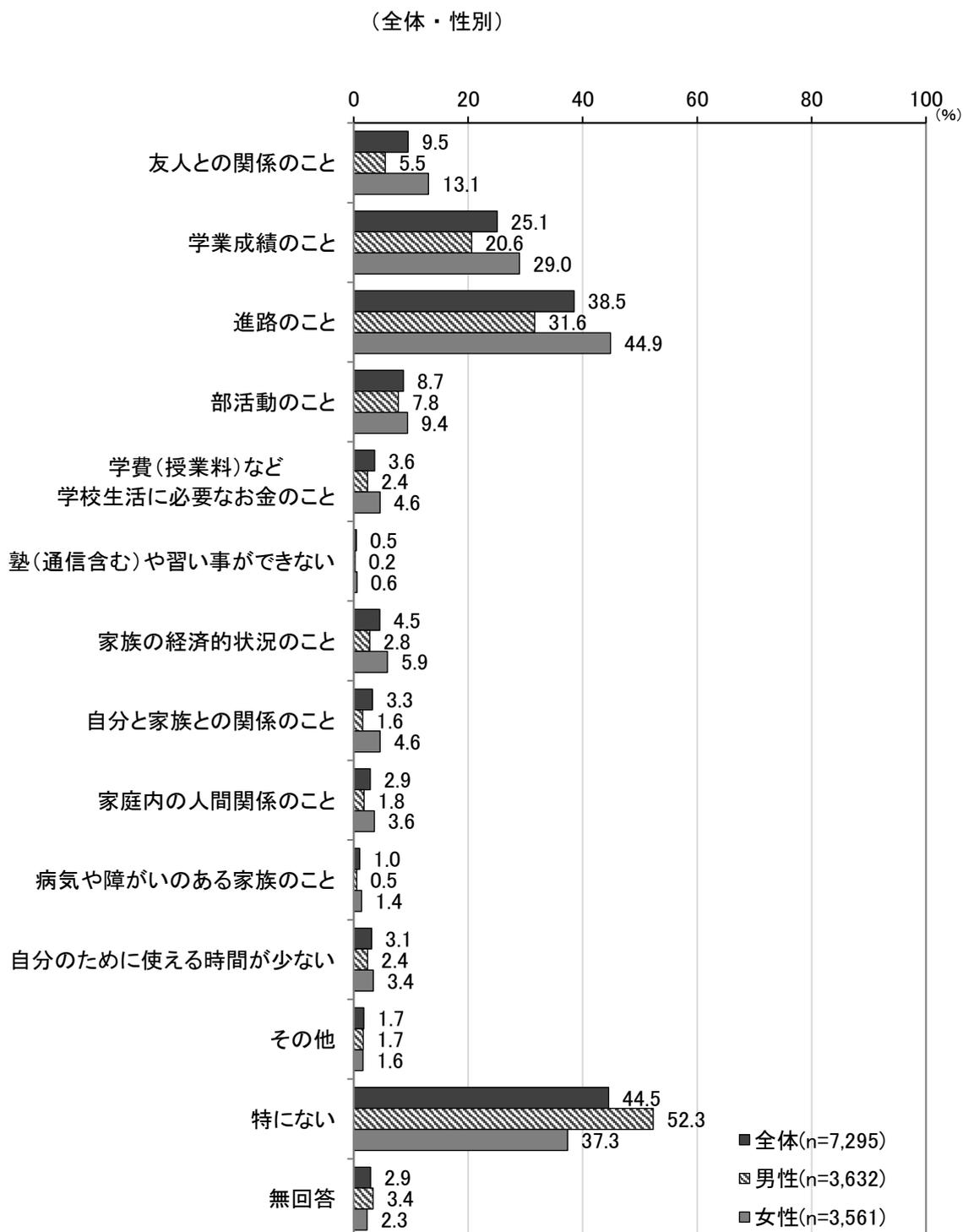
性別でみると、「宿題や課題ができていないことが多い」は男性20.3%、女性12.5%と、男性が7.8ポイント高くなっており、「提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い」は男性17.7%、女性11.5%と、男性が6.2ポイント高くなっています。



問8 現在、悩んだり困っていることはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

全体で見ると、「特にない」が44.5%と最も高く、次いで「進路のこと」が38.5%、「学業成績のこと」が25.1%、「友人との関係のこと」が9.5%となっています。

性別で見ると、「特にない」は男性52.3%、女性37.3%と、男性が15.0ポイント高くなっており、「進路のこと」は男性31.6%、女性44.9%と、女性が13.3ポイント高くなっていきます。

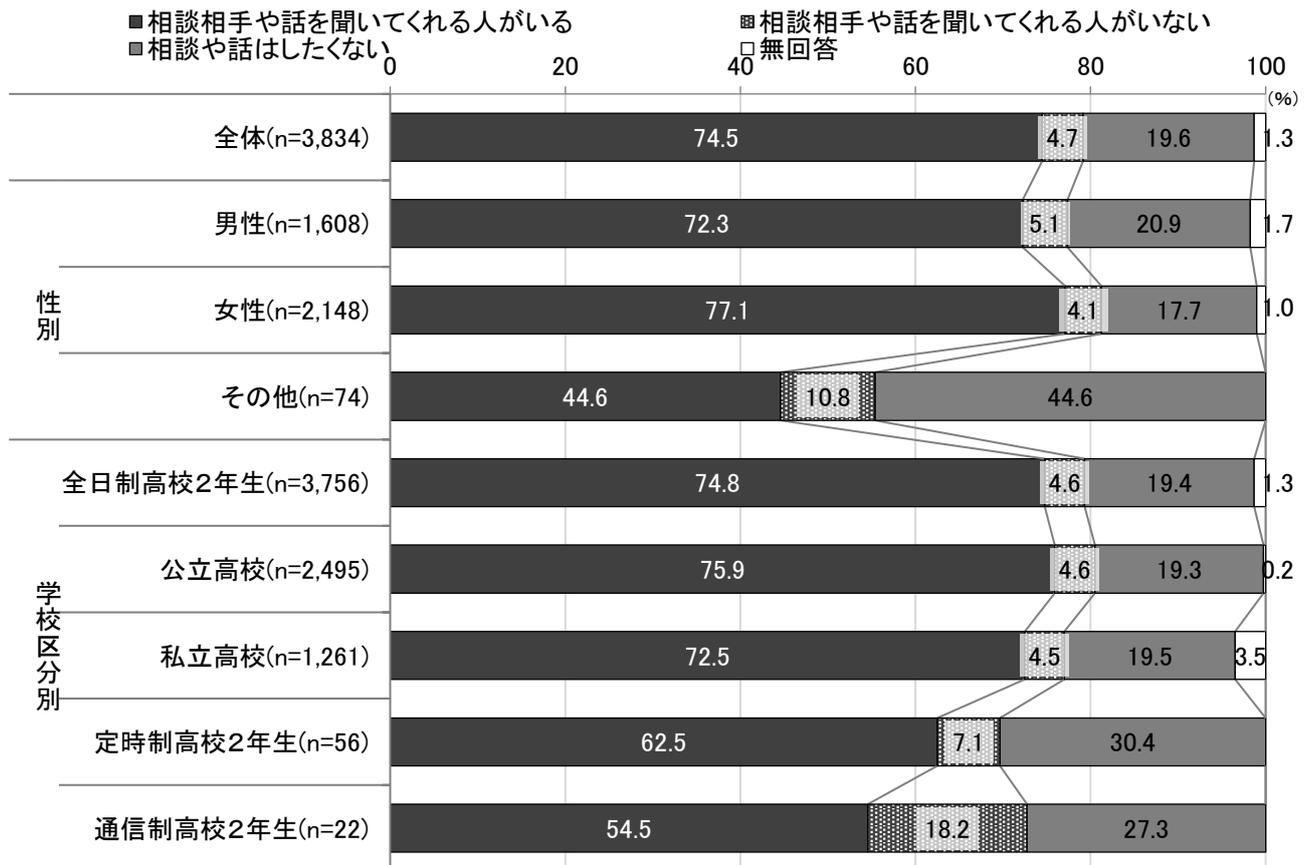


問9 問8で1~12のいずれかを回答した方にお聞きします。回答した悩みや困りごとについて、相談に乗ってくれたり、話を聞いてくれる人がいますか（あてはまる番号1つに○）

全体でみると、「相談相手や話を聞いてくれる人がいる」が74.5%、「相談や話はしたくない」が19.6%、「相談相手や話を聞いてくれる人がいない」が4.7%となっています。

性別でみると、「相談相手や話を聞いてくれる人がいる」は男性72.3%、女性77.1%と、女性が4.8ポイント高くなっています。

(全体・性別・学校区分別)

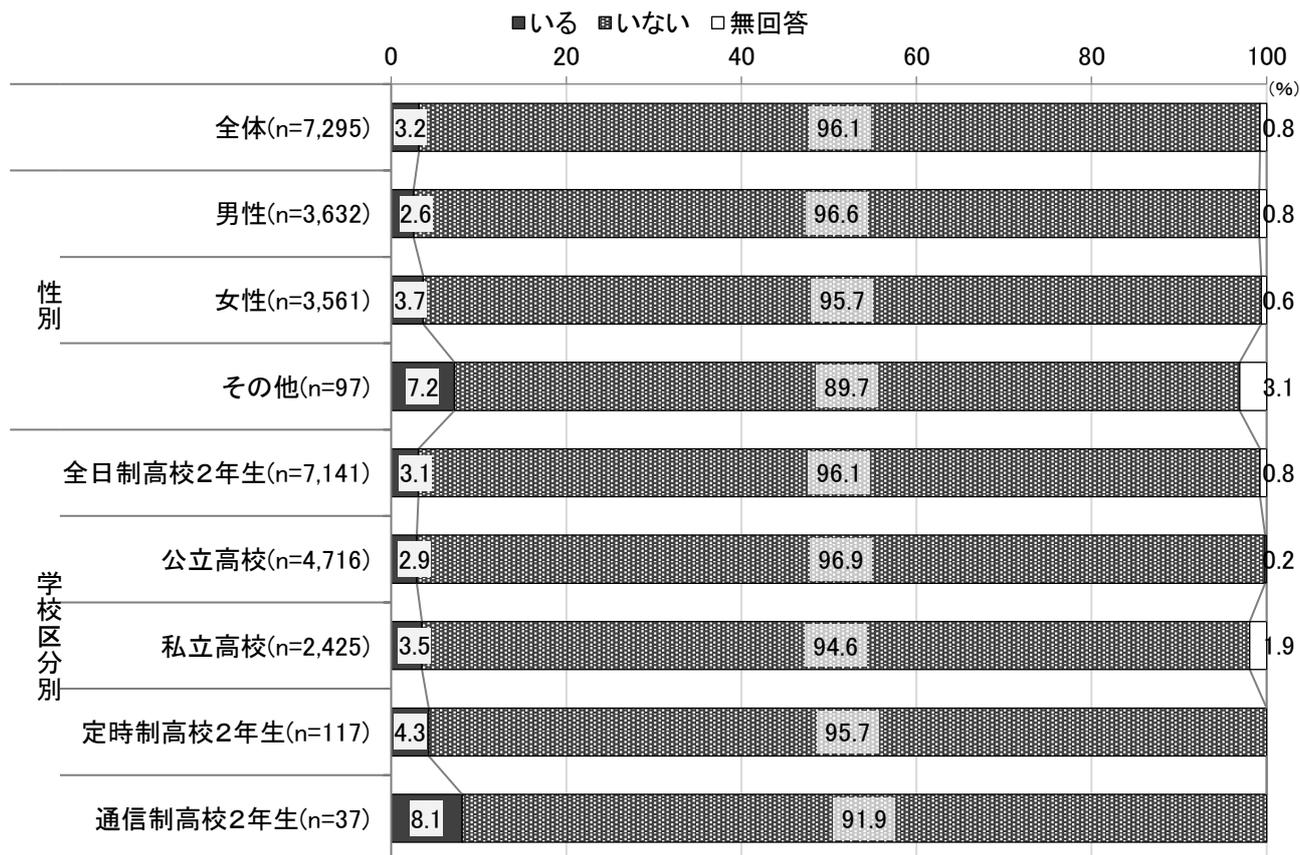


問 10 家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか。

(ここで「お世話」とは、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などをする
 ことです。)(あてはまる番号1つに○)

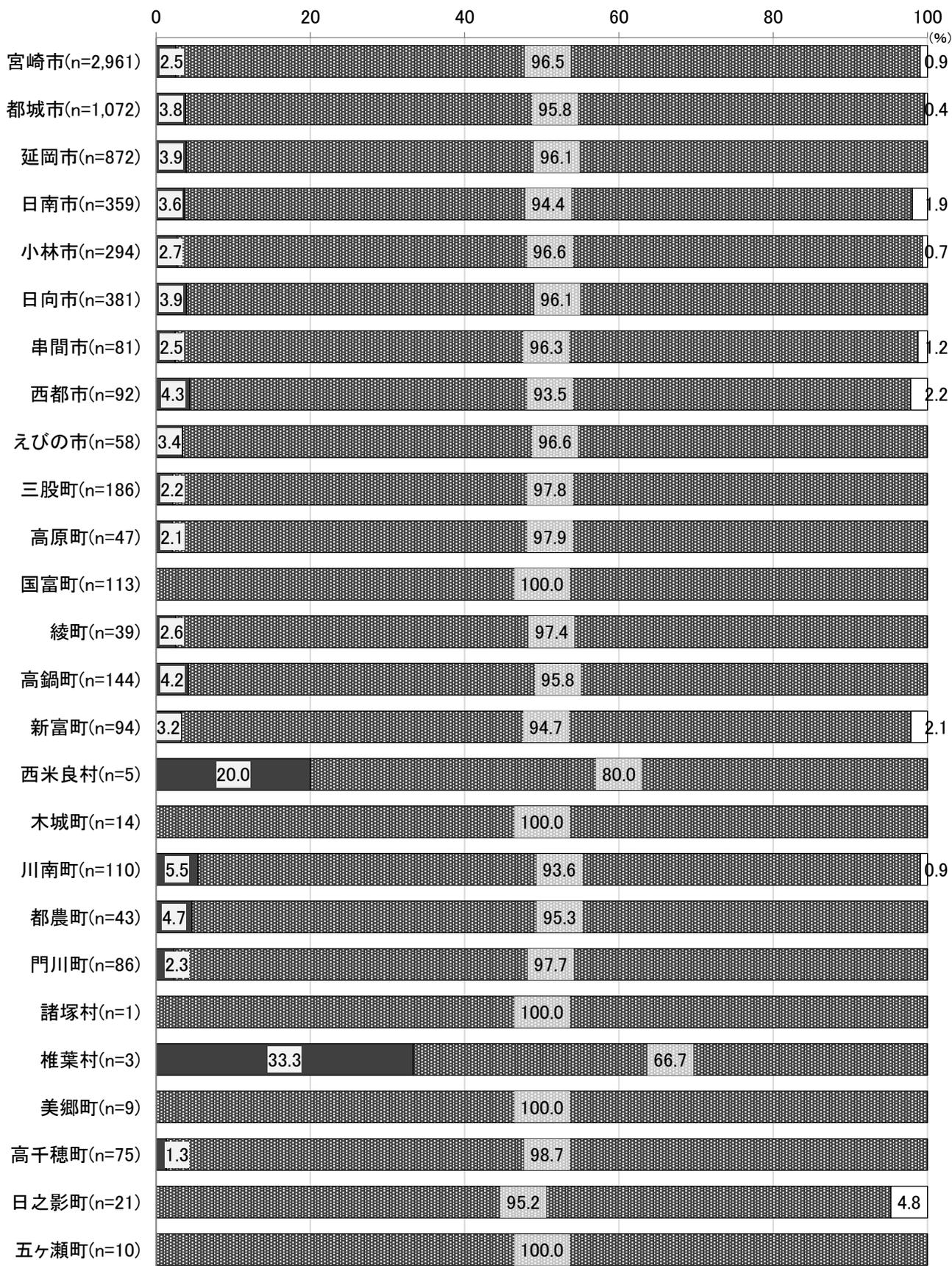
全体でみると、「いる」が3.2%、「いない」が96.1%となっています。
 性別では、大きな差異はみられません。

(全体・性別・学校区分別)



(市町村別)

■いる ■いない □無回答



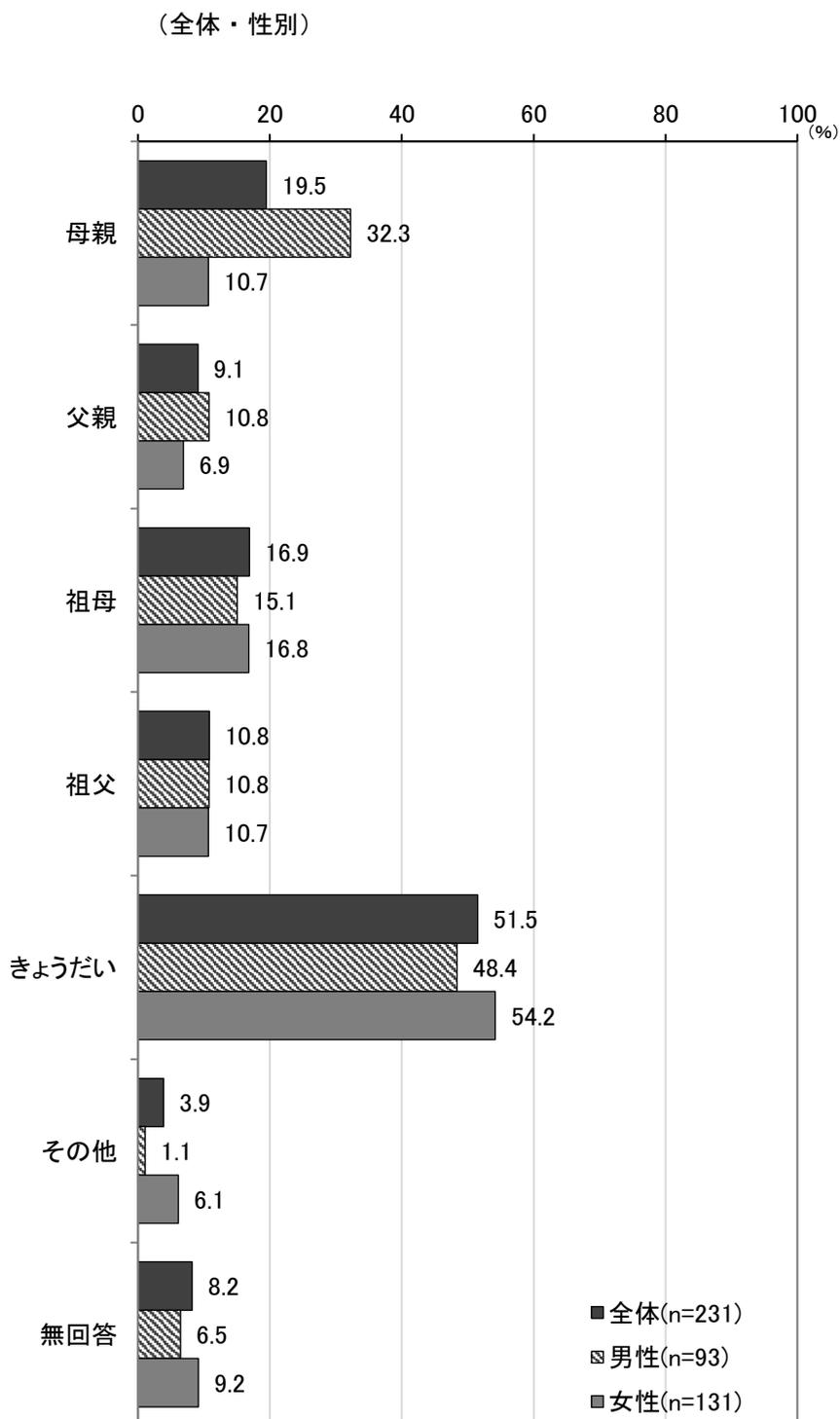
問 11 問 10で「1. いる」と答えた方にお聞きします。

お世話の状況についてお教えてください。

① お世話を必要としている方（あてはまる番号すべてに○）

全体で見ると、「きょうだい」が51.5%と最も高く、次いで「母親」が19.5%、「祖母」が16.9%、「祖父」が10.8%、「父親」が9.1%、「その他」が3.9%となっています。

性別で見ると、「母親」は男性32.3%、女性10.7%と、男性が21.6ポイント高くなっています。



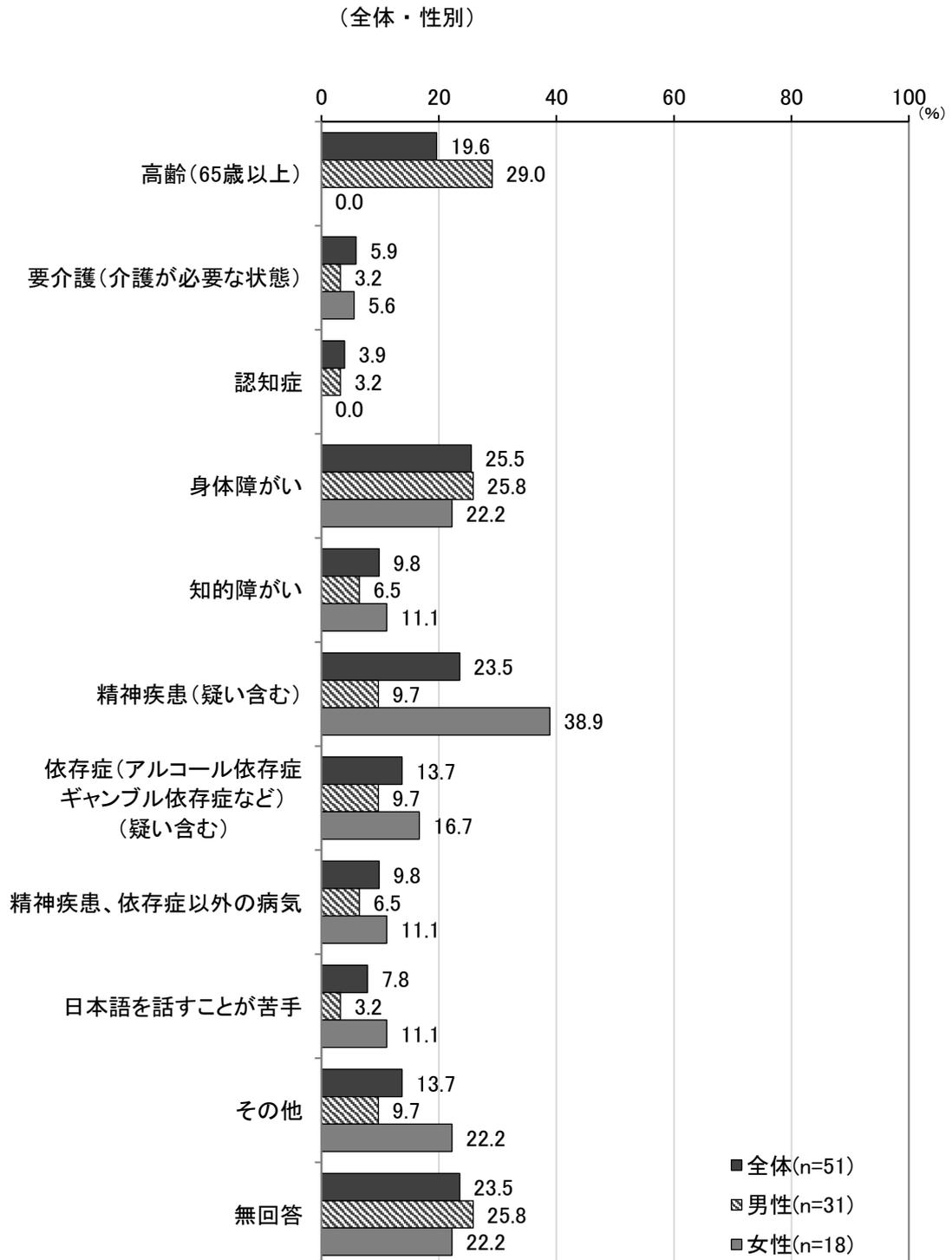
② お世話を必要としている方が複数いる場合はそれぞれの方についてお答えください。

②-a 母親、あるいは父親のお世話をしている人におききします。

お世話を必要としている方の状況を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

全体でみると、「身体障がい」が25.5%と最も高く、次いで「精神疾患(疑い含む)」が23.5%、「高齢(65歳以上)」が19.6%となっています。

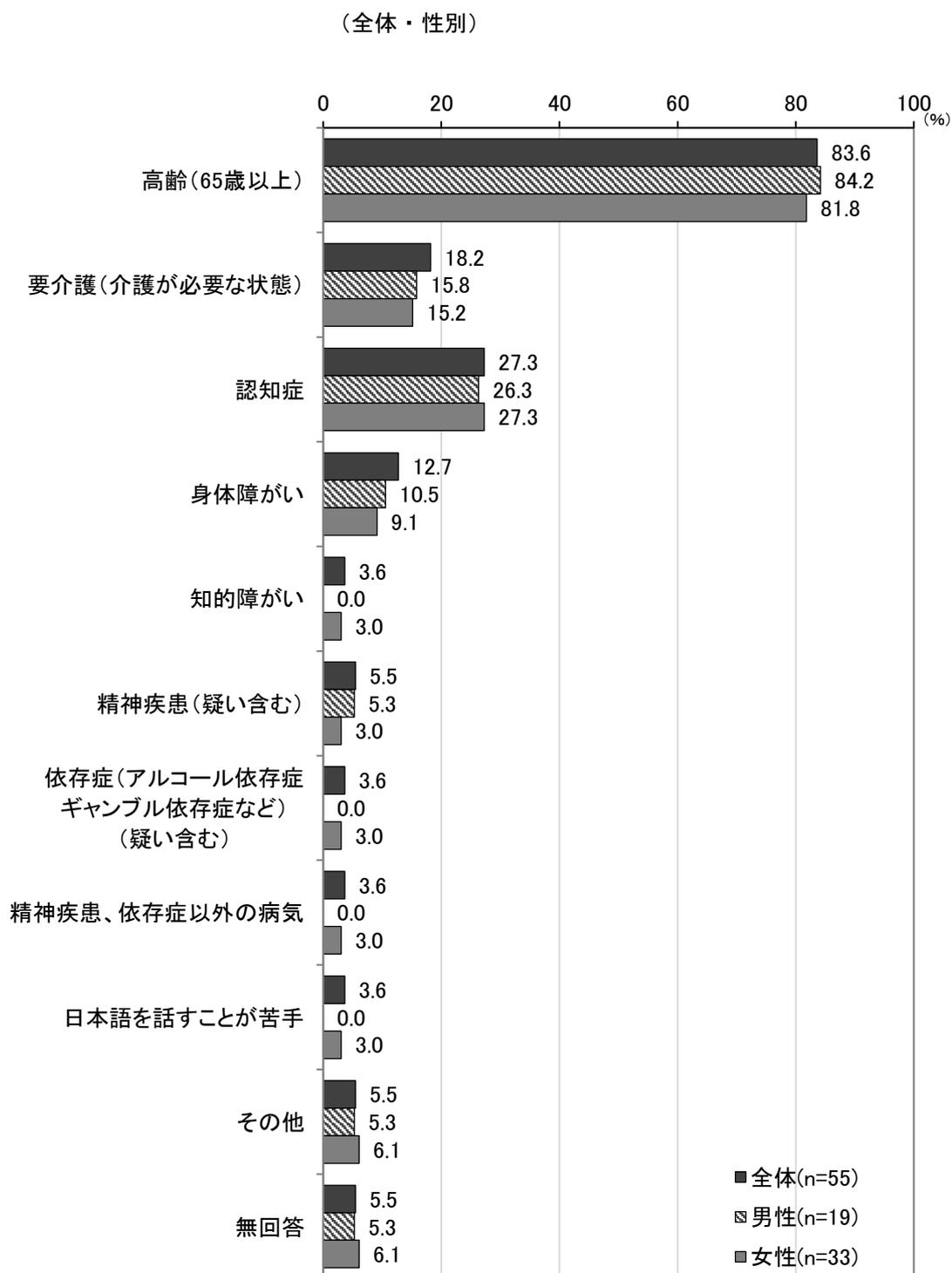
性別でみると、「高齢(65歳以上)」は男性の29.0%に対し、女性0.0%となっており、「精神疾患(疑い含む)」は男性9.7%、女性38.9%と、女性が29.2ポイント高くなっています。



②ーb 祖母、あるいは祖父のお世話をしている人におききします。

お世話を必要としている方の状況を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

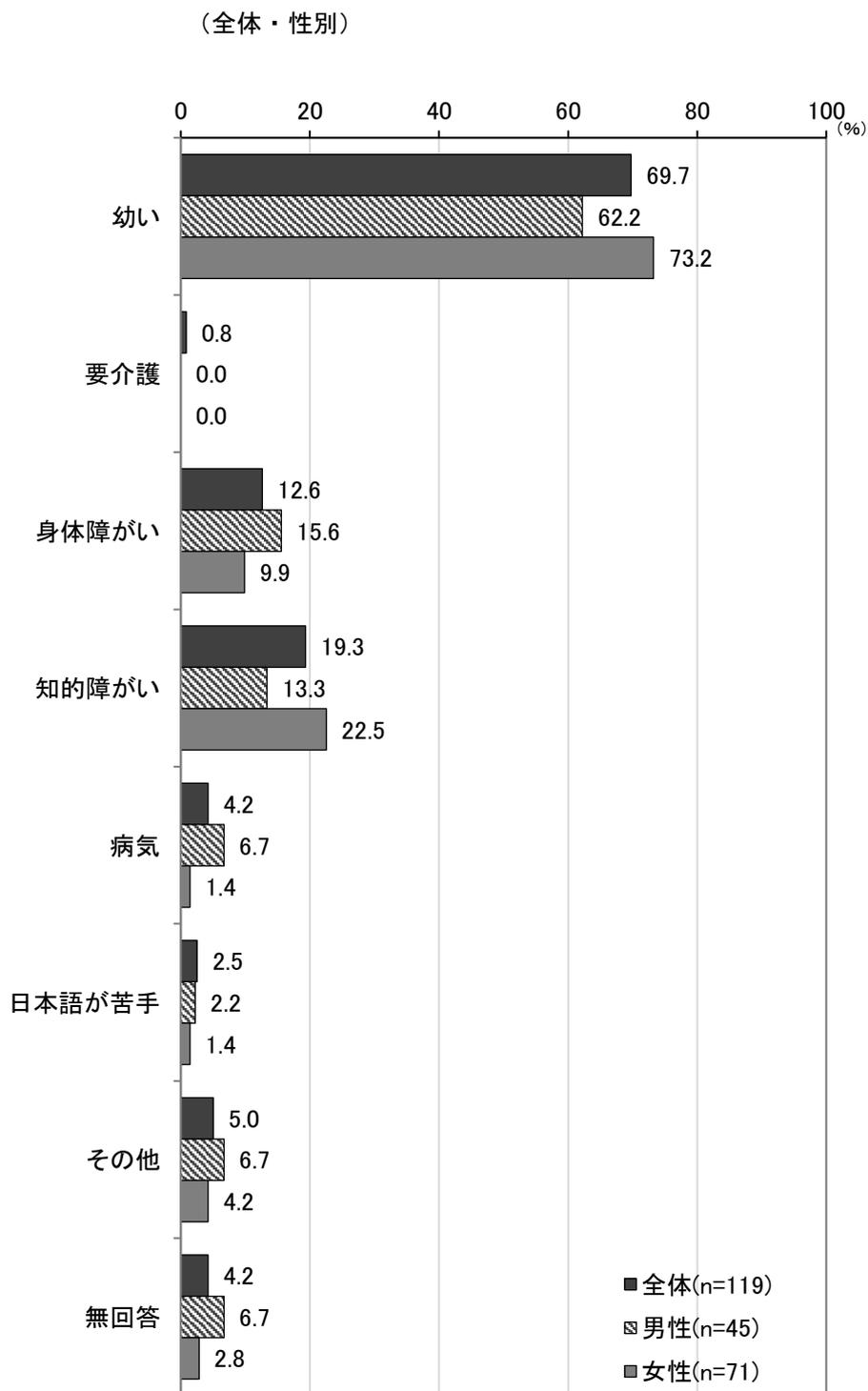
全体でみると、「高齢(65歳以上)」が83.6%と最も高く、次いで「認知症」が27.3%、「要介護(介護が必要な状態)」が18.2%となっています。



②ーc きょうだいのお世話をしている人におききます。

お世話を必要としている方の状況を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

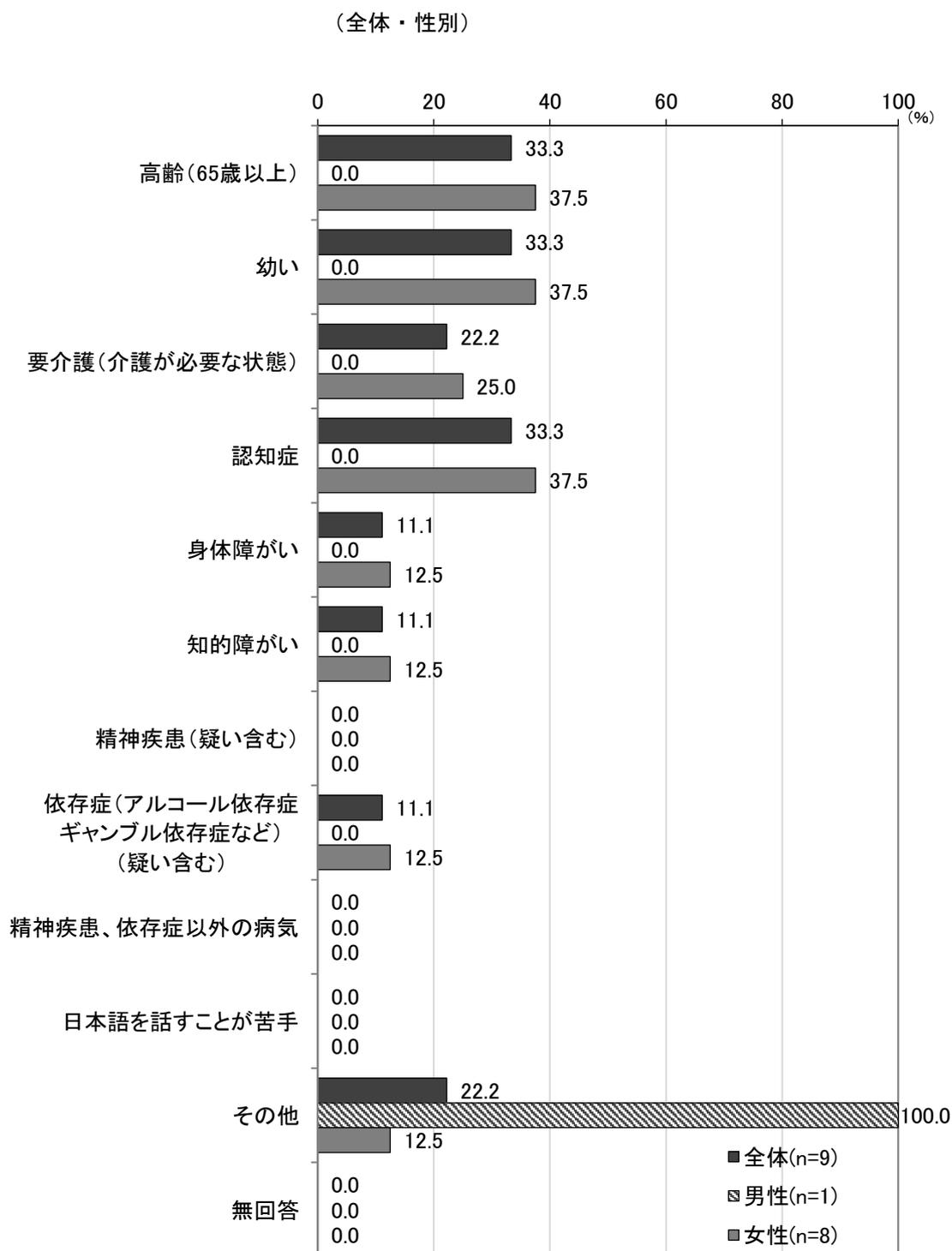
全体で見ると、「若い」が69.7%と最も高く、次いで「知的障がい」が19.3%、「身体障がい」が12.6%となっています。



②-d その他のお世話をしている人におききます。

お世話を必要としている方の状況を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

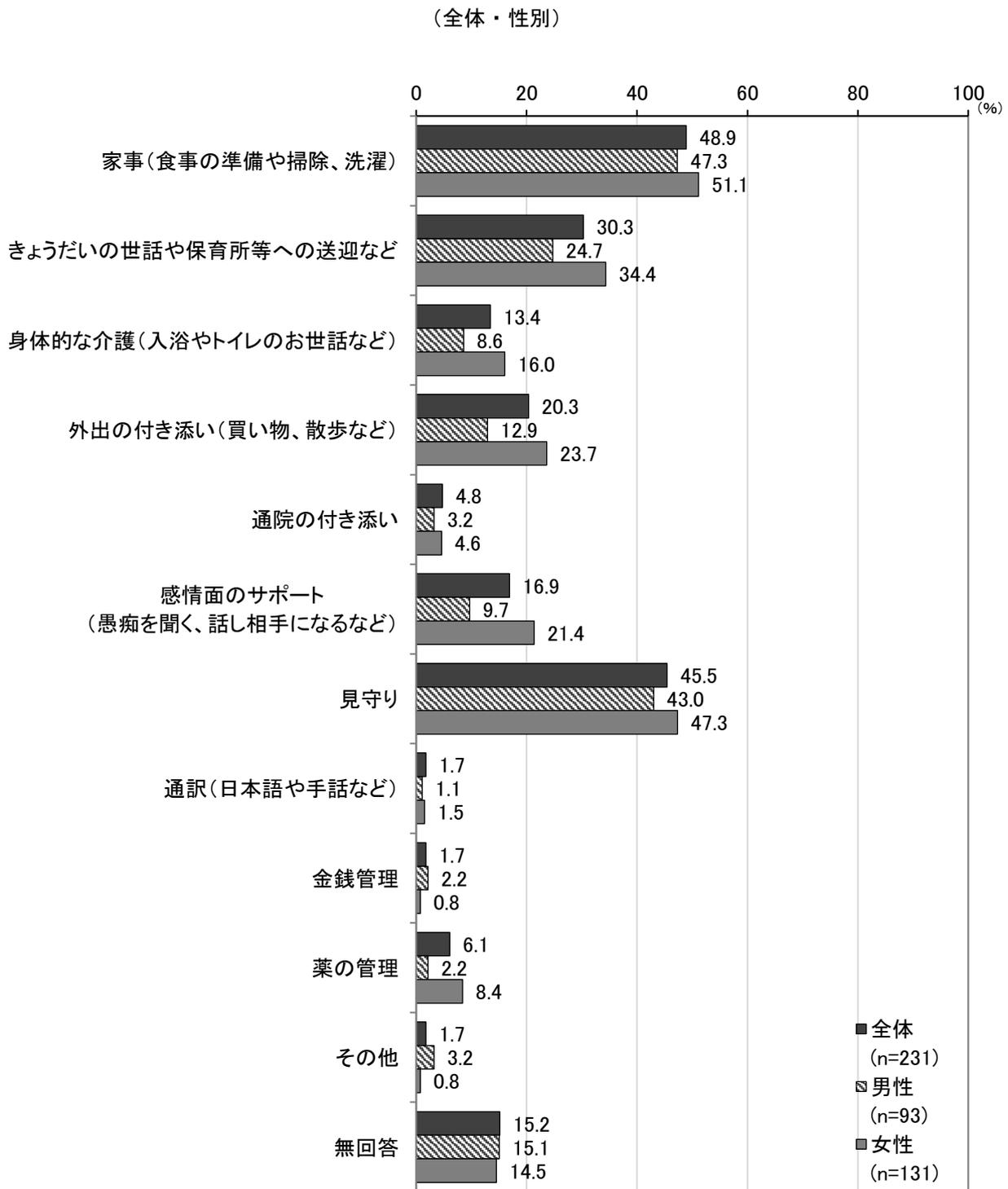
全体で見ると、「高齢(65歳以上)」と「若い」、「認知症」が33.3%と最も高く、次いで「要介護(介護が必要な状態)」が22.2%となっています。



③ あなたが行っているお世話の内容を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

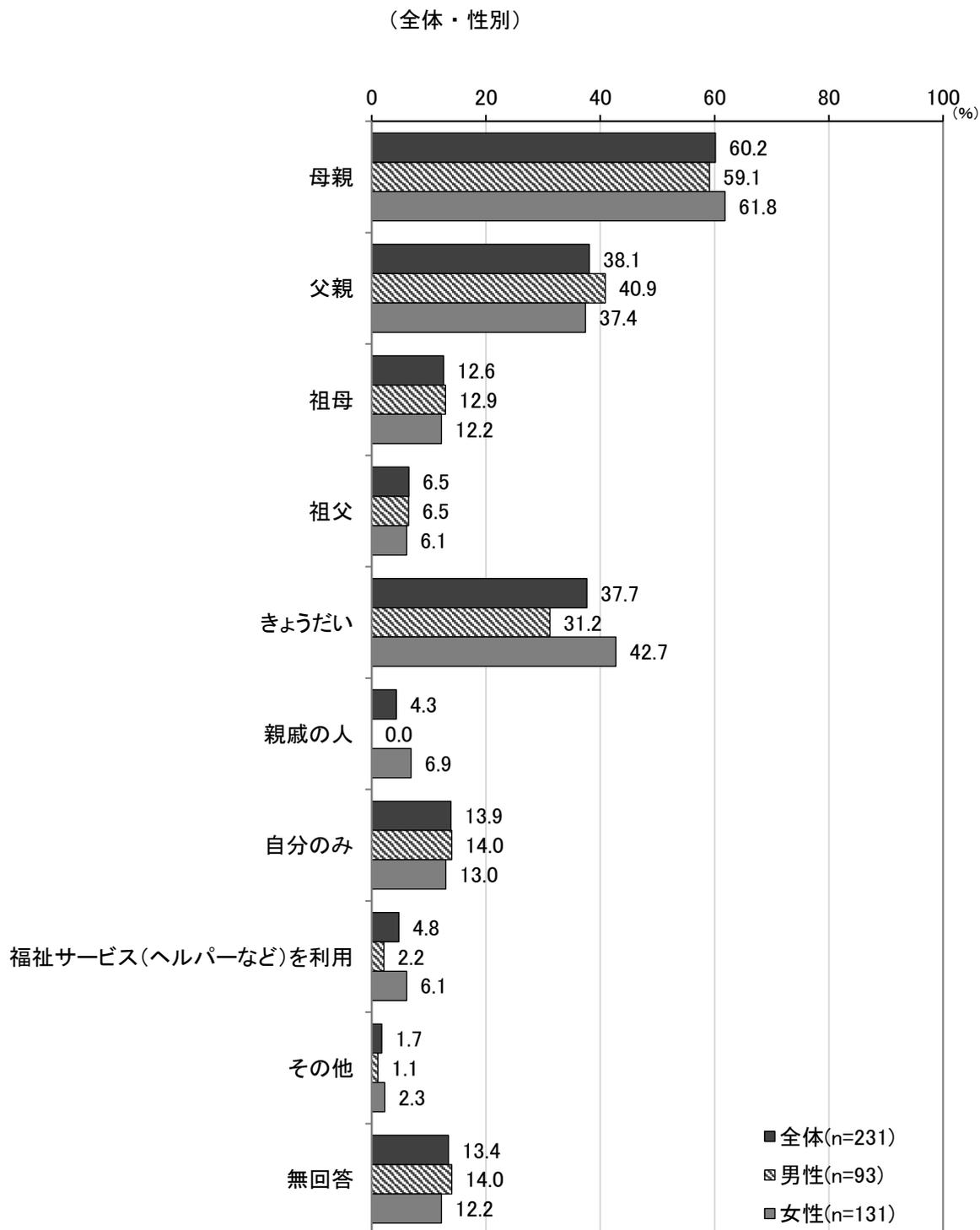
全体でみると、「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」が 48.9%と最も高く、次いで「見守り」が 45.5%、「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」が 30.3%となっています。

性別でみると、「感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）」は男性 9.7%、女性 21.4%と、女性が 11.7 ポイント高く、「外出の付き添い（買い物、散歩など）」は男性 12.9%、女性 23.7%と、女性が 10.8 ポイント高くなっています。



④ お世話は誰と行っていますか（あてはまる番号すべてに○）

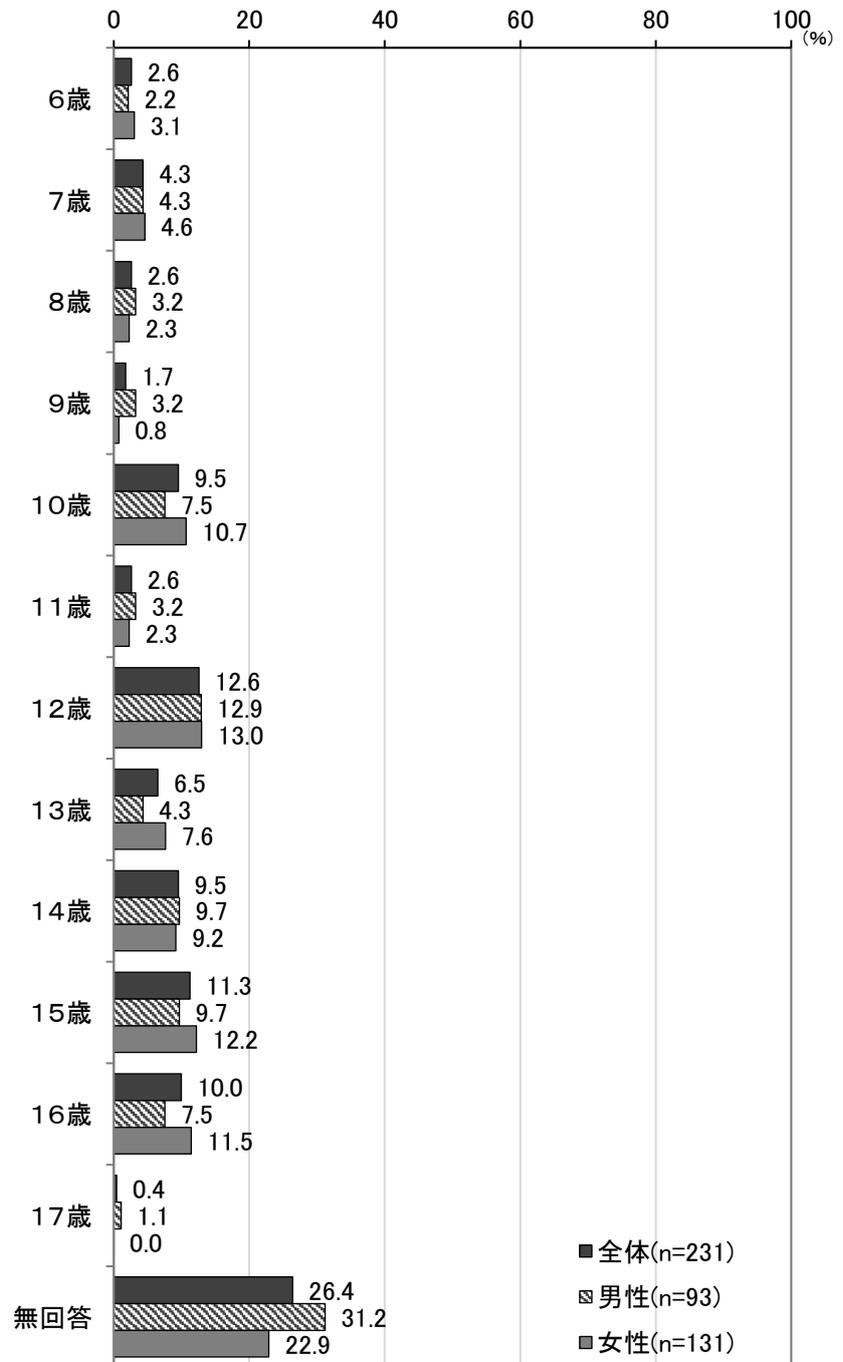
全体で見ると、「母親」が60.2%と最も高く、次いで「父親」が38.1%、「きょうだい」が37.7%となっています。



⑤ お世話はいつから行っていますか。お世話を始めた年齢をお答えください。(はっきりとわからない場合は、だいたいの年齢でかまいません)

全体でみると、「12歳」が12.6%と最も高く、次いで「15歳」が11.3%、「16歳」が10.0%となっています。

(全体・性別)

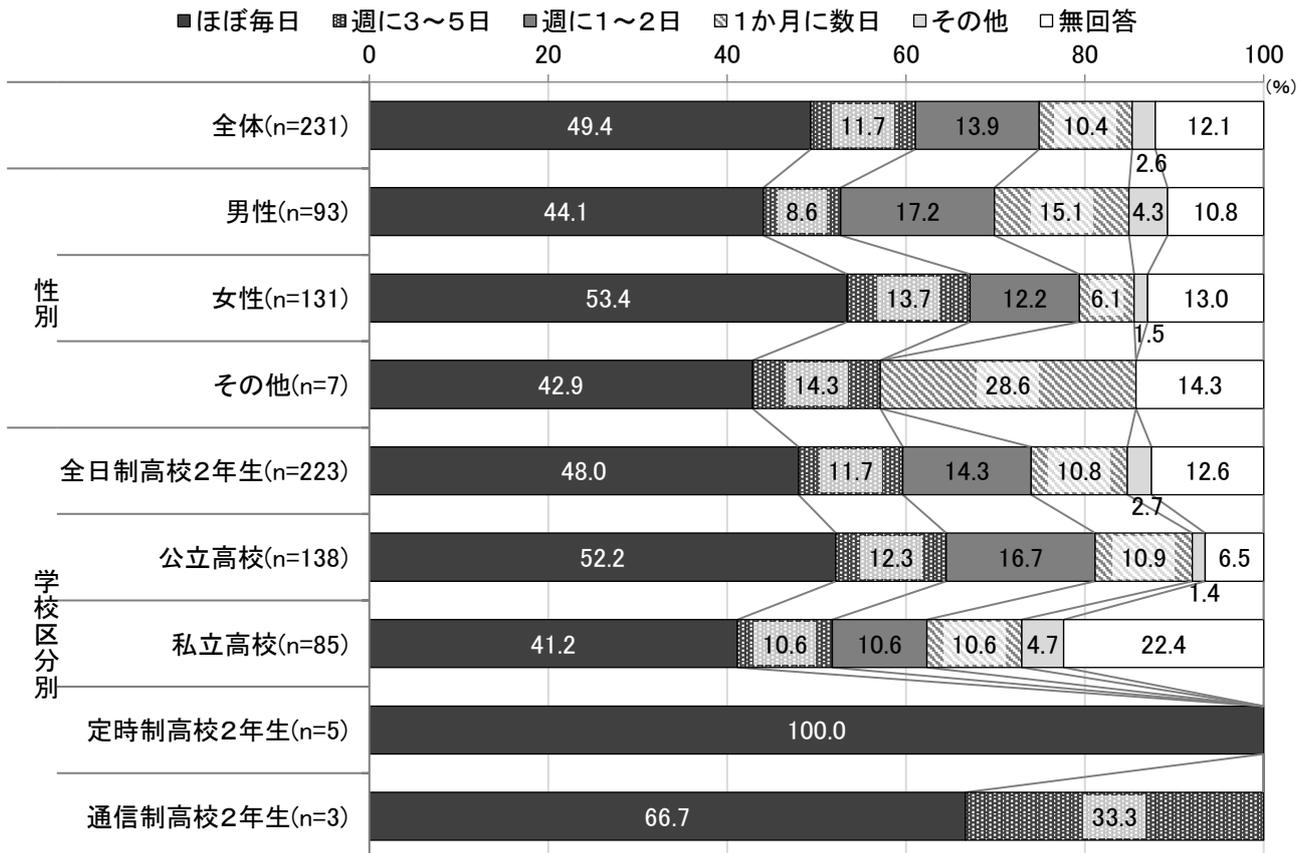


⑥ お世話をしている頻度を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

全体で見ると、「ほぼ毎日」が49.4%と最も高く、次いで「週に1~2日」が13.9%、「週に3~5日」が11.7%となっています。

性別で見ると、「ほぼ毎日」は男性44.1%、女性53.4%と、女性が9.3ポイント高くなっています。

(全体・性別・学校区分別)

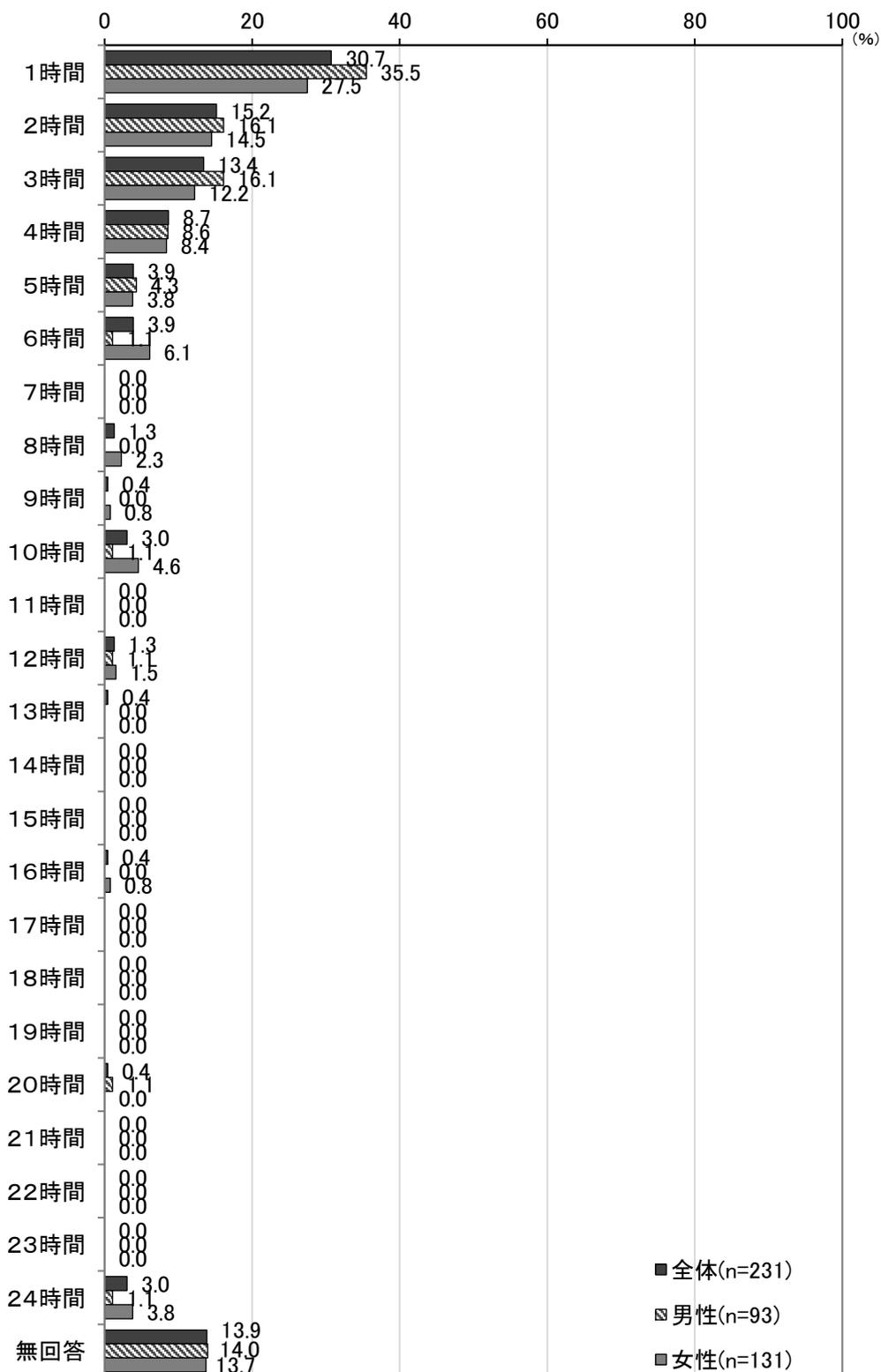


⑦ 平日にお世話はどれくらい行っていますか。時間数をお答えください。

(日によって異なる場合は、この1か月の中で最も長かった日の時間をお答えください)

全体でみると、「1時間」が30.7%と最も高く、次いで「2時間」が15.2%、「3時間」が13.4%となっています。

(全体・性別)



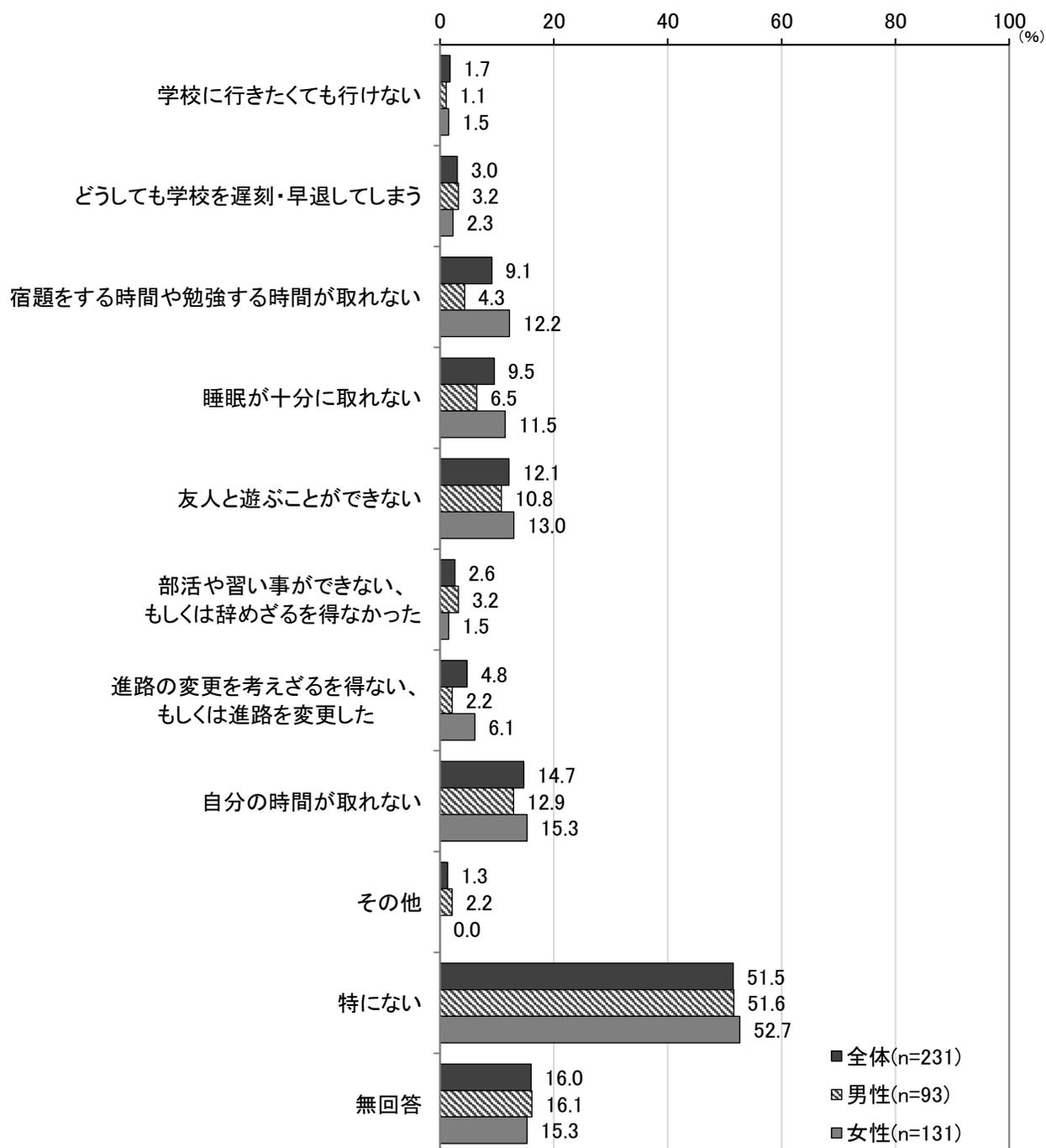
問 12 お世話をしていることで、やりたいけど、できていないことはありますか。

(あてはまる番号すべてに○)

全体で見ると、「特にない」が51.5%と最も高く、次いで「自分の時間が取れない」が14.7%、「友人と遊ぶことができない」が12.1%となっています。

性別で見ると、「宿題をする時間や勉強する時間が取れない」は男性4.3%、女性12.2%と、女性が7.9ポイント高く、「睡眠が十分に取れない」は男性6.5%、女性11.5%と、女性が5.0ポイント高くなっています。

(全体・性別)

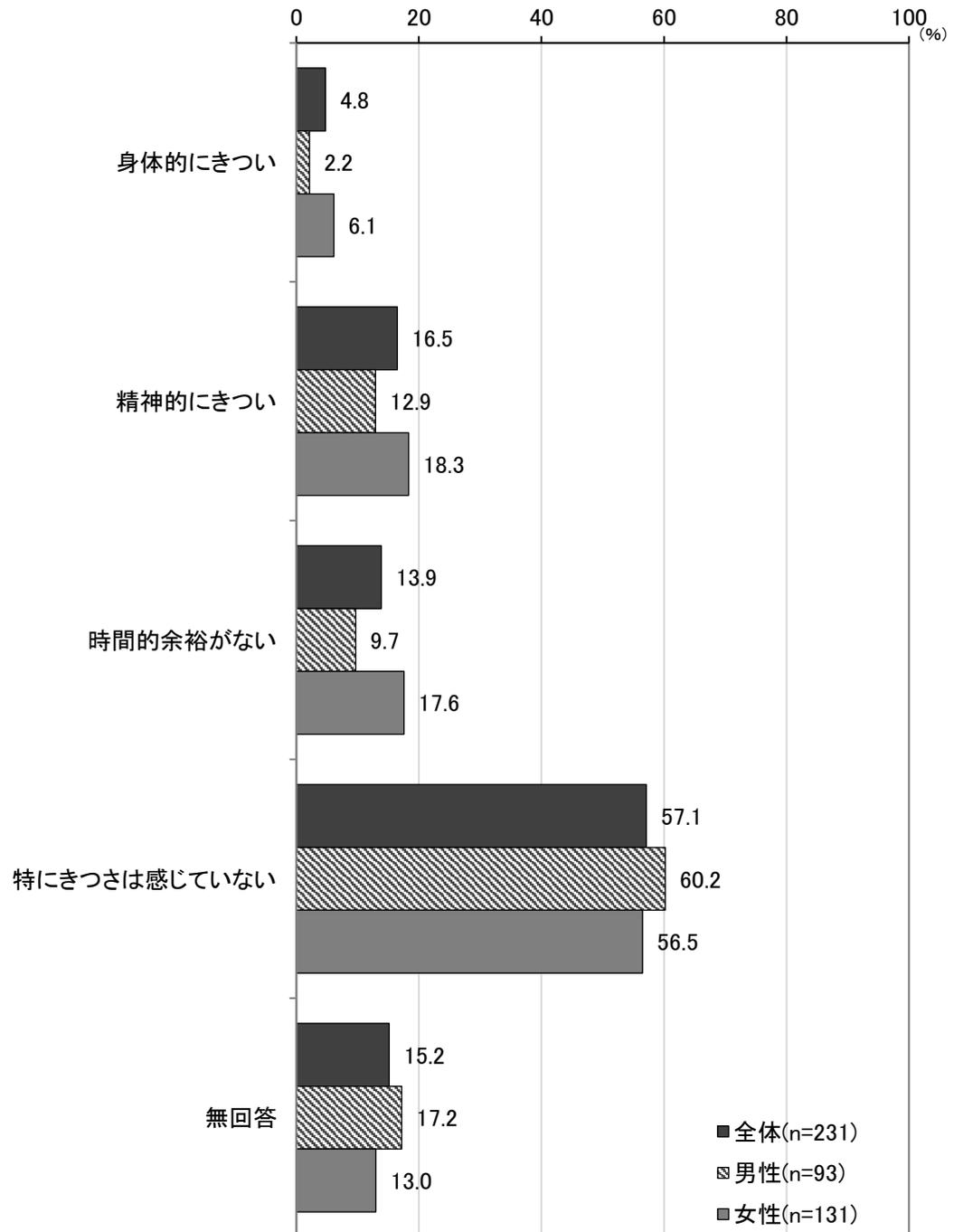


問 13 お世話をすることにきつさを感じていますか。(あてはまる番号すべてに○)

全体でみると、「特にきつさは感じていない」が 57.1%と最も高く、次いで「精神的にきつい」が 16.5%、「時間的余裕がない」が 13.9%となっています。

性別でみると、「時間的余裕がない」は男性 9.7%、女性 17.6%と、女性が 7.9 ポイント高く、「精神的にきつい」は男性 12.9%、女性 18.3%と、女性が 5.4 ポイント高くなっています。

(全体・性別)

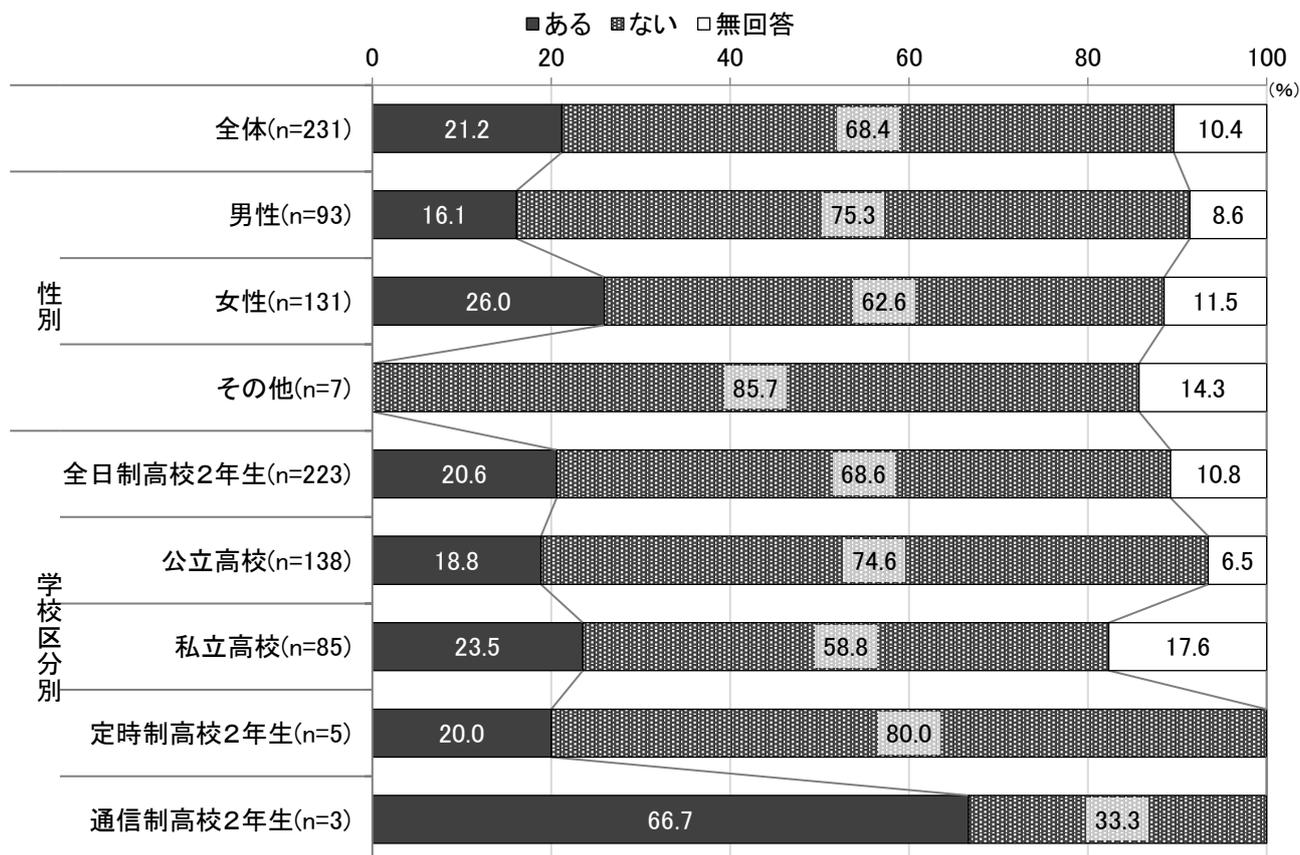


問 14 お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを誰かに相談したことはありますか。(あてはまる番号 1 つに○)

全体でみると、「ある」は 21.2%、「ない」は 68.4%となっています。

性別でみると、「ある」は男性 16.1%、女性 26.0%と、女性が 9.9 ポイント高くなっています。

(全体・性別・学校区分別)

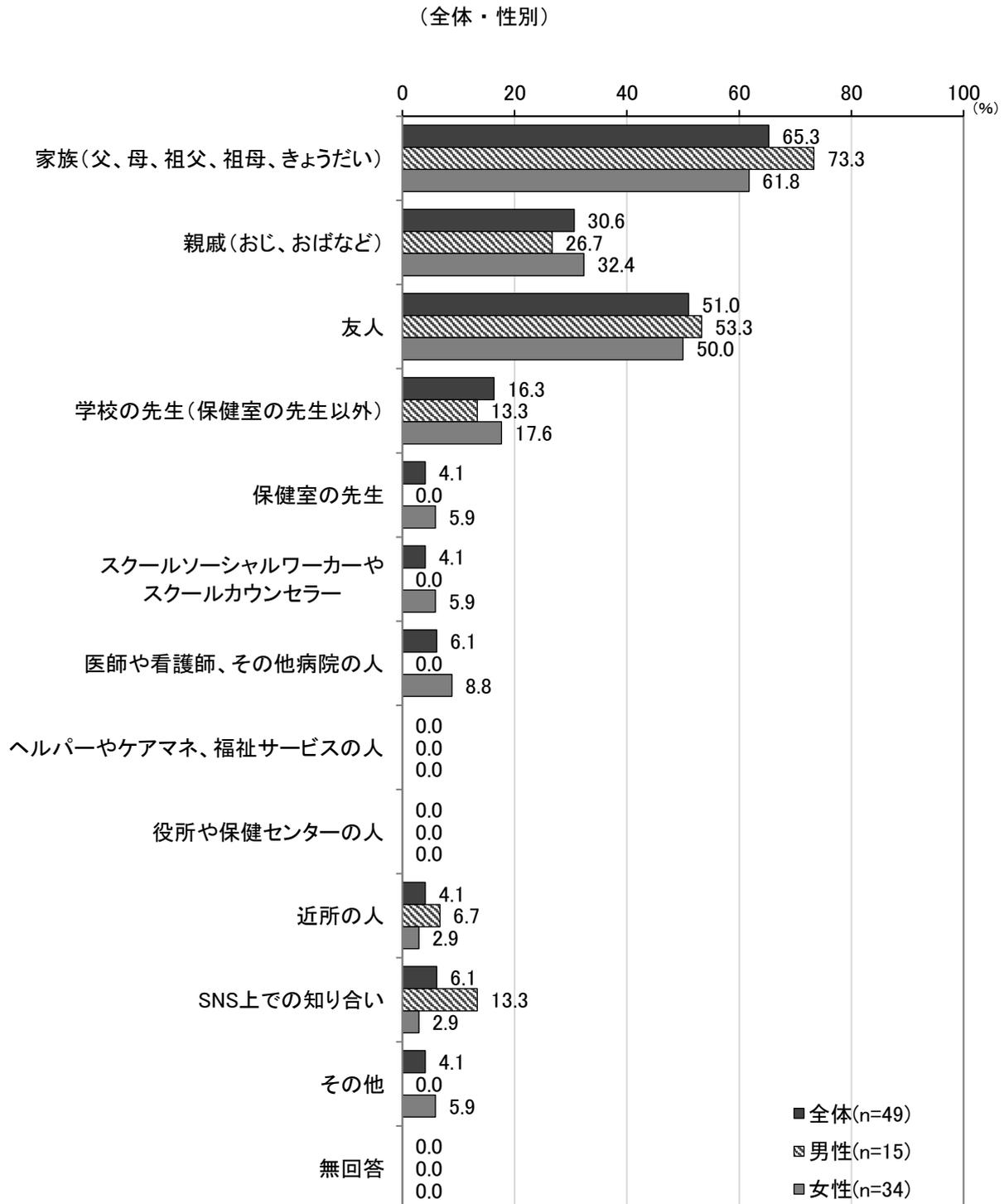


問 15 問 14で「1. ある」と回答した方にお聞きします。それは誰ですか。

(あてはまる番号すべてに○)

全体でみると、「家族（父、母、祖父、祖母、きょうだい）」が65.3%と最も高く、次いで「友人」の51.0%、「親戚（おじ、おばなど）」の30.6%となっています。

性別でみると、「家族（父、母、祖父、祖母、きょうだい）」は男性73.3%、女性61.8%と、男性が11.5ポイント高く、「親戚（おじ、おばなど）」は男性26.7%、女性32.4%と、女性が5.7ポイント高くなっています。



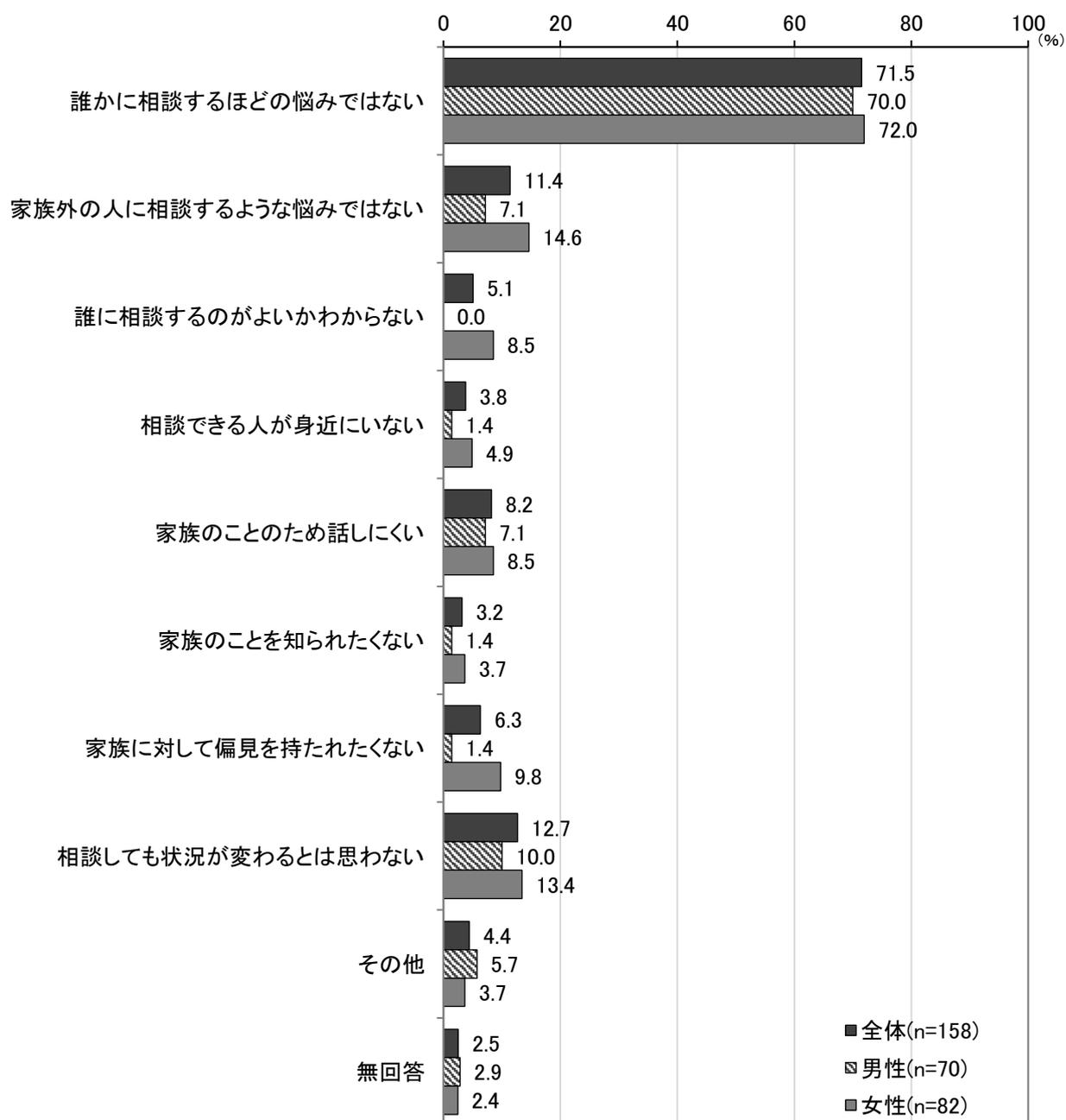
問 16 問 14 で「2. ない」と回答した方にお聞きします。

相談していない理由を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

全体でみると、「誰かに相談するほどの悩みではない」が 71.5%と最も高く、次いで「相談しても状況が変わるとは思わない」が 12.7%、「家族外の人に相談するような悩みではない」が 11.4%となっています。

性別でみると、「誰に相談するのがよいかわからない」は男性 0.0%に対し、女性は 8.5%となっており、「家族に対して偏見を持たれたくない」は、男性 1.4%、女性 9.8%と、女性が 8.4 ポイント高くなっています。

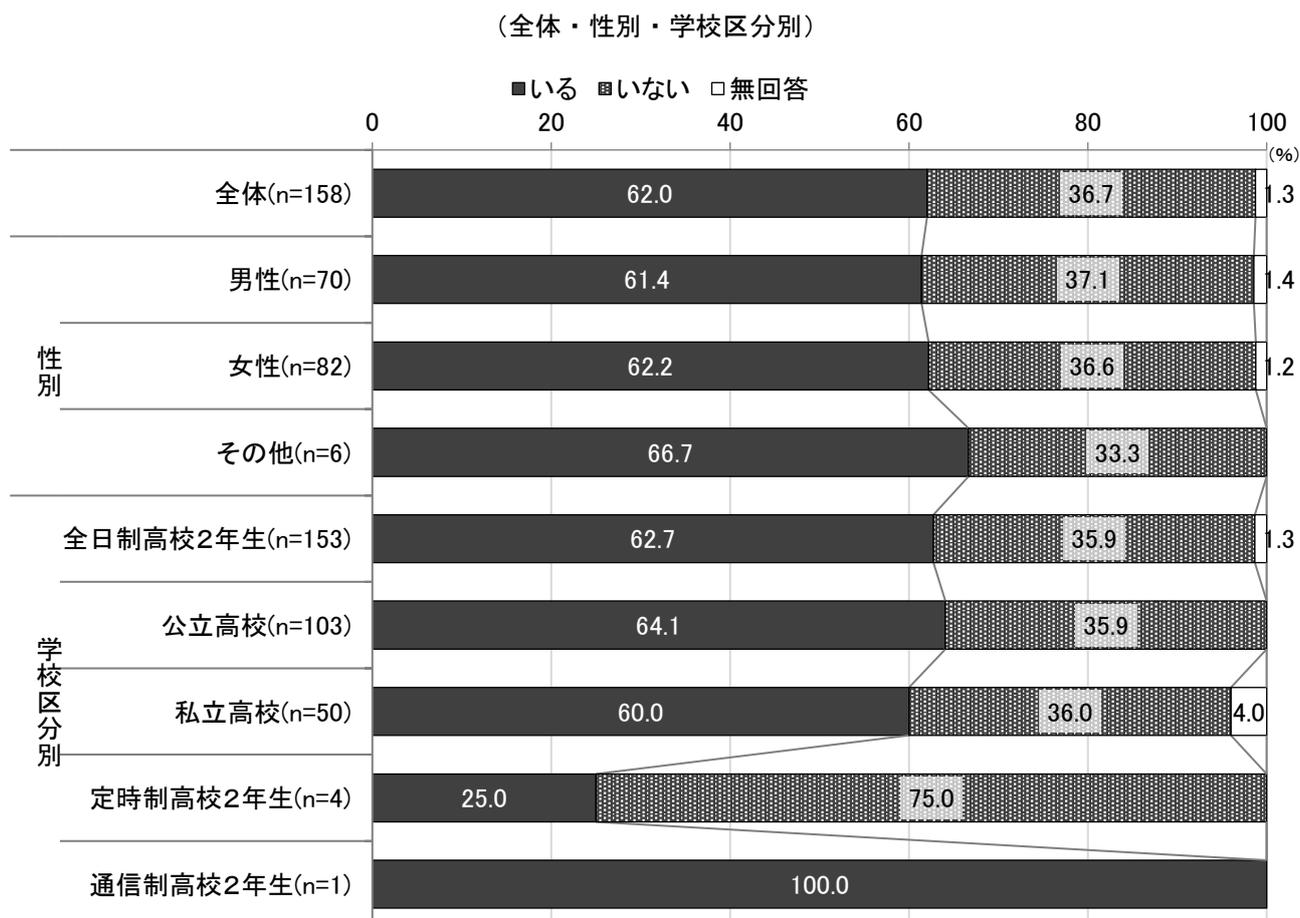
(全体・性別)



問 17 問 14で「2. ない」と回答した方にお聞きします。

お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを聞いてくれる人はいますか。(あてはまる番号1つに○)

全体でみると、「いる」は62.0%、「いない」は36.7%となっています。
性別では、大きな差異はみられません。

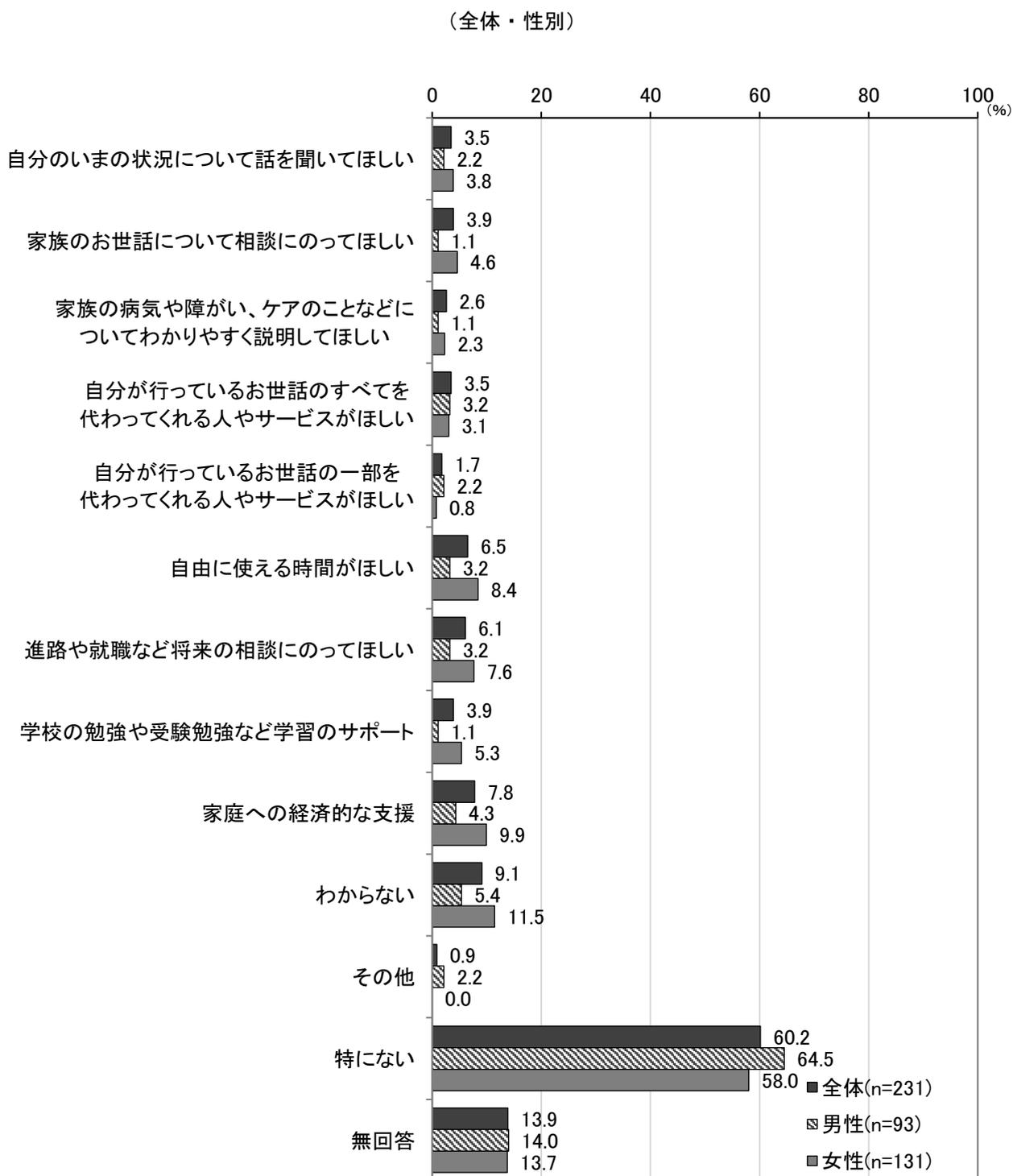


問 18 学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援はありますか。

(あてはまる番号すべてに○)

全体で見ると、「特にない」が60.2%と最も高く、次いで「わからない」が9.1%、「家庭への経済的な支援」が7.8%、「自由に使える時間がほしい」が6.5%となっています。

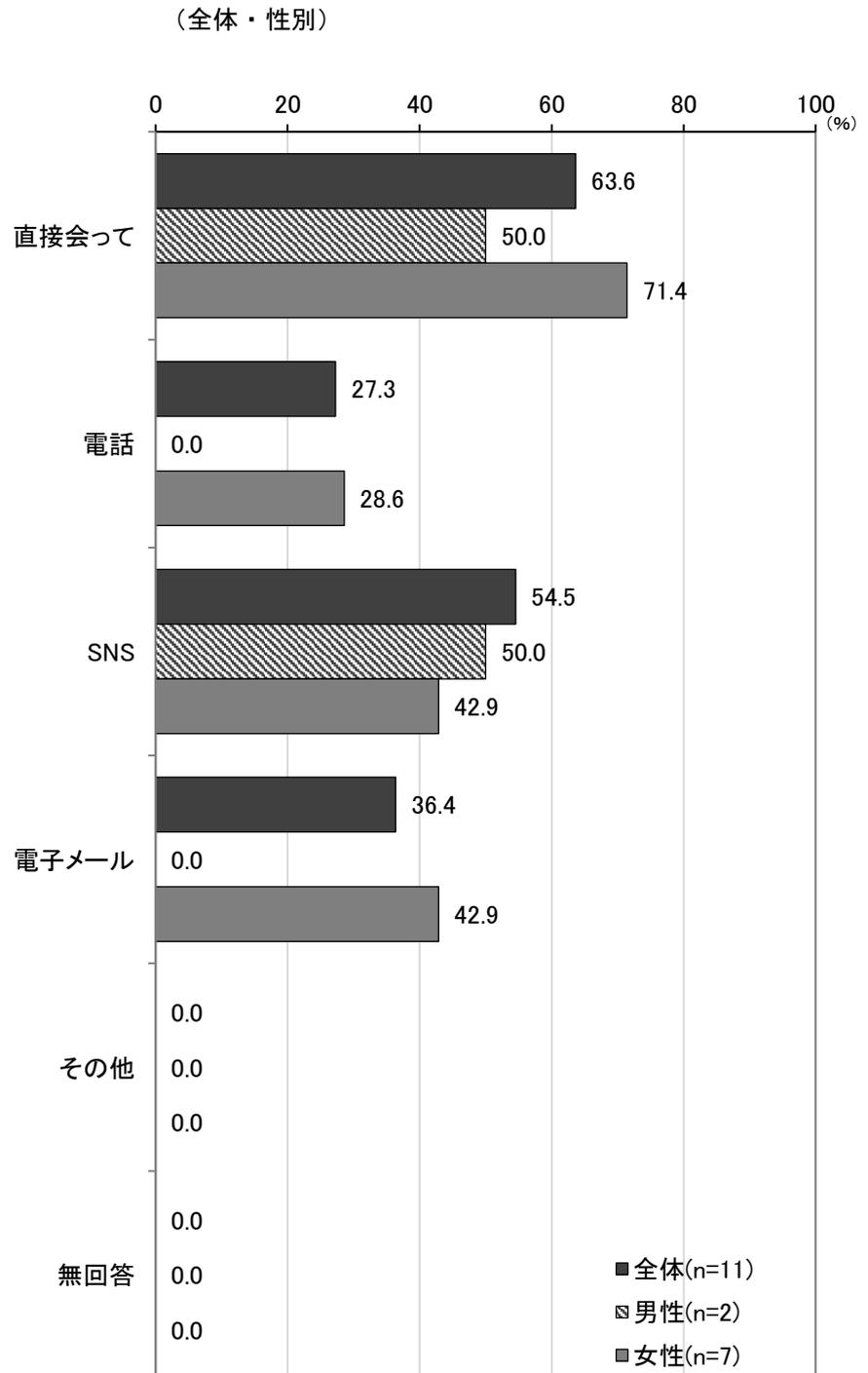
性別で見ると、「家庭への経済的な支援」は、男性4.3%、女性9.9%と、女性が5.6ポイント高くなっています。



問 19 問 18 で「1. 自分のいまの状況について話を聞いてほしい」「2. 家族のお世話について相談にのってほしい」と回答した方にお聞きします。どのような方法で話を聞いて欲しいですか。(あてはまる番号すべてに○)

全体で見ると、「直接会って」が63.6%と最も高く、次いで「SNS」が54.5%、「電子メール」が36.4%となっています。

性別で見ると、「電話」と「電子メール」は男性が0.0%となっており、「直接会って」は男性50.0%、女性71.4%と、女性が21.4ポイント高くなっています。

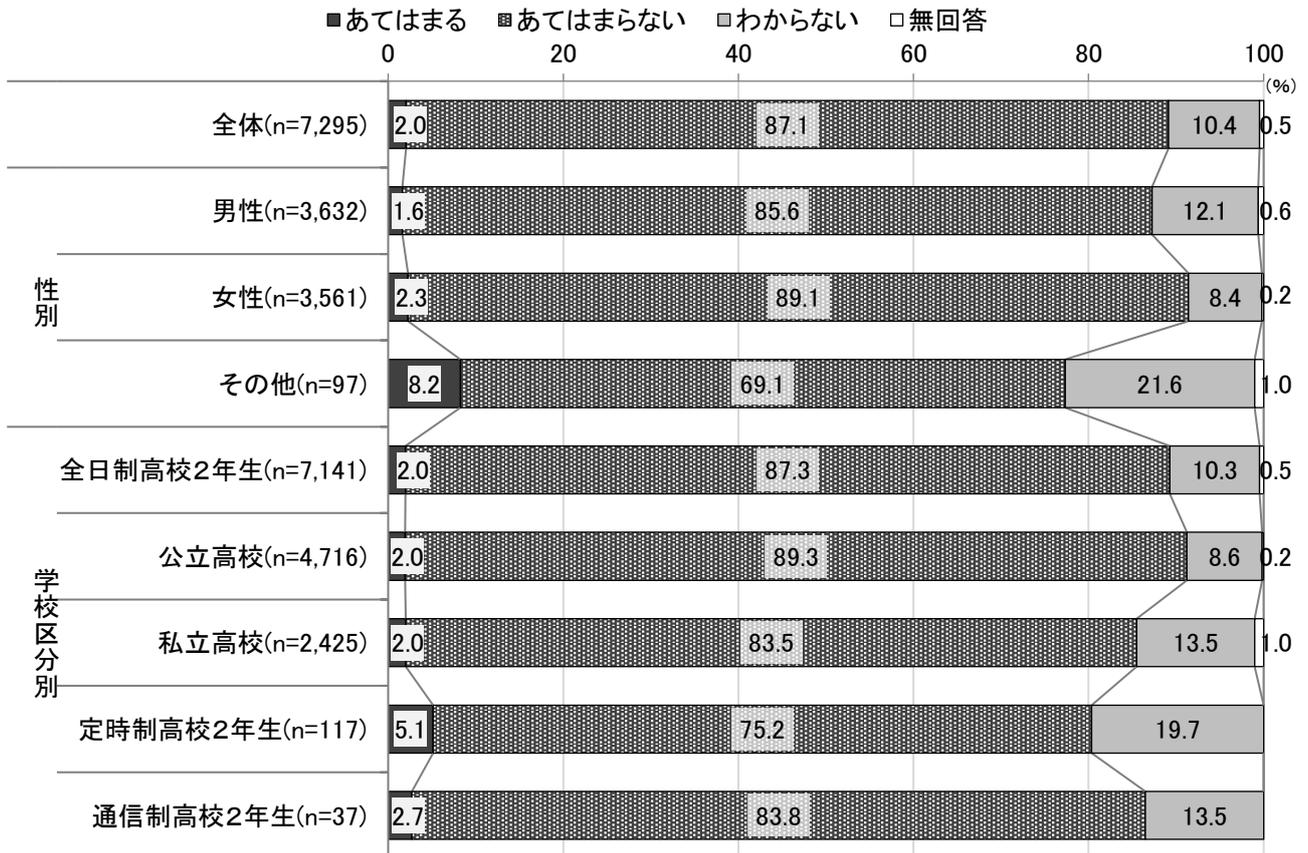


問 20 あなた自身は「ヤングケアラー」にあてはまると思えますか。(あてはまる番号1つに○)

全体で見ると、「あてはまる」は2.0%、「あてはまらない」は87.1%、「わからない」は10.4%となっています。

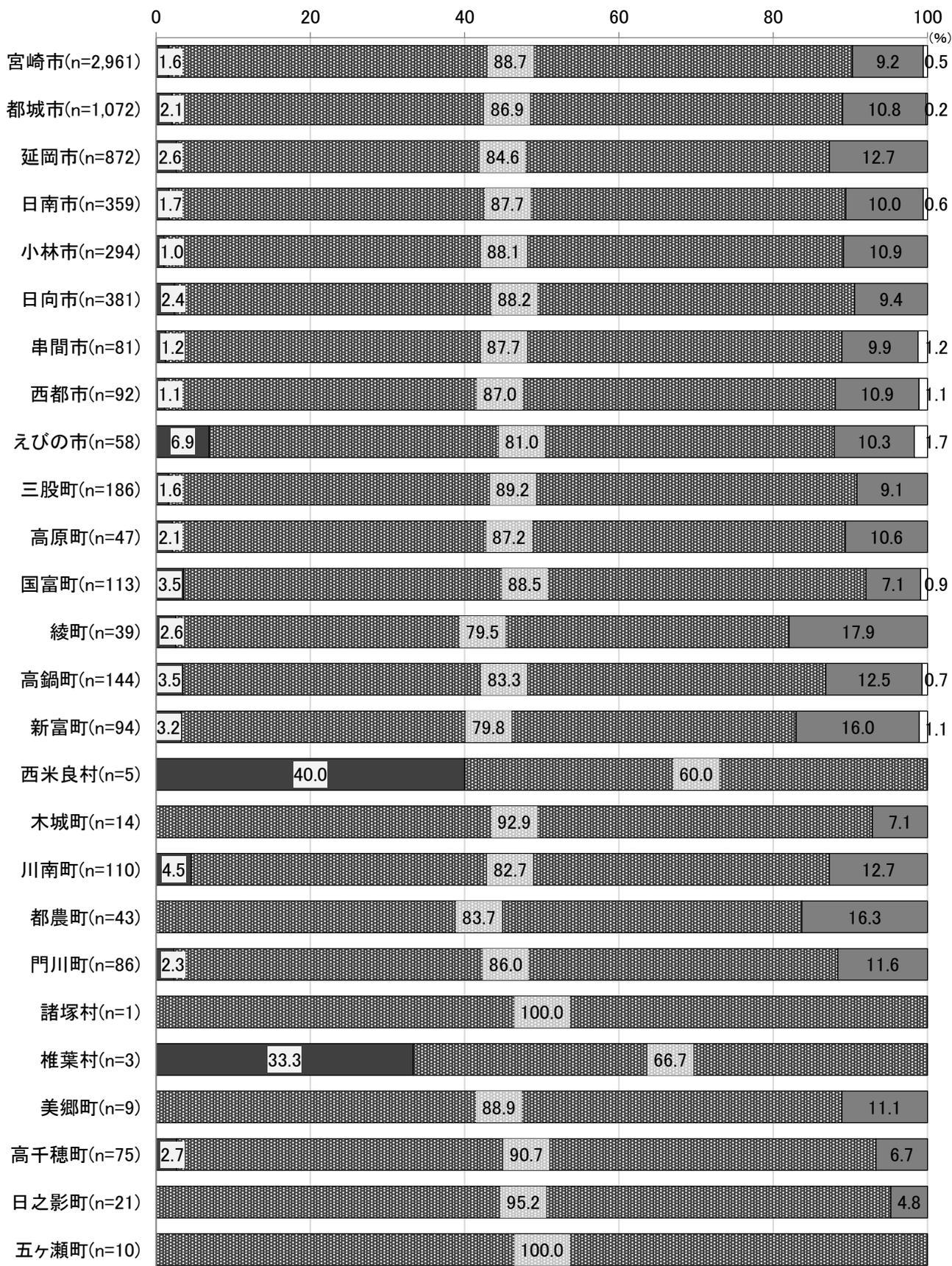
性別では、大きな差異はみられません。

(全体・性別・学校区分別)



(市町村別)

■あてはまる ■あてはまらない ■わからない □無回答



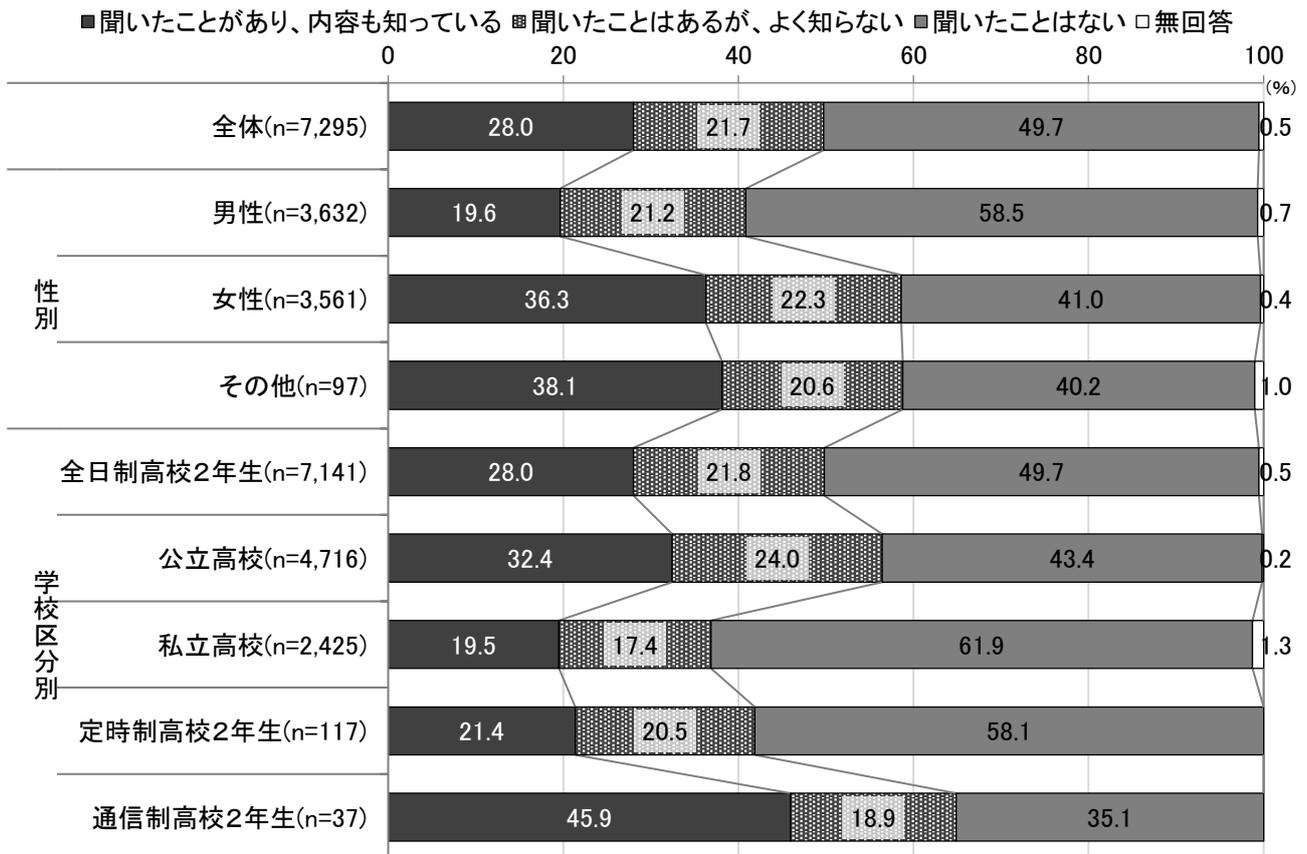
問 21 「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありましたか。

(あてはまる番号1つに○)

全体で見ると、「聞いたことがあります、内容も知っている」が28.0%、「聞いたことはあるが、よく知らない」が21.7%、「聞いたことはない」が49.7%となっています。

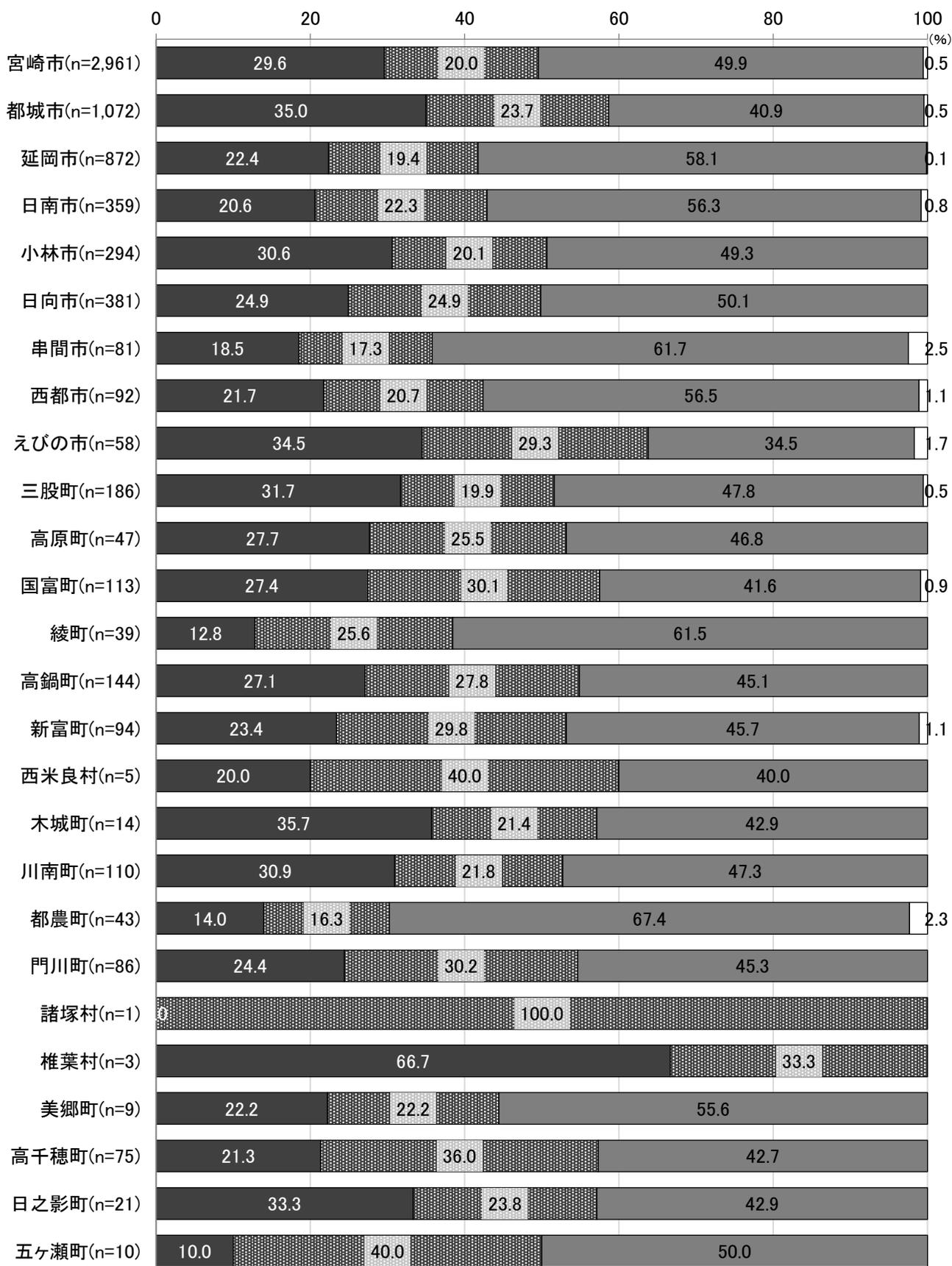
性別で見ると、「聞いたことがあります、内容も知っている」は、男性19.6%、女性36.3%と、女性が16.7ポイント高くなっています。

(全体・性別・学校区分別)



(市町村別)

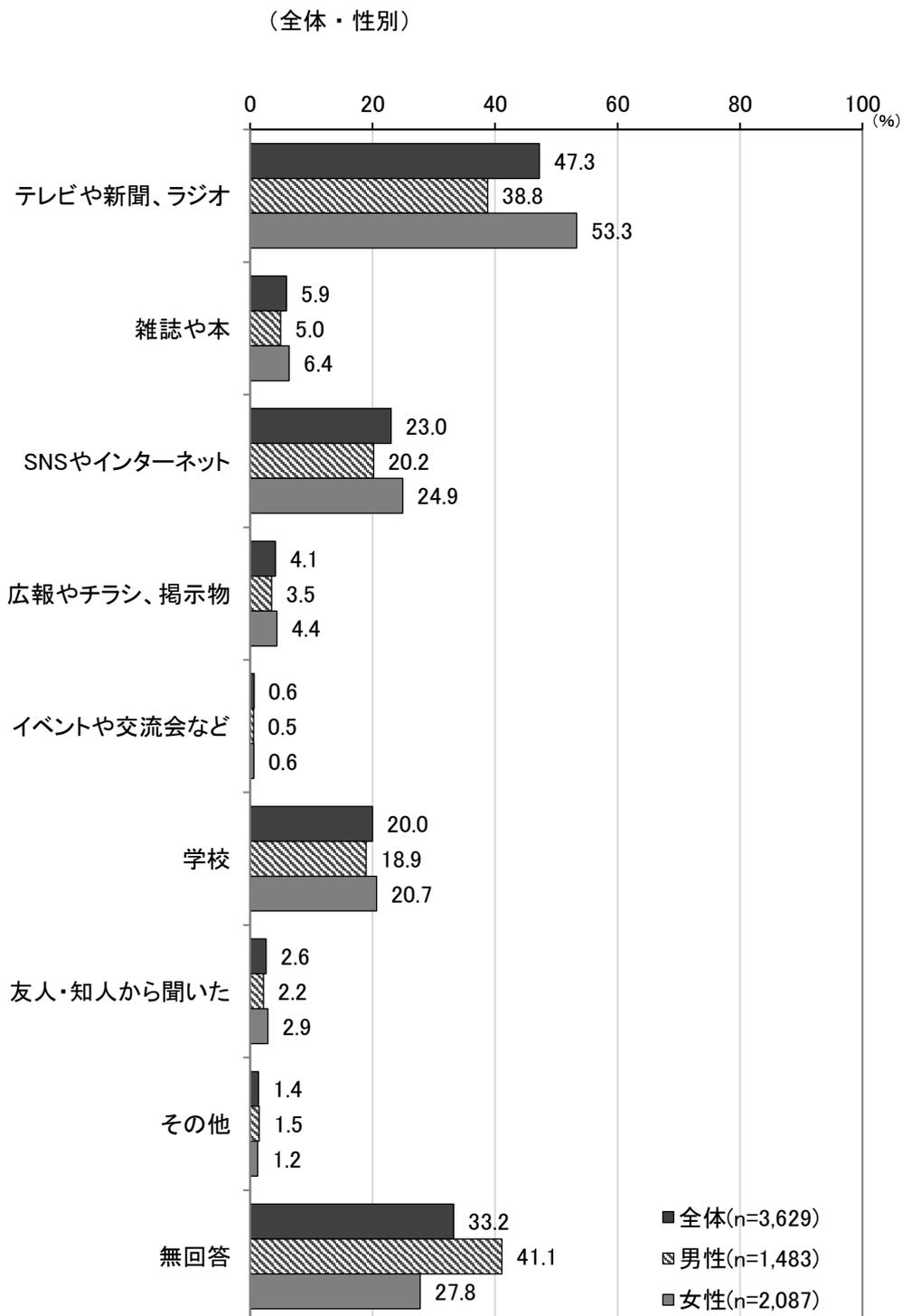
■聞いたことがあり、内容も知っている ■聞いたことはあるが、よく知らない ■聞いたことはない □無回答



問 22 問 21 で「1. 聞いたことがあり、内容も知っている」「2. 聞いたことはあるが、よく知らない」と回答した方にお聞きします。「ヤングケアラー」という言葉をどこで知りましたか。(あてはまる番号すべてに○)

全体で見ると、「テレビや新聞、ラジオ」が 47.3%と最も高く、次いで「SNS やインターネット」が 23.0%、「学校」が 20.0%となっています。

性別で見ると、「テレビや新聞、ラジオ」は、男性 38.8%、女性 53.3%と、女性が 14.5 ポイント高くなっています。



3. 追加集計

※国の調査と比較可能にするため、中学生、全日制高校生、定時制高校生の合計による。

(1) 家族の世話の有無による学校生活等の状況

家族の世話の有無×家族構成

家族の世話の有無×家族構成

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	二 世 代 世 帯	三 世 代 世 帯	ひ と り 親 家 庭	一 人 暮 ら し ・ 寮 ・ 施 設	そ の 他 の 世 帯	無 回 答
いる	558	62.7	18.3	12.7	0.4	5.9	0.0
いない	15,292	66.6	12.9	14.3	2.6	3.2	0.3

家族の世話の有無×健康状態

家族の世話の有無×健康状態

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	よ い	ま あ よ い	ふ つ う	あ ま り よ く な い	よ く な い	無 回 答
いる	558	42.3	19.0	29.9	7.3	1.4	0.0
いない	15,292	63.1	17.3	16.5	2.7	0.3	0.1

家族の世話の有無×出席状況

家族の世話の有無×出席状況

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	ほ と ん ど 欠 席 し な い	た ま に 欠 席 す る	よ く 欠 席 す る	無 回 答
いる	558	62.5	23.7	13.8	0.0
いない	15,292	75.7	11.7	12.6	0.0

家族の世話の有無×遅刻や早退の状況

家族の世話の有無×遅刻や早退の状況

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	ほ と ん ど し な い	た ま に す る	よ く す る	無 回 答
いる	558	71.0	23.1	5.6	0.4
いない	15,292	85.5	12.2	2.1	0.2

家族の世話の有無×学校生活等であてはまること

家族の世話の有無×学校生活等であてはまること

※サンプル数は数 ※項目は%	サンプル数	授業中に居眠りすることが多い	宿題や課題ができていないことが多い	持ち物の忘れ物が多い	部活動や習い事を休むことが多い	提出しなればいけない書類などの提出が遅れることが多い	修学旅行などの宿泊行事を欠席する	保健室で過ごすことが多い	学校では1人で過ごすことが多い	友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	特にない	無回答
いる	558	36.6	28.3	21.3	10.4	30.1	1.6	4.5	7.7	9.7	34.4	2.5
いない	15,292	25.1	15.1	12.2	3.6	15.3	0.6	0.8	4.1	3.3	55.8	2.7

家族の世話の有無×現在の悩みや困りごと

家族の世話の有無×現在の悩みや困りごと

※サンプル数は数 ※項目は%	サンプル数	友人との関係のこと	学業成績のこと	進路のこと	部活動のこと	学費（授業料）など学校生活に必要なお金のこと	い塾（通信含む）や習い事ができない	家族の経済的状況のこと	自分と家族との関係のこと	家庭内の人間関係のこと	病気や障がいのある家族のこと	自分のために使える時間が少ない	その他	特にない	無回答
いる	558	23.7	35.3	42.1	16.1	10.0	4.5	13.3	14.5	9.7	8.2	10.4	3.4	29.6	2.5
いない	15,292	10.1	24.0	32.1	9.5	2.5	0.7	3.1	3.2	2.6	0.7	2.2	1.7	50.5	3.2

家族の世話の有無×相談相手の有無

家族の世話の有無×相談相手の有無

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	い る 相 談 相 手 や 話 を 聞 い て く れ る 人 が	い な い 相 談 相 手 や 話 を 聞 い て く れ る 人 が	相 談 や 話 は し た く な い	無 回 答
いる	379	57.8	7.4	34.0	0.8
いない	7,088	70.9	4.7	23.7	0.7

(2) 家族構成による世話の状況の違い

家族構成×世話を必要としている家族

家族構成×世話を必要としている家族

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	母 親	父 親	祖 母	祖 父	き よ う だ い	そ の 他	無 回 答
二世帯世帯	350	14.3	8.9	4.9	5.1	70.3	2.6	9.7
三世帯世帯	102	12.7	7.8	46.1	26.5	30.4	1.0	5.9
ひとり親家庭	71	22.5	2.8	9.9	4.2	62.0	2.8	8.5
一人暮らし・寮・施設	2	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0
その他の世帯	33	9.1	3.0	18.2	12.1	27.3	39.4	9.1

家族構成×世話の内容

家族構成×世話の内容

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	家事 (食事の準備や掃除、洗濯)	き よ う だ い の 世 話 や 保 育 所 等 へ の 送 迎 な ど	身 体 的 な 介 護 (入浴やトイレのお 世 話 な ど)	外 出 の 付 き 添 い (買 い 物 、 散 歩 な ど)	通 院 の 付 き 添 い	感 情 面 の サ ポ ー ト (愚 痴 を 聞 く 、 話 し 相 手 に な る な ど)	見 守 り	通 訳 (日 本 語 や 手 話 な ど)	金 銭 管 理	薬 の 管 理	そ の 他	無 回 答
二世帯世帯	350	40.3	39.7	14.0	19.7	2.0	12.3	43.7	1.7	1.7	3.4	2.6	16.9
三世帯世帯	102	44.1	15.7	14.7	21.6	4.9	22.5	49.0	2.9	2.0	8.8	2.0	13.7
ひとり親家庭	71	56.3	21.1	14.1	29.6	4.2	14.1	36.6	0.0	2.8	1.4	4.2	18.3
一人暮らし・寮・施設	2	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他の世帯	33	39.4	18.2	15.2	24.2	3.0	24.2	48.5	6.1	0.0	6.1	3.0	15.2

家族構成×世話を一緒にしている人

家族構成×世話を一緒にしている人

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	母 親	父 親	祖 母	祖 父	き よ う だ い	親 戚 の 人	自 分 の み	利 用 福 祉 サ ー ビ ス (ヘル パー など) を	そ の 他	無 回 答
二世帯世帯	350	62.9	52.0	9.1	6.3	44.9	4.6	11.7	4.3	0.3	13.1
三世帯世帯	102	52.9	34.3	17.6	7.8	39.2	3.9	10.8	6.9	2.9	11.8
ひとり親家庭	71	49.3	5.6	8.5	2.8	25.4	1.4	22.5	2.8	2.8	18.3
一人暮らし・寮・施設	2	100.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他の世帯	33	51.5	27.3	36.4	12.1	36.4	9.1	15.2	6.1	12.1	9.1

家族構成×世話の頻度

家族構成×世話の頻度

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	ほ ぼ 毎 日	週 に 3 〜 5 日	週 に 1 〜 2 日	1 か 月 に 数 日	そ の 他	無 回 答
二世帯世帯	350	50.3	13.7	14.6	8.6	2.3	10.6
三世帯世帯	102	48.0	15.7	15.7	7.8	2.9	9.8
ひとり親家庭	71	52.1	14.1	11.3	9.9	0.0	12.7
一人暮らし・寮・施設	2	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
その他の世帯	33	45.5	18.2	15.2	9.1	3.0	9.1

家族構成×世話に費やす時間

家族構成×世話に費やす時間

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	3 時 間 未 満	3 〜 7 時 間	7 時 間 以 上	無 回 答
二世帯世帯	350	48.0	29.4	10.3	12.3
三世帯世帯	102	53.9	25.5	9.8	10.8
ひとり親家庭	71	36.6	32.4	15.5	15.5
一人暮らし・寮・施設	2	50.0	0.0	50.0	0.0
その他の世帯	33	45.5	33.3	9.1	12.1

家族構成×世話による制約

家族構成×世話による制約

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	学 校 に 行 き た く て も 行 け な い	ど う し て も 学 校 を 遅 刻 ・ 早 退 し て し ま う	宿 題 を す る 時 間 や 勉 強 す る 時 間 が 取 れ な い	睡 眠 が 十 分 に 取 れ な い	友 人 と 遊 ぶ こ と が で き な い	部 活 や 習 い 事 が で き な い 、 も し く は 辞 め ざ る を 得 な か っ た	進 路 の 変 更 を 考 え ざ る を 得 な い 、 も し く は 進 路 を 変 更 し た	自 分 の 時 間 が 取 れ な い	そ の 他	特 に な い	無 回 答
二世帯世帯	350	1.1	2.9	11.1	11.1	8.9	2.6	2.6	16.6	1.1	52.0	16.6
三世帯世帯	102	2.0	3.9	8.8	10.8	13.7	2.0	3.9	9.8	1.0	58.8	14.7
ひとり親家庭	71	1.4	7.0	12.7	23.9	12.7	0.0	7.0	16.9	1.4	47.9	11.3
一人暮らし・寮・施設	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
その他の世帯	33	3.0	6.1	21.2	24.2	15.2	6.1	3.0	15.2	0.0	42.4	15.2

家族構成×世話をすることを感じているきつさ

家族構成×世話をすることを感じているきつさ

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	身 体 的 に き つ い	精 神 的 に き つ い	時 間 的 余 裕 が な い	特 に き つ さ は 感 じ て い な い	無 回 答
二世帯世帯	350	5.4	12.6	16.0	59.1	15.4
三世帯世帯	102	6.9	17.6	10.8	67.6	9.8
ひとり親家庭	71	4.2	19.7	18.3	47.9	15.5
一人暮らし・寮・施設	2	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
その他の世帯	33	9.1	27.3	21.2	48.5	15.2

家族構成×世話について相談した経験

家族構成×世話について相談した経験

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	あ る	な い	無 回 答
二世帯世帯	350	17.7	72.6	9.7
三世帯世帯	102	20.6	72.5	6.9
ひとり親家庭	71	22.5	64.8	12.7
一人暮らし・寮・施設	2	0.0	100.0	0.0
その他の世帯	33	30.3	60.6	9.1

家族構成×世話について話を聞いてくれる人の有無

家族構成×世話について話を聞いてくれる人の有無

※サンプル数は数 ※項目は%	サンプル数	いる	いない	無回答
二世帯世帯	254	65.0	34.6	0.4
三世帯世帯	74	67.6	32.4	0.0
ひとり親家庭	46	54.3	43.5	2.2
一人暮らし・寮・施設	2	50.0	50.0	0.0
その他の世帯	20	35.0	65.0	0.0

家族構成×学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援

家族構成×学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援

※サンプル数は数 ※項目は%	サンプル数	自分のいまの状況について話を聞いてほしい	家族のお世話について相談にのってほしい	家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい	家族の病気がい、ケアのサポート	自分が行っているお世話のすべてを代わってくれる人やサ―ビスがほしい	自分が行っているお世話の一部を自由に使える時間がほしい	進路や就職など将来の相談にのってほしい	学校の勉強や受験勉強など学習のサポート	家庭への経済的な支援	わからない	その他	特にない	無回答
二世帯世帯	350	6.0	3.7	2.3	1.4	0.9	6.6	7.1	5.1	5.4	8.9	0.6	59.4	14.3
三世帯世帯	102	4.9	3.9	5.9	3.9	2.9	10.8	7.8	7.8	7.8	11.8	0.0	55.9	9.8
ひとり親家庭	71	5.6	2.8	1.4	1.4	1.4	8.5	11.3	7.0	12.7	14.1	1.4	47.9	12.7
一人暮らし・寮・施設	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0
その他の世帯	33	6.1	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	6.1	0.0	0.0	27.3	0.0	51.5	9.1

(3) 平日1日あたりの世話に費やす時間による生活状況等

平日1日あたりの世話に費やす時間×健康状態

平日1日あたりの世話に費やす時間×健康状態

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	よ い	ま あ よ い	ふ つ う	あ ま り よ く な い	よ く な い	無 回 答
3時間未満	265	47.2	21.1	26.4	3.8	1.5	0.0
3～7時間	163	35.0	19.0	31.9	12.3	1.8	0.0
7時間以上	61	29.5	16.4	41.0	11.5	1.6	0.0

平日1日あたりの世話に費やす時間×出席の状況

平日1日あたりの世話に費やす時間×出席の状況

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	ほ と ん ど 欠 席 し な い	た ま に 欠 席 す る	よ く 欠 席 す る	無 回 答
3時間未満	265	68.3	19.2	12.5	0.0
3～7時間	163	54.0	27.0	19.0	0.0
7時間以上	61	45.9	42.6	11.5	0.0

平日1日あたりの世話に費やす時間×遅刻や早退の状況

平日1日あたりの世話に費やす時間×遅刻や早退の状況

※サンプル数は数 ※項目は%	サンプル数	ほとんどしない	たまにする	よくする	無回答
3時間未満	265	76.6	19.2	3.8	0.4
3～7時間	163	68.1	25.2	6.7	0.0
7時間以上	61	59.0	31.1	9.8	0.0

平日1日あたりの世話に費やす時間×学校生活等であてはまること

平日1日あたりの世話に費やす時間×学校生活等であてはまること

※サンプル数は数 ※項目は%	サンプル数	授業中に居眠りすることが多い	多い 宿題や課題ができていないことが多い	持ち物の忘れ物が多い	部活動や習い事を休むことが多い	提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い	修学旅行などの宿泊行事を欠席する	保健室で過ごすことが多い	学校では1人で過ごすことが多い	友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	特になし	無回答
3時間未満	265	32.5	29.1	17.4	9.4	26.4	1.5	2.6	7.2	7.9	40.4	2.6
3～7時間	163	39.3	30.1	21.5	10.4	34.4	1.8	2.5	8.6	11.7	28.8	3.1
7時間以上	61	47.5	34.4	34.4	16.4	44.3	3.3	14.8	8.2	11.5	24.6	0.0

平日1日あたりの世話に費やす時間×現在の悩みや困りごと

平日1日あたりの世話に費やす時間×現在の悩みや困りごと

※サンプル数は数 ※項目は%	サンプル数	友人との関係のこと	学業成績のこと	進路のこと	部活動のこと	学費（授業料）など学校生活に必要なお金のこと	い塾（通信含む）や習い事ができない	家族の経済的状況のこと	自分と家族との関係のこと	家庭内の人間関係のこと	病気や障がいのある家族のこと	自分のために使える時間が少ない	その他	特にない	無回答
3時間未満	265	17.7	31.7	39.6	14.7	7.2	1.5	8.3	8.7	6.0	7.5	5.3	2.3	34.7	3.0
3～7時間	163	30.7	38.7	46.0	17.8	12.9	6.7	19.6	16.6	9.2	10.4	14.1	3.7	22.1	1.8
7時間以上	61	36.1	45.9	44.3	21.3	13.1	11.5	19.7	26.2	26.2	8.2	26.2	1.6	21.3	1.6

平日1日あたりの世話に費やす時間×世話をするに感じているきつさ

平日1日あたりの世話に費やす時間×世話をするに感じているきつさ

※サンプル数は数 ※項目は%	サンプル数	身体的にきつい	精神的にきつい	時間的余裕がない	特にきつさは感じていない	無回答
3時間未満	265	1.9	10.9	10.6	75.1	5.7
3～7時間	163	9.2	20.2	25.8	57.1	4.3
7時間以上	61	18.0	31.1	27.9	42.6	4.9

平日1日あたりの世話に費やす時間×世話について相談した経験

平日1日あたりの世話に費やす時間×世話について相談した経験

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	あ る	な い	無 回 答
3時間未満	265	18.9	81.1	0.0
3～7時間	163	27.6	72.4	0.0
7時間以上	61	21.3	78.7	0.0

平日1日あたりの世話に費やす時間×世話についての相談相手

平日1日あたりの世話に費やす時間×世話についての相談相手

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	家 族 (父、母、 祖父、祖母、 きょうだい)	親 戚 (おじ、おば など)	友 人	学 校 の 先 生 (保 健 室 の 先 生 以 外)	保 健 室 の 先 生	ス ク ー ル ソ ー シ ヤ ル ワ ー カ ー や ス ク ー ル カ ウ ン セ ラ ー	医 師 や 看 護 師 、 そ の 他 病 院 の 人	ヘル パー や ケ ア マ ネ 、 福 祉 サ ー ビ ス の 人	役 所 や 保 健 セ ン タ ー の 人	近 所 の 人	S N S 上 で の 知 り 合 い	そ の 他	無 回 答
3時間未満	50	64.0	14.0	48.0	22.0	2.0	2.0	2.0	0.0	2.0	0.0	8.0	0.0	0.0
3～7時間	45	66.7	22.2	48.9	20.0	2.2	4.4	11.1	4.4	0.0	4.4	2.2	0.0	0.0
7時間以上	13	46.2	30.8	46.2	15.4	23.1	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	23.1	7.7	0.0

平日1日あたりの世話に費やす時間・世話について相談したことがない理由

平日1日あたりの世話に費やす時間・世話について相談したことがない理由

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	い 誰 か に 相 談 す る ほ ど の 悩 み で は な い	で 家 族 外 の 人 に 相 談 す る よ う な 悩 み で は な い	い 誰 に 相 談 す る の が よ い か わ か ら な い	相 談 で き る 人 が 身 近 に い な い	家 族 の こ と の た め 話 し に く い	家 族 の こ と を 知 ら れ た く な い	い 家 族 に 対 し て 偏 見 を 持 た れ た く な い	相 談 し て も 状 況 が 変 わ る と は 思 わ な い	そ の 他	無 回 答
3時間未満	215	75.8	7.9	5.6	2.8	6.5	3.7	3.3	12.1	7.9	0.5
3～7時間	118	69.5	21.2	5.9	5.1	9.3	7.6	12.7	16.9	4.2	1.7
7時間以上	48	60.4	16.7	18.8	8.3	25.0	8.3	29.2	29.2	4.2	2.1

(4) 世話を必要としている家族による世話の状況等

世話を必要としている家族×回答者の性別

世話を必要としている家族×回答者の性別

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	男 性	女 性	そ の 他	無 回 答
父母のみ	56	62.5	33.9	3.6	0.0
祖父母のみ	67	37.3	56.7	6.0	0.0
きょうだいのみ	297	33.3	65.0	1.7	0.0
複数人	70	57.1	40.0	2.9	0.0

世話を必要としている家族×世話の内容

世話を必要としている家族×世話の内容

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	家事 (食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいの世話や保育所等への 送迎など	身体的な介護(入浴やトイレのお 世話など)	外出の付き添い(買い物、散歩な ど)	通院の付き添い	感情面のサポート(愚痴を聞く、 話し相手になるなど)	見守り	通訳(日本語や手話など)	金銭管理	薬の管理	その他	無 回 答
父母のみ	56	64.3	3.6	3.6	23.2	7.1	26.8	17.9	0.0	1.8	3.6	0.0	10.7
祖父母のみ	67	43.3	0.0	23.9	20.9	4.5	19.4	58.2	1.5	1.5	11.9	1.5	10.4
きょうだいのみ	297	43.1	49.8	15.8	20.5	0.7	11.1	50.2	0.7	1.3	1.0	2.4	7.7
複数人	70	58.6	32.9	18.6	35.7	10.0	24.3	50.0	10.0	5.7	11.4	5.7	11.4

世話を必要としている家族×世話を一緒にしている人

世話を必要としている家族×世話を一緒にしている人

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	母 親	父 親	祖 母	祖 父	き よ う だ い	親 戚 の 人	自 分 の み	福 祉 サ ー ビ ス （ ヘル パー など ） を 利 用	そ の 他	無 回 答
父母のみ	56	32.1	26.8	7.1	3.6	26.8	3.6	23.2	5.4	1.8	12.5
祖父母のみ	67	67.2	43.3	16.4	7.5	40.3	9.0	13.4	14.9	0.0	3.0
きょうだいのみ	297	74.1	52.2	12.5	6.7	49.2	2.7	10.8	1.7	1.7	4.0
複数人	70	44.3	35.7	11.4	10.0	40.0	7.1	24.3	8.6	2.9	10.0

世話を必要としている家族×世話を始めた年齢

世話を必要としている家族×世話を始めた年齢

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	就 学 前	小 学 生 （ 低 学 年 ）	小 学 生 （ 高 学 年 ）	中 学 生 以 降	無 回 答
父母のみ	56	1.8	14.3	23.2	44.6	16.1
祖父母のみ	67	1.5	4.5	22.4	47.8	23.9
きょうだいのみ	297	4.7	21.2	46.5	18.9	8.8
複数人	70	5.7	11.4	28.6	24.3	30.0

世話を必要としている家族×世話の頻度

世話を必要としている家族×世話の頻度

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	ほ ぼ 毎 日	週 に 3 〜 5 日	週 に 1 〜 2 日	1 か 月 に 数 日	そ の 他	無 回 答
父母のみ	56	44.6	12.5	16.1	16.1	5.4	5.4
祖父母のみ	67	47.8	17.9	14.9	14.9	4.5	0.0
きょうだいのみ	297	60.6	16.8	13.8	7.4	0.3	1.0
複数人	70	44.3	11.4	20.0	10.0	4.3	10.0

世話を必要としている家族×世話に費やす時間

世話を必要としている家族×世話に費やす時間

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	3 時 間 未 満	3 〜 7 時 間	7 時 間 以 上	無 回 答
父母のみ	56	60.7	26.8	5.4	7.1
祖父母のみ	67	67.2	25.4	6.0	1.5
きょうだいのみ	297	49.8	35.4	11.8	3.0
複数人	70	37.1	31.4	21.4	10.0

世話を必要としている家族×世話による制約

世話を必要としている家族×世話による制約

※サンプル数は数 ※項目は%	サンプル数	学校に行きたくても行けない	どうしても学校を遅刻・早退してしまう	宿題をする時間や勉強する時間が取れない	睡眠が十分に取れない	友人と遊ぶことができない	部活や習い事ができない、もしくは辞めざるを得なかった	進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変更した	自分の時間が取れない	その他	特にない	無回答
父母のみ	56	3.6	1.8	7.1	10.7	8.9	3.6	10.7	14.3	3.6	42.9	10.7
祖父母のみ	67	1.5	1.5	9.0	11.9	13.4	1.5	0.0	7.5	1.5	62.7	11.9
きょうだいのみ	297	1.0	4.0	12.1	13.8	10.1	1.3	2.0	16.8	1.0	60.3	6.4
複数人	70	2.9	10.0	22.9	22.9	20.0	8.6	8.6	27.1	0.0	47.1	10.0

世話を必要としている家族×世話をすることに感じているきつさ

世話を必要としている家族×世話をすることに感じているきつさ

※サンプル数は数 ※項目は%	サンプル数	身体的にきつい	精神的にきつい	時間的余裕がない	特にきつさは感じていない	無回答
父母のみ	56	5.4	28.6	14.3	58.9	5.4
祖父母のみ	67	7.5	17.9	13.4	70.1	6.0
きょうだいのみ	297	5.1	11.1	19.5	66.7	5.4
複数人	70	10.0	27.1	15.7	50.0	14.3

世話を必要としている家族×世話について相談した経験

世話を必要としている家族×世話について相談した経験

※サンプル数は数 ※項目は%	サンプル数	ある	ない	無回答
父母のみ	56	37.5	58.9	3.6
祖父母のみ	67	23.9	76.1	0.0
きょうだいのみ	297	17.8	81.5	0.7
複数人	70	20.0	75.7	4.3

世話を必要としている家族×世話について相談したことがない理由

世話を必要としている家族×世話について相談したことがない理由

※サンプル数は数 ※項目は%	サンプル数	い誰かに相談するほどの悩みではない	で家族外の人に相談するような悩みではない	い誰に相談するのがよいかわからない	相談できる人が身近にいない	家族のこのため話にくい	家族のことを知られたくない	い家族に対して偏見を持たれたくない	ない相談しても状況が変わると思わない	その他	無回答
父母のみ	33	60.6	21.2	3.0	6.1	18.2	15.2	21.2	21.2	0.0	3.0
祖父母のみ	51	70.6	13.7	9.8	2.0	3.9	2.0	9.8	17.6	2.0	2.0
きょうだいのみ	242	75.6	11.2	6.2	2.9	7.9	3.3	6.6	13.6	7.4	0.4
複数人	53	56.6	18.9	15.1	11.3	17.0	11.3	15.1	17.0	11.3	3.8

世話を必要としている家族×世話について話を聞いてくれる人の有無

世話を必要としている家族×世話について話を聞いてくれる人の有無

※サンプル数は数 ※項目は%	サン プル 数	い る	い な い	無 回 答
父母のみ	33	54.5	42.4	3.0
祖父母のみ	51	56.9	43.1	0.0
きょうだいのみ	242	67.4	32.2	0.4
複数人	53	54.7	45.3	0.0

世話を必要としている家族×学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援

世話を必要としている家族×学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援

※サンプル数は数 ※項目は%	サン プル 数	自 分 の い ま の 状 況 に つ い て 話 を 聞 い て ほ し い	家 族 の お 世 話 に つ い て 相 談 に の つ て ほ し い	な ど の 病 気 や 障 が り や ケ ア の こ と に つ い て わ か り や す く 説 明 し て ほ し い	家 族 の お 世 話 に つ い て 相 談 に の つ て ほ し い	自 分 が 行 っ て く れ る 人 や お 世 話 の す べ て を 代 わ っ て く れ る 人 や お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ る 人 や お 世 話 の 一 部 を	自 由 に 使 え る 時 間 が ほ し い	進 路 や 就 職 な ど 将 来 の 相 談 に の つ て ほ し い	学 校 の 勉 強 や 受 験 勉 強 な ど 学 習 の サ ポ ー ト	家 庭 へ の 経 済 的 な 支 援	わ か ら な い	そ の 他	特 に な い	無 回 答
父母のみ	56	10.7	5.4	8.9	3.6	3.6	7.1	8.9	5.4	12.5	10.7	1.8	48.2	8.9
祖父母のみ	67	3.0	3.0	3.0	1.5	1.5	7.5	3.0	3.0	6.0	11.9	0.0	62.7	9.0
きょうだいのみ	297	5.4	3.0	0.7	0.7	0.3	8.1	9.1	6.4	5.7	12.1	0.0	67.0	3.7
複数人	70	8.6	7.1	8.6	7.1	4.3	12.9	8.6	10.0	11.4	17.1	1.4	45.7	7.1

(5) 世話をすることを感じているきつさによる世話の状況の違い

世話をすることを感じているきつさ×世話対象の状況

世話をすることを感じているきつさ×父母の状況

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	高 齢 （ 6 5 歳 以 上 ）	要 介 護 （ 介 護 が 必 要 な 状 態 ）	認 知 症	身 体 障 が い	知 的 障 が い	精 神 疾 患 （ 疑 い 含 む ）	依 存 症 （ ア ル コ ー ル 依 存 症 ・ ギ ャ ン プ ル 依 存 症 な ど ） （ 疑 い 含 む ）	精 神 疾 患 ・ 依 存 症 以 外 の 病 気	日 本 語 を 話 す こ と が 苦 手	そ の 他	無 回 答
身体的にきつい	9	22.2	44.4	11.1	33.3	33.3	44.4	33.3	33.3	33.3	11.1	0.0
精神的にきつい	28	0.0	17.9	0.0	32.1	7.1	32.1	25.0	17.9	14.3	10.7	0.0
時間的余裕がない	16	6.3	31.3	0.0	25.0	12.5	31.3	25.0	25.0	18.8	18.8	0.0
特にきつさは感じていない	54	24.1	5.6	3.7	27.8	3.7	18.5	5.6	3.7	1.9	18.5	13.0

世話をすることを感じているきつさ×祖父母の状況

身体的にきつい	10	80.0	50.0	30.0	30.0	30.0	30.0	20.0	20.0	20.0	20.0	0.0
精神的にきつい	23	82.6	34.8	47.8	30.4	8.7	17.4	4.3	8.7	8.7	13.0	0.0
時間的余裕がない	12	100.0	33.3	41.7	16.7	16.7	8.3	8.3	8.3	8.3	0.0	0.0
特にきつさは感じていない	68	80.9	11.8	23.5	11.8	0.0	1.5	1.5	2.9	1.5	5.9	4.4

世話をすることを感じているきつさ×きょうだいの状況

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	幼 い	要 介 護	身 体 障 が い	知 的 障 が い	病 気	日 本 語 が 苦 手	そ の 他	無 回 答
身体的にきつい	21	95.2	9.5	9.5	14.3	4.8	9.5	4.8	0.0
精神的にきつい	46	82.6	4.3	0.0	10.9	4.3	4.3	15.2	0.0
時間的余裕がない	67	92.5	3.0	1.5	6.0	1.5	3.0	9.0	0.0
特にきつさは感じていない	211	74.9	0.9	10.0	14.7	1.9	1.4	6.6	3.3

世話をすることに感じているきつさ×世話の内容

世話をすることに感じているきつさ×世話の内容

※サンプル数は数 ※項目は%	サンプル数	家事 (食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいの世話や保育所等への 送迎など	身体的な介護 (入浴やトイレのお 世話など)	外出の付き添い (買い物、散歩な ど)	通院の付き添い	感情面のサポート (愚痴を聞く、 話し相手になるなど)	見守り	通訳 (日本語や手話など)	金銭管理	薬の管理	その他	無回答
身体的にきつい	32	78.1	56.3	28.1	34.4	9.4	25.0	65.6	12.5	9.4	21.9	0.0	0.0
精神的にきつい	85	68.2	40.0	18.8	34.1	7.1	31.8	60.0	7.1	3.5	8.2	1.2	2.4
時間的余裕がない	87	64.4	52.9	14.9	33.3	4.6	28.7	52.9	3.4	2.3	6.9	3.4	6.9
特にきつさは感じていない	328	42.1	32.0	16.8	21.0	1.8	12.8	48.5	0.3	1.5	4.6	3.0	5.5

世話をすることに感じているきつさ×世話による制約

世話をすることに感じているきつさ×世話による制約

※サンプル数は数 ※項目は%	サンプル数	学校に行きたくても行けない	どうしても学校を遅刻・早退して しまう	宿題をする時間や勉強する時間が 取れない	睡眠が十分に取れない	友人と遊ぶことができない	部活や習い事ができない、もしくは 辞めざるを得なかった	進路の変更を考えざるを得ない、 もしくは進路を変更した	自分の時間が取れない	その他	特にな い	無回 答
身体的にきつい	32	12.5	18.8	37.5	68.8	34.4	15.6	15.6	59.4	0.0	3.1	0.0
精神的にきつい	85	1.2	8.2	27.1	31.8	23.5	5.9	14.1	40.0	4.7	24.7	3.5
時間的余裕がない	87	2.3	10.3	43.7	40.2	33.3	10.3	10.3	52.9	1.1	14.9	1.1
特にきつさは感じていない	328	0.6	1.5	3.7	6.7	6.1	0.3	0.6	6.7	0.6	77.1	4.6

世話をすることに感じているきつさ×世話について相談した経験

世話をすることに感じているきつさ×世話について相談した経験

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	あ る	な い	無 回 答
身体的にきつい	32	40.6	59.4	0.0
精神的にきつい	85	38.8	61.2	0.0
時間的余裕がない	87	32.2	67.8	0.0
特にきつさは感じていない	328	17.1	82.6	0.3

世話をすることに感じているきつさ×世話について相談したことがない理由

世話をすることに感じているきつさ×世話について相談したことがない理由

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	い 誰 か に 相 談 す る ほ ど の 悩 み で は な い	で 家 族 外 の 人 に 相 談 す る よ う な 悩 み は な い	い 誰 に 相 談 す る の が よ い か わ か ら な い	相 談 で き る 人 が 身 近 に い な い	家 族 の こ と の た め 話 し に く い	家 族 の こ と を 知 ら れ た く な い	い 家 族 に 対 し て 偏 見 を 持 た れ た く な い	な い 相 談 し て も 状 況 が 変 わ る と は 思 わ な い	そ の 他	無 回 答
身体的にきつい	19	31.6	26.3	42.1	26.3	36.8	31.6	42.1	52.6	0.0	0.0
精神的にきつい	52	48.1	25.0	25.0	13.5	30.8	21.2	32.7	50.0	3.8	0.0
時間的余裕がない	59	44.1	18.6	18.6	15.3	23.7	16.9	23.7	39.0	10.2	0.0
特にきつさは感じていない	271	81.5	11.1	2.6	0.7	4.1	1.5	4.1	5.9	6.6	1.1

世話をすることに感じているきつさ×世話について話を聞いてくれる人の有無

世話をすることに感じているきつさ×世話について話を聞いてくれる人の有無

※サンプル数は数 ※項目は%	サン プル 数	い る	い な い	無 回 答
身体的にきつい	19	42.1	57.9	0.0
精神的にきつい	52	42.3	55.8	1.9
時間的余裕がない	59	45.8	54.2	0.0
特にきつさは感じていない	271	69.0	31.0	0.0

世話をすることに感じているきつさ×学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援

世話をすることに感じているきつさ×学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援

※サンプル数は数 ※項目は%	サン プル 数	自 分 の い ま の 状 況 に つ い て 話 を 聞 い て ほ し い	家 族 の お 世 話 に つ い て 相 談 に の つ て ほ し い	家 族 の 病 気 や 障 が い 、 ケ ア の こ と に つ い て わ か り や す く 説 明 し て ほ し い	ほ ろ ほ と を 代 わ り に 行 っ て く れ る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て く れ る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て く れ る 人 や サ ー ビ ス の 一 部 を 代 わ り に 行 っ て く れ る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て く れ る 人 や サ ー ビ ス の 一 部 を 代 わ り に 行 っ て く れ る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て く れ る 人 や サ ー ビ ス の 一 部 を 代 わ り に 行 っ て く れ る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て く れ る 人 や サ ー ビ ス の 一 部 を 代 わ り に 行 っ て く れ る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	進 路 や 就 職 な ど 将 来 の 相 談 に の つ て ほ し い	サ ポ ー ト の 勉 強 や 受 験 勉 強 な ど 学 習 の 支 援	家 庭 へ の 経 済 的 な 支 援	わ か ら な い	そ の 他	特 に な い	無 回 答
身体的にきつい	32	25.0	15.6	12.5	15.6	9.4	34.4	9.4	21.9	21.9	21.9	0.0	15.6	9.4			
精神的にきつい	87	14.9	12.6	6.9	6.9	2.3	20.7	13.8	13.8	19.5	23.0	1.1	31.0	5.7			
時間的余裕がない	89	16.9	11.2	5.6	4.5	3.4	31.5	13.5	12.4	13.5	20.2	1.1	34.8	2.2			
特にきつさは感じていない	328	2.4	0.6	2.4	0.6	0.6	2.4	6.7	4.0	3.4	8.8	0.3	74.7	3.0			

世話をすることを感じているきつさ×希望する相談方法

世話をすることを感じているきつさ×希望する相談方法

※サンプル数は数 ※項目は%	サ ン プ ル 数	直 接 会 っ て	電 話	S N S	電 子 メ ー ル	そ の 他	無 回 答
身体的にきつい	10	80.0	20.0	30.0	20.0	0.0	0.0
精神的にきつい	16	50.0	12.5	43.8	12.5	0.0	0.0
時間的余裕がない	16	50.0	0.0	37.5	31.3	0.0	0.0
特にきつさは感じていない	10	60.0	50.0	30.0	20.0	0.0	0.0

(6) 世話について相談した経験

世話について相談した経験×世話による制約

世話について相談した経験×世話による制約

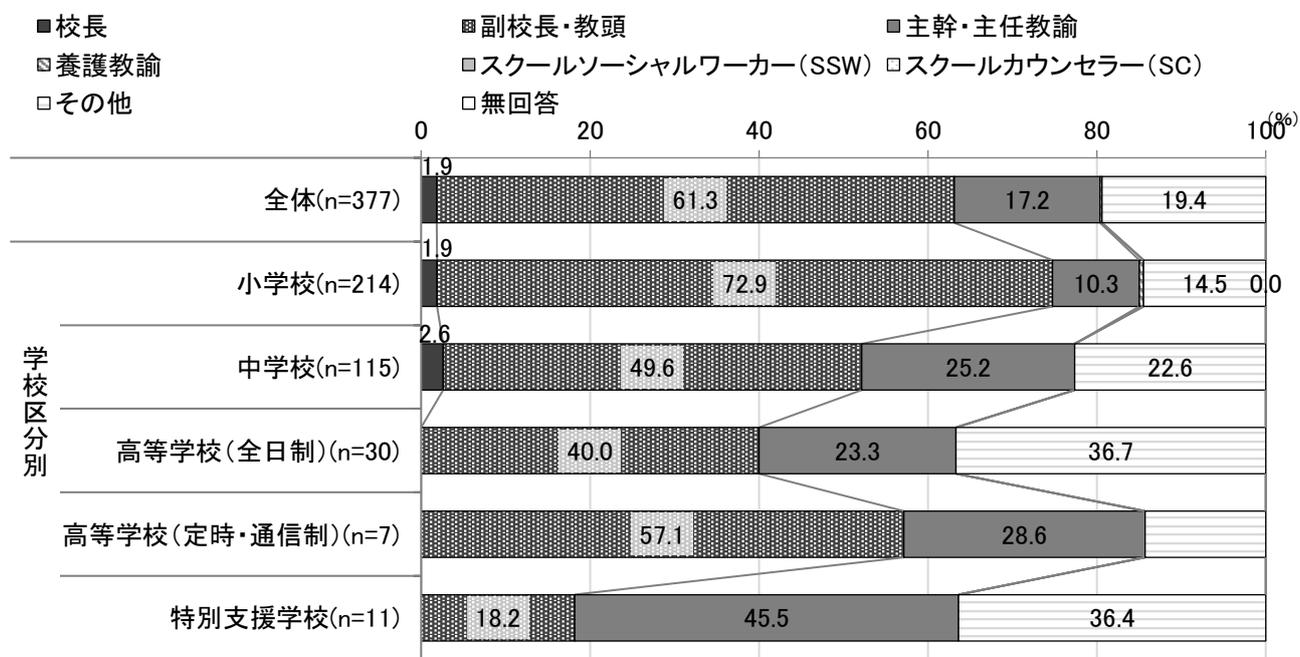
※サンプル数は数 ※項目は%	サンプル数	学校に行きたくても行けない	どうしても学校を遅刻・早退してしまう	宿題をする時間や勉強する時間が取れない	睡眠が十分に取れない	友人と遊ぶことができない	部活や習い事ができない、もしくは辞めざるを得なかった	進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変更した	自分の時間が取れない	その他	特にない	無回答
ある	109	2.8	7.3	14.7	18.3	13.8	4.6	5.5	23.9	0.9	45.9	6.4
ない	396	1.3	3.3	12.1	13.9	11.1	2.0	3.3	14.9	1.3	60.9	6.8

V 調査結果（学校）

問1 ご回答された方の役職をお教えてください。(あてはまる番号1つに○)

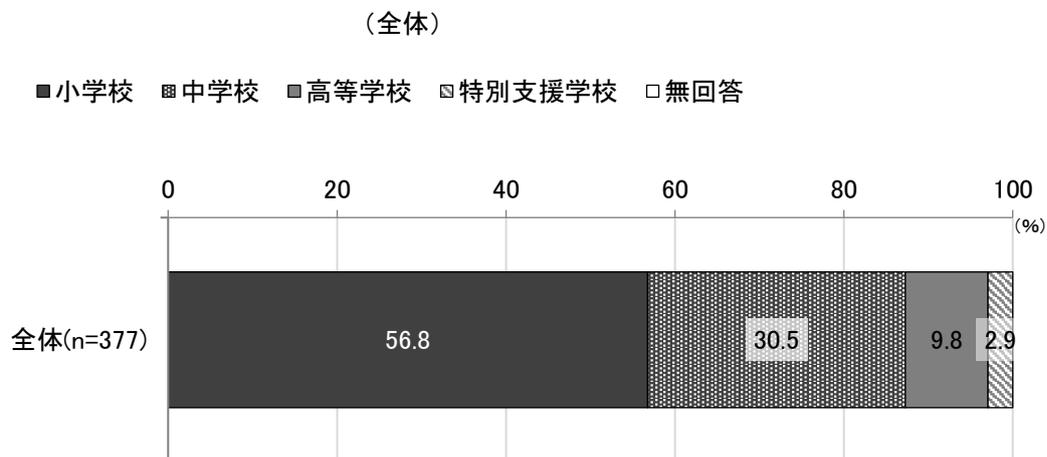
全体で見ると、「副校長・教頭」が61.3%と最も高く、次いで「その他」が19.4%、「主幹・主任教諭」が17.2%となっています。

(全体・学校区分別)



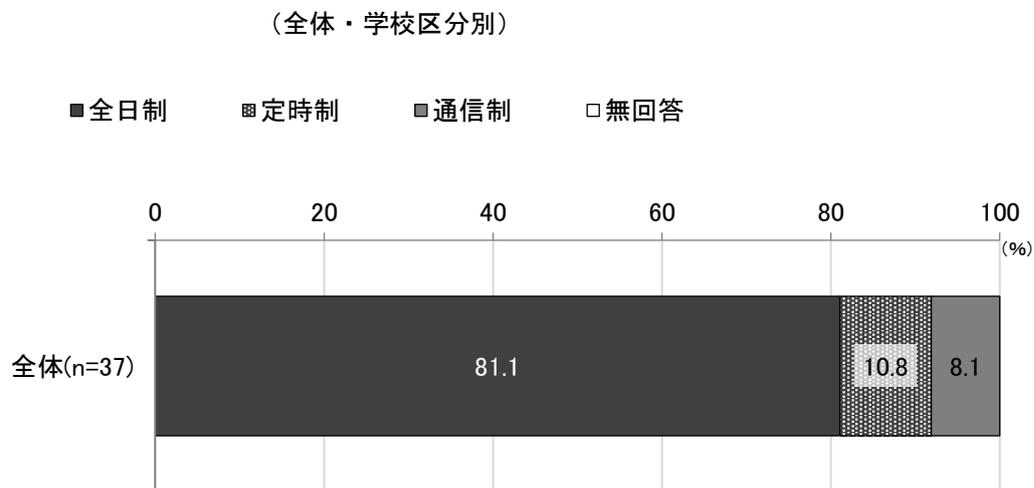
問2 貴校の学校区分をお教えてください。(あてはまる番号1つに○)

全体でみると、「小学校」が56.8%、「中学校」が30.5%、「高等学校」が9.8%、「特別支援学校」が2.9%となっています。



① 課程

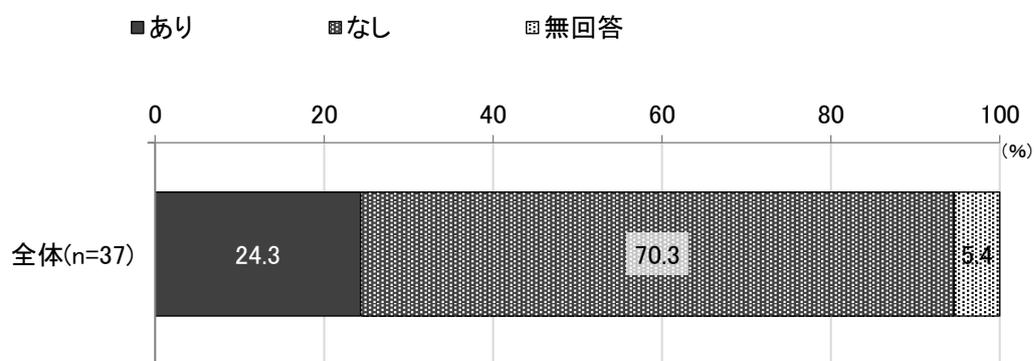
高等学校全体でみると、「全日制」が81.1%、「定時制」が10.8%、「通信制」が8.1%となっています。



② 単位制の有無

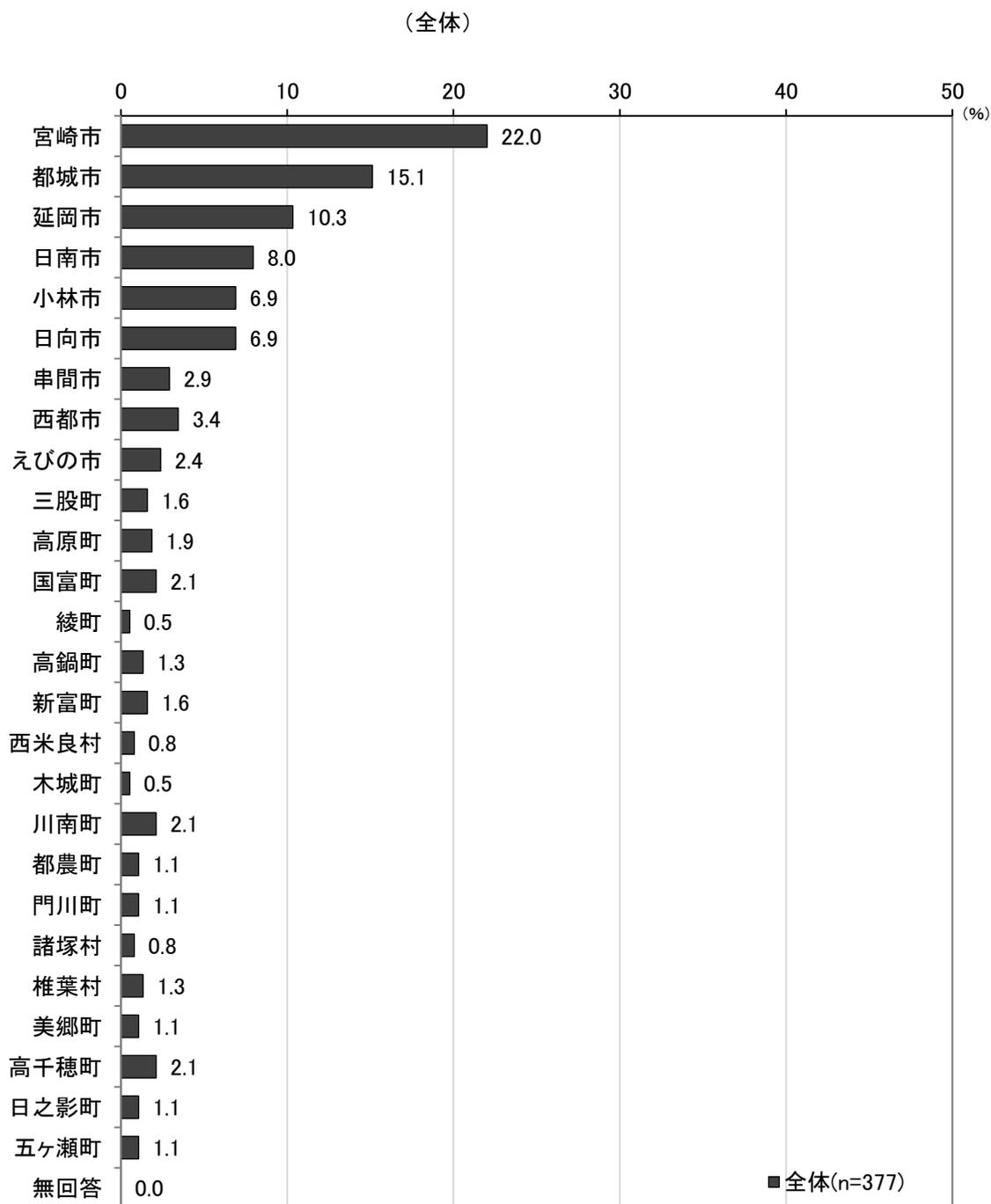
高等学校全体でみると、「あり」が24.3%、「なし」が70.3%となっています。

(全体・学校区分別)



問3 貴校の所在地をお教えてください。

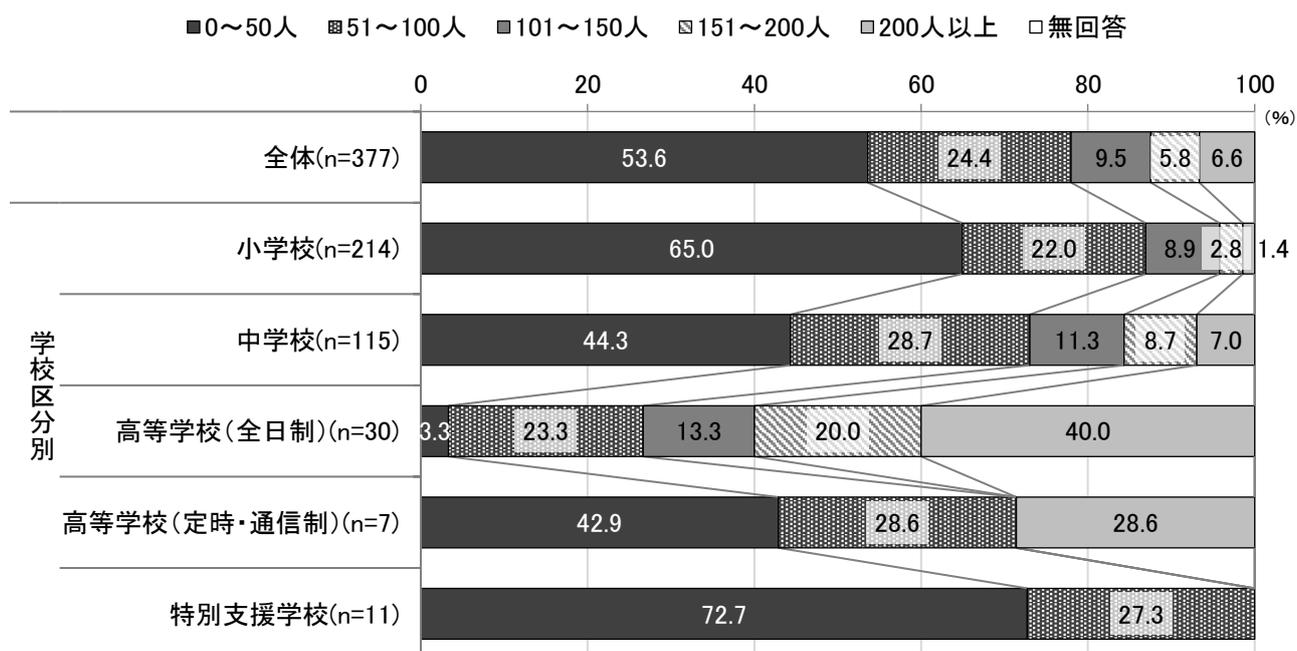
全体でみると、「宮崎市」が22.0%と最も高く、次いで「都城市」が15.1%、「延岡市」が10.3%となっています。



問 4 小学校については小学 6 年生、中学校については中学 2 年生、高等学校については高校 2 年生の人数、特別支援学校については調査対象学年の合計についてお教えてください（令和 4 年 8 月 1 日時点）。

小学校、中学校、高等学校（定時・通信制）、特別支援学校は「0～50 人」の割合が高く、高等学校（全日制）は「200 人以上」の割合が高くなっています。

（全体・学校区分別）



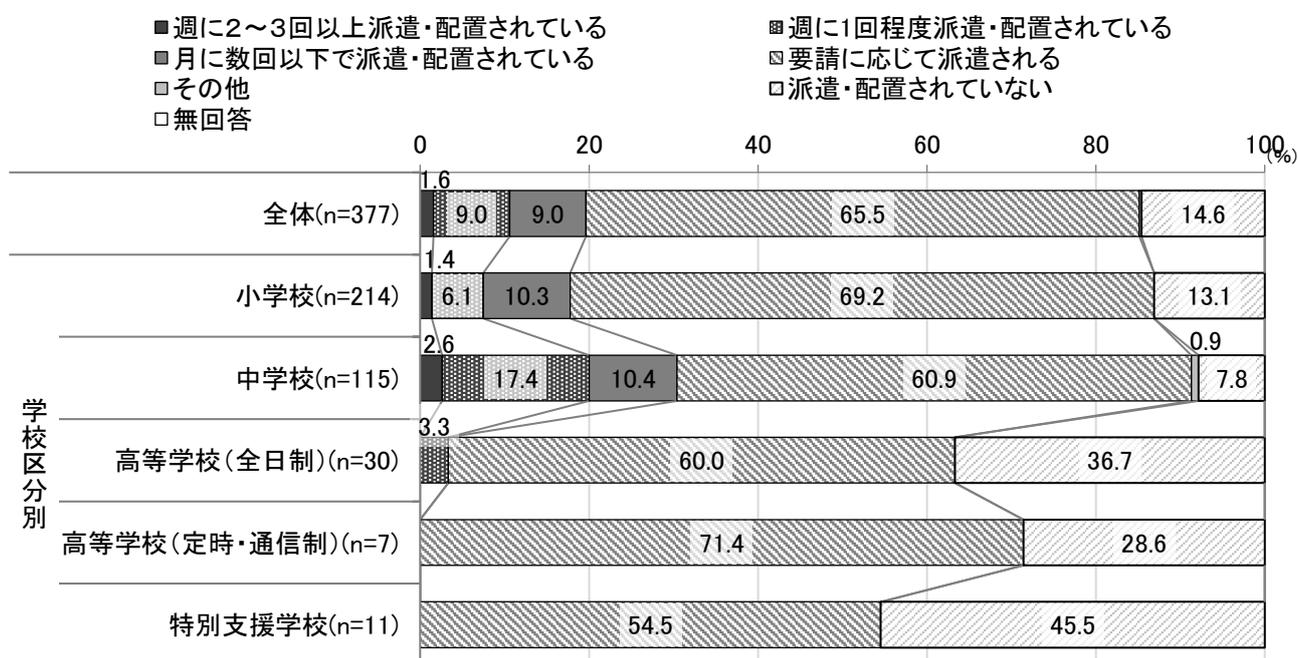
問5 SSW（スクールソーシャルワーカー）、SC（スクールカウンセラー）の派遣・配置状況をお伺いします。

(1) SSW（スクールソーシャルワーカー）の派遣・配置状況（あてはまる番号1つに○）

全体で見ると、「要請に応じて派遣される」が65.5%と最も高く、次いで「派遣・配置されていない」が14.6%、「週に1回程度派遣・配置されている」と「月に数回以下で派遣・配置されている」が9.0%となっています。

学校区分別で見ると、月に1回以上（週に2～3回、週に1回程度、月に数回以下）派遣・配置されていると回答した割合は、小学校が17.8%、中学校が30.4%、高等学校（全日制）が3.3%となっています。

(全体・学校区分別)

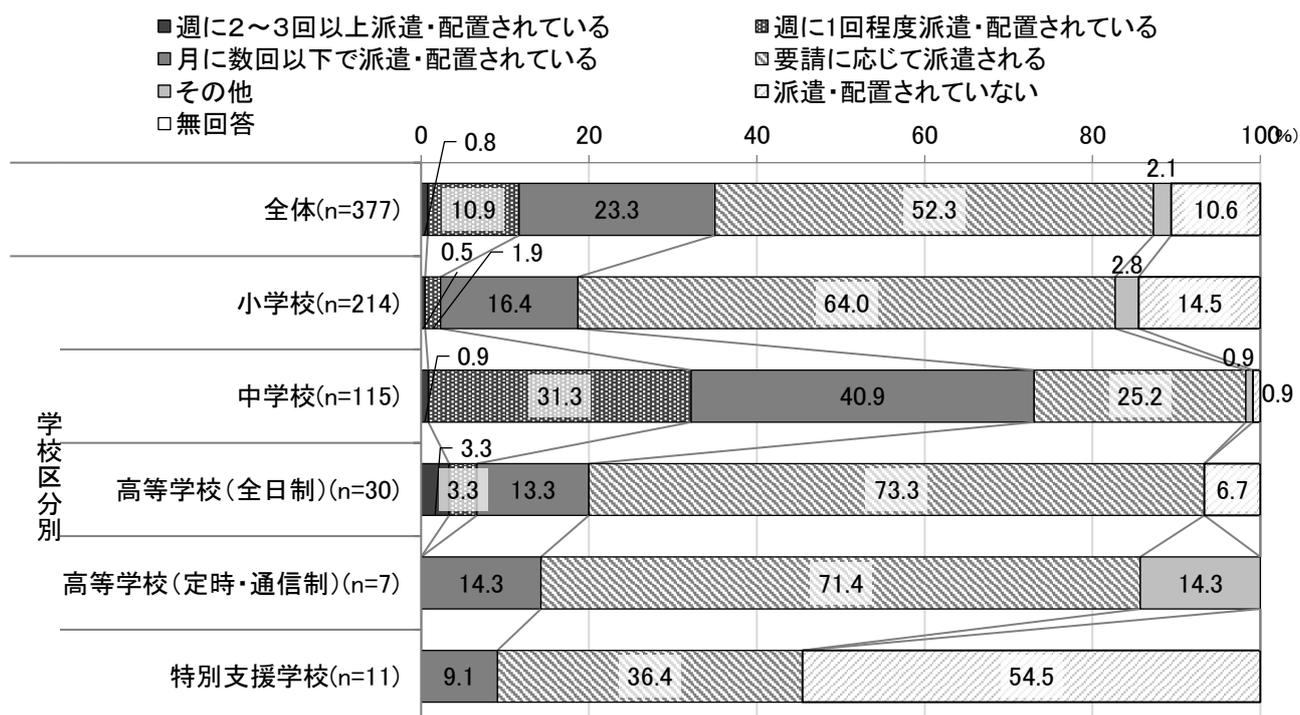


(2) SC (スクールカウンセラー) の派遣・配置状況 (あてはまる番号1つに○)

全体で見ると、「要請に応じて派遣される」が52.3%と最も高く、次いで「月に数回以下で派遣・配置されている」が23.3%、「週に1回程度派遣・配置されている」が10.9%となっています。

学校区分別で見ると、月に1回以上(週に2~3回、週に1回程度、月に数回以下)派遣・配置されていると回答した割合は、小学校が18.8%、中学校が73.1%、高等学校(全日制)が19.9%、高等学校(定時・通信制)が14.3%、特別支援学校が9.1%となっています。

(全体・学校区分別)

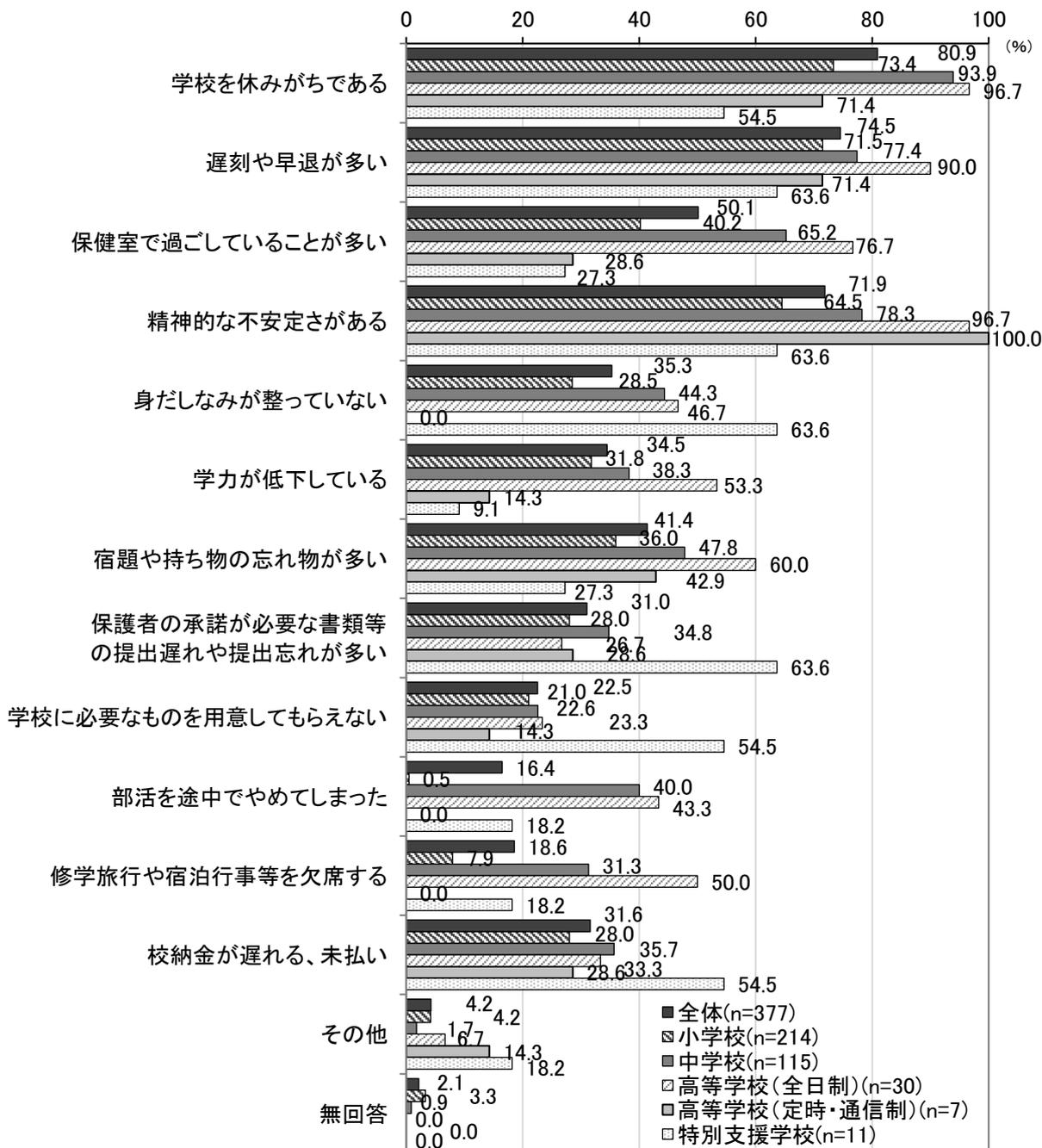


問6 下記の子どもについて校内で共有しているケースはありますか。

(あてはまる番号すべてに○)

全体でみると、「学校を休みがちである」が80.9%と最も高く、次いで「遅刻や早退が多い」が74.5%、「精神的な不安定さがある」が71.9%、「保健室で過ごしていることが多い」50.1%となっています。

(全体・学校区分別)



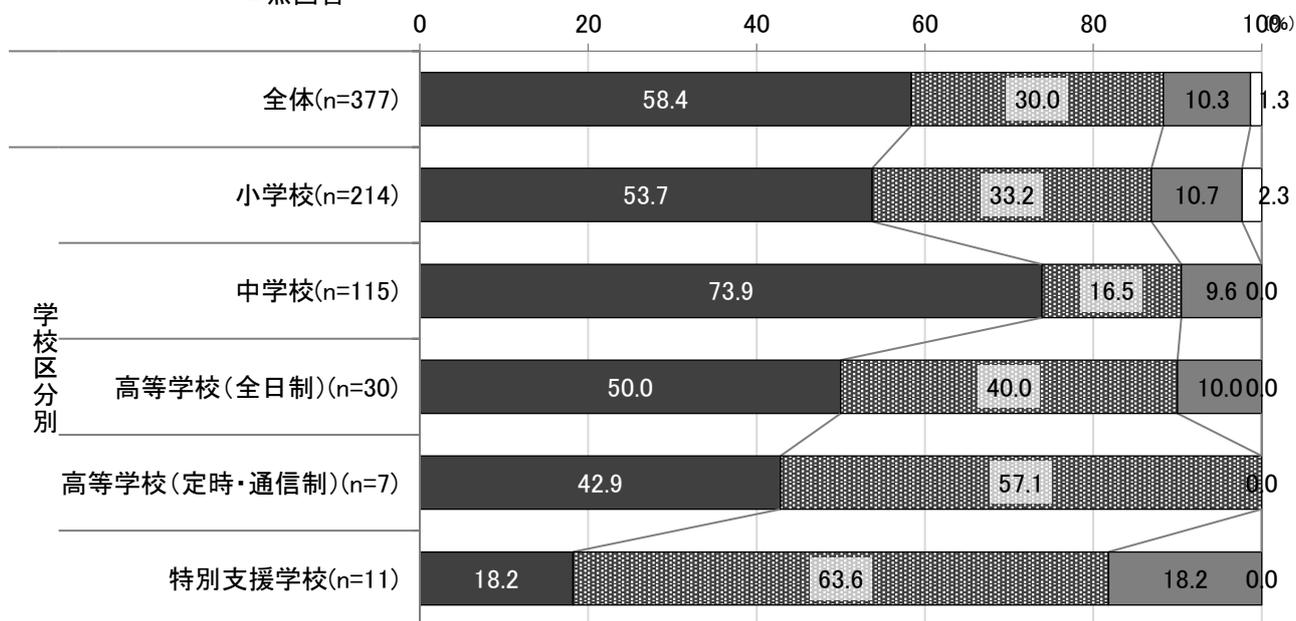
問7 問6のケースについて、どのような体制で情報共有・対応の検討を行っていますか。最も多いケースでご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

全体でみると、「不登校の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」が58.4%、「不登校以外の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」が30.0%、「個別に対応している(決まった検討体制はない)」が10.3%となっています。

学校区別でみると、「不登校の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」は、中学校が73.9%と最も高くなっています。

(全体・学校区別)

- 不登校の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している
- ▨ 不登校以外の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している
- 個別に対応している(決まった検討体制はない)
- 無回答

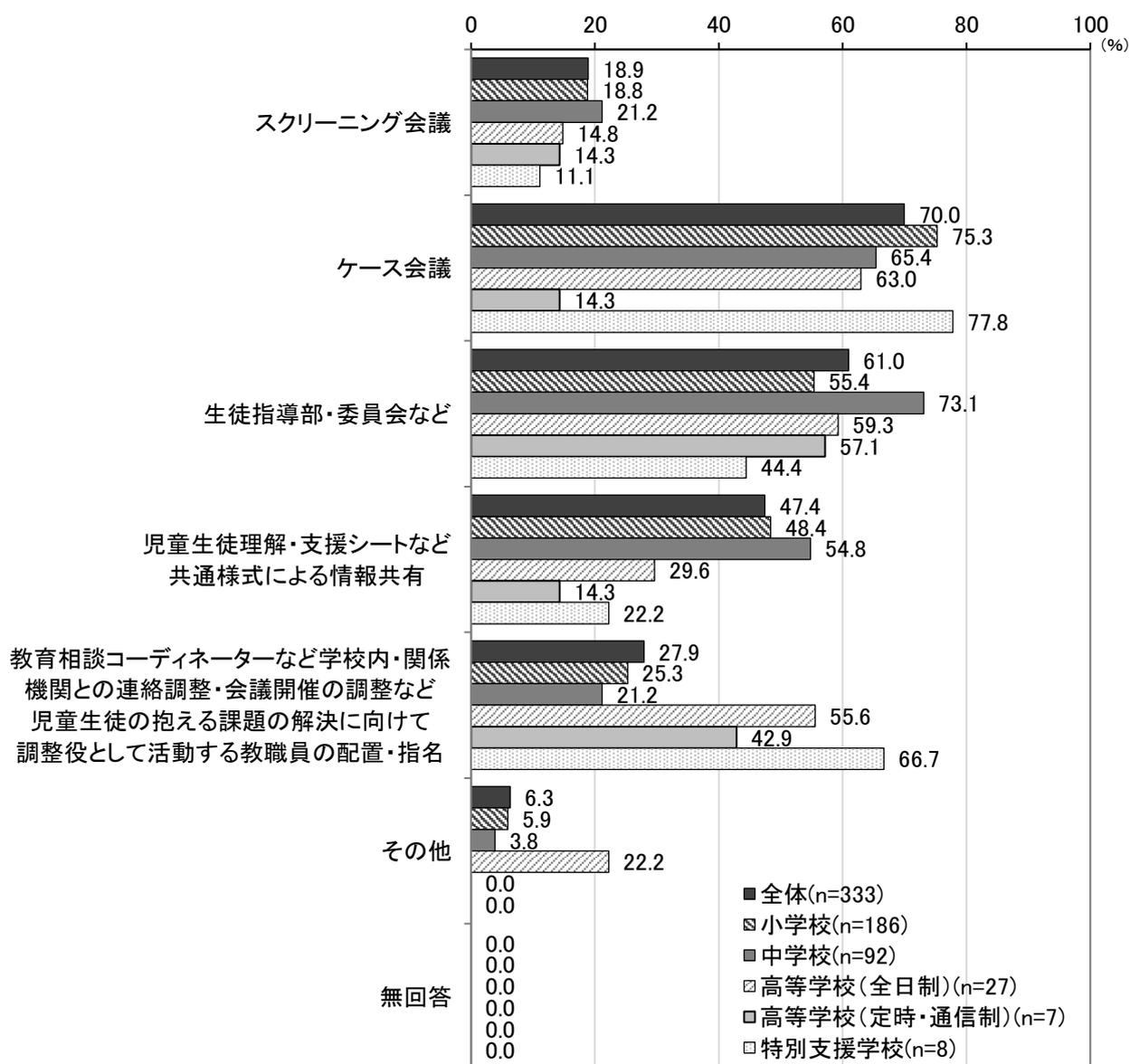


問8 問7で「1. 不登校の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」、「2. 不登校以外の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」と回答した方にお伺いします。校内ではどのような体制で情報共有・対応の検討を行っていますか。

(1) 情報共有・対応の検討方法等（あてはまる番号すべてに○）

全体でみると、「ケース会議」が70.0%と最も高く、次いで「生徒指導部・委員会など」が61.0%、「児童生徒理解・支援シートなど共通様式による情報共有」が47.4%となっています。

(全体・学校区分別)



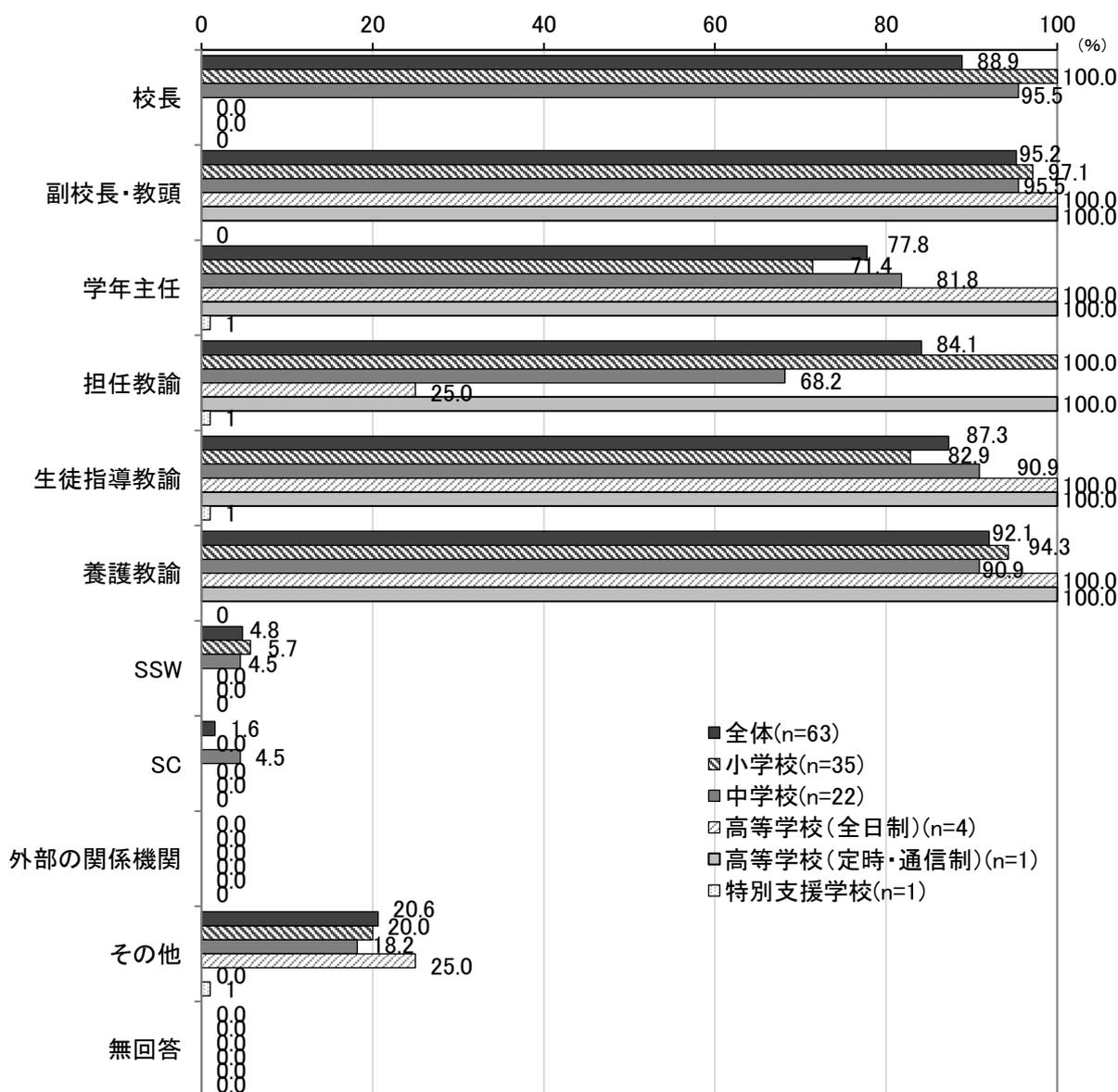
(2) (1)で「1. スクリーニング会議」「2. ケース会議」「3. 生徒指導部・委員会など」、「6. その他」と回答した方にお伺いします。

どの教職員が参加していますか。また、会議の頻度はどれくらいですか。

1. スクリーニング会議（参加者）

全体でみると、「校長」「副校長・教頭」「担任教諭」「生徒指導教諭」「養護教諭」の参加率が80%以上となっています。

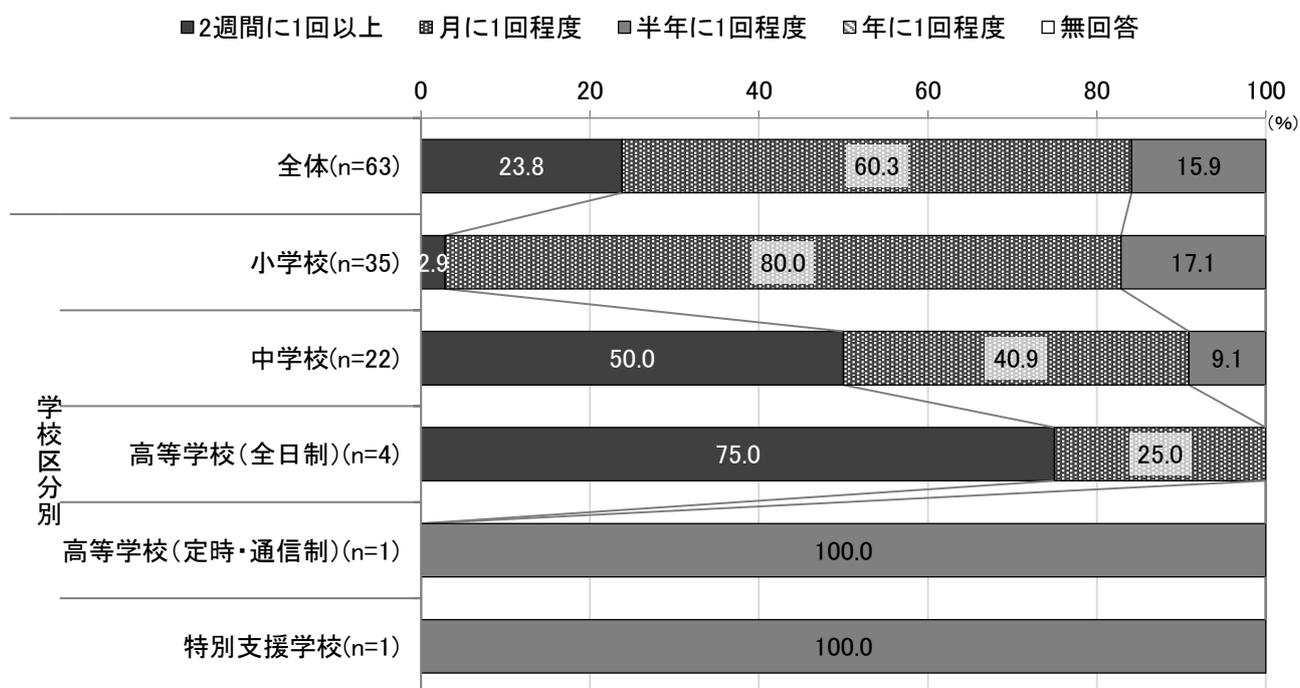
(全体・学校区分別)



1. スクリーニング会議（頻度）

全体で見ると、「月に1回程度」が60.3%、「2週間に1回以上」が23.8%、「半年に1回程度」が15.9%、「年に1回程度」が2.9%、「無回答」が17.1%となっています。

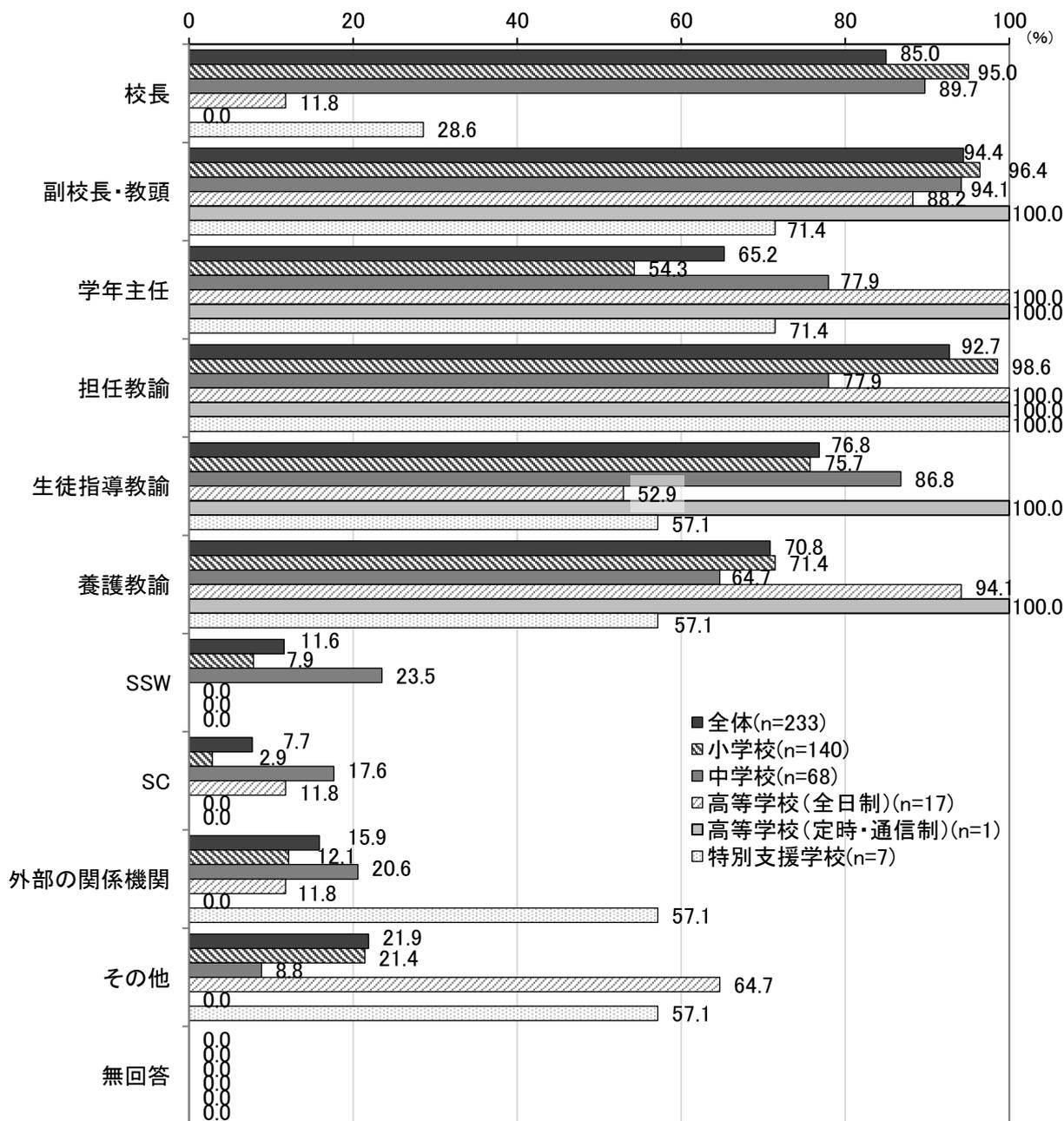
（全体・学校区分別）



2. ケース会議（参加者）

全体でみると、「校長」「副校長・教頭」「担任教諭」の参加率が80%以上、「生徒指導教諭」「養護教諭」の参加率が70%以上となっています。

（全体・学校区分別）

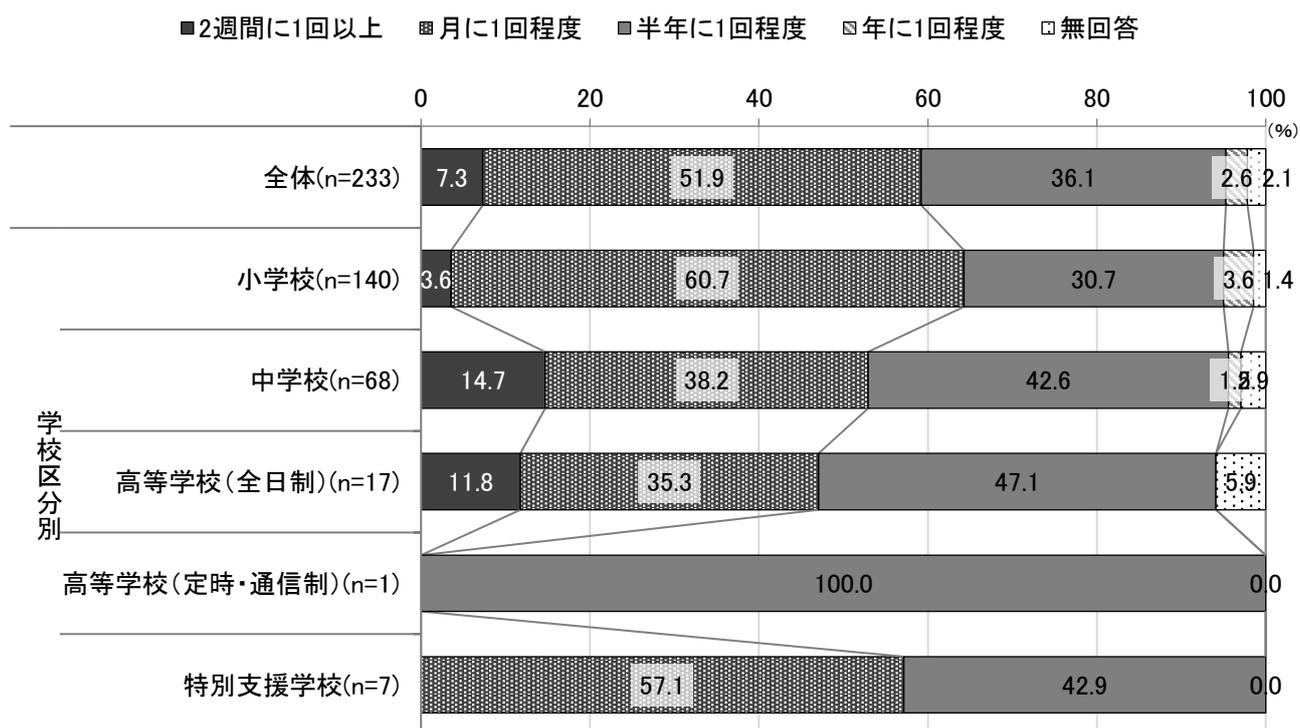


2. ケース会議（頻度）

全体でみると、「月に1回程度」が51.9%、「半年に1回程度」が36.1%、「2週間に1回以上」が7.3%、「年に1回程度」が2.6%となっています。

学校区別でみると、月に1回以上開催されている割合は、小学校が64.3%と最も高く、次いで中学校が52.9%、高等学校（全日制）が47.1%となっています。

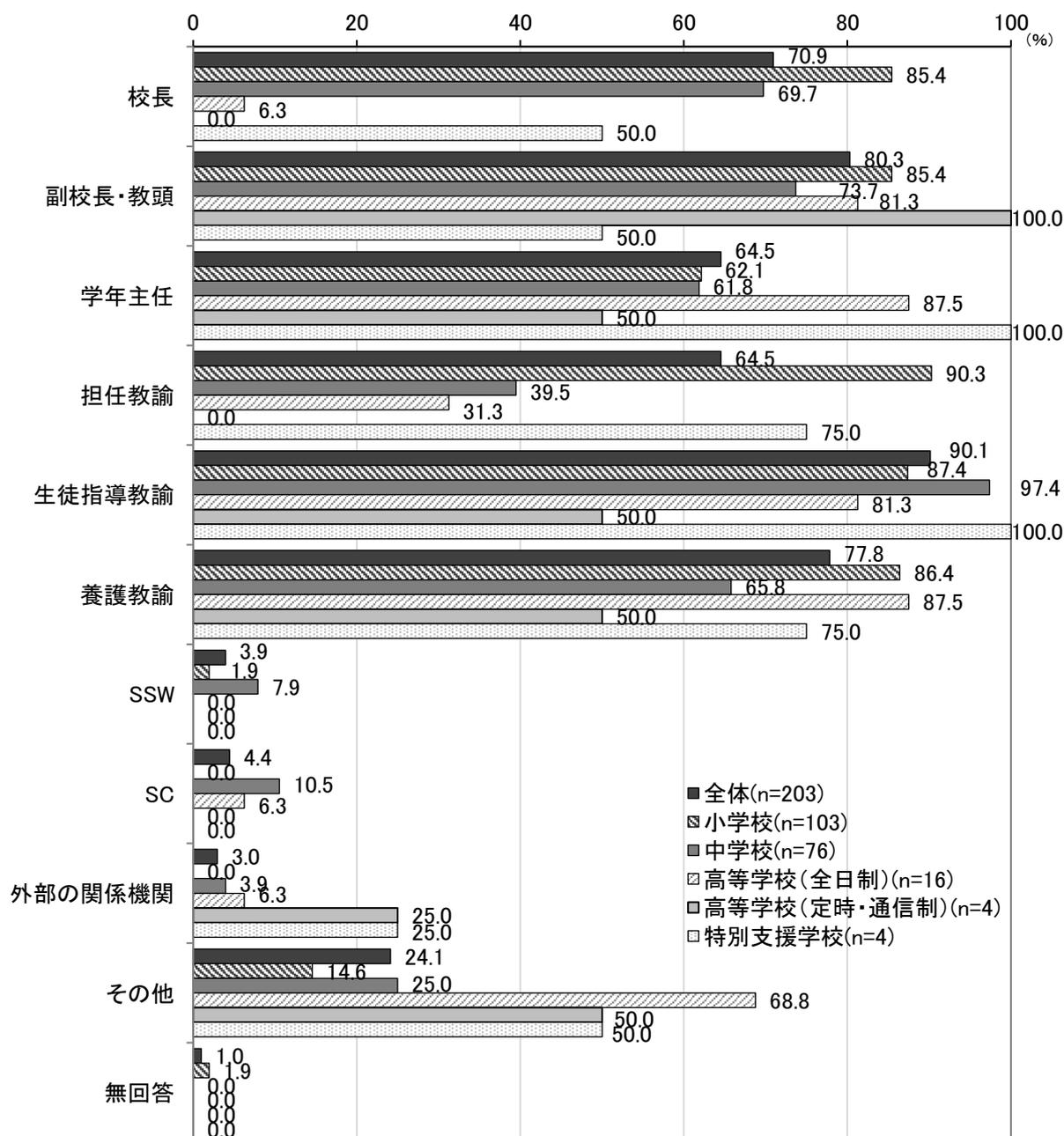
（全体・学校区別）



3. 生徒指導部・委員会など（参加者）

全体でみると、「副校長・教頭」「生徒指導教諭」の参加率が80%以上、「校長」「養護教諭」の参加率が70%以上、「学年主任」「担任教諭」の参加率が60%以上となっています。

（全体・学校区分別）

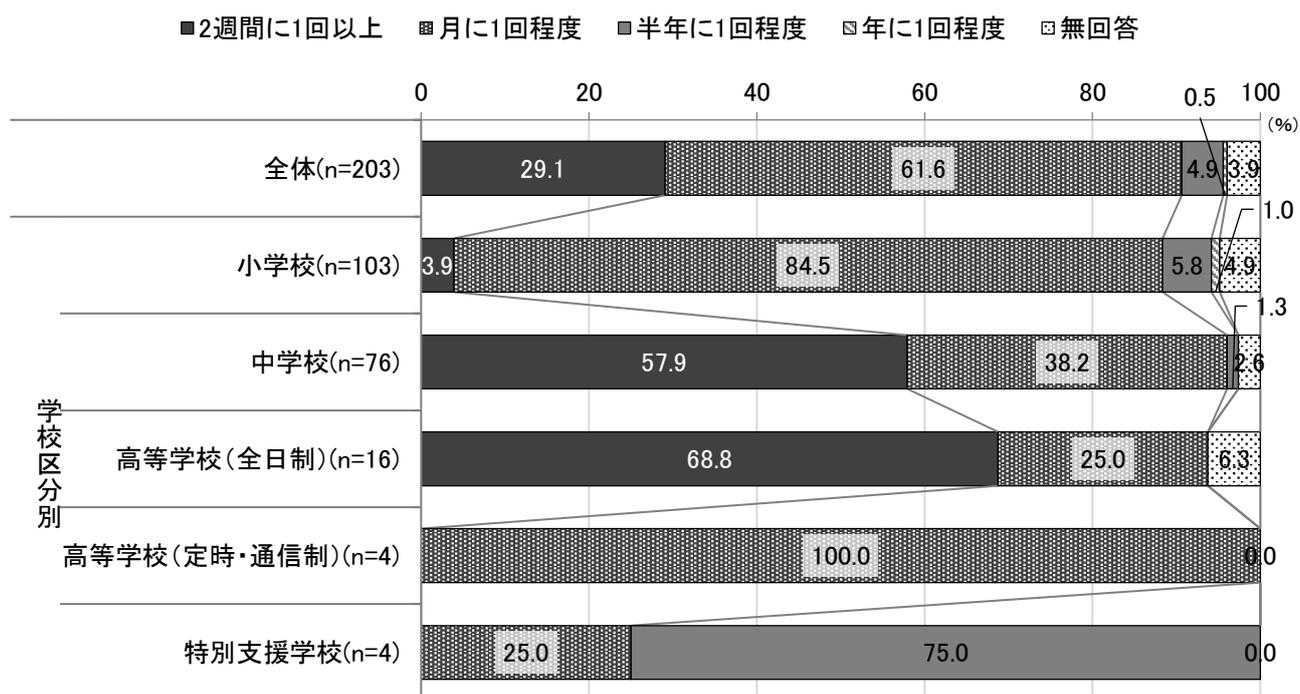


3. 生徒指導部・委員会など（頻度）

全体でみると、「月に1回程度」が61.6%、「2週間に1回以上」が29.1%、「半年に1回程度」が4.9%、「年に1回程度」が0.5%となっています。

学校区別でみると、「2週間に1回以上」は、高等学校（全日制）が68.8%と最も高く、次いで中学校が57.9%となっています。

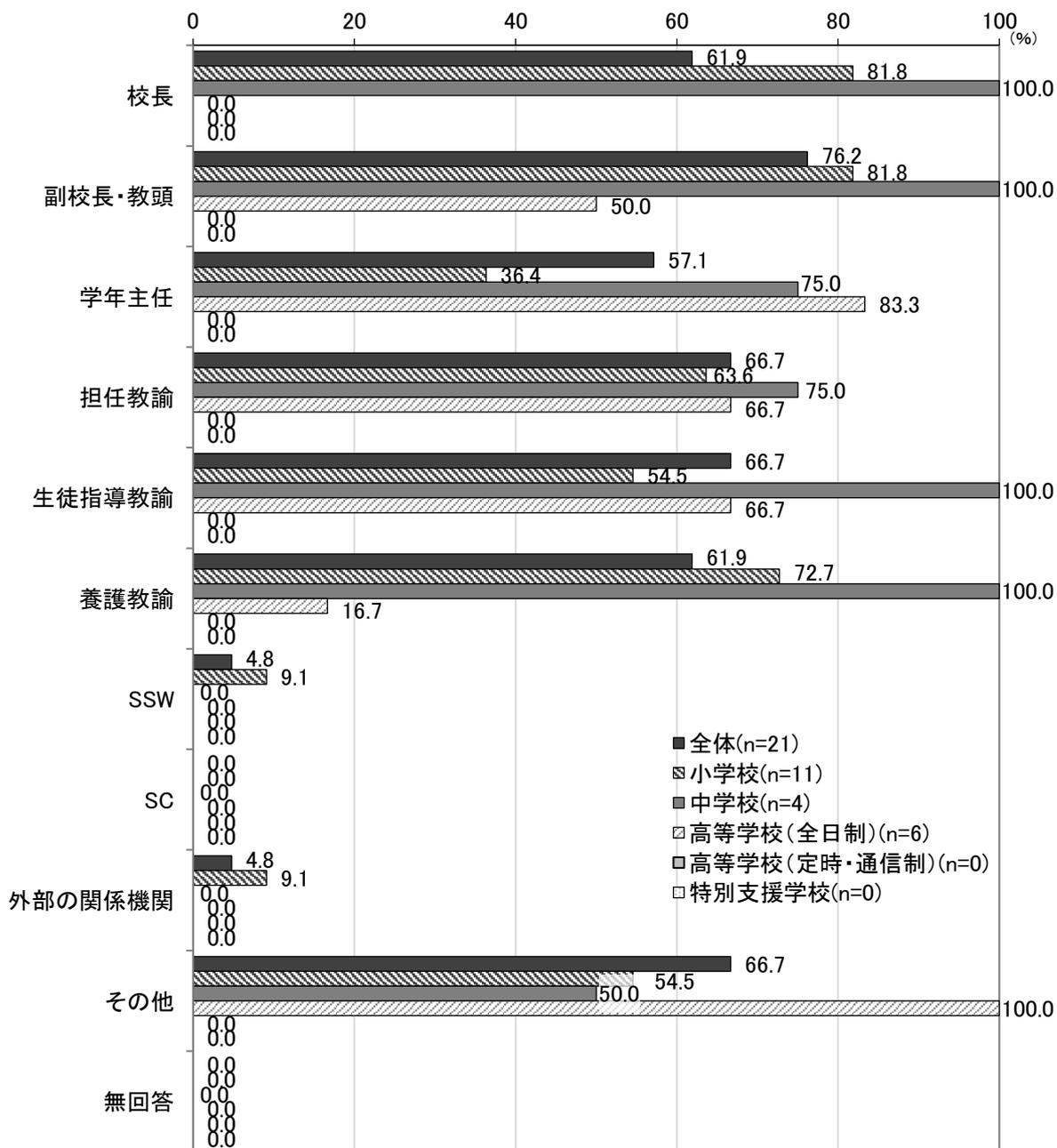
（全体・学校区別）



6. その他（参加者）

全体で見ると、「副校長・教頭」の参加率が70%以上、「校長」「担任教諭」「生徒指導教諭」「養護教諭」「その他」の参加率が60%以上、「学年主任」の参加率が50%以上となっています。

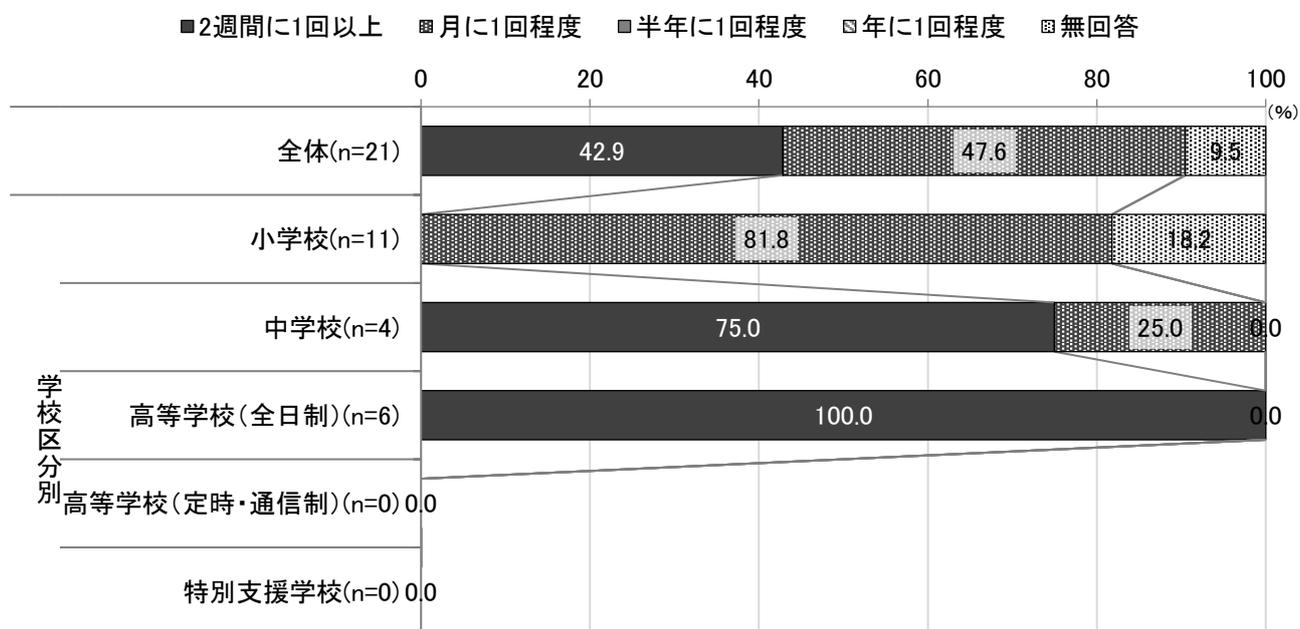
（全体・学校区分別）



6. その他（頻度）

全体で見ると、「月に1回程度」が47.6%、「2週間に1回以上」が42.9%となっています。

（全体・学校区分別）



問9 問7で「3. 個別に対応している」と回答した方にお伺いします。問6のケースについて、貴校ではどのような体制・方法で情報共有・対応の検討を行っていますか。関わる教職員、情報共有や検討の方法、頻度等について、具体的にお教えてください。

小学校
週に1度、終礼の中で全職員が参加する生徒理解の時間を設けている。月に1度、いじめ・不登校対策委員会を全職員で行っている。内容は、情報共有とその児童に対する今後の対応や指導について話し合っている。
担任、管理職で電話をして催促している。
学級担任をはじめ、養護教諭、生徒指導主事を含む全職員で、週1回程度、情報・対策を共有し、個別に対応している。
少人数の学校なので全職員が関わる可能性がある。そのため、情報共有や対応の検討を職員会議や職員朝礼の場面で行っている。
① 学級担任の報告を受け、学年主任、生徒指導主事、特別支援コーディネーター、管理職と情報共有し、必要な対応をしている（児童との教育相談、保護者面談、SCやSSWとの連携、市教委担当との連携など、内容によって対応を検討）。② 校内いじめ不登校対策委員会や職員連絡会などの場で、実態や対応について全職員で情報共有している。
担任による個別連絡及び管理職等への報告
毎日、授業時の状況を簡単にまとめ、翌朝の職員朝会で回覧・報告して情報共有している。対応については、校長、教頭、関係職員等でその都度検討している。
職員内での日常的な情報交換、管理職への相談
本校では特に大きな問題はないが、細々としたことについては、学級担任が対応し、生徒指導主事、管理職へ報告をするようにしている。
月に一度、校長、教頭、教諭、特別支援教育支援員、養護教諭が集まり、個別の対応について確認、検討をおこなっている。
担任の教員や校長、教頭、生徒指導主事、学年の先生方でその都度、対応の仕方や指導、支援体制について話し合いを行なっている。全体では、2ヶ月に1回、全職員での共有を行なっている。
月一度開催している「いじめ不登校委員会」にて、全職員で共有し、必要に応じてケース会議を開くなどして対応している。
対象児童が、遅刻・欠席をした際に、校長、教頭、生徒指導主事、担任で対応を検討し、担任が保護者へ連絡をとる。他の教諭等へは、職員会等の際に、共通理解を図る。
学級担任から管理職、生徒指導主事に状況の報告があり、それをもとに経過観察、指導や支援を行なっている。生徒指導関係では、毎月行なっているいじめ不登校対策委員会のなかで、共通理解を図り、個別指導や学校全体での見守りをおこなっている。生活リズムが整わず、遅刻や欠席がある児童については、担任が保護者と連絡を取りながら、教育委員会や教育事務所のスクールカウンセラーの面談を設定した。
月に1回の生徒指導対策委員会で全職員で情報を共有している。
学級担任と生徒指導主事、管理職が月に1度ほどで情報共有を行い、保護者面談等を行っている。
担任や生徒指導主事、特別支援コーディネーターなど、職員が気にしている点などを随時報告したり、管理職から担任等へ様子を確認したりして、状況に応じて情報共有・対応の検討を行って

る。校長、教頭、学年主任、担任、養護教諭、生徒指導主事、特別支援コーディネーターなどが事例に応じて関わっている。

中学校
週に1度、終礼の中で全職員が参加する生徒理解の時間を設けている。月に1度、いじめ・不登校対策委員会を全職員で行っている。内容は、情報共有とその生徒に対する今後の対応や指導について話し合っている。
学級担任、養護教諭、生徒指導主事、管理職で週1回程度、情報共有し、状況に応じて対応する。
毎週金曜日の職員朝会は、生徒理解職朝として全職員で共通理解を実施している。
校長、教頭、教務主任、学習部長、生徒指導主事、学年主任、事務主査による、いじめ・不登校対策委員会で、週1回情報共有と対応の検討を実施している。全職員で、週1回の職員会議と週1回の職員朝礼で情報共有をしている。
学級担任を中心に週に1～2回の家庭訪問
少人数の学校なので全職員がかかわる可能性がある。そのため、情報共有や対応の検討を職員会議や職員朝礼の場面でやっている。
学級担任から情報を得て、月に一度設定している生徒指導に関する会議で対応を検討
各学年で毎朝打ち合わせを行い、情報の共有、対応の検討を行っている。
担任の対応による
学級担任を中心としながら、状況に応じて、校長、教頭、その他の職員で対応している。週初めの職員朝会の時間に、全職員で生徒に関する情報交換を行っている。
週1回情報交換・共有を行い、基本は全職員で対応する。

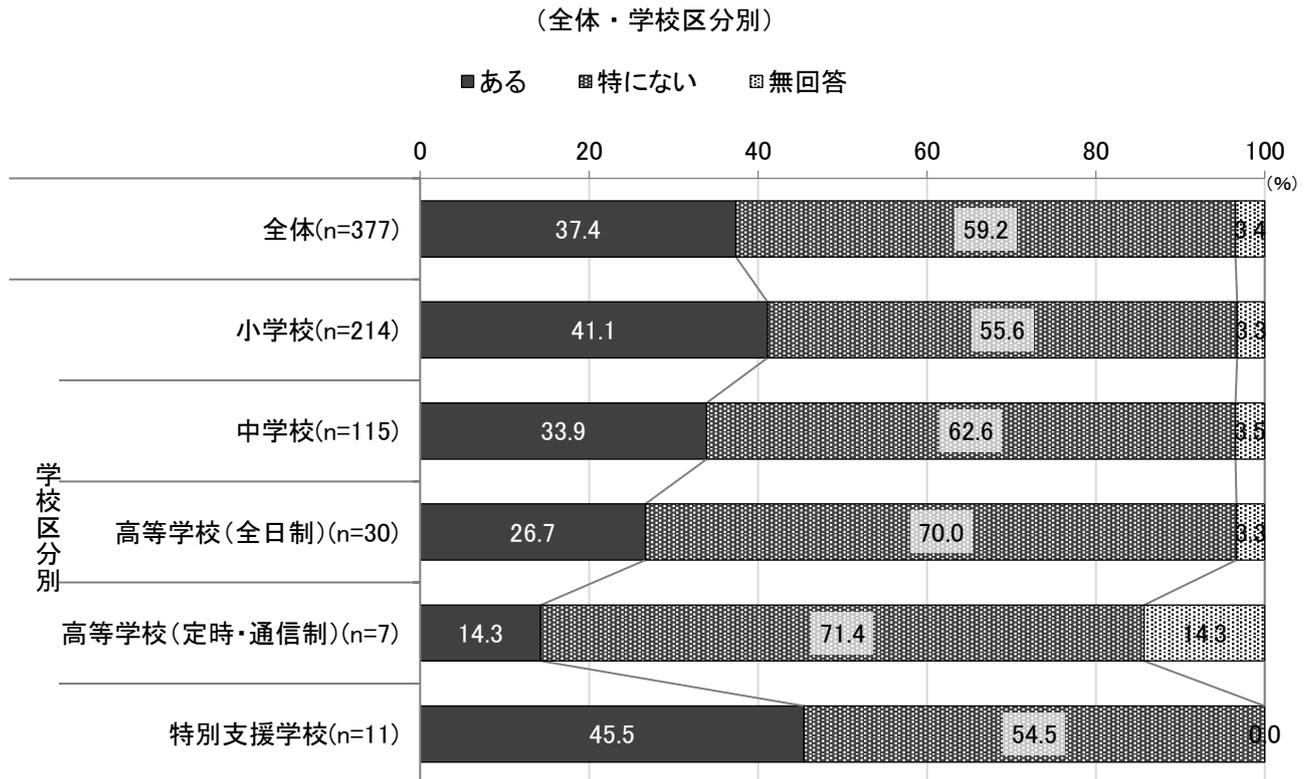
高等学校（全日制）
学年会・学科会・いじめ不登校対策委員会において、情報の共有と対策の検討を行っている。
各学年会(週一)で担任と学年主任、教育相談担当で情報を共有。学年主任会(週一)で各学年主任が担任からの情報を教頭、生徒指導主事、教務主任、教育相談担当と共有
学年会を中心とした指導体制をとっている。カウンセラー等が中心として携わった生徒の事案については、基本的に学年会として携わることはない。学年会が中心となった事案については、週に1度の情報共有等で指導や対応を協議している。

問 10 問 6 のケースについて、学校以外の関係機関と連携して、必要に応じて情報共有や対応の検討を行うための体制がありますか。それぞれのケースについて、お答えください。また、連携体制がある場合は、連携する関係機関を選択肢からお選びください。

① 要保護児童対策地域協議会の登録ケース（体制）

全体でみると、「ある」は 37.4%、「特にない」は 59.2%となっています。

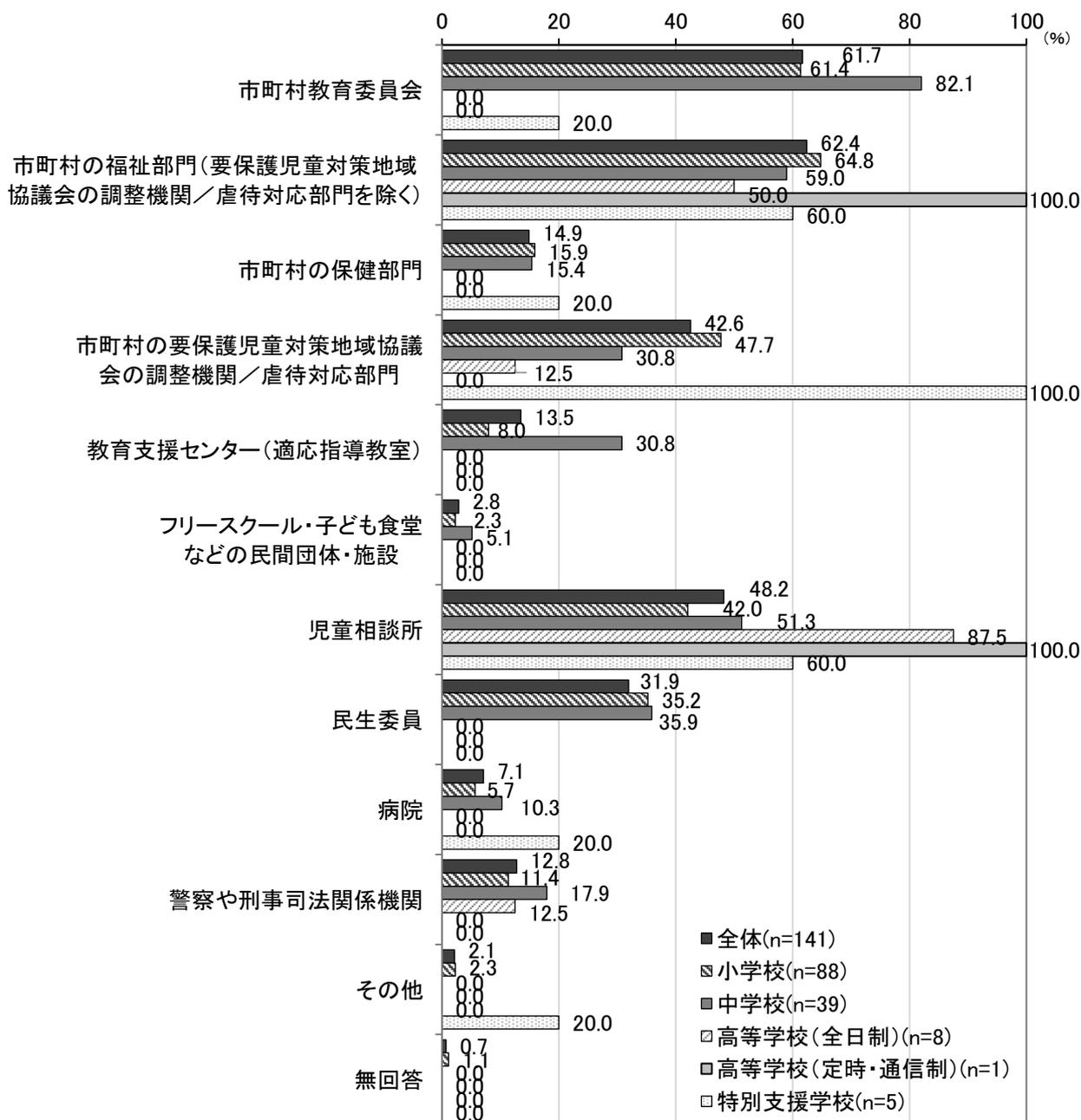
学校区分別でみると、「ある」は特別支援学校が 45.5%と最も高く、次いで小学校が 41.1%、中学校が 33.9%となっています。



① 要保護児童対策地域協議会の登録ケース（関係機関）

全体でみると、「市町村の福祉部門（要保護児童対策地域協議会の調整機関／虐待対応部門を除く）」が62.4%と最も高く、次いで「市町村教育委員会」が61.7%、「児童相談所」が48.2%となっています。

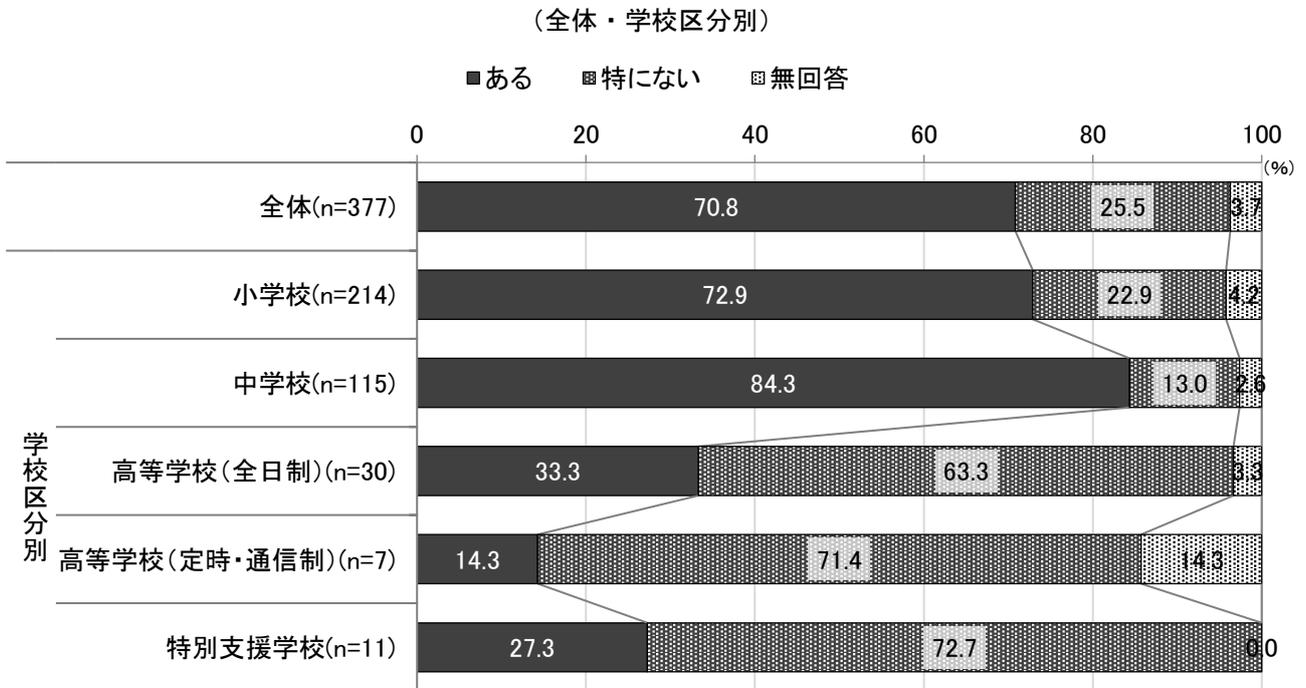
（全体・学校区分別）



② 不登校のケース（体制）

全体でみると、「ある」は70.8%、「特にない」は25.5%となっています。

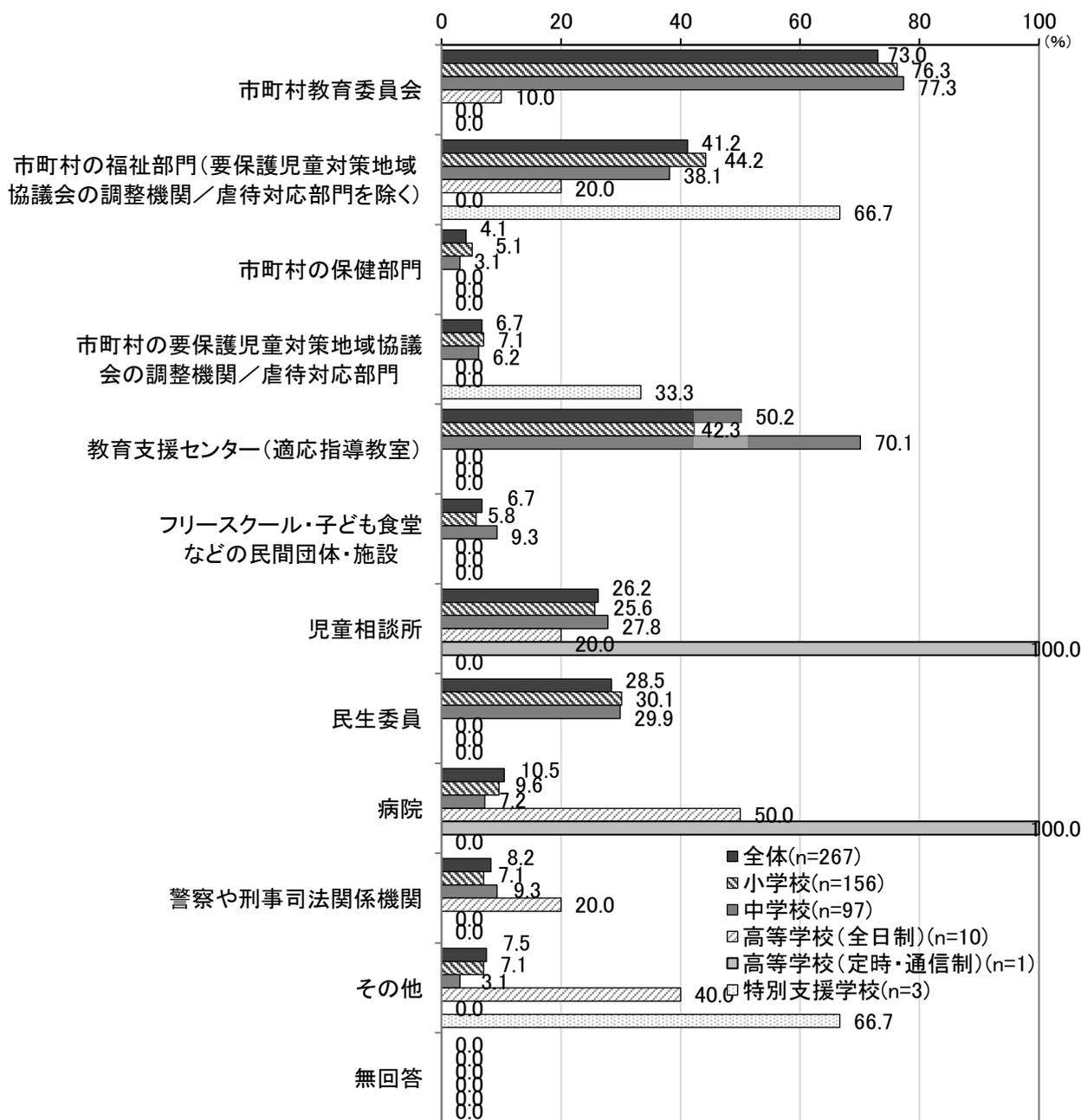
学校区分別でみると、「ある」は中学校が84.3%と最も高く、次いで小学校が72.9%、高等学校（全日制）が33.3%となっています。



② 不登校のケース（関係機関）

全体で見ると、「市町村教育委員会」が73.0%と最も高く、次いで「教育支援センター（適応指導教室）」が50.2%、「市町村の福祉部門（要保護児童対策地域協議会の調整機関／虐待対応部門を除く）」が41.2%となっています。

（全体・学校区分別）

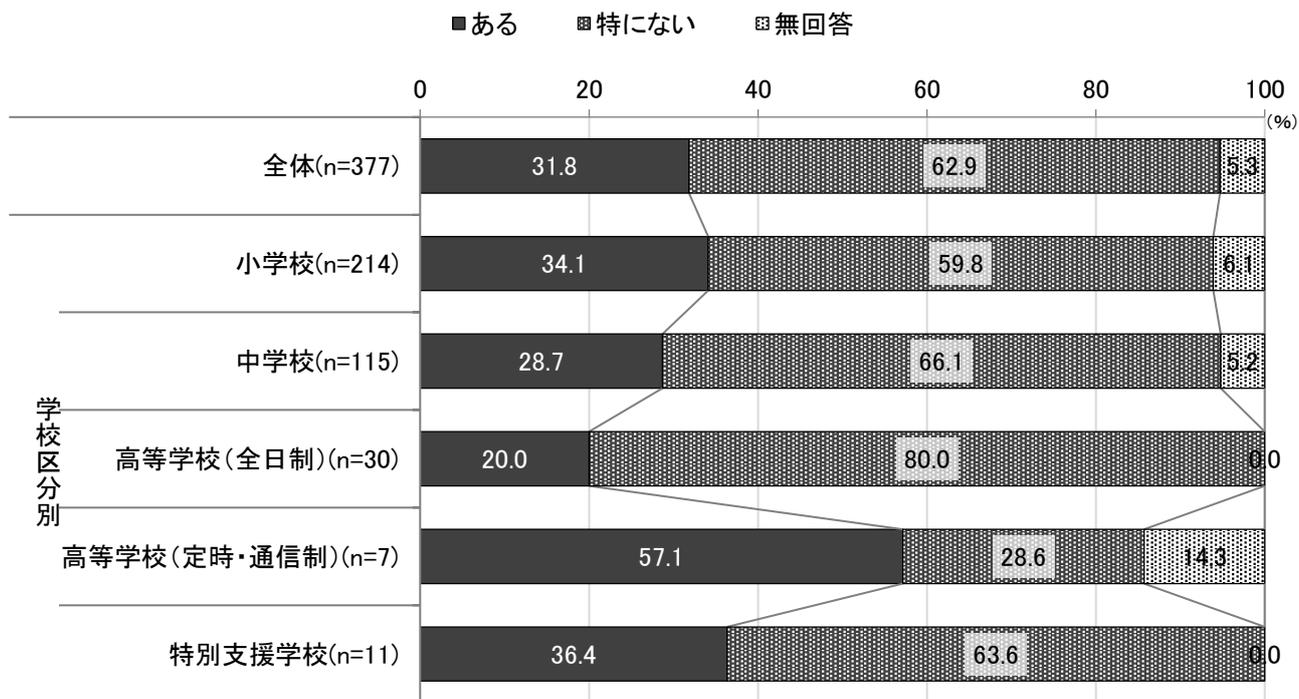


③ それ以外（体制）

全体でみると、「ある」は31.8%、「特にない」は62.9%となっています。

学校区分別でみると、「ある」は高等学校（定時・通信制）が57.1%と最も高く、次いで特別支援学校が36.4%、小学校が34.1%となっています。

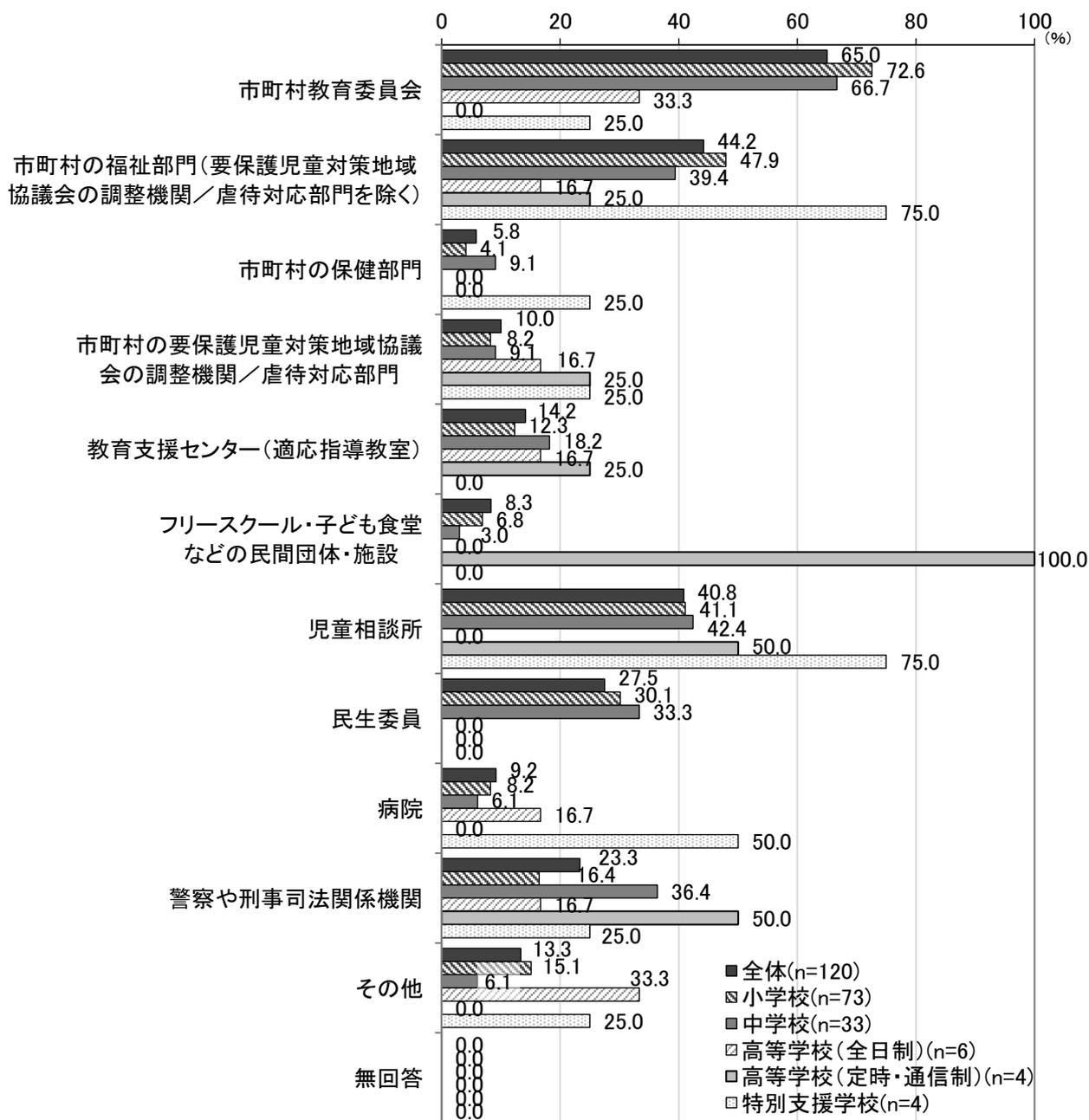
（全体・学校区分別）



③ それ以外（関係機関）

全体でみると、「市町村教育委員会」が65.0%と最も高く、次いで「市町村の福祉部門（要保護児童対策地域協議会の調整機関／虐待対応部門を除く）」が44.2%、「児童相談所」が40.8%となっています。

（全体・学校区分別）

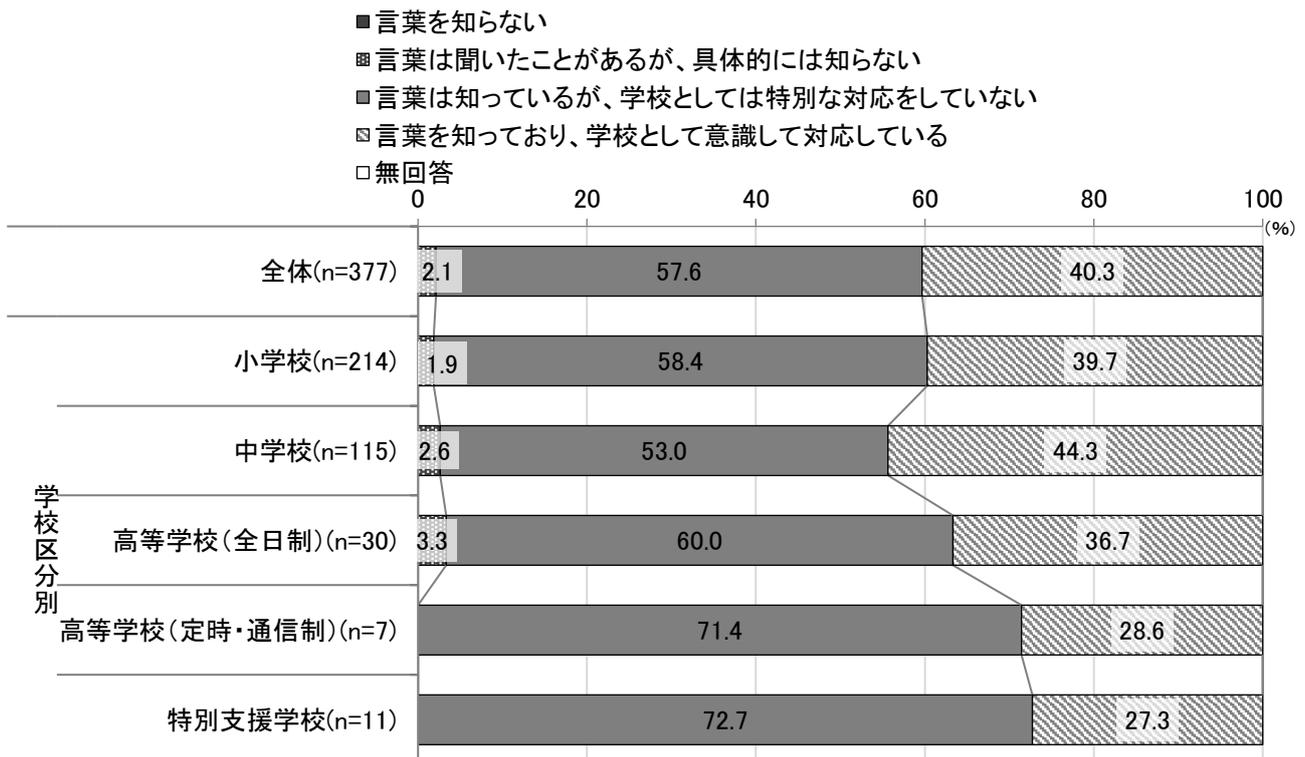


問 11 貴校では「ヤングケアラー」という概念を認識していますか。(あてはまる番号1つに○)

全体でみると、「言葉は知っているが、学校としては特別な対応をしていない」が57.6%と最も高く、次いで「言葉を知っており、学校として意識して対応している」が40.3%、「言葉は聞いたことがあるが、具体的には知らない」が2.1%となっています。

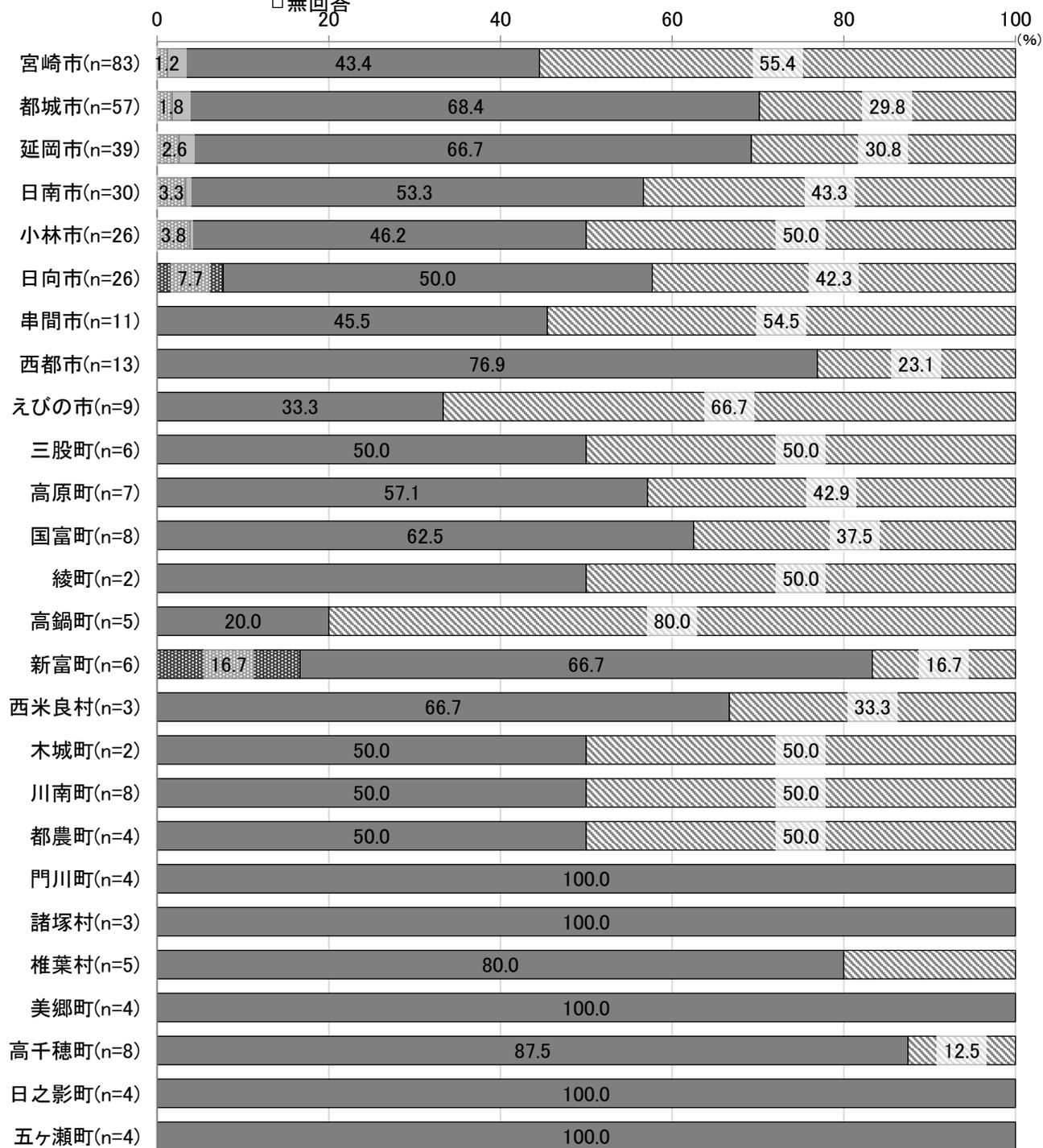
学校区分別でみると、「言葉を知っており、学校として意識して対応している」は、中学校が44.3%、小学校が39.7%となっています。

(全体・学校区分別)



(市町村別)

- 言葉を知らない
- ▨ 言葉は聞いたことがあるが、具体的には知らない
- 言葉は知っているが、学校としては特別な対応をしていない
- ▨ 言葉を知っており、学校として意識して対応している
- 無回答



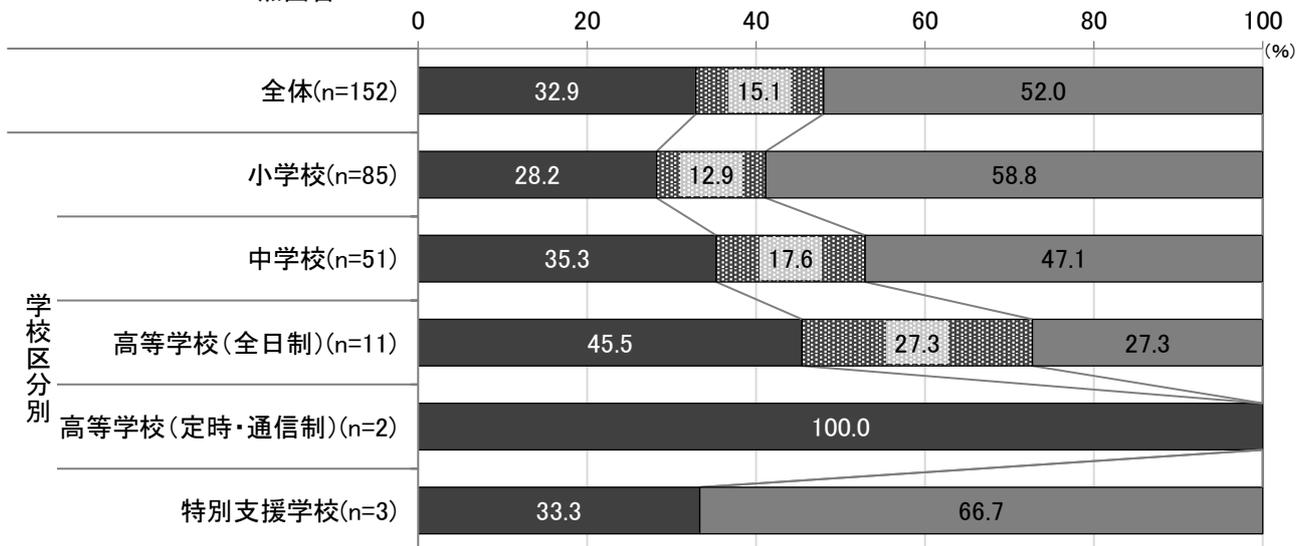
問 12 問 11 で「4. 言葉を知っており、学校として意識して対応している」と回答した方にお伺いします。「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態を把握していますか。(あてはまる番号1つに○)

全体でみると、「把握している」は32.9%、「「ヤングケアラー」と思われる子どもはいるが、その実態は把握していない」が15.1%、「該当する子どもはいない(これまでもいなかった)」が52.0%となっています。

学校区分別でみると、「把握している」は、高等学校(全日制)が45.5%、中学校が35.3%となっています。

(全体・学校区分別)

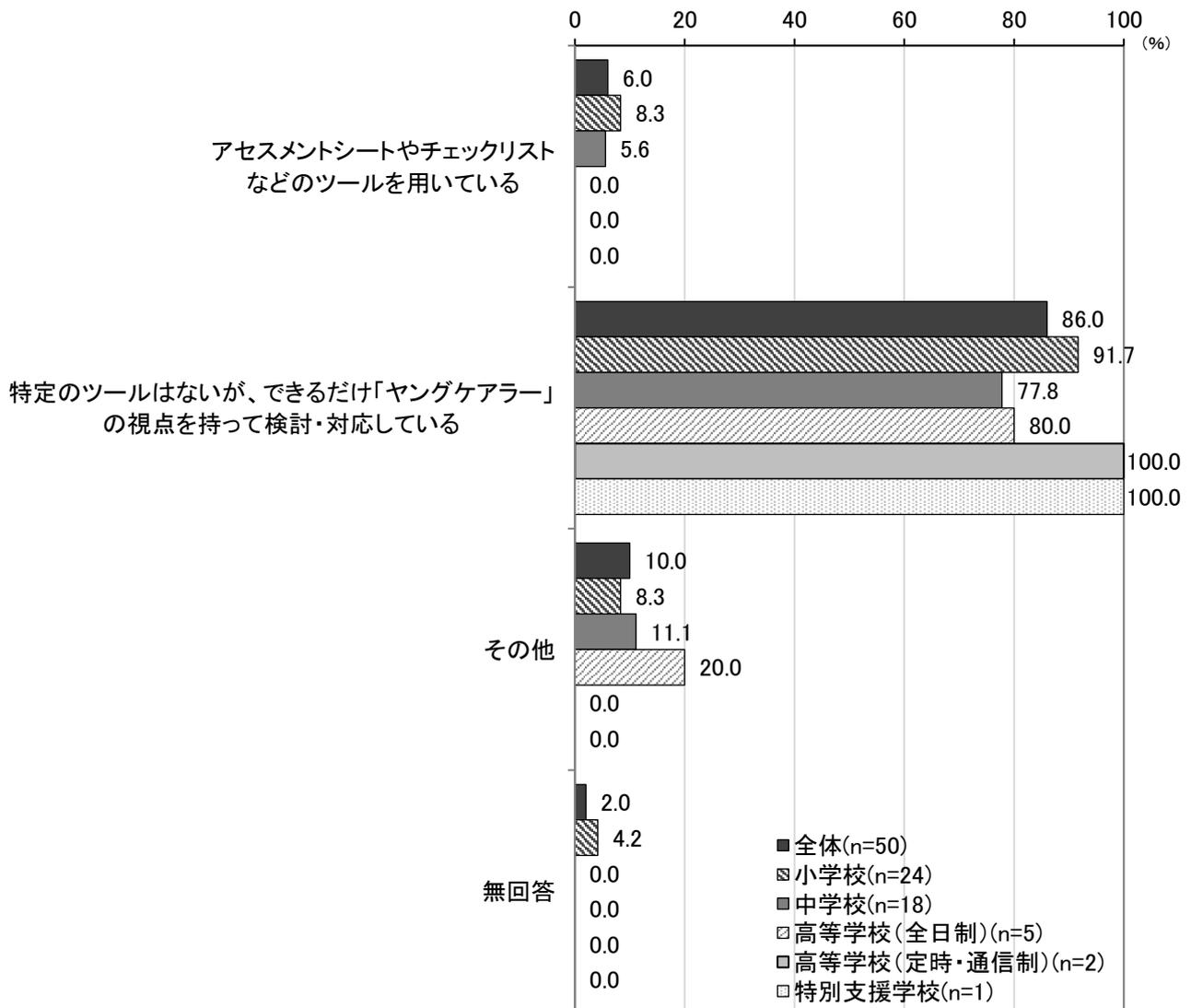
- 把握している
- ▨ 「ヤングケアラー」と思われる子どもはいるが、その実態は把握していない
- ▩ 該当する子どもはいない(これまでもいなかった)
- 無回答



問 13 問 12 で「1. 把握している」と回答した方にお伺いします。「ヤングケアラー」と思われる子どもをどのように把握していますか。(あてはまる番号すべてに○)

全体でみると、「特定のツールはないが、できるだけ「ヤングケアラー」の視点を持って検討・対応している」が86.0%と最も高く、次いで「その他」が10.0%、「アセスメントシートやチェックリストなどのツールを用いている」が6.0%となっています。

(全体・学校区分別)



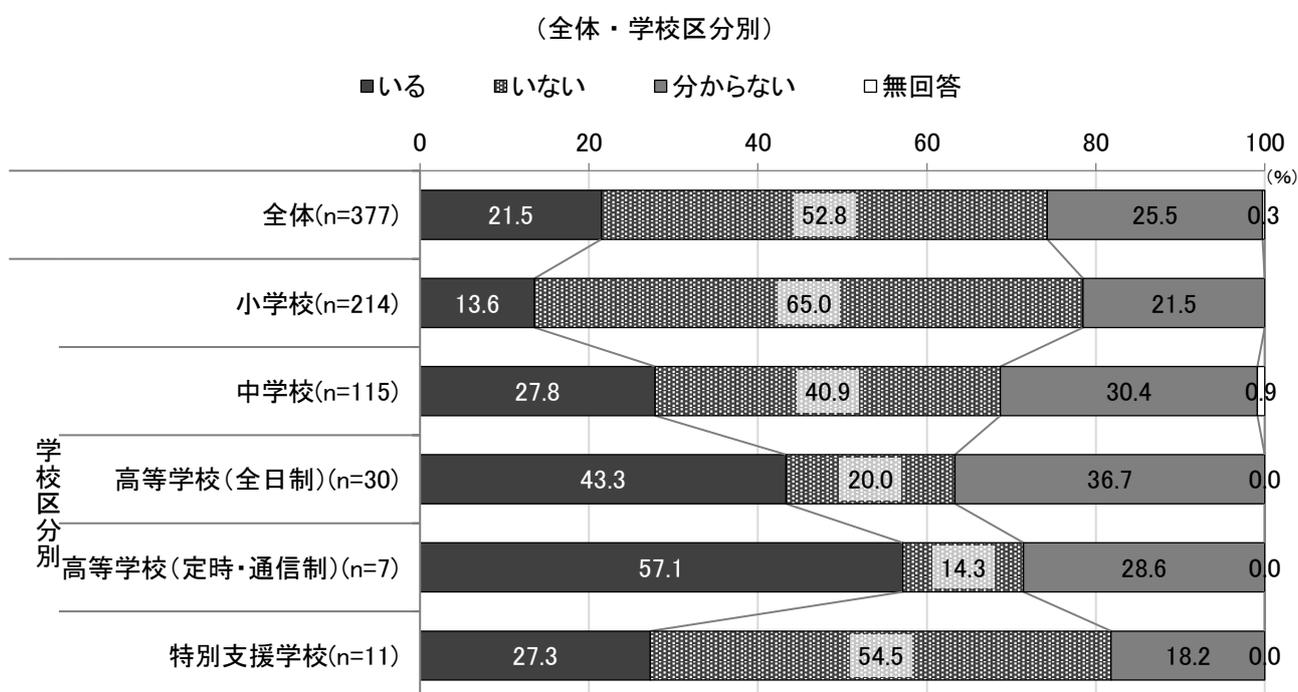
問 14 ヤングケアラーを把握していない方も含め、全員にお伺いします。

ヤングケアラーとは、「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っていることにより、子ども自身がやりたいことができないなど、子ども自身の権利が守られていないと思われる子ども」のことを言います。ヤングケアラーの定義を踏まえて、以下の設問にお答えください。

ヤングケアラーの定義を見て、現在、貴校にヤングケアラーと思われる（可能性も含めて）子どもはいますか。（あてはまる番号1つに○）

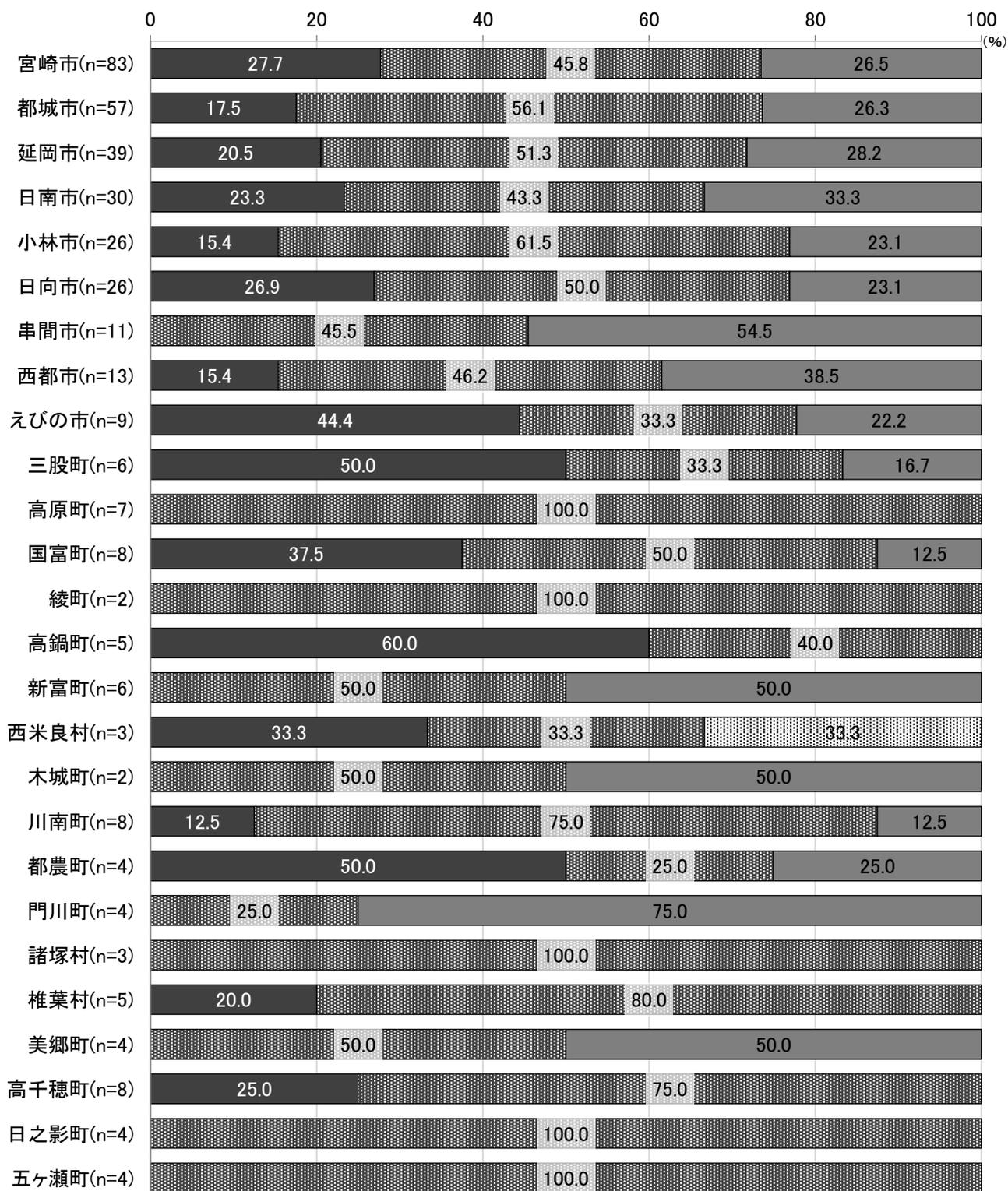
全体でみると、「いる」が21.5%、「いない」が52.8%、「わからない」が25.5%となっています。

学校区別でみると、「いる」は、高等学校（定時・通信制）が57.1%と最も高く、次いで高等学校（全日制）が43.3%、中学校が27.8%となっています。



(市町村別)

■いる ■いない ■分からない ■無回答



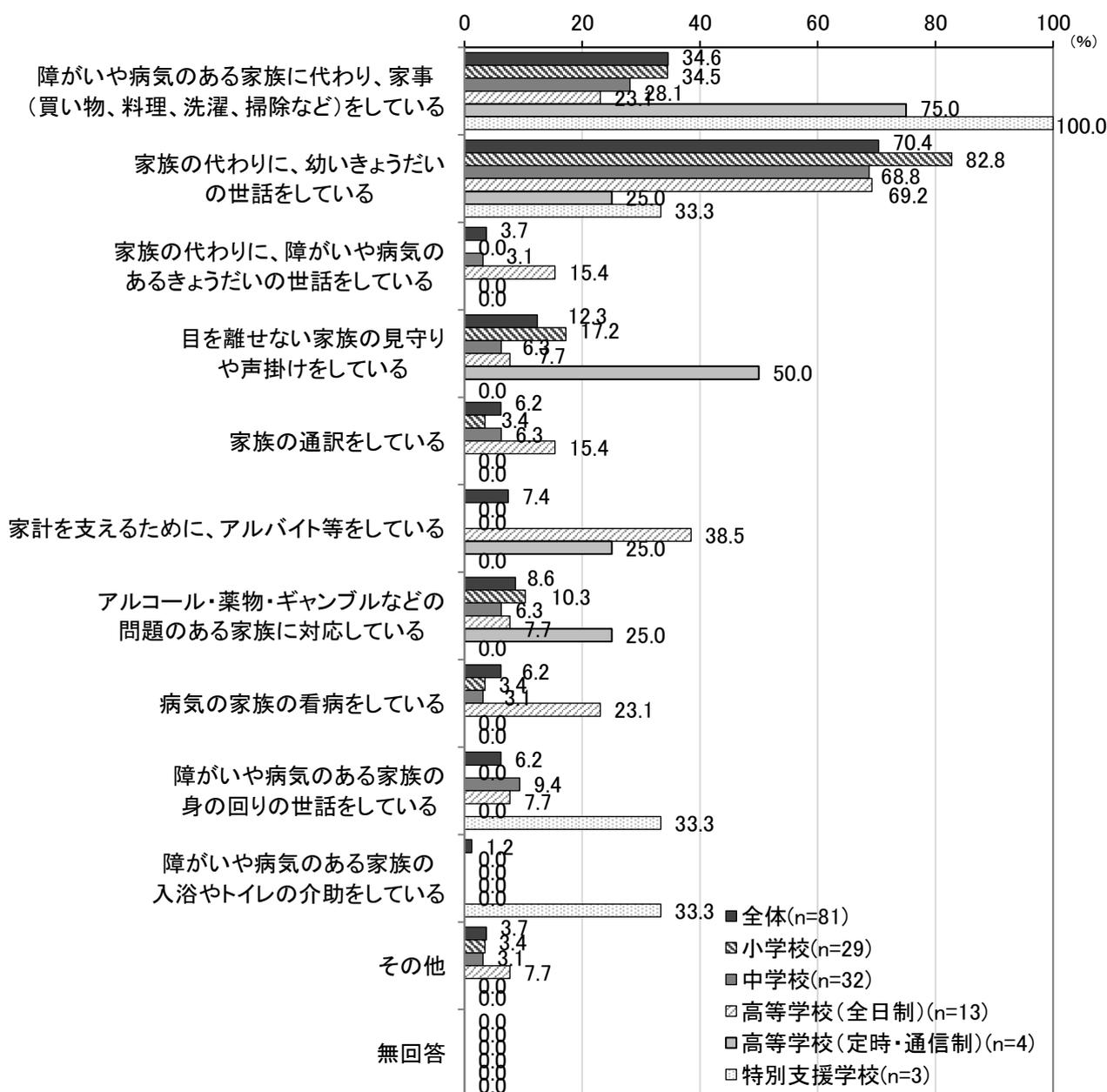
問 15 問 14で「1. いる」と回答した方にお伺いします。

(1) ヤングケアラーと思われる子どもの状況は下記のうちどれですか。

(あてはまる番号すべてに○)

全体でみると、「家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている」が70.4%と最も高く、次いで「障がいや病気のある家族に代わり、家事（買い物、料理、洗濯、掃除など）をしている」が34.6%、「目を離せない家族の見守りや声掛けをしている」の12.3%となっています。

(全体・学校区分別)

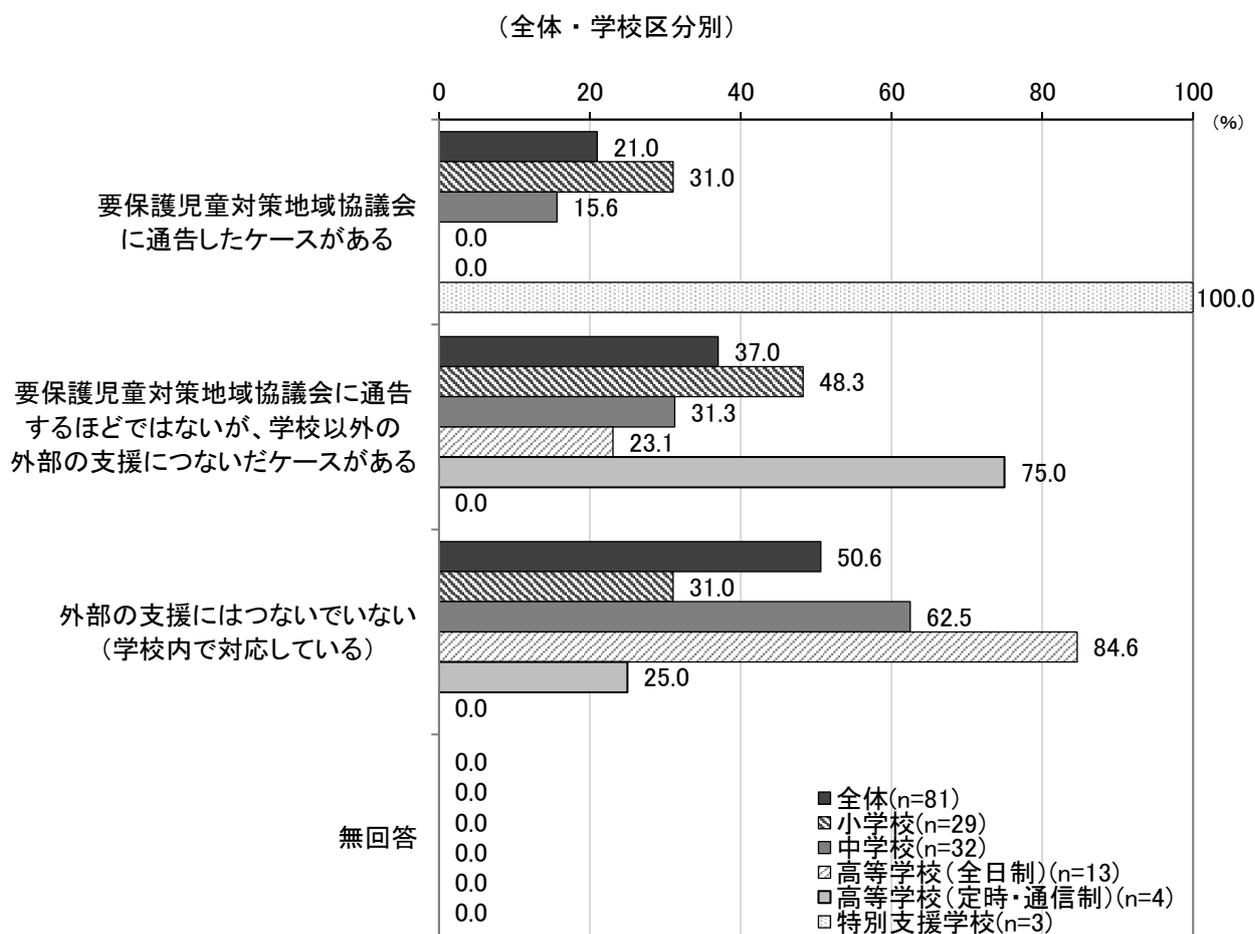


(2) ヤングケアラーと思われる子どもについて、具体的に学校以外の外部（教育委員会、役所、要保護児童対策地域協議会など）の支援につないだケースはありますか。

(あてはまる番号すべてに○)

全体でみると、「外部の支援にはつないでいない（学校内で対応している）」が 50.6%と最も高く、次いで「要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある」が 37.0%、「要保護児童対策地域協議会に通告したケースがある」が 21.0%となっています。

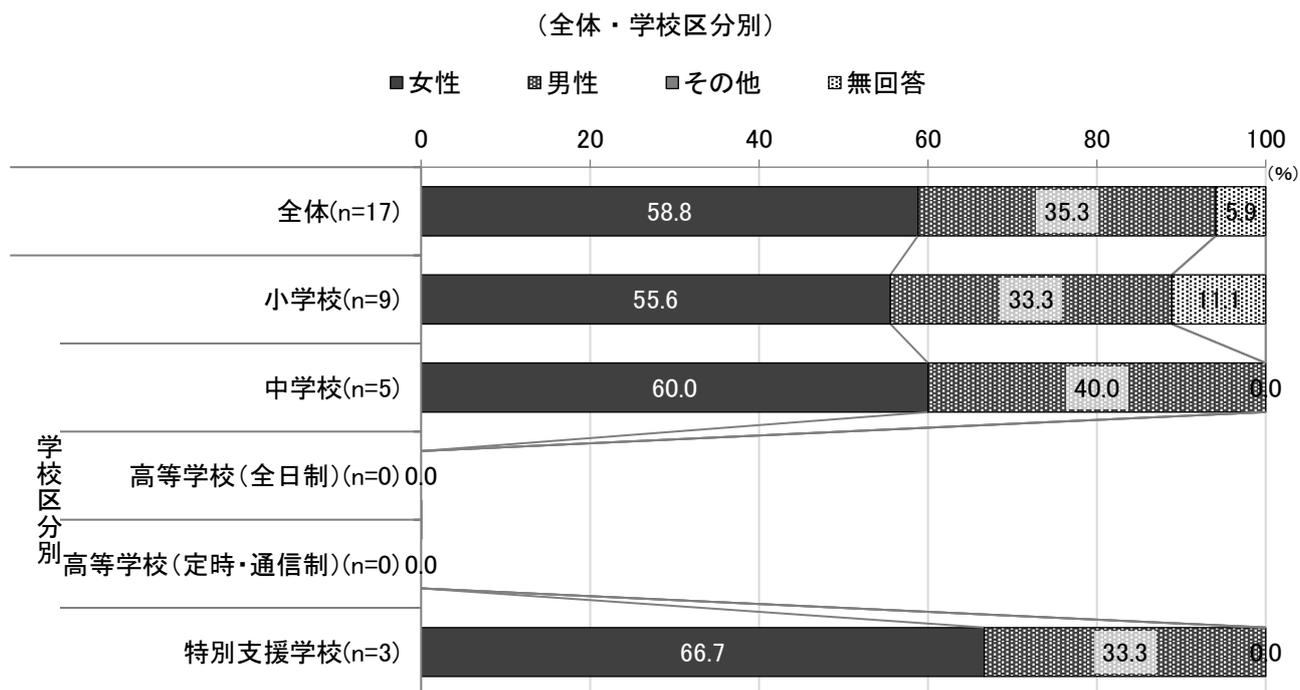
学校区別でみると、「要保護児童対策地域協議会に通告したケースがある」は、小学校が 31.0%、中学校が 15.6%となっています。



(3) (2)で「1. 要保護児童対策地域協議会に通告したケースがある」、「2. 要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある」と回答した方にお伺いします。それぞれの該当する直近のケースについて、1件ずつお教えてください。

① 要保護児童対策地域協議会に通告したケース
性別

全体でみると、「女性」が58.8%、「男性」が35.3%となっています。

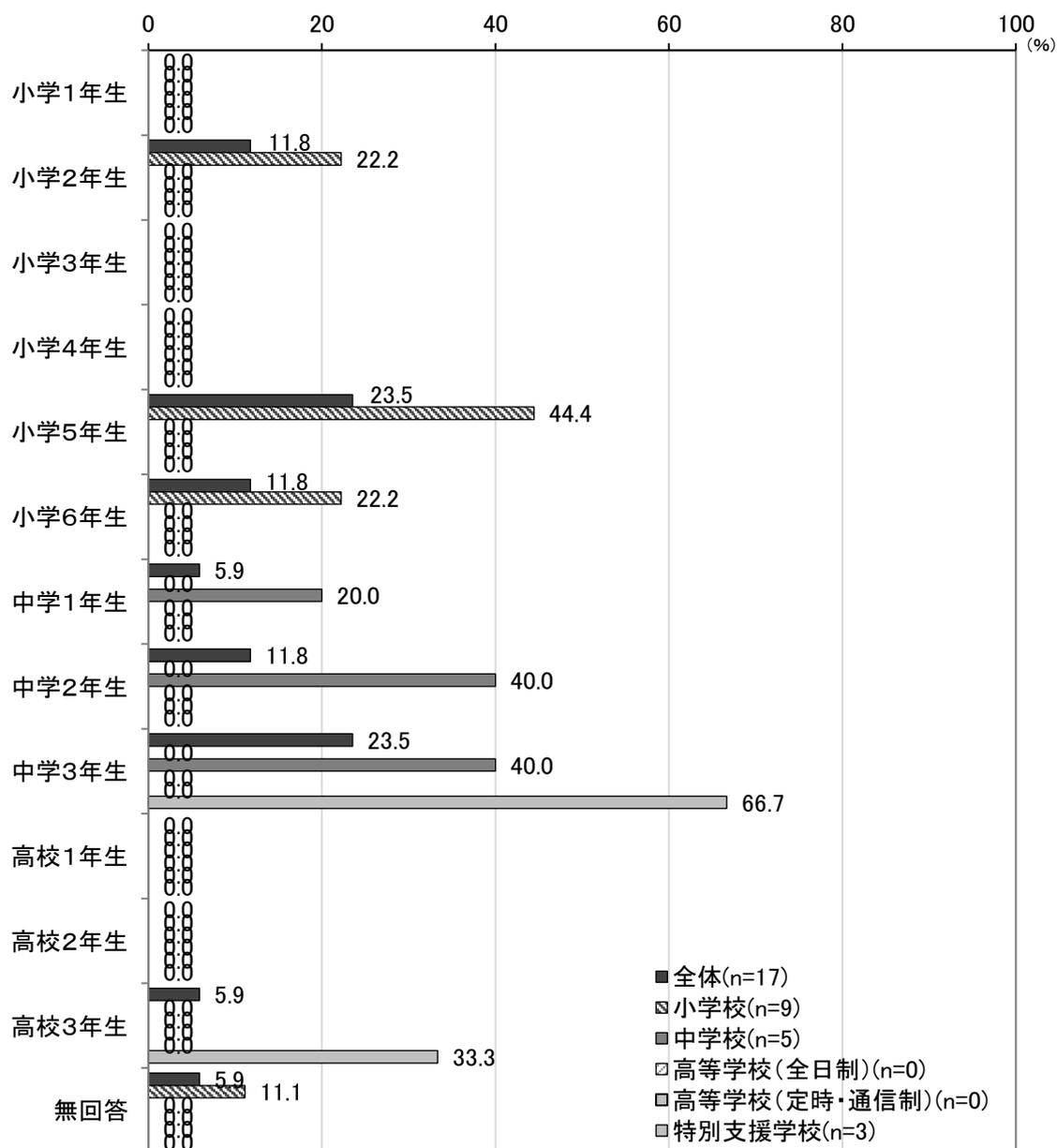


① 要保護児童対策地域協議会に通告したケース

学年

全体でみると、「小学5年生」「中学3年生」が23.5%と最も高く、次いで「小学2年生」「小学6年生」「中学2年生」が11.8%、「中学1年生」「高校3年生」が5.9%となっています。

(全体・学校区分別)

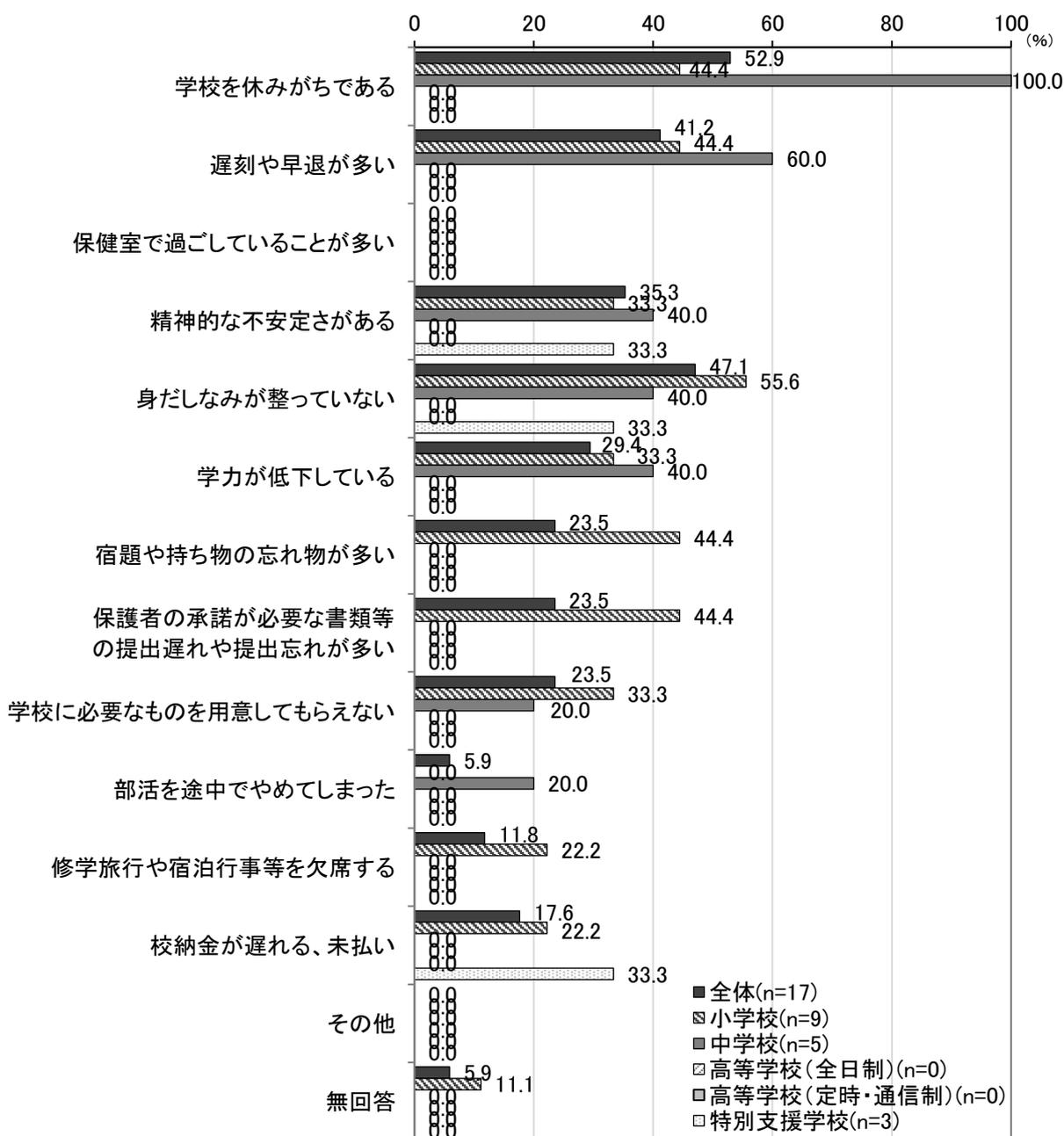


① 要保護児童対策地域協議会に通告したケース

学生生活の状況（あてはまる番号すべてに○）

全体でみると、「学校を休みがちである」が52.9%と最も高く、次いで「身だしなみが整っていない」が47.1%、「遅刻や早退が多い」が41.2%となっています。

(全体・学校区分別)

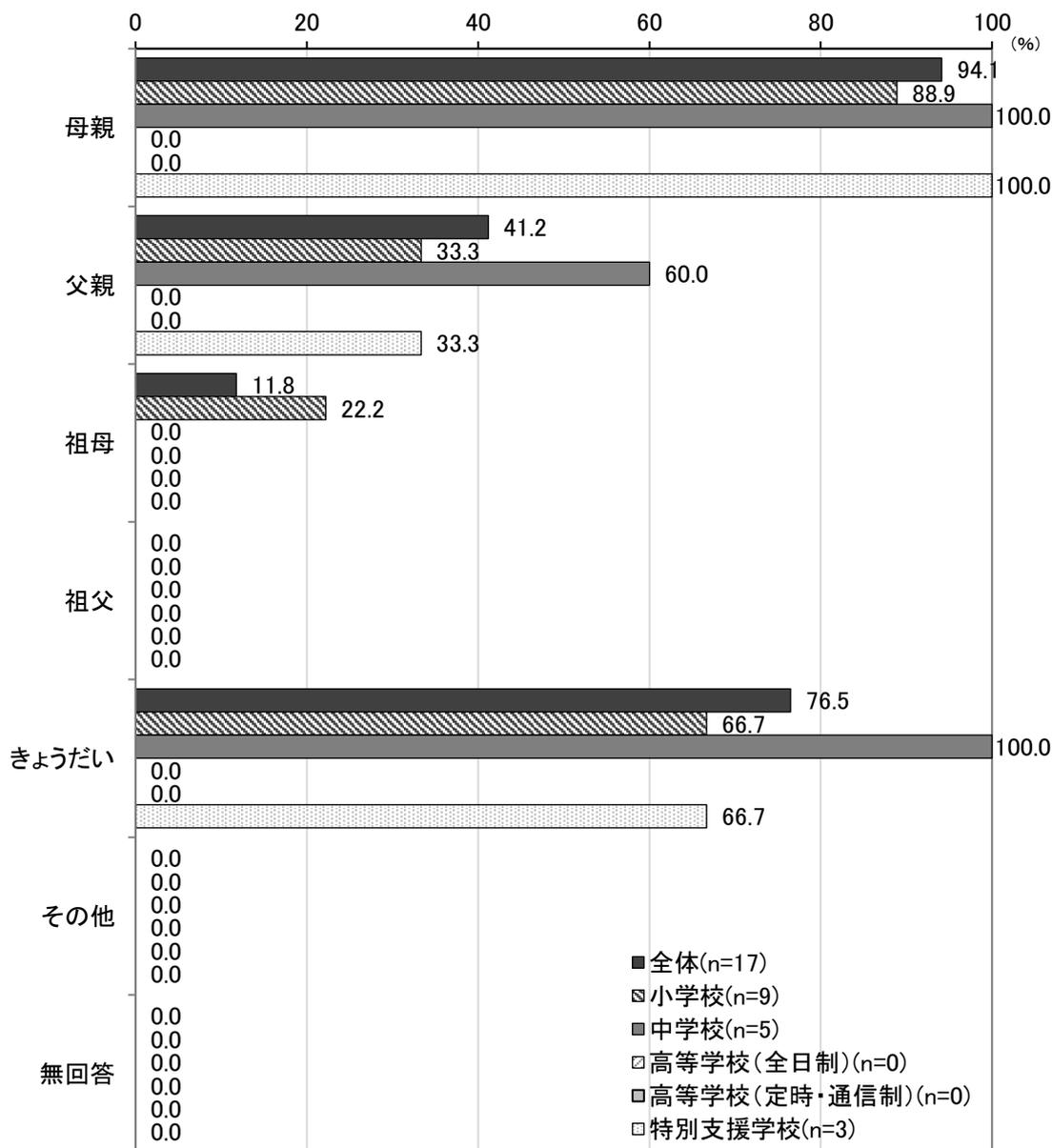


① 要保護児童対策地域協議会に通告したケース

家族構成（あてはまる番号すべてに○）

全体で見ると、「母親」が94.1%、「父親」が41.2%、「祖母」が11.8%、「きょうだい」が76.5%となっています。

（全体・学校区分別）



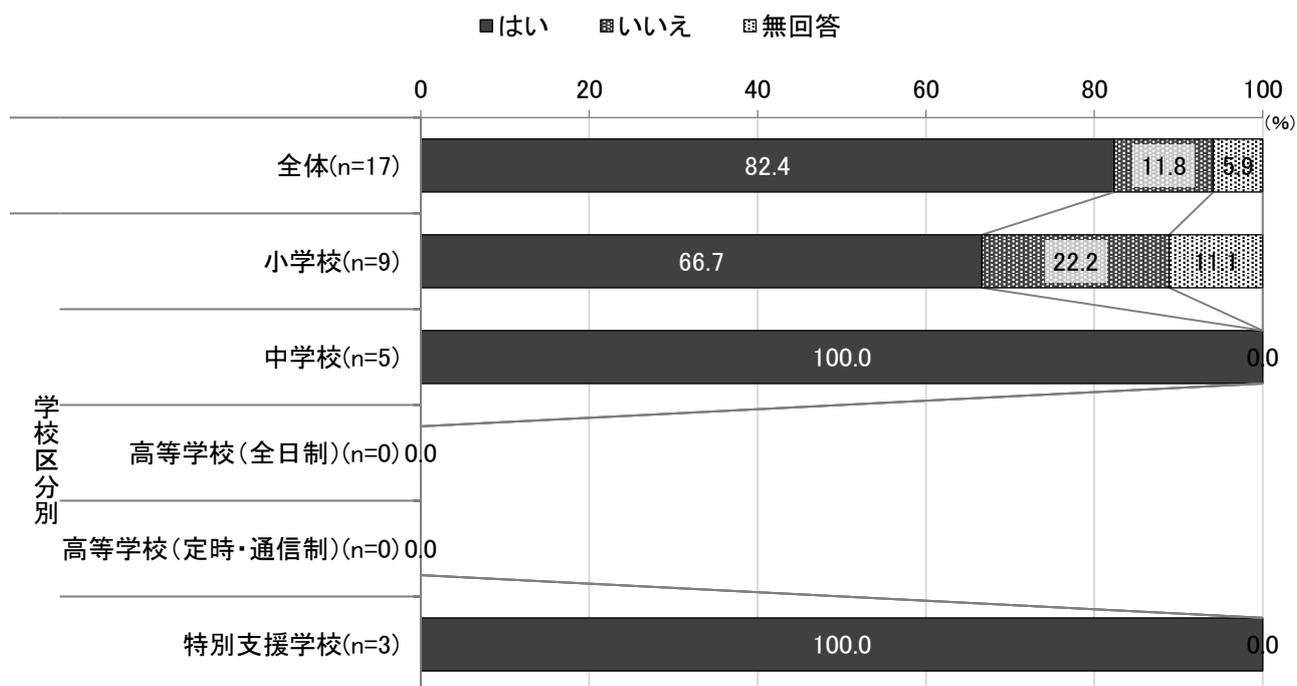
① 要保護児童対策地域協議会に通告したケース

家庭でのケアの状況

① ケアの状況を把握しているか

全体でみると、「はい」が82.4%、「いいえ」が11.8%となっています。

(全体・学校区分別)



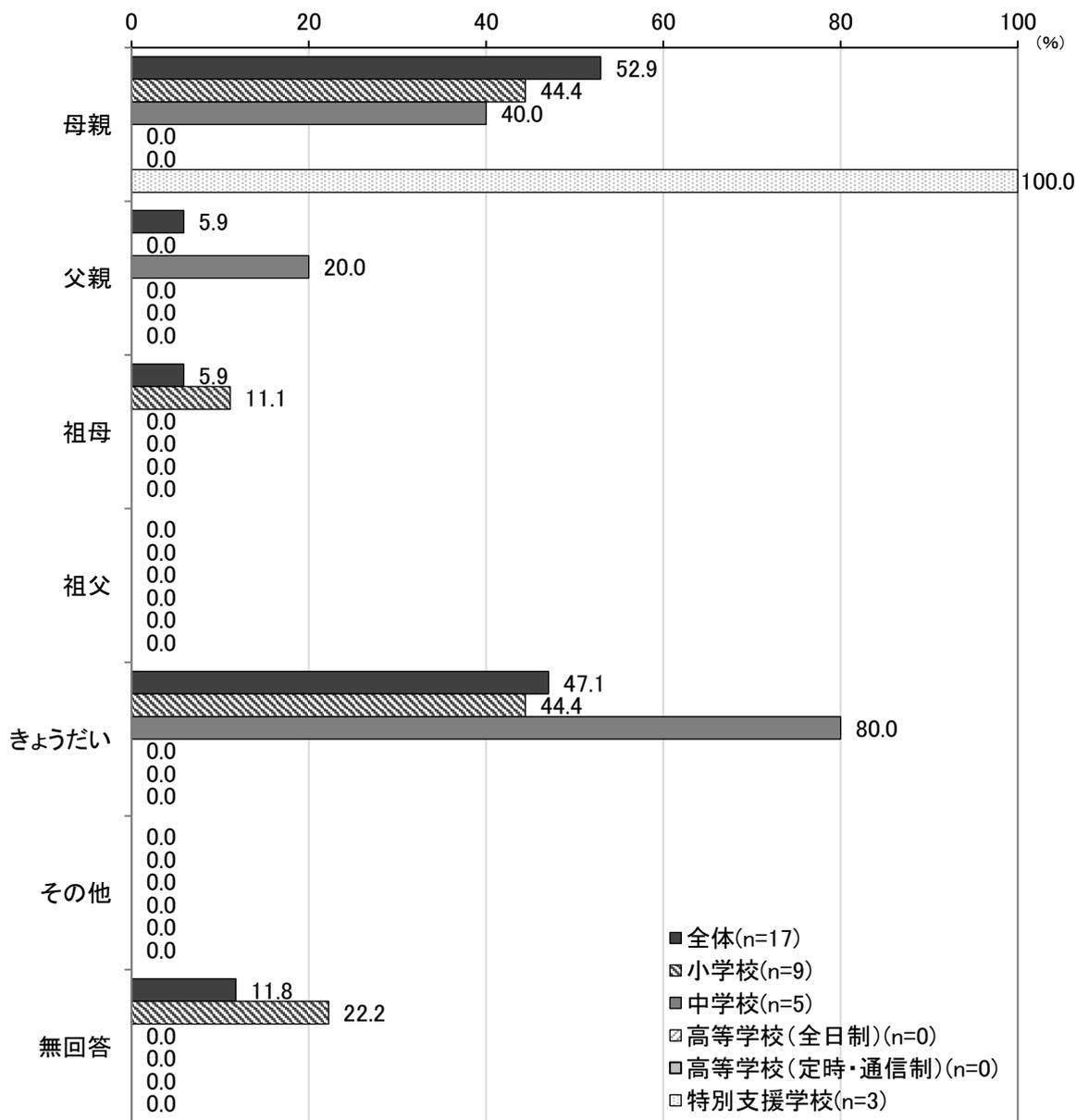
① 要保護児童対策地域協議会に通告したケース

家庭でのケアの状況

②-a) ケアを必要としている人（あてはまる番号すべてに○）

全体でみると、「母親」が52.9%と最も高く、次いで「きょうだい」が47.1%となっています。

(全体・学校区分別)

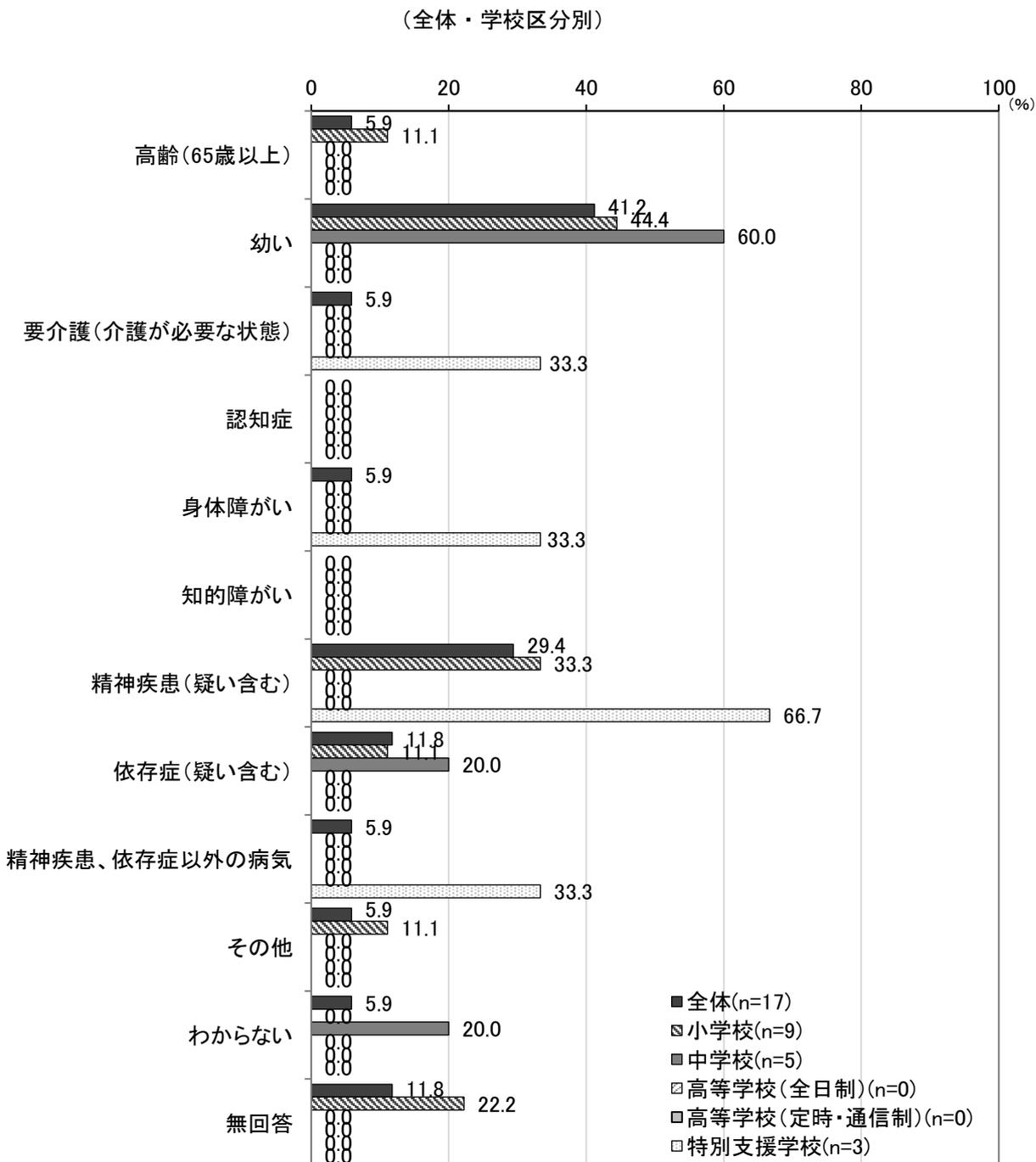


① 要保護児童対策地域協議会に通告したケース

家庭でのケアの状況

②- b) ケアを必要としている人の状況（あてはまる番号すべてに○）

全体でみると、「若い」が41.2%と最も高く、次いで「精神疾患（疑い含む）」が29.4%となっています。



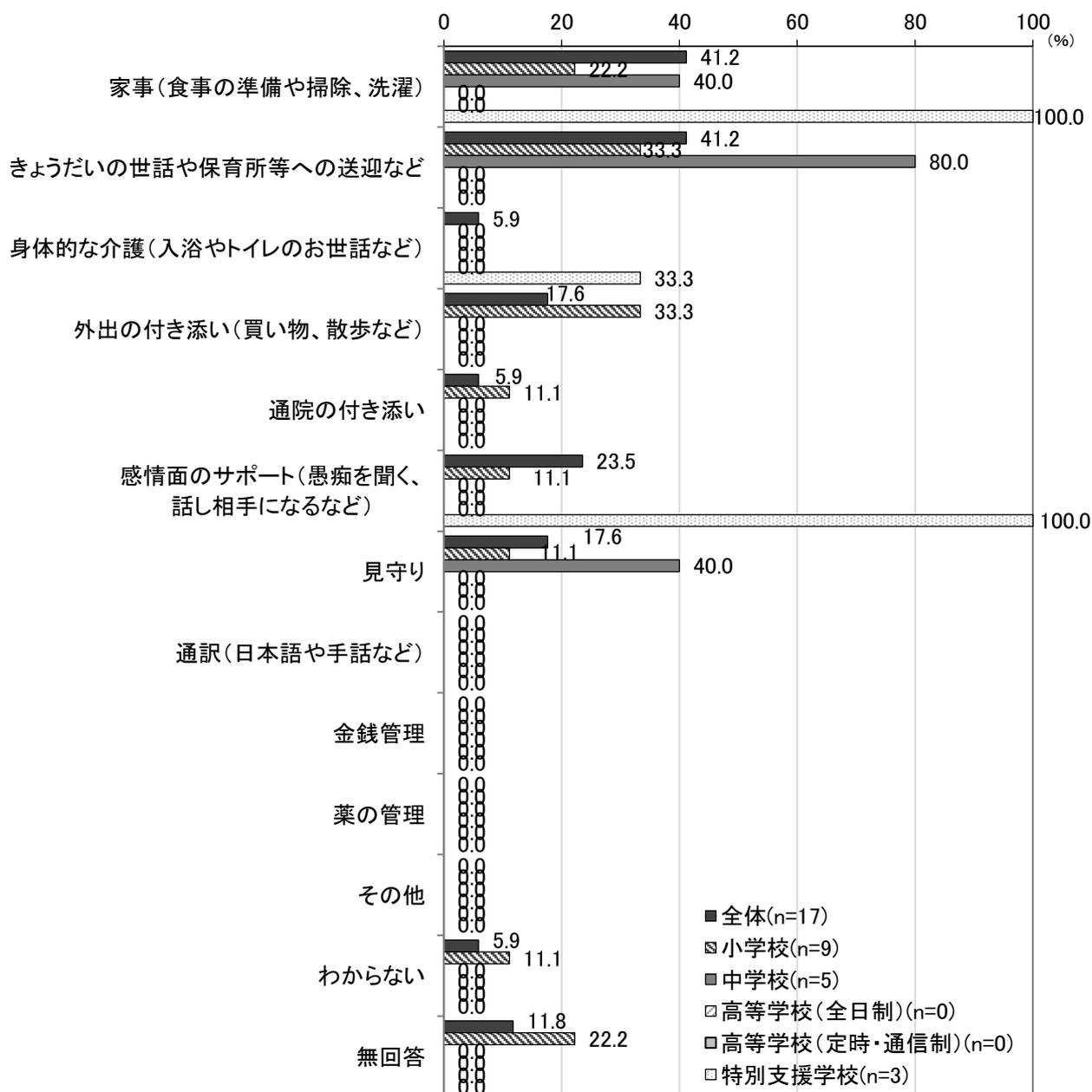
① 要保護児童対策地域協議会に通告したケース

家庭でのケアの状況

②-c) ケアの内容（あてはまる番号すべてに○）

全体で見ると、「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」が41.2%と最も高く、次いで「感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）」が23.5%、「外出の付き添い（買い物、散歩など）」「見守り」が17.6%となっています。

（全体・学校区分別）



① 要保護児童対策地域協議会に通告したケース
ヤングケアラーと気づいた理由・きっかけ

小学校
不登校のため、自宅を訪問したり保護者、児童との会話をしたりする中から、気づいた。
以前より要対協より情報があり共有している。
児童との会話
本人から学校に訴えがあり、聞き取りを行った。
前の学年からの引継ぎ
もともと不登校傾向の強い児童であるが、妹が誕生した後、休んだ日の過ごし方を尋ねると、妹のお世話をしていたということが多くあった。

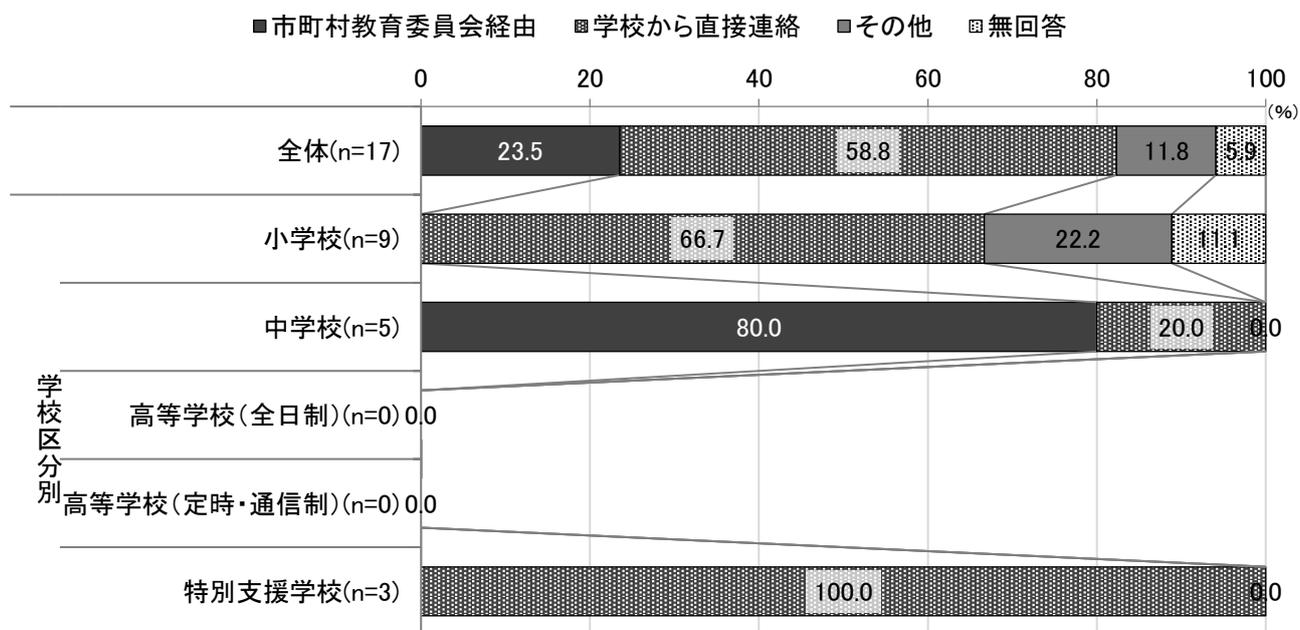
中学校
登校せず。母親が休ませたり、早退させたりする様子が見られた。家庭訪問すると母親が不在で、兄弟2人で過ごしていることが度々あった。
要対協ですでに協議されていた
欠席しがちで、服装の乱れがある。教育相談で学級担任に相談があった。
登校時、保健室で養護教諭に家族の状況を話したことから、学級担任、学年職員で家庭内の状況を確認し、市町村教育委員会・行政の児童福祉部署・児童相談所へ報告した。
本人の証言

① 要保護児童対策地域協議会に通告したケース

要保護児童対策地域協議会への通告ルート

全体でみると、「学校から直接連絡」が58.8%、「市町村教育委員会経由」が23.5%、「その他」が11.8%となっています。

(全体・学校区分別)



① 要保護児童対策地域協議会に通告したケース
 学校で行った支援（要対協との連携含めて）

小学校
家庭への電話連絡、家庭への迎え
情報共有のみ、要対協が関係づくりを行い支援を進めている。
連絡・連携（行政の児童福祉部署、要対協他）
要保護児童対策地域協議会へとあるが、児童相談所への通告である。現在、児童相談所へ在籍しており、支援を行うところまで至っていない。
要対協とは毎月報告している
母親、本人とこれからの生活や登校に向けての方向性について面談を行った。

中学校
家庭訪問（学究担任、SSW、児相）。ケース会議（学校、児相、市町村教委、行政の児童福祉部署、児童家庭支援センター）の実施
捕食（おにぎり）を与える。鞆の点検、洗濯、消臭。歯医者予約
教育相談等で、本人の心のケア、必要に応じて家庭への連絡。
本人への聞き取りから、家庭内の状況を取りまとめ、市町村教育委員会・行政の児童福祉部署・児童相談所へと繋ぎ、一時保護・生活改善へと進めた。今後は、児童相談所と連携し経過観察、継続的な生活改善への支援を行う。
要対協との連携会議での状況把握

① 要保護児童対策地域協議会に通告したケース
支援した結果、子どもへの変化

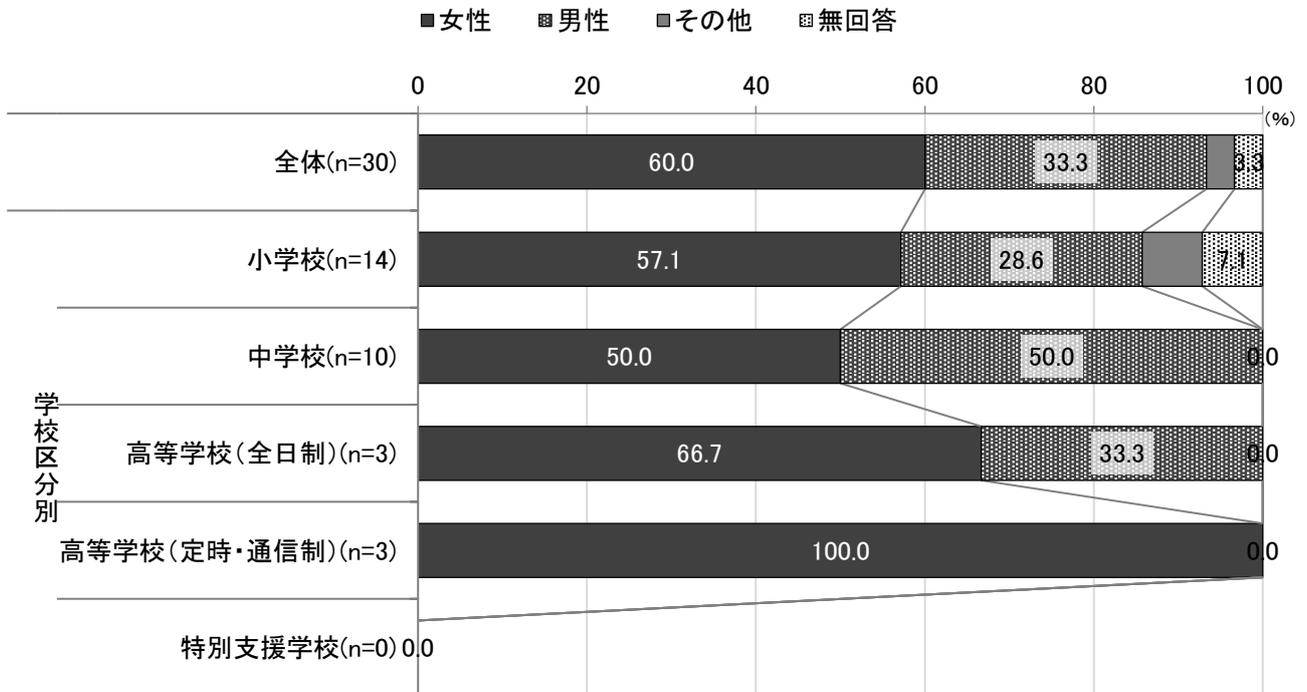
小学校
一時期、登校できたが、2学期になり、元に戻った。
今のところ落ち着いている様子が見られる。
あまり変化なし
要保護児童対策地域協議会へとあるが、児童相談所への通告である。現在、児童相談所へ在籍しており、支援を行うところまで至っていない。
上記のとおりである。よって、変化等に関する回答はできない。
変化はない（4年生の2学期から登校できていない）
まずは学校に足を向かせることで共通理解を図り、担任と約束事を決めていたが、なかなか守れなかった。その後、子ども課とSSWと連携して支援を行うことになった。

中学校
不登校の改善には至らなかった。
欠席が増えていない。家での様子を正直に言えるようになった。
現在は、登校出来ているので、経過観察中。
児童相談所入所時は、食欲があり、顔色も良くなっていった。
普段の会話から状況や様子をうかがうことはあるが、大きな変化は感じられない。

② 要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース
性別

全体でみると、「女性」が60.0%、「男性」が33.3%となっています。

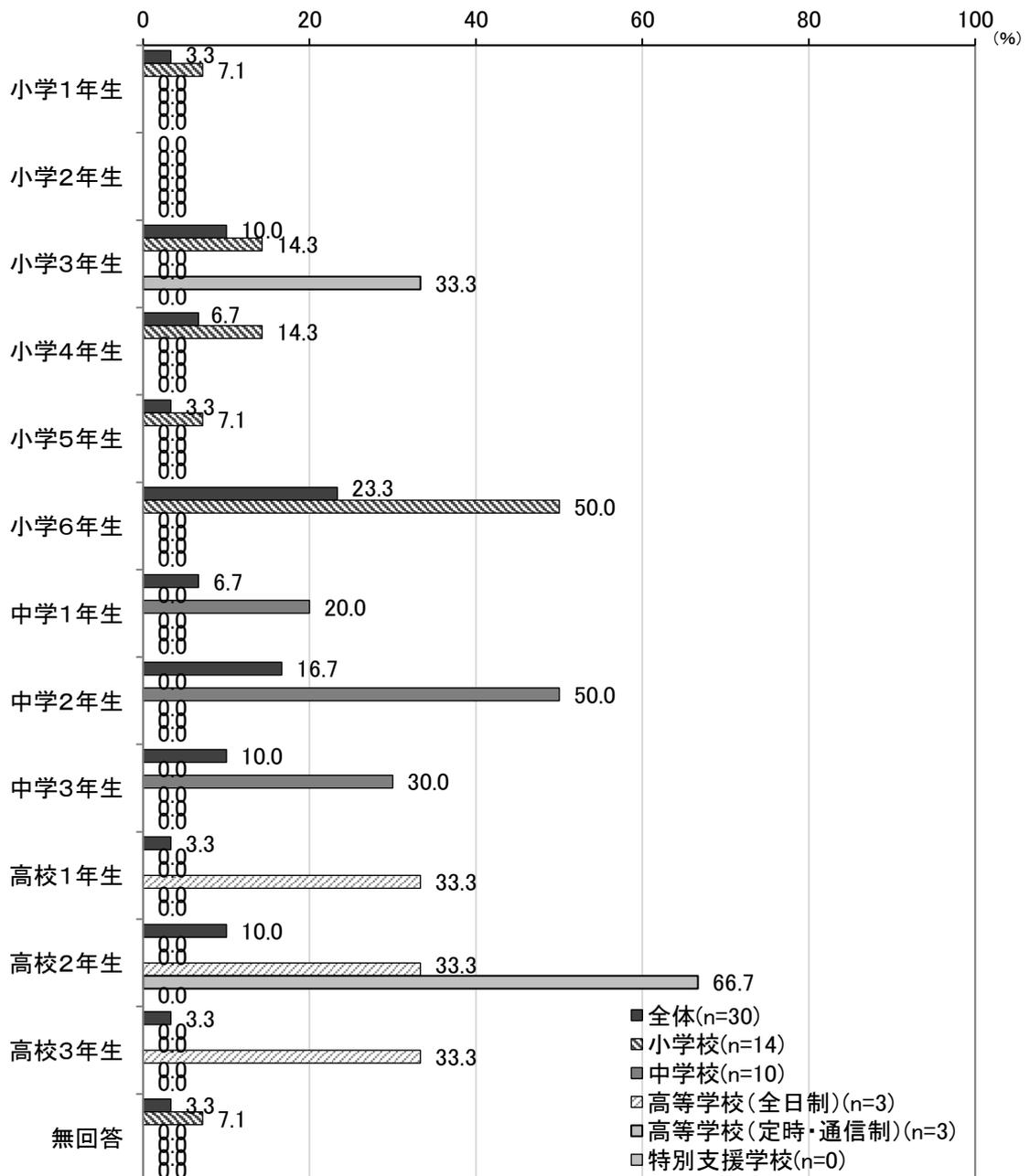
(全体・学校区分別)



② 要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース
学年

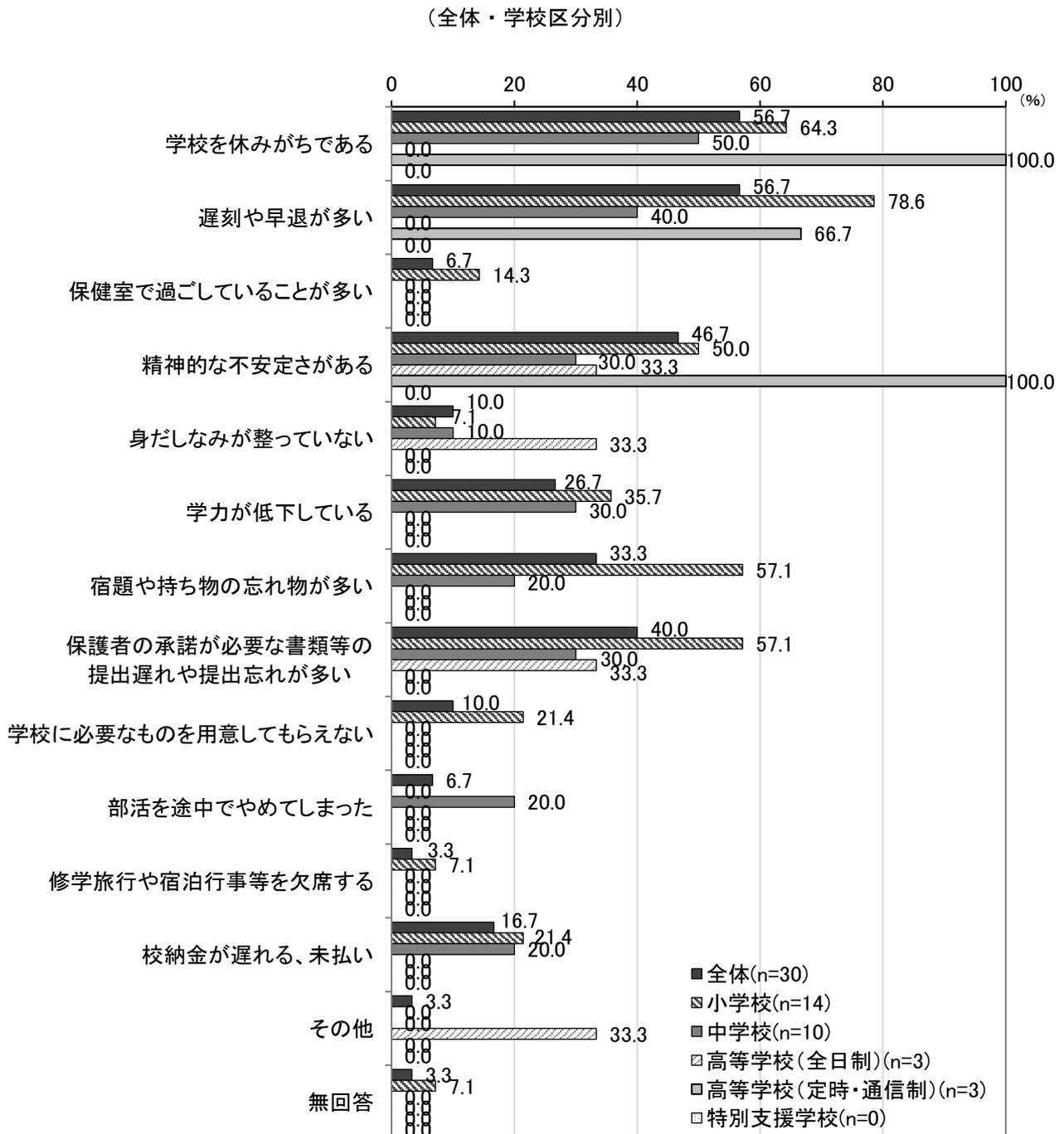
全体でみると、「小学6年生」が23.3%と最も高く、次いで「中学2年生」が16.7%、「小学3年生」「中学3年生」「高校2年生」が10.0%、「小学4年生」「中学1年生」が6.7%となっています。

(全体・学校区分別)



② 要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース
 学生生活の状況（あてはまる番号すべてに○）

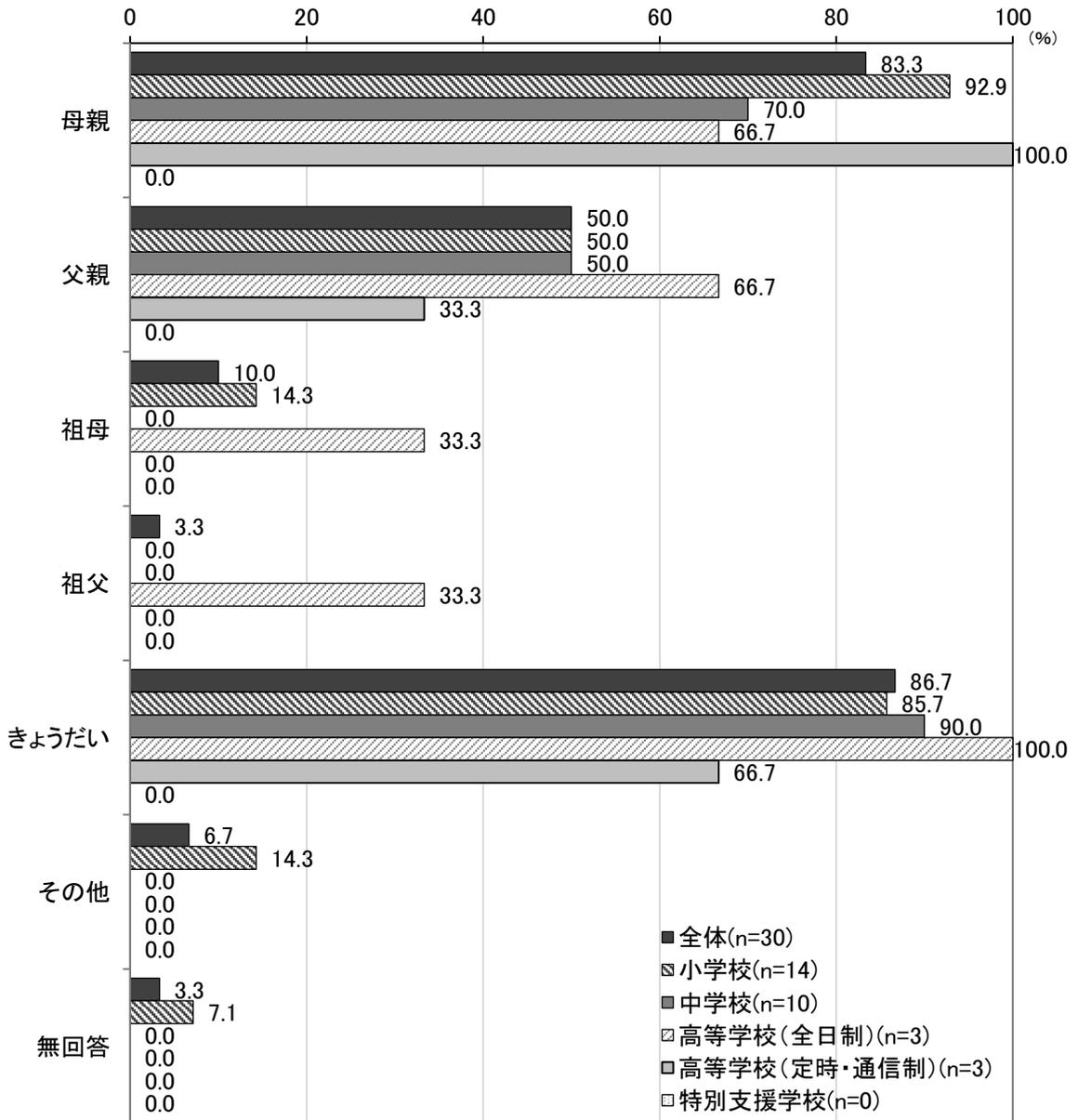
全体でみると、「学校を休みがちである」「遅刻や早退が多い」が56.7%と最も高く、次いで「精神的な不安定さがある」が46.7%、「保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い」が40.0%となっています。



② 要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース
 家族構成（あてはまる番号すべてに○）

全体でみると、「母親」が83.3%、「父親」が50.0%、「祖母」が10.0%、「祖父」が3.3%、「きょうだい」が86.7%、「その他」が6.7%となっています。

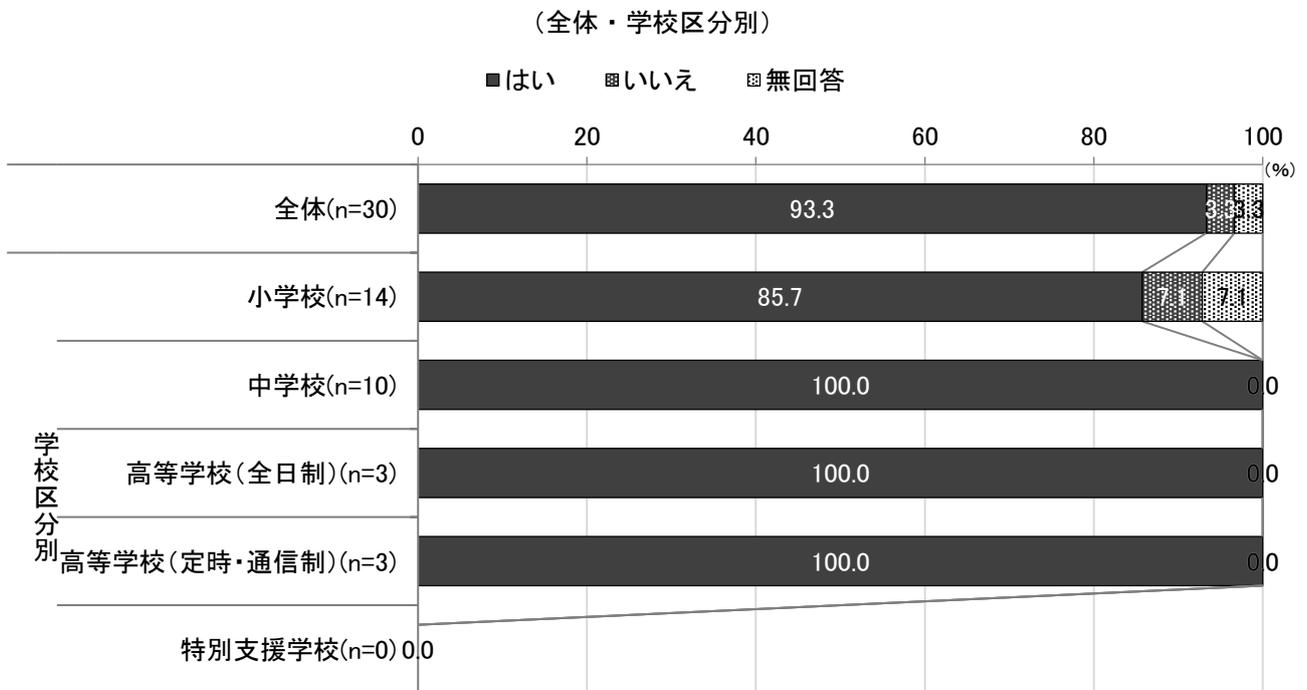
(全体・学校区分別)



② 要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース
 家庭でのケアの状況

① ケアの状況を把握しているか

全体でみると、「はい」が93.3%、「いいえ」が3.3%となっています。

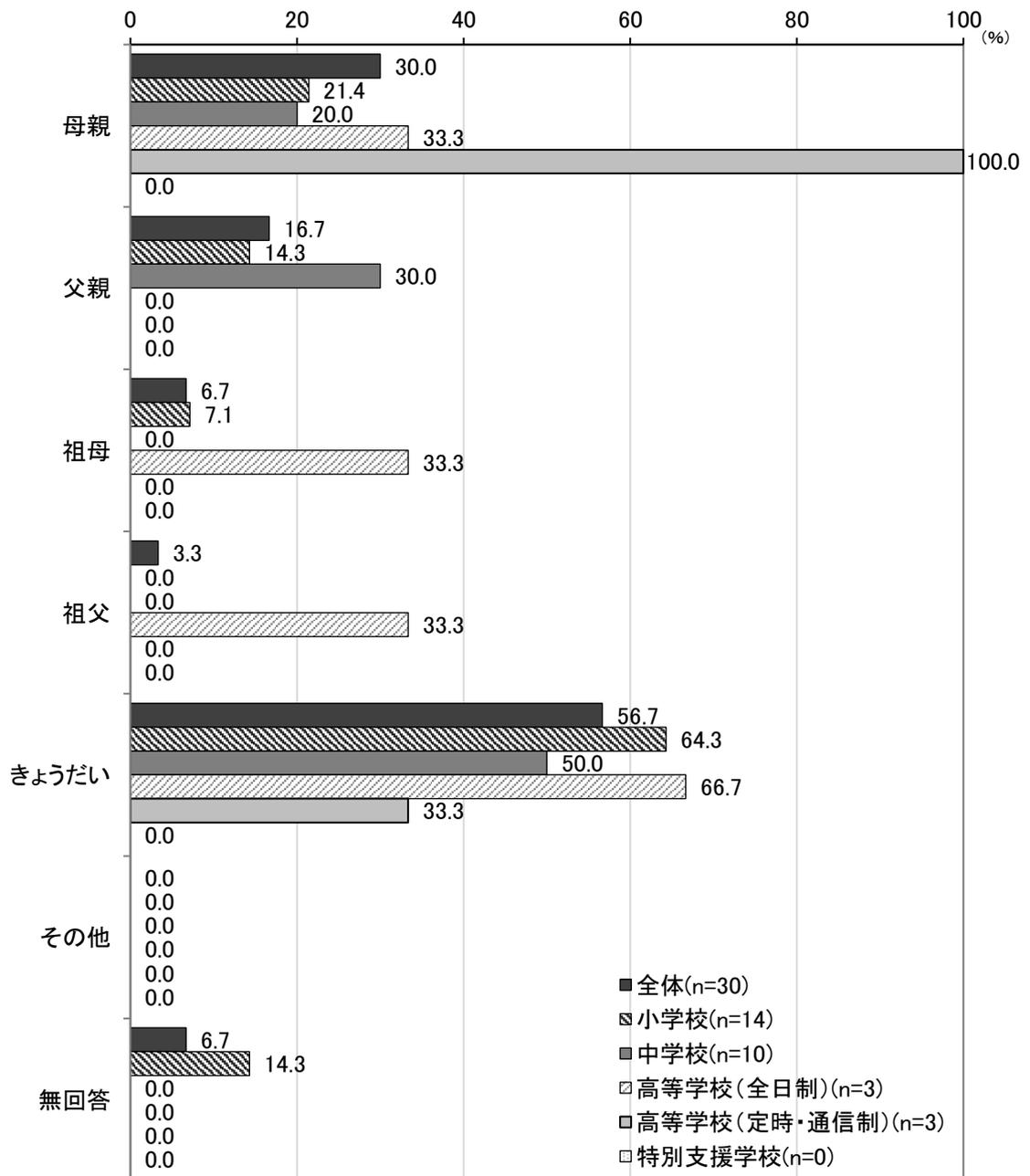


② 要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース
 家庭でのケアの状況

②-a) ケアを必要としている人（あてはまる番号すべてに○）

全体でみると、「きょうだい」が56.7%と最も高く、次いで「母親」が30.0%となっています。

(全体・学校区分別)

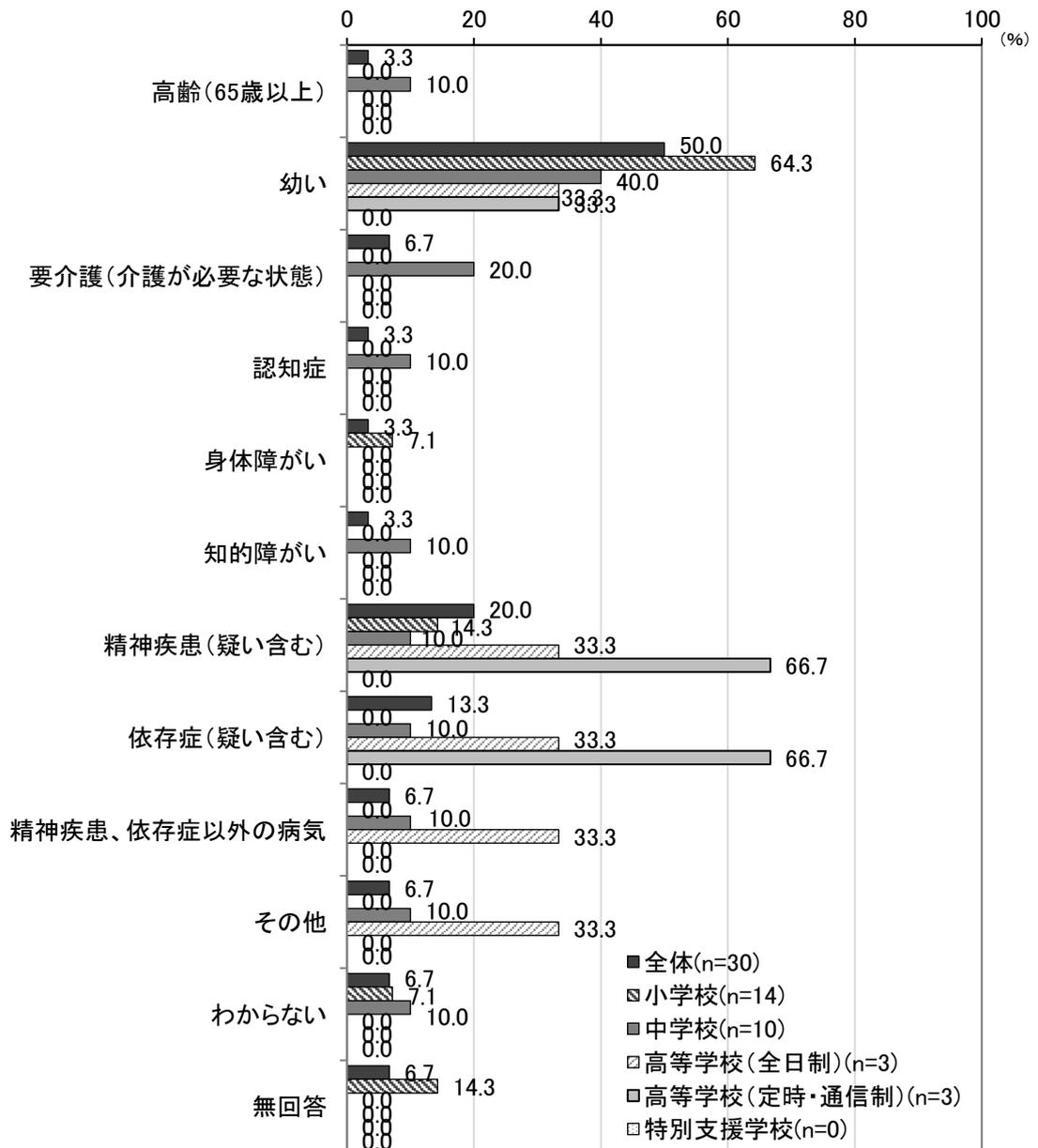


② 要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース
 家庭でのケアの状況

②-b) ケアを必要としている人の状況（あてはまる番号すべてに○）

全体でみると、「若い」が50.0%と最も高く、次いで「精神疾患（疑い含む）」が20.0%となっています。

(全体・学校区分別)

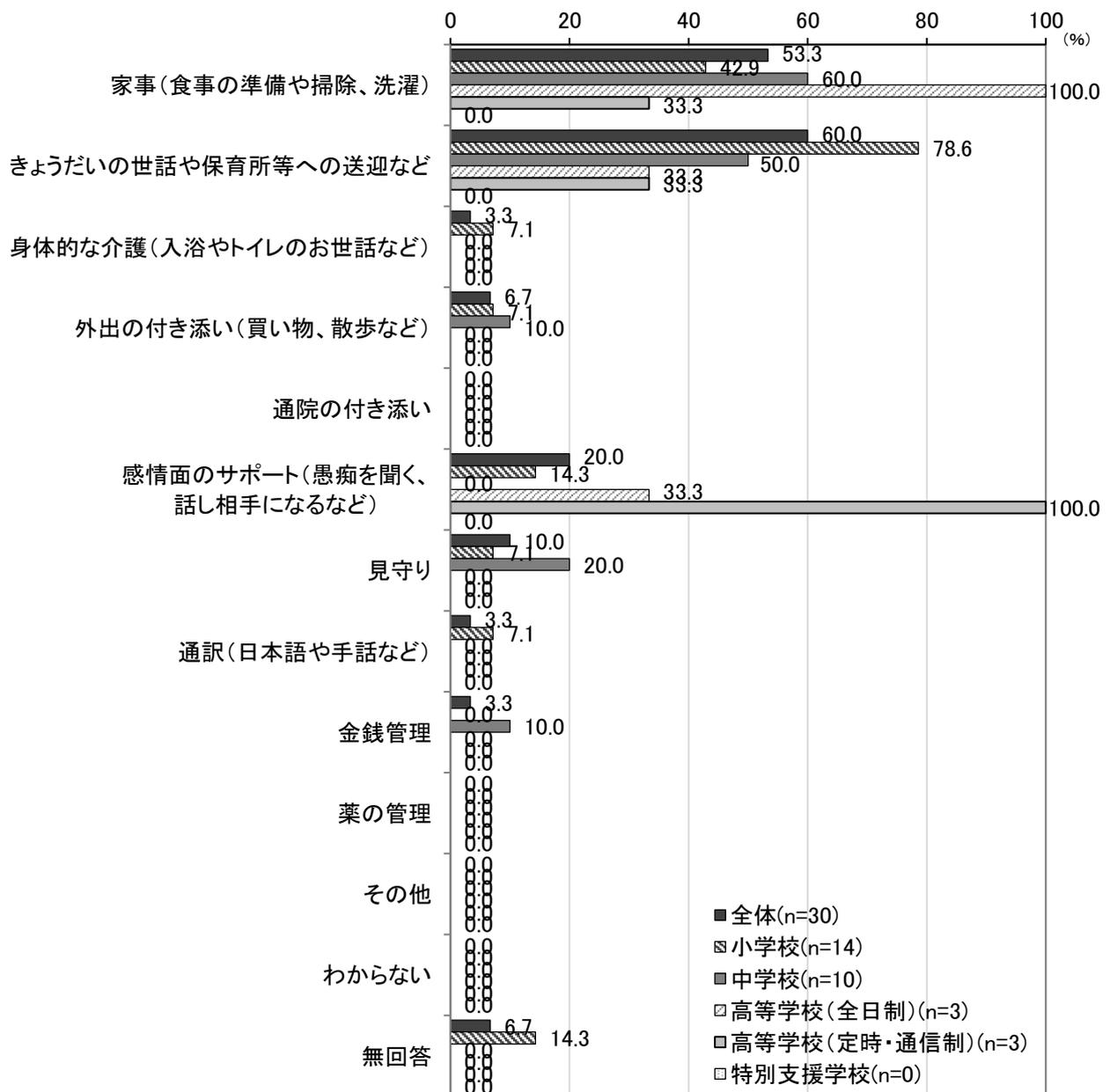


② 要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース
 家庭でのケアの状況

②-c) ケアの内容（あてはまる番号すべてに○）

全体でみると、「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」が60.0%と最も高く、次いで「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」が53.3%、「感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）」が20.0%となっています。

(全体・学校区分別)



② 要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース
ヤングケアラーと気づいた理由・きっかけ

小学校
家庭訪問の様子、本人の話
本人の言動と保護者の会話中から
児童の生活の乱れ、保護者からの暴力等の訴えから、個別に話を聞く中で、ヤングケアラーの実態が分かった。
担任による、家庭での様子についての本人への聞き取り
欠席が多い 家庭訪問時の本人からの聞き取り
本人との会話
両親へのヘルパーから、行政の児童福祉部署への通告
学校での教育相談や担任による聞き取り
児童本人からの聞き取り
連絡なしで欠席することがあったので、当該児童の兄に理由を聞いたところ、幼い弟の面倒を見ているとのことであった。
母親が家事都合で学校を欠席させることがあり、その理由を聞くと、きょうだい児のお世話であった。その後、養護教諭や担任が当該児童と会話をする中で、状況を把握した。

中学校
欠席の際、家庭訪問をすると、母親はいないが、きょうだいがいる。
SSW からの情報提供
いじめアンケート
小学校からの引き継ぎ
昨年度、小学校の弟からの聞き取りから
ケアマネジャーから子育て支援センターへ訴えがあり、学校にて情報共有を行った。
兄の訴え
教育相談や面談等で、家庭での様子を聞いた。母親の精神的な不安定を職員が対応している。
小学校からの情報により
NPO法人からの連絡（学校へ）。

高等学校（全日制）
担任との面談
本人からの訴え
精神的不安定さ（自傷行為等）により、保健室で養護教諭にじっくり話を聞いてもらう中で。

高等学校（定時・通信制）
中学校からの情報や当時の担任からの情報
担任との会話

② 要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース
つないだ機関

小学校
市町村社会福祉協議会
児童相談所
市町村教育委員会
スクールソーシャルワーカー
民生委員
行政の児童福祉部署

中学校
SSW
行政の児童福祉部署
児童相談所
発達支援センター
市町村教育委員会

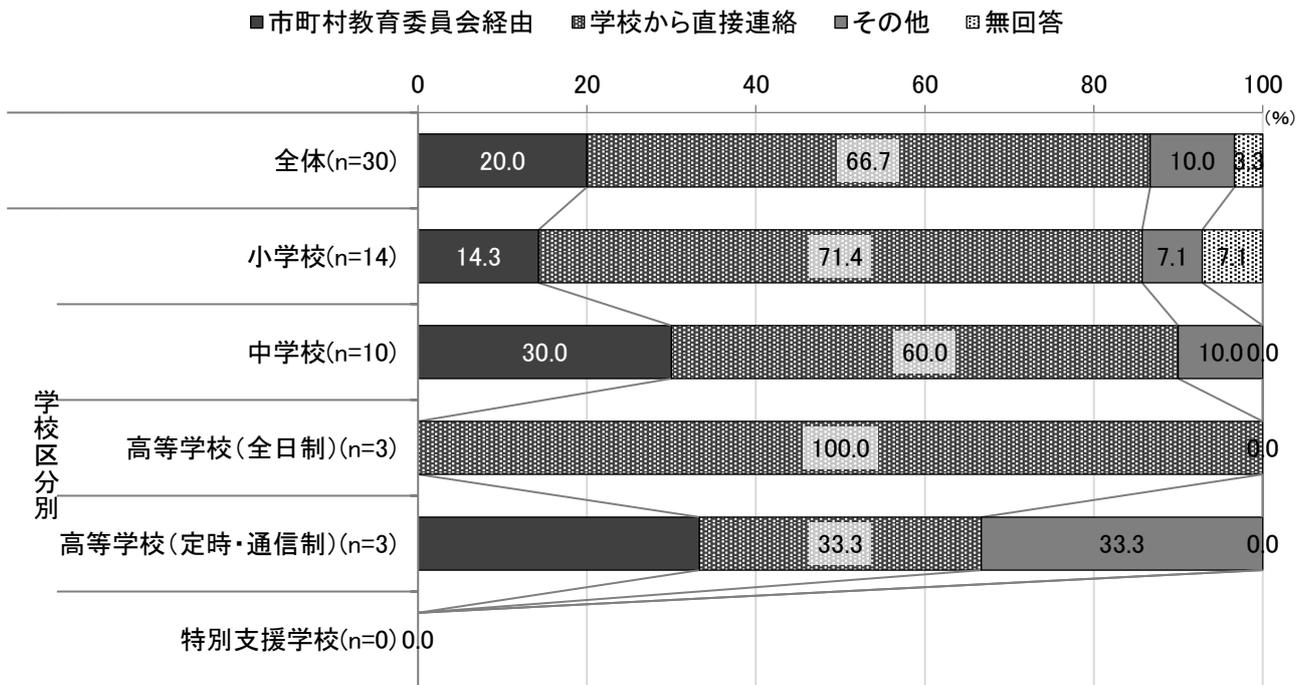
高等学校（全日制）
行政の児童福祉部署
スクールカウンセラー

高等学校（定時・通信制）
子どもの居場所関連事業者

② 要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース
外部機関へのつなぎ方

全体でみると、「学校から直接連絡」が66.7%、「市町村教育委員会経由」が20.0%、「その他」が10.0%となっています。

(全体・学校区分別)



② 要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース
 学校が行った支援（つなぎ先との連携も含めて）

小学校
情報提供と情報共有、家庭訪問依頼
本人及び家庭との会話を増やして観察し、必要に応じて専門機関につないでいる。
定期的の実態の確認を行う。教育委員会への報告。教育委員会による教育相談の実施。
行政の児童福祉部署や保育園との連携・情報共有。（祖父母への協力依頼、保育園登園時の母親へのコンタクト）
関係機関とのケース会議での状況説明。関係機関とともに保護者への助言
負担は大きくないか等、聞き取りを行い家庭へ連絡
担任による相談と継続的な観察。学習面での遅れに対応するための個別支援
行政の児童福祉部署と市町村教育委員会への報告と相談
行政の児童福祉部署へ連絡した。連絡なしで欠席することが多かったので、保護者に欠席する際は必ず連絡するようお願いした。
市町村社会福祉協議会、警察署スクールサポーターへ情報提供
SC との面談の設定及び担任により当該児童への教育相談

中学校
連絡が取れない状況が続いているが、タイミングを見ての家庭訪問の実施。
スクールカウンセラーへ支援要請
市町村教委や家庭相談員との情報共有・対応検討
現在、状況把握の段階
観察する。定期的に連絡を取り合う
児相との情報共有と、訪問看護師の方との情報共有
本人の心のケアと母親の悩み対応。
行政の児童福祉部署やSSW との家庭訪問
対生徒との教育相談を重ね、いつでも相談できる体制を整えた。

高等学校（全日制）
本人との面談、家庭訪問、行政の児童福祉部署とのケース会議
生徒から聞き取った情報の共有
学年団での見守り、養護教諭やカウンセラーによる困り事の聞き取り→父親と面談し、本人の困りごとへの解決策を提案

高等学校（定時・通信制）
つなぎ先との情報交換
連絡と相談、見守り、声かけ

② 要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース支援した結果、子どもへの変化

小学校
正確な実態把握や支援の在り方を検討中なので、変化は現時点では見られない。
大きな変化はないが、児相と情報共有している。
相談できる環境を整えたことで、定期的に話を聞き、実態を知ることができている。
単身赴任中だった父親が帰ってきたこともあり、1学期後半は生活が整った。
児童相談所での一時預かりの後、登校できるようになった。（母親の養育改善）
父親の意識が向上し、家庭生活が安定しつつある。本人の不安が軽減している。
学習への意欲の向上
結果としてはまだ現れていない
欠席する際は保護者が連絡するようになり、欠席も減った。実際に弟の世話のために欠席しているのか確証がないため、経過観察している。
二学期の最後の数日は、歩いて登下校するようになった。

中学校
大きな進展はないが、2度ほど登校ができた。
一時保護の後、家庭に復帰。その後経過観察継続中。
保護者の校納金の未納は減ってきた
学校生活は発言等で気になる時はあるものの、比較的落ち着いて生活している。
登校しぶりはあるが、登校できている。
学校に登校することが少しずつ増えてきた。
今はお母さんの病気の状態が快復し、ケアラーの度合いは減った。

高等学校（全日制）
必要に応じて担任に家庭のことを相談できるようになった。学校の許可を得てアルバイトを始めた。
児童相談所に引き継ぎ、まだ家庭の状況に変化なし
家事から解放され、父親も協力的で、困り事があると学校に相談ができるようになった。現在も注視しながら声かけなど行っている。多忙な親に本人がどう要望を伝えればいいのか、分からなかった事が大きい。（生育歴によると思われる）

高等学校（定時・通信制）
登校に対する意欲が少しでてきた。

(4) (2)で「3. 外部の支援にはつないでいない(学校内で対応している)」と回答した方にお伺いします。外部の支援につながなかった理由を教えてください。また、どのように対応しているのかお教えてください。

【つながなかった理由】

小学校
兄弟のお世話がどの程度のものなのかははっきりしない。
可能性であって、実態を正確に把握しているわけではないから。
すでにつながっていた
兄として幼い弟の面倒を看ている状況で、学習に支障が出ているようには見えず、また、本人からの訴え等もない。弟の忘れ物が多いことに関しては、母親と学級担任が密に連絡を取り、様子を見ているので。
状況が緊急を要するものではないため。
はじめは、行政の児童福祉部署が対応していたが、学校が対応することになった。
家族が外部の支援を受け入れられるような状況にない。
状況を十分に把握しているから
母は単身で県外で仕事をしているが、週末には帰省しているため。

中学校
本人の自由な時間があり、部活動にも参加していることから見守りを行なっている。
外部の支援につなぐまでの状況ではなかったため。
平日は寮生活を送っており、規則正しい生活ができているため。週末は自宅で過ごす、そのときの様子が気になる。
実態が「手伝い」の範囲であると判断したため。
繋いではいないが、定期的に行政の児童福祉部署と情報共有をしている
不登校の生徒であり、幼い兄弟の面倒をみている情報は行政の児童福祉部署へつないでいるが、それ以上の手立てを教員や学校がとれないため。
現在のところ、本人から話を聞くことができ、本人も大丈夫であると話しているため。
学校内で対応できるケースであるため。
家庭内での状況が改善されてきたため。
情報をつかんだのが最近であるため。
日常生活は普段どおりに過ごしている。
現在のところヤングケアラーの事案による欠席等が見られないため。
ヤングケアラーである可能性はあるが、本人からの相談等はなく断定できないため。
ヤングケアラーの可能性はある というレベルであるから。
現段階では、学級担任や学年職員、養護教諭を中心に見守りや声掛けを行っているところである。
他の家族の支えもあり、現在は改善しているから。
本人と学校との間で、ヤングケアラーという認識したうえで、接する段階に至っていない
外部の支援に繋ぐまではないと判断したため。
学校内での支援や保護者への働きかけを行っていき、改善がみられるようになったため

家庭での問題に対する疑問について、踏み込みきれずに、正確な状況把握までに至らない場合がある。
高等学校（全日制）
生徒本人が望んでいない
問題なく学校に登校できている。本人が望んでいない。
祖父母が本人の保護をしたため。
実態把握が十分にできていない。また、生徒自身にもその自覚がないことに加え、家庭の事情に学担をはじめ、学校側が踏み込むことが難しい。
学校の対応で何とかクリアしている。
本人のきょうだいを支援している SSW より、事実確認の電話が来たので。
ヤングケアラーと思われる状況であるが、本人が日常生活において困り感を示していないため。
保護者、本人の様子がある程度掌握できている。
高校は夏休みが終わり、2 学期が始まっていて、小学校はまだ夏休みの時、欠席の理由で兄弟の世話という理由で欠席したことがあったり、部活動も家庭の事情で退部したりしたが、兄弟の世話で欠席したのも夏の間だったり、部活の退部も家庭の事情まで詳しく把握できなかったため。
具体的中身が不明

高等学校（定時・通信制）
本人が外部の支援を必要としていないため。

【対応】

小学校
教育相談や悩みアンケート等で家庭の状況を注視している。
スクリーニング会議で情報を共有した後、担任が児童から情報収集し、その保護者に対して必要な助言をしている。
学級担任による見守り、及び定期的な悩み事アンケートの実施
家庭との連絡をこまめにとり、子どもたちの様子を全職員で見守る。
ZOOMで、週2回、学習指導を行っている。
学校で組織的に対応している。
様子を聞き取り、見守り
遅刻が目立つが、登校したら保健室で一旦心を落ち着かせて、教室に上がるようにしている。

中学校
日常の言動、日記、睡眠時間などの見守りと声かけを行なっている。
本人への聞き取り等
部活動に所属しているので、練習を通して、規則正しい生活を送ることができるように支えている。また、保護者と積極的に関わりをもち、保護者に対しても支援をしている。
生徒及び保護者への聞き取り。保護者に子育て支援センターの紹介。
行政の児童福祉部署へつないでいる。
学級担任や学年主任が話を聞いて状況を把握している。
本人への教育相談を実施
不登校傾向があるので、不登校の対応を行っている。
確実に把握できているとは言えないが、教育相談や生活アンケートなどでの情報収集を毎月行っている。
学校とのやりとりは、英語教諭の助けを借りている。
定期的に学級担任が話を聞いている。
学担による積極的な会話による聞き取り
学級担任や養護教諭が定期的に相談を行うなど、状況を見守っている。
他の生徒よりも注意深く見守っていく。
校内の職員で情報を共有し、声かけ、見守りを行っている。
教育相談やSCとのカウンセリングで得た情報を慎重に扱う。

高等学校（全日制）
定期的(2から3ヶ月に1回)に面談を行い支援を必要としないか確認をする
祖母との面談、その後の本人との面談、定期的な声掛け、見守り
学級担任による聞き取りとカウンセラーとの面談の推奨。
個別面談で困り事がないか確認している。
保護者からの連絡により、「家庭の事情」による欠席（事故欠）扱いとしている。
SSWと情報共有、三者面談、転校希望先の学校との連携

気になる様子がみられた場合に、本人と話をしたり、本人が求める支援のニーズを把握して対応している。

相談相手や見守り支援をして様子を見ている

学年会で情報共有しており、今後は見守っていくという対応になったため

高等学校（定時・通信制）

声かけ等相談しやすい環境づくり。

(5) ヤングケアラーの把握や支援にあたって工夫していること、気を付けていることはどのようなことですか。具体的にお答えください。

小学校
児童本人の困り感に寄り添う。本人の話を聞く。
毎月実施するアンケートや教育相談等から情報を収集している。
正当な理由なく学校を欠席・早退する児童について、職員間で情報を共有している。
ケースごとに個別に組織で対応している。
本児童の家庭に関係している行政、民間業者との連絡を密にしている。
教育相談アンケートの実施、教育相談の実施、校内相談体制の整備、教育委員会との連携
子どもたちにストレートに聞くよりも生活の中の会話として聞き取るようにしている。学校が積極的に話を聞くという意識はもっていない。
定期的な悩み事アンケートを行っており、学校内のことに限らず、家庭の悩み事も聞くようにしている。
全職員による児童理解の会議を行い、状況の確認をしている。登校の様子や保健室への来室状況から、子どもの変化を把握している。
特にヤングケアラーを把握するためではなく、いじめや悩みを含め、普段の様子を見て教育相談等で個別に聞き取るようにしている。
欠席・遅刻の多い児童への聞き取り
アンケート調査や、いじめ不登校等対策委員会で、実態把握に努めている。
悩みアンケートの活用 児童の様子の観察
児童及び保護者とのコミュニケーションを重ね、心の内を把握できるような信頼関係づくりに努めている。
家庭へのネガティブな気持ちをもたせないようにしながら、本人の困難さに寄り添うようにすること。
毎月1回、悩みアンケートを行い、困っていることはないかと問うている。
本人の話を聞く。本人の様子や状況等についての情報交換により変化やサインを見逃さないよう組織で対応している。本人の頑張りを保護者に伝える。
①学校への提出物が保護者を辻手のものかどうかの判断。②校納金等の入金に遅れがないかどうか。③児童の服装の様子の観察。④日記や日常の会話
校内の教育相談で個別の聞き取りなどを行いヤングケアラーなどの実態を把握している。
本人に寄り添う、話を聞く
定期的に家庭に電話連絡している。
毎日電話連絡をし、週1回は家庭訪問を行い、家での様子や健康状態を確認している。
行政の児童福祉部署との連携や、毎月你的生活アンケート等による情報収集

中学校
日常生活に支障が出てきたと思われる時を見逃さないこと。本人の話をよく聞くこと。
生徒の観察。関係機関との連携。
本人の生活の記録や教育相談、周囲の生徒等の情報から把握に努めている。
欠席がちな生徒への言葉かけ。全職員での情報共有。
定期的に不登校対策委員会を実施し、不登校を含め気になる生徒の情報共有に努め、その改善を図る対策について協議している。
家庭訪問や、本人からの聞き取り、学校での様子から、こまかなサインを見逃さないようにしている。
定期的に教育面談を行い、困り感がないかの確認を行っている。
情報収集
生活アンケートや教育相談の機会をとおして、生徒の実態把握に努めている。行政の児童福祉部署と連携を図り、家庭状況の把握に努めている。
日常の観察や面談・アンケート等により生徒の様子の変化を見逃さないようにしている
定期的な生徒へのアンケートやそれに基づく教育相談
プライバシー保護
家庭訪問を定期的に行うことで、不登校傾向の生徒に対してすぐに対応できるようにしています。
日常生活での生徒の変化を見て、声かけや必要に応じて面談をする。
確実に把握できているとは言えないが、教育相談や生活アンケートなどでの情報収集を毎月行っている。
定期的な教育相談アンケートで状況把握している。
定期的な教育相談とスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・スクールアシスタントの活用、市町村教育委員会・行政の児童福祉部署・児童相談所等との連携・協力依頼をしながら、早期に事例対応できるよう努めている。また本年度は、1年生対象でスクールカウンセラーによるカウンセリングを行っており、一人で不安や悩みを抱え込まないよう、個々の相談できる力の育成を目指した取組を実施している。
学担による生徒の細かな変化への気づき
月一回の学校生活アンケートの実施
情報共有を欠かさないこと、学級担任だけで抱え込まないことが大事であると考えている。
教育相談や生活記録ノートでのやり取りを通して生徒の状況を把握し、週1回、生徒理解の時間を設定して職員間の情報共有を図っている。
朝の登校で決まって遅刻している生徒に対し、遅刻常習と決めつけずに接している。ひょっとしたらヤングケアラーではないかという視点をもつ。
生徒とのコミュニケーションを大事にしている。学級担任や副担任、部活動顧問の先生など、いろいろな立場の先生方がコミュニケーションを図るよう心がけている。
ヤングケアラーに対して、これまで特に何か対応することは無かった。まず把握することが必要であるため、今後検討していきたい。
教育相談やSCとのカウンセリングで得た情報などを慎重に扱っている。
生徒との日常からの会話やこまめな情報収集と情報共有

高等学校（全日制）
本人の意向を尊重しながら対応する。本人の将来に現場が悪影響を及ぼすことがないかを考えながら支援する
職員間で情報を共有する。
病欠以外で欠席が続いている場合の家庭環境の把握
学期毎にクラス担任・副担任による全生徒の個別面談を実施している。また、年3回生活に関するアンケート調査を行っている。
特に、ヤングケアラーに特化したことではないが、日頃の生徒の観察や生活ノートへの記述内容の把握など。
担任から不登校や無気力というような、所謂、「問題行動」の報告があった場合は、あらゆる原因を排除せずに本人や家庭からの話を丁寧に聞き取るようにしている。
家族を支えたいという本人の気持ちに寄り添いつつも、本人が望む場合に出来るだけ周囲に支援を求められるように、支援のニーズを予想して外部の支援機関を前もって調べている。
生活習慣の乱れや身だしなみ等について注視しており、必要に応じて声かけをしている。
本人はあまり話したがらない内容であるため、生徒と信頼関係ができる教員が見守っていくこと
職員間の情報共有、アンケート、聞き取り

高等学校（定時・通信制）
外部機関との連携
アンケートや面談で実態を把握し、校内で情報共有する。
本人が自分の境遇に落ち込むことがないように配慮

(6) ヤングケアラーの把握や支援にあたって難しいと感じることはどのようなことですか。
具体的にお答えください。

小学校
本人が正直に話しているかどうか分からない。保護者の協力が得られない。
特に下の兄弟のお世話は本人の負担感が掴みにくい。保護者に聞くことも関係の悪化が想定され難しい。
学校側がヤングケアラーだと認識しても、保護者が当然の手伝いの範囲であると考えている場合児童や保護者自身も気づいていないことがある。
学校という枠では、家庭の中に入るのは難しく、実態把握が困難
児童自身がヤングケアラーの実態の認識が不足していること。
関係機関と情報共有を進めていくことが難しい。
家のお手伝いや、家族を思いやる気持ちから行動している児童もいるので、判断が難しい。
兄弟が多い児童は把握しやすいが、兄弟が少なかったり、大人の家族の状況が分からなかったりすると、把握しづらい。保護者への確認が取りにくい。
家庭のことであり、深く入り込めない部分がある。
家庭内のことに学校がどこまで聞き取りができるのか、関係機関につなぐこと以外にどこまで支援ができるのか難しい。
家庭内のことなので、把握は難しいし、こちらの思い違いの可能性もある。
家庭との連携
家庭内の問題であるだけに詳細な実態を把握することが難しく、また、どこまで踏み込んで関わっていけばよいか躊躇しがちである。
家庭の事情があり、やむを得ない部分もあることから学校から解決方法を示すことができず、経過を見守るしかないこと。
家庭のことに教員が踏み込めない。
家庭内のことなので、問題が出にくく、実態把握が難しい。
両親が障害のある姉にかかりっきりになっていて、ヤングケアラーにしているという認識がない。
①本人が、家族の世話をし当たり前だと思い込んでいる場合が多いためなかなか表面化しない。 ②信頼関係が築けていないと本当のことを話してもらえない。
家庭生活の出来事なので、児童の変容などから把握することが多く早期発見することが難しい。
母親が面倒を見ない幼い兄弟を他の兄弟で見ているが、不登校のため現在の状況がほとんど分からない。母親に連絡をしたり、家庭訪問をしても返答がなく困っている。
本当のことを言っているのか、保護者の協力・理解
家庭での様子が見えにくい
家庭環境の実態をしっかりと把握できない部分がある。
家庭内のことであるため実態が見えにくい。本人がそのことを不登校の口実にしていないか疑問がある。
家庭によっては民生児童委員等との関わりを拒む場合の関係機関との連携

中学校
家庭内のことなので、保護者にも確認が難しいことから把握が難しい。また、本人が家族思いの子どもであると更に判断が難しいと感じる。
連絡がつきにくい。本人が気づいていない。
直接、保護者に確認等ができないこと。
生徒本人を支えることはできるが、保護者の考え方を変えていくのは困難である。我が子がヤングケアラーの状態にあることに気づかせることが難しい。
家庭訪問等、組織的に対応しているが、保護者の協力が得られない。連携している関係機関も対応しているが、状況の改善にまで至らない。
関係機関への連絡までにはいたらない。家庭の内情までに踏み込めない。
どこまで聞いたり支援したりすれば良いのかが分からない。
家庭のことであるため踏み込みづらい。
生徒からの訴えをもとに対応しているが、全生徒を対象とした場合、正確に実態把握ができていのかどうか不安がある。（正確に実態把握をすることが難しいと感じる。）
家庭内の状況を学校が把握するのに限界がある
なかなか実態がつかみにくい案件であり、もし疑いとしてあがってきた場合に、学校としてどこまで実態把握等に踏み込んでいいのか、プライバシーの問題もあり難しく感じている。
保護者の考えを変えることが出来ない。
家庭の状況はわかりにくい。手伝いとヤングケアラーの境界が見極めにくい。
保護者への確認が難しい
家庭内のことなので、学校からなかなか言い出しにくいです。
家庭内のことなので、直ぐに家庭に聞くことが難しい。不確かなことが多いために、関係機関につなぐことも難しい。
家庭内のことなので、把握が難しい。本人が「ヤングケアラーである」という認識がどれほどあるのか分かりづらいので、他者が認識・把握することが困難である。
家庭内のことなので、表面(学校生活)だけでは分かりにくい。
可能性があることは分かっているが、本人が話をしたりするなど確定できる状況がないと動けない。
本人がヤングケアラーだと認識していないこと。本人が家族・家庭のことに関して、なかなか話したがないこと。
定義づけ自体が難しい
見えない部分が多いこと。教師としてのかかわり方。家庭への連絡のとり方
家庭内のことに、どこまで踏み込んでいいのか難しい。また、その生徒との信頼関係を築けているかがとても重要であると考える。
家庭の状況を完全に掌握することが難しいところ。
プライバシーの侵害との境界線がわからない。
家庭内での様子を知る機会はなかなかないので、全てを把握することは難しいと感じる。
家庭訪問が実施されていないため、家庭の状況を把握することが難しくなっている。
家庭での問題に対する疑問など、質問の仕方に苦慮することがある。

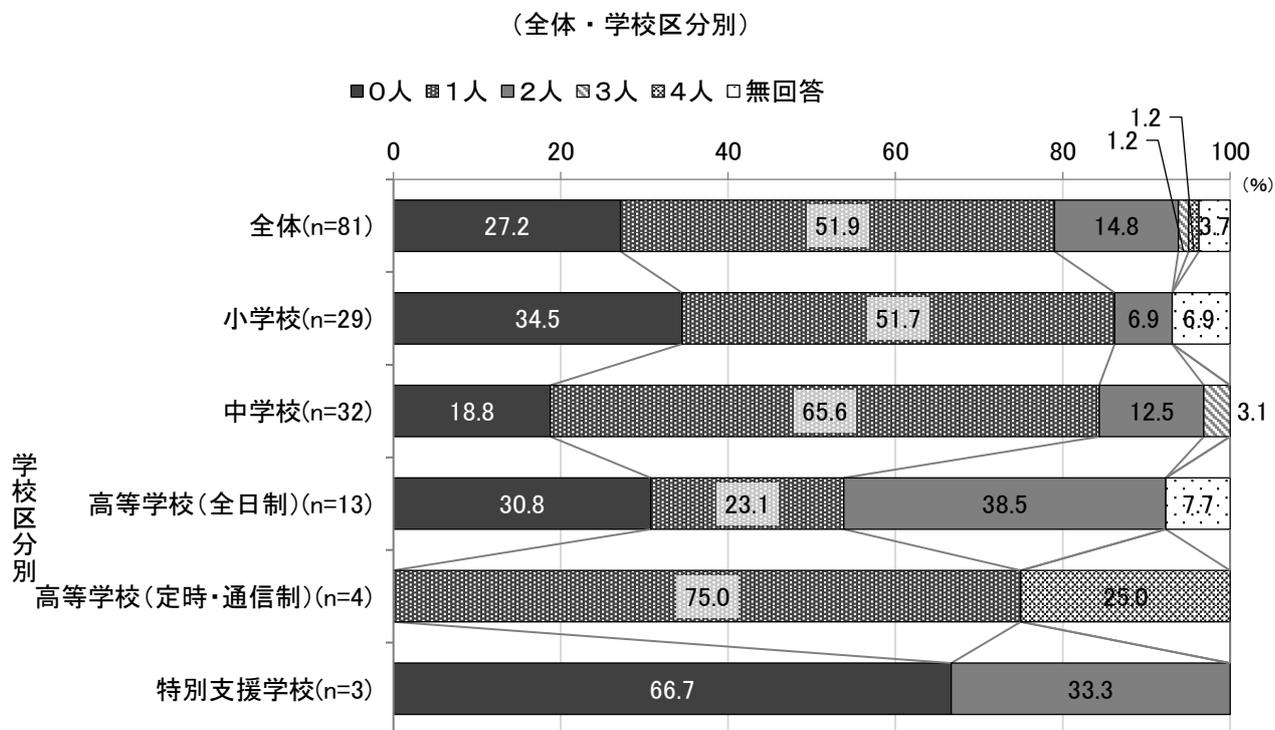
問題が表に出にくく、家族や本人は問題だと気づいていない場合がある。

高等学校（全日制）
本人と保護者の意向が一致しない時
家庭内の問題について、自ら相談してくる生徒はいない。また、教員からも生徒・保護者に実態を聞くのが困難。
ケアをしている本人が、ヤングケアラーである自覚がなかったり、なかなか実態が見えてこないところ。
各家庭内の出来事なので、深入りすることが非常に難しい。また、生徒自身にもその感覚が無く、実態の把握が非常に難しい。
学校に普通に登校してきている生徒の中に、複雑な家庭環境の生徒がいて、本人が訴えてこない限り把握が難しい。
家庭内の問題に学校側がどこまで入り込んでよいのか心配（不安）なことがある。
家庭内のことなので、本人や保護者からそのような話がでなければ、把握が難しい。
ヤングケアラーに関する調査を行うツールがない。「障害や病気のある家族」の代わりではないが、家事を多く担っており、精神的負担から体調を崩す事もある。家の手伝いとヤングケアラーの境界が曖昧なところもあり判断が難しい。
兄弟の世話で学校を休むのは、問題であると思うが、家の手伝いがどのようなことをしているのか把握が難しい
詳しく話したがらない

高等学校（定時・通信制）
保護者への支援とそのアプローチ
本人が自身の状況を問題としておらず、支援を必要としていない場合は支援が難しい。
本人がヤングケアラーの自覚がない

(7) 問 14 で「1. いる」と回答した方にお伺いします。今回の貴校の調査対象の学年の児童では何人把握していますか。

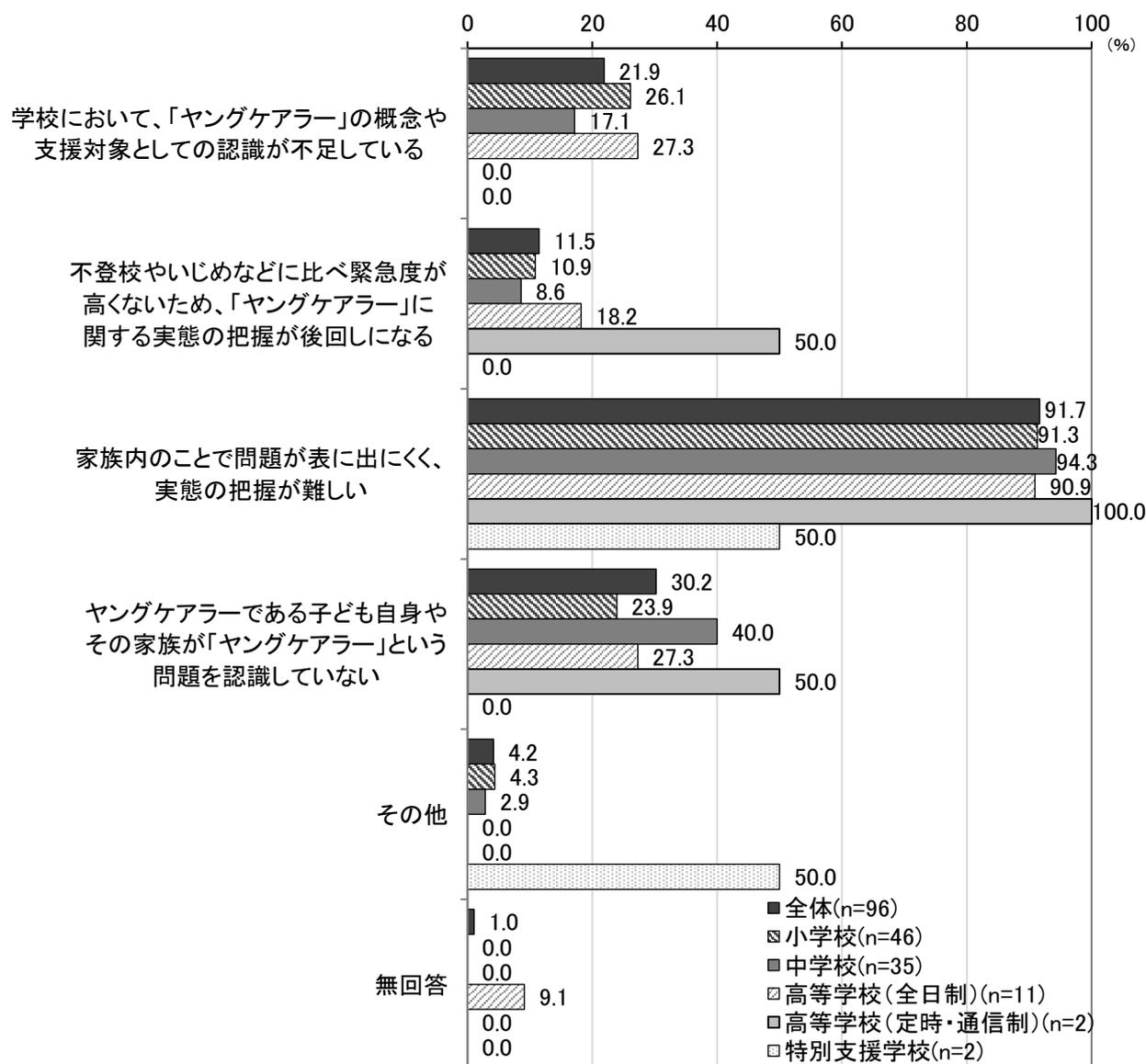
全体で見ると、「0人」が27.2%、「1人」が51.9%、「2人」が14.8%、「3人」が1.2%となっています。



問 16 問 14で「3. 分からない」と回答した方にお伺いします。その理由をお教えてください。
 (あてはまる番号すべてに○)

全体でみると、「家族内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい」が91.7%と最も高く、次いで「ヤングケアラーである子ども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を認識していない」が30.2%、「学校において、「ヤングケアラー」の概念や支援対象としての認識が不足している」が21.9%となっています。

(全体・学校区分別)

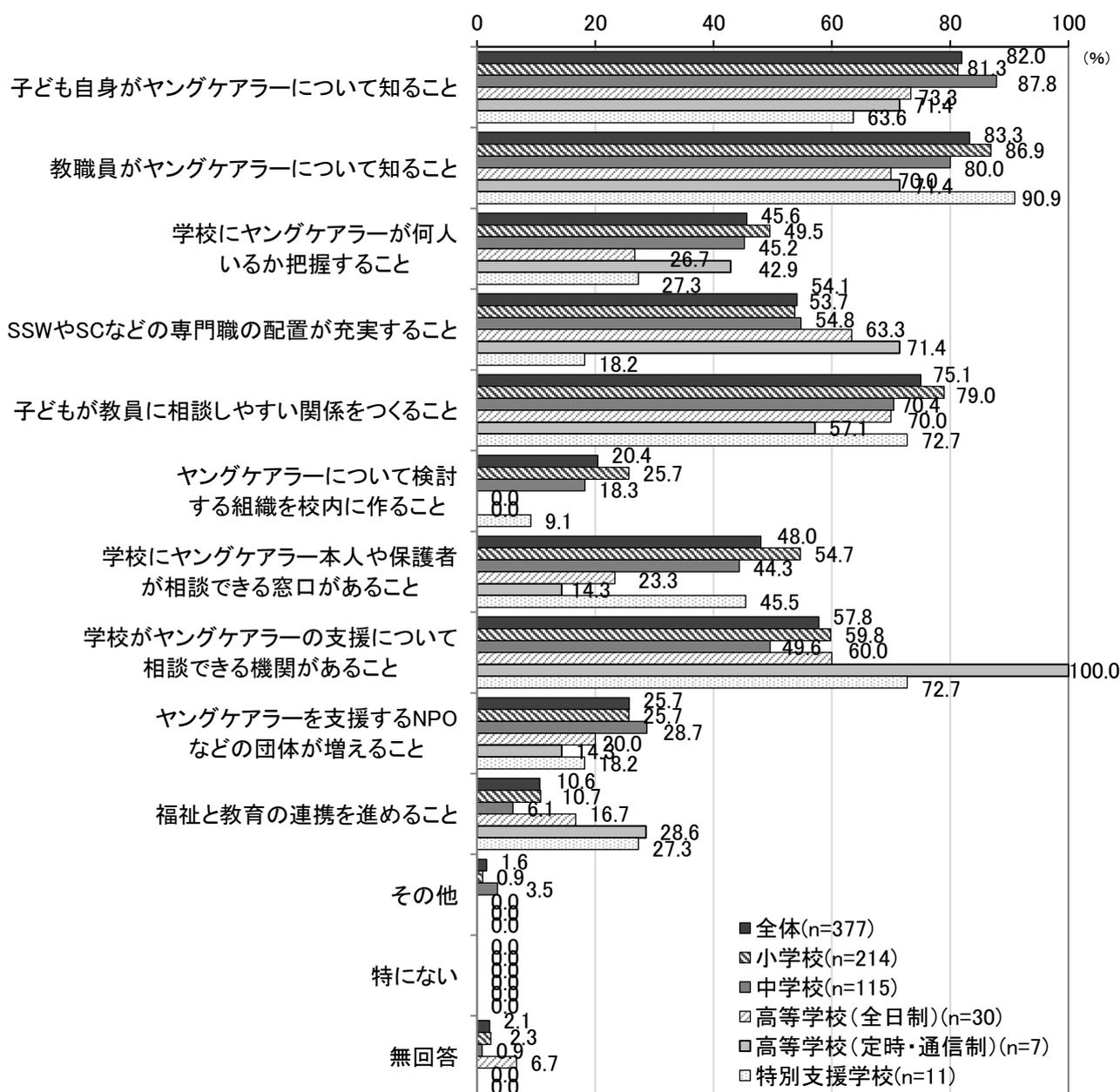


問 17 ヤングケアラーを支援するために、必要だと思うことはどのようなことですか。

(あてはまる番号すべてに○)

全体でみると、「教職員がヤングケアラーについて知ること」が83.3%と最も高く、次いで「子ども自身がヤングケアラーについて知ること」が82.0%、「子どもが教員に相談しやすい関係をつくること」が75.1%、「学校がヤングケアラーの支援について相談できる機関があること」が57.8%となっています。

(全体・学校区分別)



VI 自由意見

1. 中高生

(1) 子どもの声

中学生
今私達は普通に楽しく友達とも遊んだりして楽しく過ごせてるけど、もしかしたら家族の世話をしないといけなくなるという可能性は十分あるので、こうやってヤングケアラーについての説明みたいなことをちょっとでも多くしたらいいんじゃないかなって思いました
言いたくても家族のためだからと思ってしまい、言えない人もいるから、そういう人のためにもヤングケアラーで困っている人を集めて、その中で困っていることについて話し合えば、みんな自分と同じ環境で生活していると安心して本音がいえるようになると思う。県でヤングケアラーの人たちの人数をしっかりと把握する。大人の中でもヤングケアラーについて知らない人もいると思うからしっかりと教えて理解を共有することも大事だと思う。
このような苦勞をしている方々は、なかなか自分から言うこともしないと思うし、相談先があると分かって行くにはなかなか勇気がいると思うから、こういう調査はあっていいと思った。もう少し積極的に動くことのできる相談先があるといいのかもしれないと思った。
子ども達が普通の生活を送れるように周りの人達が気にしてあげたり、相談に乗ってあげたりすることが必要だと思いました。子どもに介護されている人を施設に入れると良いと思いました。一人一人が意識して過ごすより良くなっていくと思いました。
私は、一人一人が、きやすく相談できるようにして、『悩みはありますか?』と聞いても、『ありません』と言う人が多いけど、言いにくいかもしれないから、話しやすいような場を作ってあげることが大切だと思いました。学校に来るのに遅刻したりして、先生とかから、『なんでいつも遅いの?早く来なさい!』とか言われて、追い詰められてる人もいると思うから、『なんで遅れたの?何か理由があるなら話してみて?』とか、優しく聞いたりすると良いと思います。生徒と教師の仲を良くし、生徒が信頼できる教師がいたら良いな~と思いました。
私は当てはまらないし、この立場から言ってもいいかわからないけど。家庭の金銭問題で病院に行けない人を減らす取り組み。学校で気軽に話せる先生がいること。家での状況を定期的知るアンケート調査などをそれぞれの学校で行う。などできることがあると思います。もうすでに取り組んでいたらすみません。
ヤングケアラーの子どもたちに対して、色々対策等を考えるのはとてもいいことだと思う。けど、私は隣の家に100歳を超える親戚がいて、食事の用意や洗濯など家事を手伝うこともあるが、別に苦ではないし、支障もない。どこまでが本当にヤングケアラーなのかは個人の判断だと思う。きょうだいの子守なども私は苦ではないし、両立もできる。
まずは人数や年齢層の把握、そして一番は本人やその家族がどのような状況に置かれているか、何を望んでいるのかを聞き、電話やインターネットが家庭にない場合もあるので本人が無理をしないような形で相談できる方法を考える。
家族やいろんな人のためにするのは凄く大切なことだけど、自分のしたいことをできない子がいるがいるのはダメだと思うから、その子たちに伝わるように自分がしたいことをすればいいよと教えるようにしたらいいと思う

<p>私は元々ヤングケアラーについてよく知っていたのですが「ヤングケアラーの種類」を見て親の介護の他にギャンブルや麻薬、飲酒での病気を持っている親の介護をしている子もいることを初めて知りました。病気だけでなく薬物依存などでの介護は大人の勝手に介護をしてあげているのはびっくりしました。介護する子どものことも考えてほしいです。</p>
<p>「ヤングケアラー」について僕はよく分からないけど、私のようにこの言葉を知らない人に広めるとともに、理解を深めることはした方がいいと思います。また、そのような人が、「辛い」と言えるような環境を作って行くことも大事なかなと思います。</p>
<p>ヤングケアラーの人もみんなと普通に学校生活を楽しめるようになればいいなと思います。そのためにはヤングケアラーという人がいることをみんなが知らないといけないし理解された暁には若いうちから介護をするという環境が違ったりすることがないようなこと、それがどういう形でもいいから改善されてヤングケアラーの人たちが幸せに暮らせるようになればいいと思いました</p>
<p>もし自分が家族の世話などで、自分のやりたいことができなかつたらとても悲しいと思うし、嫌だなと思いました。なのでそういうヤングケアラーの子たちが少しでも減って、自分のやりたいことが一つでもできるようになってほしいなと思いました。</p>
<p>私にはがんの病気を持っている母親がいます。2人暮らしのため、頼れる人がいません。父親も小学2年生のときに亡くなりました。部活には入っていますが、遠いところへの、送り迎えとか大変そうです。あと、買い物に行く時とか、お母さんは手術をしているので、重い荷物は持てないので私が全て持っています。そんなときに「なぜ、子どもにこんな重い荷物もたせているのか？」みたいな視線を感じます。だから、みんなに病気で持てないことを、理解してもらおうと、私はヤングケアラーじゃないけど、そういう人たちへの理解も深まると思います。また、学校でヤングケアラーについての授業を行ってみたらいいと思います。</p>
<p>私個人の意見ではありますが、ヤングケアラーのような人たちは、本当に信頼できる、相当仲の良い友人や親戚などにしか話さないと思います。だからこそ、どんな人にも気軽に相談できる社会を作るべきだと考えます。しかし、現代社会は、そのような関係を築けていないのが現状です。だからこそ、是非宮崎県には、気軽に相談できる社会の最前線を行っていただきたいです。</p>
<p>そういう環境になることは仕方ないけど、親が一番気にするべきだと思う。友達も学校などで相談に乗ってあげたりとかする。そういう子どもを減らす。そのためには、高齢者は老人ホームへの勧誘をしたり、幼児などの世話は家族で分担をしたりする。誰か一人が背負うことはないと呼びかける。</p>
<p>大人の方に言えない子がいるのはたくさんいるとは思いますがそれを抱えて引きずるより相談窓口と言える所まで簡単に伝えて自分を大切にすることが必要だと思います。しかし言えない自分みたいな子がいる場合はどうすればいいのかよくわかりません</p>
<p>ヤングケアラーの人を尊重し、応援をしていくことが大切だと思います。見かけたことはありませんが、馬鹿にしている人などを見かけたら注意をしようと思いました。私の祖父は、脳梗塞という病気です。喋ることができません。私が全て面倒を見てるわけではありませんが、祖父の家に行った時は、一緒に喋る練習をしています。全て祖母が面倒を見ているので、ヤングケアラーの大変さが身に染みてわかります。だから、できるだけ祖母の手伝いをしてあげたいです。</p>
<p>母が保育士できょうだいの迎えにときどき来ている同じ中学 2 年生の話聞いたことがあります。きょうだいに少し障害があるらしく、最近までは部活をやっていなかったらしいです。母親はいるらしいですが、、その子はヤングケアラーなのでしょうか？もしそうなら何か解決策を出し</p>

てあげたいです。
周りにいる人(友達)がヤングケアラーについてわかってなくてヤングケアラーの人に対して「友達づきあいが悪い」とかいろいろ言うかもしれないから、周りの人にも自分がヤングケアラーだとわかってもらう必要があると思う。
悩みを聞いても当事者は他人には話したくないと思うから、自分たちは何もすることはできない。だからこそ、こういうアンケートがとても良いと思いました。自分も、母が行っている祖母の介護をできるだけ手伝っていきたいです。
このアンケートは授業の時間に実施されたのですが、問 11～19 に答えるのに多くの時間がかかるので、周りを気にして正直な回答が書けないと思いました。今後こういうアンケートを実施する場合、周りを気にしなくてよい方法が良いと思います。

高校生
学校生活においてであれば、決して恥ずかしい事ではないので、相談をしてほしい。また、何もできないかもしれないが、少しでもその人の力になればと思う。学校生活でもそれ以外でもヤングケアラーに関しての理解を進めることが重要だと思う。
家でも勉強できるような環境を整える。困っている人は「困っている」と言えない人だと思う。いくら「いつでも相談して良いですよ」という環境を作ってもなかなか状況は変わらないと思う。だからといって、何か改善策があるわけではないので、難しいなと思う。
こういうアンケートがあると、言い出しにくいヤングケアラーの方も勇気を出して周りの人に言い出せるきっかけになるのではないかと思った。これからもこのようなことを続けていけばもっとみんなが暮らしやすい環境になると思った。
家事を手伝ったりする事は良いが学生の本分は学業だと思っているので、本来大人がすることを子どもがして子どもの負担にならないためにもその家庭の事情を把握して金銭的余裕があると子どもの負担も少しは減ると思います。
ヤングケアラーの支援をするために相談してねとか言うのは別に良いが突然今まで話しかけられたことのない知らない人にそんなこと言われても「相談してみよう！」ってなる人はいないと思うからその部分を考えながらすればいいと思う。
以前テレビで大家族について特集されていて、大家族は子どもたちが互いに助け合わなければならず、家事も自身でほとんどこなしていたのですが、彼らはヤングケアラーに該当するのでしょうか？私は当時、大人数で楽しそうというより自分に時間をさけず窮屈そうに感じました。
高校によってバイトをしたらダメな理由が分からない。家庭で大変な人とかもいて学費もやっと払えるぐらいの人も居るのにバイトをさせてくれないことにあまり納得行かない。バイトをしてお金を貯めて家族のためだったり自分のためにお金を使えるようになりたいです。
小・中学校の頃は自分もヤングケアラーですごくきつい日々をおくっていたので、今ヤングケアラーの人のケアも必要だとは思いますが、それ以外にも昔のヤングケアラーだった頃の思い出がきつい人もいるのでその人達のケアも大切だと思います。
お金の支援がなんだかんだ一番効果的ではあると思うが、ヤングケアラーが問題としてとらえられている現状から、税金的に無理なのだと思う。税金が増えて割り当てられるとその他の自由が失われるかもしれないので答えはないだろうが、知っている人が増えるべきだと思う。

(2) 普及啓発、アンケート関連

中学生
今、テレビなどのいろいろな媒体で言われているけど、ヤングケアラーを知らない人や聞いたことはあるけど内容までは知らないという人がいると思います。もっと知ってもらえたり理解してもらえように活動を広げていくべきだと思うので、頑張ってください。
宮崎に相談所があるのを学校から配られるプリントなどでは見たことが結構あるけど、CM などではあまり見たことがない気がします。だからそのような CM をもっと増やし、いろんな人に見てもらい、知ってもらうのがいいと思います！
ヤングケアラーの人たちの存在を知ってもらうためにメディアなどで取り上げる。若い人たちはテレビより SNS の方が見る機会が多いから SNS などで発信をする。ヤングケアラーの人たちに対して 1 週間に数日でもいいから保育園みたいな感じで世話をする人をあずかって、自分の時間を作ってもらう
インターネットを活用した、こういう活動はとても良いと思う。あとは、ヤングケアラーもですが LGBT などの人々が安心できる環境を作っていくこと。(例) 中学生から LGBT などを習うが、もっとはやく学習を始めて、それぞれに対する理解を含めていく。もっと大々的に個性を尊重するよう呼びかける(詳しいことは思い付きません)
ひとまず「ヤングケアラー」という言葉と存在をたくさんの人に知って理解してもらうこと。周囲の人の理解があった方がなにかと便利だと思う。でももしかしたら自分がそういう存在だって知られたくない人もいるかもしれないからそういったことの配慮も必要だと思う。外野がなんだかんだ言っても結局本人の話を聞いた方が早いだろうから当事者の話をまずは聞いてみることに思う。当事者でもなんでもないただの中学生が言うのもなんだという話だが。
こういったアンケートを増やして、もっといろいろな人にヤングケアラーについて知ってもらったり、考えてもらったりすると、ヤングケアラーの人たちも、十分な支援を受けることができ、やりたいこともできるのではないかな、と思った。
ヤングケアラーというものがどういうものなのかを知っている人は少ないと思うので、こういった活動を増やしていったほうがいいと思いました。また、こういった人たちがいたときにどうするのかなど、ヤングケアラーについて考える取り組みを行ってもいいと思いました。
ヤングケアラーを聞いたことはあってもよく知らない人やあまり興味がない人もいると思うので、まずは知ってもらう、興味を少しでも持ってもらうことが必要だと思います。今回の動画はわかりやすく、興味を持てる動画だったと思います。
まずは、多くの人にヤングケアラーの存在や、理解を知ってもらうことが大切だと思います。今回のアンケートも多くの人を知る良い機会だったと思います。このような機会があるとヤングケアラーへの支援につながると思います。
ヤングケアラーらの存在をもっと多くの人に知ってもらう為に講演を開いたり、授業や職場での取り組みとして実際に学んだり調べたりする時間を設けるなどをする。ヤングケアラーの人たちもそのことを話しやすい環境になるような雰囲気になっていくこと。
友達の中で「ヤングケアラー」という単語を知ってる人がそもそもあまりいないので、まずは道徳などの時間に、ちゃんと習うべきだと思いました。また、学校側がその学校の生徒の家族構成などをちゃんと知っておくべきだと思いました。(もちろん、学校側はある程度把握していると思いますが、もっとってことです。)

<p>多くの人にアンケートをとったり、学校でヤングケアラーに関する授業を行ったりしてヤングケアラーの認知度を上げていくことが必要だと思う。自分がヤングケアラーだということに気付けない人もいると思うから、ほんとに授業は必要だと思う。なんならやってほしい。</p>
<p>まずは、学校で授業の一部としてヤングケアラーについて学び、知識を得ることが必要だと思います。また、ヤングケアラーの人に限らず、悩みを相談できない人や知らず知らずのうちに溜め込んでいる人も多いと思うので、気軽に相談できるようになるといいと思います。相談センターみたいなところに電話することや、学校で定期的に行われている相談カードには、いくら悩んでいてもよほどの勇気がないと書けないと思います。</p>
<p>CMで紹介したり、地域の集まりなどでヤングケアラーの事を紹介する。新聞に記載する。身近に困っている人がいたら、ヤングケアラーを教えてあげる。(友達から相談されたり困っていると話されたら紹介してあげる)</p>
<p>ヤングケアラーの方々は、いくら家で大変な思いをしても自分からは言いづらいかと思います。だから、このようなアンケート調査があることはその人たちにとって気持ちが少しでも軽くなるよい活動だと思います。見た目からでは気づくことが難しいかもしれませんが、周りの人とこまめに話すことなどのコミュニケーションがとても大事だと思います。今まで以上に、ほかの人の会話を増やしていこうと考えることができました。</p>
<p>私は学校においてある本を読んでヤングケアラーというのを知りました。私の中では、自分がヤングケアラーだと分かっていない人がヤングケアラーになっていると言うことの方が多いと思います。また、私のように本でヤングケアラーの存在を知ったり、地域のポスターや、チラシなど、紙を見る暇がないかもしれない人には、近所の方が気づいてあげたりするなど周りの人の手助け、小さなことから始めれば良いと思っています。</p>
<p>学校の授業の中でヤングケアラーについて学ぶ時間を設けてもいいかもしれません！ヤングケアラーの人たちは今もどこかで頑張っていると思うから、自分も家族のお手伝いとか自分にできることを見つけて取り組んでいこうと思いました。</p>
<p>ヤングケアラーの人の中には自分の時間があまりないことが当たり前になっている人もいると思うので、学校など教育の場で、ヤングケアラーについて教えたり、CMや雑誌などで電話番号を宣伝したり、ヤングケアラーを多くの人に知ってもらうことも大切だと思います。</p>
<p>ヤングケアラーについて知らない人が多いと思うから、世の中に発信していった方がいいと思う。でもテレビで発信するとしても、今の時代テレビを見ることよりスマホを見る時間の方が多くなっているから、スマホでのSNSなどを使って配信していった方がいいと思う。</p>
<p>今回のようにアンケート調査を取る。社会全体でヤングケアラーを無くすための活動や、ネットの世界を使い、ヤングケアラーの深刻さについて多くの人に知ってもらえるようにすれば、少しでもヤングケアラーが少なくなると思う。</p>
<p>アンケートの実施や周りに相談しやすい環境、気づいてもらえるようにしてほしい。自分から働ける労働力と思ってほしくない。自分の権利を少しでも取り戻してほしい、SNSなどで自分のまわりの状況をもっと発信してほしい。幼い兄弟のお世話などの親が本来する必要とされることを自分ができる範囲で出来るようになってほしい。</p>
<p>ヤングケアラーと聞いてわからない人がまだいると思います。その人の周りで、ヤングケアラーの人がいたりしたら、相談に乗ることもできないはずなので、一人でも多くの人にヤングケアラーについて知ってもらうためにも、もっとヤングケアラーについての情報を流すべきだと思います。</p>

高校生
自分自身でヤングケアラーに当てはまるとわからない子どものために学校等で面談があるときにヤングケアラーに当てはまるかの質問を全員に聞くと良いと思いました。また、当てはまる子たちの学習支援を考えるべきだと思いました。
ヤングケアラーの子どもたちが過ごしやすくなるようにしていくためにどうしたら良いのかを学校の授業などで考える時間をつくったら良いのではないかと考えました。また私もヤングケアラーという言葉聞いたことがなかったので詳しく調べて私自身もヤングケアラーについて理解していきたいと思いました！
ヤングケアラーという言葉は今まで全く聞いたことがなかったので、もっと多くの人に知ってもらうために色々なところで情報を発信して行けたらヤングケアラーについて関心が深まっていくのではないかと思います。また、学校ではヤングケアラーへの支援はあまりされていないと思うので学校にも呼びかけて何か支援策を検討して欲しいです。
自分も今日始めて「ヤングケアラー」という言葉を知ったように、日本にはまだまだこの存在を知らない子どもたちがいると思います。なので、この存在を知ってもらうために CM などの広告を利用して知ってもらう活動をすれば、さらに支援を広げることができるのではないのでしょうか
ヤングケアラーについての教育をもっと深めてすべての人が理解できるようになれば、ヤングケアラーへの配慮がもっとできるようになって友達に手伝ってもらったり、先生も宿題や勉強のサポートをしてもらえるようになると思う。
親の手伝いをするのが当たり前になっている環境の中で「私は手伝いをしていて勉強ができない」「部活ができない」と言うことは難しいと思う。その「手伝い」のレベルがどのくらいか、ということを知るべき。また、学生になると相談相手に大人を選ぶのは勇気がいる。ほとんどが友人相手に相談して終わりになってしまうだろうから、まずは「第一の相談相手」である私たち学生にもっと周知させるべきだと思う。
ヤングケアラーとなっている当事者自身がそのことを認識できるように、こういった状態がヤングケアラーといえるのかということを広めていくこと(「家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている」などは言われないと気づきにくいと思う)。そういった立場の子どもが、どのようにしたら支援を受けられるのか？ということが分からないと、支援の受けよう・しようもないので、そういった人に分かりやすく支援を受ける方法を知らせるべき
年に1度くらいヤングケアラーの対象者である18歳未満の子の家に電話をして今の状況やこうして欲しいなどの要望を聞いたり困っていることの相談に乗ったりして少しでもヤングケアラーの心が落ち着ける機会を設けることが必要だと思います。
このアンケートを実施しているということは、ヤングケアラーを支援しようとしているのだろうが、どのようにして支援していくのかを知りたい。もう少しヤングケアラーについての理解をみんなに広めさせたほうが良いとおもう。
私は今回の授業を機に初めて聞いた言葉だったので、もっとCMやテレビのちょっとした特集などでヤングケアラーの存在をより多くの人に知ってもらう必要があると思った。知ってもらう人が多いほど支援できる数も増えると思った。
親に自覚させて行動を改めてもらう。生活保護を受けさせる。子どもの意思で施設や離れて暮らすことを選択できるようにする。自分がヤングケアラーだと自覚するのは、難しいことだと思うので、子どもの意見交換や交流をさせることもいいと思う。

<p>もともとヤングケアラーというものに該当する人がいることを親から聞いたことがある。私は、親から聞いたことがあるから知っていることが多いけれど、周りの人は知らないと思うので、学校教育でも取り扱うべきだと思う。</p>
<p>自分がヤングケアラーだということを自覚して、それを相談することができたら、支援をすることがもっとできると思う。まずヤングケアラーという言葉を知らない人が多いと思うので、それを広めていくことも大切だと思う。</p>
<p>まずヤングケアラーを知らない人が多いと思うので、「ヤングケアラーとは」という感じの題材を学校で扱わせる。それで色々な人にヤングケアラーを認知してもらおう。また、ヤングケアラーに当てはまる人に関しては、どんなことを行っているのか明確にさせていただき、それにあった支援、例えばものを多く買わなければ助けられない人を世話しているなら「支援金」、認知症などの方がいるなら、介護士派遣などを行えばいいと思います。</p>
<p>定期的なアンケートで宮崎県のヤングケアラーの状況などを把握することが必要だと思う。少子高齢化が進む地域では特にヤングケアラーが多い可能性があるため、そのような目が行き届きにくい地域にもきちんと目を向けてほしい。</p>
<p>学校での講演会や、テレビ、SNSによる情報発信で内容をわかりやすくしつつ、興味を持ってもらえるように広める。また、どんな感じかなども伝えるために番組でやるのもよいが、若年層への理解には、やはりスマホやインターネットで、体験者の言葉を載せると良いかもしれません。</p>

(3) 周囲、学校で出来ること・やっていきたいこと

<p>中学生</p>
<p>助けることが大切だと思う。友達や先生達がヤングケアラーの人の家族などを助けるのが良いと思う。あとは、ヤングケアラーを支援する団体の人達が積極的に相談をしたりするべきだと思う。このことは、社会問題として解決するべきだと思う。</p>
<p>1人1人が1人の人間を大切にできる気持ち。幸という漢字はたった1本の棒を抜くだけで辛という漢字になります。やはり人間はたった少しのことで傷ついてしまう生き物です。だからこそ人間を思いやる気持ち、助け合うという当たり前の行動がこの時代には必要だと思います</p>
<p>親がお酒の飲みすぎとかで家事などをしないといけない。とありますが、こういうアンケートをとれる場があるとしてもお酒を飲みすぎている親に対して対抗できないのでここに書いたのをばれることを怖がって書く事がしづらいと思う。相当な勇気が必要だと思う。だから、学校の先生とかが話しやすい環境をつくれればその人にとってもいいと思う。</p>
<p>ヤングケアラーの人のために手助けができなかったとしても、寄り添うことだけは大切なんじゃないかなと思います。今、コロナ禍の状況の中でもっと大変になっているご家庭があると思います。そんな中で相談などができるだけでも少しはヤングケアラーの人は心が軽くなると思います。その人が今欲しい言葉をかけてあげることで、ヤングケアラーの人が少なくならなかったとしても、苦労する人は少なくなると思います。</p>
<p>ヤングケアラーの人が友達やクラスメート、先生に相談することができるのなら、ヤングケアラーの人をわかってあげられるような発言、行動をして、その家族が良ければ買い物などは手伝ってあげられると思うので身近な人に相談できるような環境、もっと多くの人々がヤングケアラーについて知っていけるような学習などをやっていくことが必要だと思いました。</p>

自分のやりたいことができない人のためにも、相談に乗ったり、その人自体を支えたりすることを一人や二人じゃなくて全員でやるのが大切だと思います。どんな人でも自分の人生なのでやりたいことをたくさんさせる為の支援も行ってほしいです。

ヤングケアラーをしている中高生は、相談ができない人が多いと聞きました。ヤングケアラーのための無料相談所を設置することや、学校でいじめ以外のことも聞くなどをして、少しでも楽にお世話をできる環境作りが必要なんじゃないか。

高校生

話を聞いている友達から情報を得るべきだと思う。本人は自分がヤングケアラーだと認知していないと思うから、そう感じた話を聞いている友達が周りの大人に言うべきだと思う。忘れ物をする子を頭ごなしに怒るんじゃなくて、なにかあるのでは、と周りの大人が思っておくべき。

基準が分からず自分は多分違うなどと思ったりして言わないことや恥ずかしいなどと思ったりして言わないことがあると思うので周りの人からの視点で見てもらったりしたほうがいいと思う。家を見て回ったら一番分かりやすいと思う。

困っている人の手助けができるような環境とその人が相談しやすい空間が作られその人たちに寄り添った形でいろいろ支援していく取り組み。加えて同じようなことで困っている人を集めて話したら共感することも多くて悩みが軽くなると思いました。

ヤングケアラーの人たちは、ほとんどの人が周りに相談せず一人で抱え込もうとしています。その人たちが相談をすることができたり、弱音を吐いて少しでも気が楽になるようにしてあげられる場所を作ってあげたい。もし、周りがその人の状況を知ってるのであれば全力で助け、支えてあげるべきだと思います。

(4) 国、県、地方自治体からの支援

中学生

ヤングケアラーの自由時間を作るために、ヤングケアラー専用のカウンセラーみたいな場所を作り。学校から連絡できるようにする。一週間に3回きてくれるなど。遊びや部活動の時間もできて心のよりどころになると思う。

支援を広げていくために必要だと思うこと。本来なら学校にいるはずの時間や、課題を終わらせるまでの時間に、機関の担当者がその人たちの家で家族のお世話をする。ヤングケアラーの人たちのみが参加できる学習会や集会(自由に過ごせる時間、場所)をつくる。

医療費の調整。家庭の状況を教師等が学業に支障のない範囲で知ること。ヤングケアラーが気軽に周りの人に話せる環境作り。金銭的な支援。家族の世話などで遅刻・欠席した場合の対応(授業内容の説明や話した内容を教える。)。家族の世話などで遅刻・欠席した場合の遅刻・欠席の判定

ヤングケアラーの定義として、他に自分のやりたいことがあるが家族の世話で、できないというこの場合、ヤングケアラーの子の支援ではなく、ヤングケアラーの子がお世話している家族の支援を行えば、ヤングケアラーの子達の負担が減ると思う。例えば、おじいちゃん・おばあちゃんには、老人ホームや何らかの施設をお勧めしたり、ギャンブル、お酒や薬に依存している親には精神病院を勧めるなど。

<p>ヤングケアラーの方たちの家に無償でお手伝いさんが行って子どもの負担を減らしてあげる。または、募金を行ってお手伝いさんへの給料にしたりする。アルバイトをしてる子どもに関しては、募金で集まったお金や支援金などを世帯に配布して働かないですむようにする。</p>
<p>お世話をしている人の中で、中高生や、高校生の場合は支援金や老人ホーム・保育園などを安くする。たくさんの人にヤングケアラーというものを認知してもらう。地域を周回し、困っている人を知り、できるだけの支援を行う。</p>
<p>難しいことかもしれないけど、もしお金がなくて施設等に入れずお世話をしないといけない状況ならば支援金や保険など対策を考えていくことが必要だと思います。またヤングケアラーになりつつある人など、なっている人はもちろんなりそうな人も見つけて助けてあげれば良いなと思いました。</p>
<p>私の母が子どもの頃ヤングケアラーでとても辛かったらしいので、そういう子どもを少しでも減らせるように税金を少しいいから減らすことでその家のお財布に余裕を作ること、県を挙げて進んでそういう子どもを見つけて助ける。すなわち、そういう子どもを保護したら良いと思う。</p>
<p>困っている家庭に訪問して家事をしたり相談を聞いたり、そうゆう家庭に滞在して困っている子を支えたりするような職業が増えれば、現在ヤングケアラーの方々への負担が大きく減り、勉強、部活、遊びなど今必要なことができるようになると思う。</p>
<p>ヤングケアラーを支援する団体というか組織みたいなものをつくってこういうアンケートでヤングケアラーを見つけてその人を支援する。ヤングケアラーがいる家庭にお金を送る。ヤングケアラーの人が働きやすい仕事をつくる。</p>
<p>今、親や周りの人を世話している人に学校からでる課題を少し減らしたり学校でできるようにする。難病の方には補助金が出てくると思うけど、その周りの人にも難病の方が本来やるはずだった家事を代行することができるお金を補助する必要があると思う。</p>
<p>他の人が手伝ってくれるようなサービス、金銭面での支援、預かってくれるような施設を作ること、もっと他の人に身近に感じてもらえるためにCMやポスターなどを作って知ってもらうこと、午後から学校に登校できるような選択肢を作ること</p>
<p>家にヤングケアラーとなっている子の代わりとなるお手伝いさんを呼びやすくする。(例：金銭的負担を減らすため、国が動く。もっと学校の授業で取り上げる。対策本部的なものを各市町村で作る。相談窓口を作る。)</p>
<p>ヤングケアラーの数を減らすために、障がい者を保護、または支援する施設を設ける。ヤングケアラーの学習環境が整っていないなら、専門の学校や施設が必要になると思う。支援を広げるためには、ヤングケアラーでない子どもたちがそれを身近に感じられるような機会が必要になると思う。</p>
<p>国や県からの給付金や、生活保護などの支援を活用して周りの大人が手伝えることがあれば小さなことでも助けてあげる、そういった意識が必要。学校なども生徒がヤングケアラーだった場合のマニュアルなどを用意し、様々な対応を決めておくべきだと思う。スクールカウンセラーに話すのも勇気がいると思うからまずは担任が生徒の悩みを聞くようにするのが理想。結局周りの人といっても金銭の援助ができる人はごく僅かで、身内ぐらいしかできないと思う。だからこそ、県や国からの援助が重要になってくると思います。わずかでも国が負担を軽くしてくれると思うだけで精神的に少しは楽になると思います。だから、国、周りの人、学校、市、県が協力してヤングケアラーを少しでも減らせるように国が考えるべきだと思う。</p>

金銭面での支援。理由。障害を持つ家族がいたり、認知症の祖父母などを老人ホームなどの介護施設に預けたくても金銭面に余裕がなくて預けられず、若い子どもが介護をしたりして、自分の時間を作れず、ストレスが溜まる原因にもなるため。

どの程度、ヤングケアラーがいるかを把握し、どう言った、支援を必要としているのか聞くなりして知って、支援を実際にした上で、その支援によってヤングケアラーが少しでも減ったり、ストレスが軽減されたりなど、効果があったのか出していくことが必要だと思います。

高校生

電話で相談できるような場所を作っても、実際相談できる子は少ないと思います。家庭間の複雑な関係性も部外者が相談に乗ったところで解決はしないのではないのでしょうか。まずは障がいのある子への資金援助や、老人ホーム、デイサービスの増築をお願いします。

お金は絶対必要だと思う。お金がなくて介護施設に入れられない人も数多くいるだろうと思うから。自分を世話してくれるひとがいなければ、毎日のご飯も掃除もすべて自分でしなければならぬので、そういった家庭にホームキーパーや家政婦など、支援する力が必要だと思う。

学費等の支援についてはある程度行われていると思うが、日常生活に関しての支援は十分でないと思う。例えば、学校に行く際に使用する自転車などの支援など。また、僕の周りでもヤングケアラーについて理解していない人が多くいるので、学校などでの授業等で子どもたちに教育を行っていくことが必要だと思う。

少子高齢化が進む現在、ヤングケアラーを支援するには政府が介護業の人材を育成して増やし、訪問介護や老人ホームへの加入などを無料または低価格帯で推し進める必要があると考える。そもそも少子高齢化をどうにかしたい。

税金の使い方を見直す。介護関係の方の収入を増やして介護関係に着きたいと思える人を増やさないと。介護が必要な人が増えても介護する人が減っていき。結果として今のヤングケアラーに繋がると思うので。税金の使い方を変えるが1番だと思います

ヤングケアラーの支援として。ボランティアなどをはじめ、本来自由でなければならない子どもたちが自由に好きなこと、自分の夢に向かっての努力などができるようにし権利を守ってあげる。ヤングケアラーへの支援金などの給付や補助金などを実施する。

ヤングケアラーという言葉が広まっていないのは抱えている人たちが周りに気軽に相談できる環境がないからだと思うので。気軽に話すことができる場所を作ってみる。多くの人に知ってもらうことで助けることができると思う。

国や県をあげての制度や、ヤングケアラーと関わりのある大人（親に問題がある場合、学校の先生等）が積極的にヤングケアラーと関わり、親身になって当人の心身ともにサポートする。いることがおかしいなどの価値観を廃止し、一人で悩ませない。

自治体の協力が一番必要だと思う。金銭面での支援や介護施設の増設や介護士の確保などたくさんの方で国、地方自治体の協力が不可欠だと思います。国の宝は、今を生きる、これから先の未来を担う子どもたちだと思います。国の宝を生かしていくのは、国の責務だと思います。

(5) 学校関係（リモート授業の実施など）

中学生
ヤングケアラーで忙しい人たちの中には宿題ができていなかったり、授業中の居眠りなりしてしまうのは仕方がないが、それを怒ったりするのは少し違う気がする。また、同情されたくない人も中にはいると思うが、それを可哀想だとか思わずに、「なにか手伝うことある？」などの声掛けをするのもいいと思う。
ヤングケアラーの方は家族のお世話などで大変で家に帰って宿題なんてできる人なんてほほいないと思うので宿題はほんとに少なくしたほうがいいと思います。授業で何度も復習を先生がさせれば忘れるなんてことはないと思います。
もっと相談しやすい環境にしていくこと。家庭訪問などを積極的に行うこと(年に3回くらい)。こういうアンケートを増やすこと。月に一回くらいスクールカウンセラーの方に相談したいことを全員を対象にアンケートする。など...
家族の世話をしない、ということは難しいかと思いますが、生徒が今どういう状況で、こういうことを家でしているんだといったことを先生、生徒間での繋がりを作ることはたいせつだとおもいます。よく何も理由知らずに、宿題なんてやってないんだ、と怒られることがあると思うので。
学校全体で、ヤングケアラーの人たちのサポートやケアをする。もっとたくさんの人に、ヤングケアラーについて知ってもらおう。自分たちがヤングケアラーの人にどんなことをして、その人のためになるかを考える。
学校で、一人ひとりの健康状態を把握して家庭または学校で困っている人がいないか、定期的に確認すること、そして、友達のことでも心配して、気にかけてあげることが重要である。まずは社会全体が、ヤングケアラーを生み出すような環境を作ってはいけないという意識を持つことが大事だ。皆がそういう意識を持つことで、この問題は徐々に改善されていけよう。私自身も、これからはヤングケアラーと思われる人を見つけたら積極的に声をかけていきたい。
相談に乗ってあげる。学校で遅刻したり宿題を忘れてしまっても家族内での事情があるからなるべく叱ったりするのはやめてあげたほうがいいと思う。(疲れているのに追い打ちをかけてしまうかも。) 学校では通常の人よりももっと労ってあげたほうがいいと思う。

高校生
ヤングケアラーという言葉の意味がまだ分かっていなかったため、多くの人がこういう人があるんだということを知るべきだと思う。学校や部活などの欠席や遅刻はする休みなのではないかとこの認識が多いので、本人にはしっかりと事情があるんだということを理解できるような学校になってほしい。
入学時に任意でもいいからこのアンケートを行って、ヤングケアラーに当てはまる人を見つける。そしてヤングケアラーの遅刻等がある程度容認したり、その生徒のスケジュールを少しずらしたりして余裕を持たせられればいいと思う。
もし、宿題を忘れたり、遅刻したりしたときにそれだけを怒るのではなく、なぜそういうことになったかや、家庭の状況をもっと調査した方が良く思う。授業等でヤングケアラーについて学ぶ時間をとる。家族のことを安心して話せる環境を作る。(生徒が日頃から相談しやすいような関係性をつくる)。ヤングケアラーという言葉が一人歩きしているため、ヤングケアラーは支援しなきゃという気持ちになると思うが、みんなが支援してほしいと思っているわけではないと思う。

<p>オンライン授業が可能になれば、支援を必要としている人が家庭内にいる場合でも、家にいながら授業を受けることができ、支援も出来ると思います。子どもから学ぶ機会を得る機会をなくさないようにしていただければいいと思います。</p>
<p>部活やクラブをもっとやりやすいようにする。高校は部活のある日が多い、中学校のようにリフレッシュデーを作ったりすればいいと思います。色々なスポーツやクラブ活動がやりやすい環境にしてほしい。本格的じゃなくても楽しくスポーツできるようなところが欲しい</p>
<p>学業と両立している生徒に対して遅刻や欠席の理由をまずしっかり聞き、怒るのではなく親身に聞いてあげるのが1番だと思う。無理をしていても気づいてあげられないことが多いため、どうしようもできないことはあるがまずは話を聞いてあげることが1番だと思う。</p>
<p>実行しているかどうかはわかりませんが、知らない人に自分のことを伝えるのは勇気がいるので学校でアンケートをして必要がある人にそういったカウンセラーの人が相談に行くみたいな形があってもいいのかなと思います。</p>
<p>どのくらいの方がヤングケアラーもあてはまっているのかを知り、その学校等と連携をとること。学校も大切だが、部活と違って家族は大切なものであるため、学校を休んだり課題が遅れたりすることもある。その辺の確認は大事だと思う。(大人がひとの事情を決めつけない事) また、学校でこういう人がいると話すことも大切だと思う。</p>

2. 学校

小学校
子どもの権利を守るためにも、ヤングケアラーの問題を全職員で研修する機会を設けたい。
今後も注視して行く必要があると思います。
教職員が認識を深めることが最重要と考えます。機会ある毎に話題にし、実態把握に努めたいと思います。
ヤングケアラーを見逃さずに、把握していく方法を定着させていく必要がある。
教職員のヤングケアラーについての認識を深め、困っている児童を早期発見できるような観察力や相談体制の充実に努めていきたい。
ヤングケアラーの実態把握は難しい。以前と比べて学校が家庭の実情を知ることが難しい時代になっている。実態把握の為の具体的な方法を確立させる必要があると思う。
実態が正確に把握できていない場合、「見込み」で YC として報告等してもよいものか。 YC だとしても、不登校の場合、話を聞くことが難しい。
教職員への研修や共通理解を充実させていきたい。
学力低下や欠席等の変化が生じた際、ヤングケアラーの可能性のあることを認識し、当該児童生徒が相談しやすい体制を作ることが大切であると思う。
ヤングケアラーと家庭でのお手伝いの線引きが難しい。
学校としても実態把握をした上で関係機関と連携して対応したい。
学校でできることは、ヤングケアラーの可能性のある児童生徒の把握、児童生徒への教育です。家庭環境に大きな要因があるケースが多いヤングケアラーについては、具体的な解決に向けた対応等は、福祉などの行政機関や専門の団体等が行うべきです。学校内に対応する組織を作ることとは不可能ではありませんが、そのための専門部署を作るほどの人員はいません。児童生徒がすぐに相談できるような信頼関係をつくっておくことが大切ですが、それはヤングケアラーに限ったことではありませんし、生徒指導に関する調査や情報共有の体制はすでにあります。ヤングケアラーもその取扱い内容のひとつで、教職員が意識して見て気付くことができるようになることが大切であり、注目されはじめたから新しく組織を作ればよいというものではありません。そもそもすでに業務飽和状態を超えている感のある学校現場ですから、包含して対応できるものをわざわざ専門組織を作る必要があるのでしょうか。連携を進めるために校内部署が必要とは思えません。それとも、相談窓口や専門組織を作ることが前提になっているのでしょうか。問17の選択肢の一部には違和感や疑念を覚えます。そもそも予算をもたせることが可能な福祉がすべきことです。学校は情報提供と可能な範囲での教育と支援を担当すべきと考えます。
ヤングケアラーについて知りたいという気持ちがある。どうして、このような状況であるのか社会全体で考えないといけないと感じた。今回、アンケートでとても勉強になりました。
子どもたちと接する機会の多い学校ですが、学校にヤングケアラーの問題を対応させるのであれば、人員・予算の拡充を行なってほしい。家庭内の事情を把握することは難しく、立ち入る権限も学校にはない。様々な形で得た情報を関係機関と共有することはできるし、今後も積極的に行きたいが、それ以上については難しいのが現状である。
大きな社会問題になっている。学校でも何らかの兆候が見られると思うので、見逃さない体制を作っていきたい。

学校外の機関と情報共有を密に行う。
学校全体での認識を深め、児童に周知するとともに、相談しやすい環境をしっかりと整えることが大切だと考える。
ヤングケアラーに限らず、子ども達が抱える様々な問題を、子ども達自身が発信できる環境やその解決ができる機関を充実させていくしかない。
学校も慎重にかつ積極的に取り組みたい。行政の力を貸していただくことを強く希望します。
ヤングケアラーについて知り、本校に自分の学級にいるかもしれないという意識をもって、子どもたちに接することが必要である。
ヤングケアラーに対しては、行政が主導でヤングケアラーの家庭に手を差し伸べるべきではないでしょうか。学校が関わって、教職員が今以上に負担を抱えていくのはどうかと思います。
社会的な認知度を高めていく必要がある。
家庭内での出来事なので学校での事実の確認が難しい。また、職場が人手不足で対応も現状では難しい。
学校がアンテナを張り、ヤングケアラーについての情報をつかむことが大切である。
ヤングケアラーの課題は、これから先、増える傾向にあると考えます。その対策、ハード面を整えることはとても大事なことだと思う。家庭内のことで見えない問題なので、福祉や民生委員、市町村公的機関の介入が必要不可欠であり、その連携体制づくりを学校としても強化していく必要があると考える。
今後、意識して取り組んでいきたい。
学校・保護者・地域がヤングケアラーについての認識を深め、連携していくことが必要である。
本人の意志で手伝いとしてきょうだいの世話をしているのか、そうでないのかの把握が難しいところがある。
「ヤングケアラー」について、学校と児童、家庭の共通理解が必要であるとともに、関係機関との連携が大切だと思いました。
本校では、ヤングケアラーに該当する児童はいないが、本県、本市、本中学校区でどのくらいいるのか知りたい。
学校及び家庭地域社会全体で情報を共有しヤングケアラーに該当するような児童がいたら早期発見できる態勢を整える必要がある。
線引きが難しい。
現在ヤングケアラーはいない状況ではありますが、今後も一人一人の児童の様子を観察し、対応していけるようにします。
教育環境を整えることは大切なことなので、関係機関と連携して情報を共有し、そこで苦しんでいる子や、困っている子を救いたい。
子どもたちの変化を感じる材料の一つに、ヤングケアラーも入れていく必要を感じた。
今回の調査で出た結果に関心があります。これを受けて対応を検討していきたいです。
家庭訪問などがなかなかできずに、学校と家庭との関わりができにくくなってきている。悩みアンケートの活用で担任が一人一人話を聞いているが、その時間の確保が難しい実態もある。
複雑な家庭事情や貧困世帯等が増えている中、学校だけで細やかな支援や対策を進めていくことの難しさを感じる。

困っている家族を助けるために自分の行動がある程度制限されることはあると思われる。「ヤングケアラー」という言葉だけが独り歩きをして、家族で助け合うことの否定につながらないようにしなくてはならないと考える。
自治体の福祉部門が掴んでいる情報を正確に学校と共有する必要性を強く感じます。学校は家庭にはなかなか入り込めないため、児童の様子を観察や児童との面談から入る情報ではヤングケアラーとまでは言えないと判断してしまうケースもある。
ヤングケアラーの存在を把握することが大切だと思います。
テレビ CM などでも取り上げられているように、身近な問題として捉え、常に自校に対象となる児童がいなか目配りを行なっていく必要があると思う。
実態把握が難しいところがある。児童の様子だけでなく、児童民生委員等の情報を共有しながら実態把握をしていきたい。
今回の調査を通して、学校全体で認識を新たに、今後も児童観察を丁寧に行っていこうとする意識を高めることができた。
どのような課題でも、子どもたちが相談しやすい窓口がたくさんあることが大切だと考える。また、学校以外の関係機関も今以上に積極的に、こうした問題に取り組んでいく必要があると感じている。
今回の調査はオンラインで行ったため、学校では調査結果を把握できていない。次回同様の調査がある場合は学校でも児童の実態を把握するため、結果内容を閲覧できるシステムにしてほしい。
本校でも、ヤングケアラーについて、まずは実態調査を実施したい。
家庭の問題なので学校が児童の保護を行う上でどこまでできるのか、職員で共通理解をすべきであることが大切だと気付いた。
福祉課や児相等、行政が中心となって取り組むべき課題である。もちろん情報提供等の連携を学校が行うことは可能であるが、校内に専門窓口を設置する等の教職員をあてにした体制づくりはやめてほしい。
本校は少人数のため児童の実態を把握しやすいが、学校職員は家庭との連携を深く持ち信頼し合う関係性を常に考えながら児童に接していかなければならない。もし、ヤングケアラーの支援に当たることがあれば、学校、地域社会が一体となって支援していく必要がある。
家庭の問題にどう踏み込むか、お世話などを本人が進んでいる場合はどうなるのか、しっかりした定義付けが難しいと思う。
ヤングケアラーの実態把握が難しい

中学校
夏季休業中に講義を拝見しました。相談機関の情報など参考になりました。全職員が研修できる機会があると良いです。
ヤングケアラーの実態を把握することは難しく感じられる。また、そうだと思われる家庭とどのように関わっていくのか、また、その支援の方法も難しい問題だと感じる。
どのような支援が必要かを把握したときに、どこまで支援できるのか。また、学校側が把握したときに、本人が認めなかったり、支援を望まなかったりした場合はどうなるのか。
家庭内の事などで、表面化しにくいし、該当する家庭は複雑な環境である。弱い立場である教職員が携わると、かなりのエネルギーを消耗するであろう。働き方改革と逆行している。この件に関し

<p>て、学校を中心とした取組を考えるのであれば、もっと人員を増やすべきだと考える。しかも、専門職の配置が急務だと考える。</p>
<p>生徒の未来を保障するために、対応を考えていく必要がある。しかし、学校では家庭内に介入していくことの難しさを感じる。家庭、学校も含めてヤングケアラーに関する知識を高める必要がある。</p>
<p>行政が介入できる組織（専門的なチーム）を構築すること。学校だけでは人権の問題があるので難しい。</p>
<p>家庭の手伝いのレベルの判断</p>
<p>子ども自身がヤングケアラーについて知ることは必要だが、それが原因で家庭内不和や虐待などに発展しないか危惧する面がある。学校では、家庭内の状況を把握することが難しい。もし、把握できたとしても、学校の支援は、保護者との相談や家庭学習の軽減などの配慮等限られてくるので、相談できる機関があるとよいと思う。経済的側面、介護などの人的側面、保護者の生活態度など、学校として踏み込めないことの方が多いので、本人や保護者が相談できる外部機関の体制づくりやその対応・支援を充実させた方がよいと思う。</p>
<p>家族の一員としての手伝いとの違いが難しいケースも多い。</p>
<p>学校が介入できるのはどの程度なのか。法的根拠や、対処方法。</p>
<p>このようなアンケートや動画を見ることによって、自分もと考える人がいると思うので毎年やってほしい。</p>
<p>子ども達が自分の置かれている立場を、客観的にとらえることができるよう、学校として「ヤングケアラー」について具体例を交え学習する機会をつくり、小さな声も拾いあげることができる相談窓口設置とその周知に努めたい。学校と関係機関、そして地域が一体となって子どもたちを支えていく、組織を確立していくことが重要だと感じている。</p>
<p>本人が相談しやすい雰囲気を作ることも大事だが、周囲が気付いてあげられる体制も必要だと思う。</p>
<p>ヤングケアラーという言葉は、ヨーロッパでは30年以上前から使われて対応がされてきた。バリアフリーやノーマライゼーションが日本では同時期に使われ始めやと浸透してきている。ヤングケアラーへの対応については、まだまだ時間がかかることが予想される。社会全体にこの問題を浸透させ、意識的に問題解決への対応を推進していくことが国務だと考える。</p>
<p>ヤングケアラーは教育現場で把握していく必要があると思うが、根本的にこの問題について解決していくのであれば、福祉に関する行政機関が、障がい・病気のある家族に対してどのように具体的に関わっていくのかも示してもほしい。</p>
<p>定期的な調査が必要だと思います。</p>
<p>授業中寝ている、提出物が出せない生徒を‘困った生徒’と考えず、その背景について考察し、子どもの権利が守られているかどうかという視点を私たち教職員が常にもつことが大切だと考えます。</p>
<p>プライバシーの問題もあり、なかなか踏み込めない内容である。学校でのアンケートは配慮が必要なので、外部調査機関が直接家庭にアンケートをしてほしい。</p>
<p>子ども自身が家族のためになっていると感じる価値も大事にしながら、やはり子ども自身の権利を守れるよう、教師がまずは、ヤングケアラーについての理解を深め、そして、その子どもが気軽に相談できるよう、子どもとの信頼関係づくりを充実させていかなければならないと感じます。</p>

認知度を高める事は容易にできるが、具体的に関わるとなったときの切り込み方が難しい。
家庭内のデリケートな部分なので慎重に対応しなければならないし、ヤングケアラーとして苦しんでいる生徒を救うためには、関係機関や専門家と連携して取り組んでいきたいと思った。
今後もヤングケアラーに関しての様々な研修を受講し、理解を深めたり、意識を高めたりして、子どもたちの問題の解決を図っていきたいと思う。
ヤングケアラーを把握するためには、生徒の家庭に踏み込むことになるため、プライバシー保護の視点から難しいと感じている。
本校ではヤングケアラーに該当する生徒は今のところ不在であるが、早期に発見し、対応できる体制づくりが必要である。
生徒の困り感による部分が決め手となるように思えますので、日頃からの相談体制を充実させたいと考えています。

高等学校（全日制）
福祉科で把握しているヤングケアラーなど生徒の情報を学校にも連絡してほしい。
ヤングケアラーの例を示した図で具体的なイメージができました。具体的な対応はできていませんが、職員への理解と外部機関の連携が必要であると感じます。
家族の世話をすることは、必ずしも悪いことではないので、一概にヤングケアラーと言っても、「家族の一員としてのお手伝い（役割）」との線引きが難しい。学校の職員は、話を聞くことはできても、家庭内のことに関しては立ち入ることができず、実際は根本的な解決には繋がらないので、子ども達や学校関係者が直接相談できる相談窓口があればよいと思う。
ヤングケアラーに気付きにくい理由としては、問 16 の 3.4 が挙げられると思う。生徒に何か問題が発生してからでないと、中々気づけない。高校生ともなると、家庭内のことを話したくない生徒もいる。コロナ禍で親も余裕がなく、話合いにに応じてもらうのも難しい場合がある。
ヤングケアラーに対して、学校がどのように対応すればよいのか。具体的に教えて頂きたいと思います。
学校や教職員の対応よりも、行政からの支援充実が急務と考える。

高等学校（定時・通信制）
学校が相談できる機関が増えてほしい。また家庭に入っていける民生員等がいれば連携したいと思っているが、どこに連絡をとっていいのかわからない。（行政の組織が見えない）
通信制の生徒の中にはヤングケアラーが疑われる生徒が一定数いると思われます。アルバイトと勉強との両立に向けて頑張っている生徒は多いようですが。通信制の生徒は日常的に学校に来るわけではないため、生徒の家庭の状況が把握しにくい教育現場です。保護者や同居人が生徒のアルバイト等の収入に頼っていると疑われるケースもありますが、学校の立場からは支援しにくい状況にあります。SC、SSWの支援が欲しい場面が何度かありました。

VII 考察

1. ヤングケアラーの実態について

小学生調査・中高生調査より、家族の中に自分がお世話をしている人がいるかについて、「いる」と回答した割合は、小学6年生が3.8%、中学2年生が3.8%、高校2年生が3.2%となっています（小学生・中高生 問10）。

令和3年三菱UFJリサーチ&コンサルティングがまとめた「ヤングケアラーの実態に関する調査研究 報告書」によると、お世話をしている家族の有無について、中学2年生が5.7%となっています。本県においては、全国平均よりも低いものの、一定数ヤングケアラーと思われる児童・生徒が存在していることが分かります。

中高生調査より、学校生活等であてはまることを家族の世話の有無別でみると、「（家族に世話をしている人が）いない」は「特にない」が55.8%と最も高くなっていますが、「（家族に世話をしている人が）いる」は「授業中に居眠りすることが多い」が36.6%と最も高くなっています。家族の世話をしている生徒は、家族の世話をしていない生徒と比較し、健康状態や出席状況、遅刻や早退、学校生活に問題があることが分かります。

現在の悩みや困りごとを家族の世話の有無別でみると、「（家族に世話をしている人が）いない」は「特にない」が50.5%と最も高くなっていますが、「（家族に世話をしている人が）いる」は「進路のこと」が42.1%と最も高くなっています。相談相手の有無を家族の世話の有無別でみると、「（家族に世話をしている人が）いる」は「相談や話はしたくない」が34.0%となっています。家族の世話をしている生徒は、家族の世話をしていない生徒と比較し、多くのことについて悩み事を有しているものの、家族のことを周りに知られたくないことや相談先が分からないことなど様々な理由によって、「相談や話はしたくない」の割合が高くなると推測されます。

中高生調査より、世話を必要としている家族を性別でみると、「きょうだい」は男性が51.1%、女性が65.7%と女性の方が高くなっています。世話の内容を性別でみると、男性は「見守り」が40.0%と最も高く、女性は「家事」が47.8%と最も高くなっています。世話の頻度を性別でみると、「ほぼ毎日」は男性が44.9%、女性が53.1%と女性の方が高くなっています。世話に費やす時間を性別でみると、3時間以上と回答した割合は男性が31.5%、女性が45.9%となっています。家族の世話をしている生徒の中でも、男性に比べ女性の方が本来大人の担うべき「きょうだいへの家事」は多く、より長い時間している状況にあります。

学校調査より、校内にヤングケアラーと思われる（可能性も含めて）子どもがいるかについて、「いる」と回答した割合は、小学校が12.8%、中学校が31.4%、高等学校（全日制）が43.5%、高等学校（定時・通信制）が50.0%となっています（学校 問14）。

令和3年三菱UFJリサーチ&コンサルティングがまとめた「ヤングケアラーの実態に関する調査研究 報告書」によると、ヤングケアラーの定義に該当すると思われる子どもがいると回答した割合は、中学校が46.6%、高等学校（全日制）が49.8%、高等学校（定時・通信制）が70.4%となっています。本県においては、全国平均よりも低いものの、「分からない」と回答した学校も多くいるため、今後もより一層ヤングケアラーについての理解や認識を高める必要があると考えられます。

2. ヤングケアラーの認知度について

学校調査より、「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがあったかについて、『聞いたことがある（「聞いたことがあり、内容も知っている」＋「聞いたことはあるが、よく知らない」）』と回答した割合は、中学2年生が45.4%、高校2年生が49.7%となっています（中高生問21）。

令和3年三菱UFJリサーチ&コンサルティングがまとめた「ヤングケアラーの実態に関する調査研究 報告書」によると、ヤングケアラーという言葉の認知度について、中学2年生が15.1%、全日制高校2年生が12.6%となっています。本県において、全国平均よりも『聞いたことがある』の割合が高い要因として、全国調査が行われた令和3年1月より、その調査結果を踏まえ、国が普及活動に力を入れてきたためとも考えられます。中高生の自由意見にも「今後も引き続き同様の調査をしてほしい」とあるように、数年おきに調査を実施し比較検討することが大切であると考えられます。

学校調査より、「ヤングケアラー」という概念を認識しているかについて、全体では「言葉を知らない」が0.0%、「言葉は聞いたことがあるが、具体的には知らない」が2.5%、「言葉は知っているが、学校としては特別な対応をしていない」が57.1%、「言葉は知っており、学校として意識して対応している」が40.4%となっています。学校区分別では、「言葉は知っているが、学校としては特別な対応をしていない」と回答した割合は、小学校が57.8%、中学校が52.9%、高等学校（全日制）が65.2%、高等学校（定時・通信制）が70.0%となっています（学校問11）。

ヤングケアラーへの理解は高まっているものの、児童生徒や教職員など各学校における現状は多種多様なため、一律での対応は難しいと思われれます。各学校の現状に沿った対応を引き続き実施していく必要があると考えられます。

3. ヤングケアラーへの支援について

学校調査より、ヤングケアラーと思われる（可能性も含めて）子どもがいるか分からない理由について、「家庭内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい」が92.0%となっています（学校問16）。学校内での生活だけではその児童・生徒がヤングケアラーかどうか把握することは難しいため、学校現場が対応するだけでなく、児童・生徒が相談できる窓口の普及を積極的に行う必要があると考えられます。また、学校で把握できること、対応できることには限りがあることから、SSWなどの専門職や県・市町村福祉課と連携して対応していくことも求められると考えられます。

学校調査より、ヤングケアラーを支援するために必要だと思うことについて、「教職員がヤングケアラーについて知ること」が82.4%、「子ども自身がヤングケアラーについて知ること」が81.5%となっています（学校問17）。近年、ヤングケアラーという言葉についてポスターやCMなどで目にする機会が増え、言葉の認知度は高まっているものの、中高生の自由意見にも「ヤングケアラーについて詳しくは分からないため、実際ヤングケアラーだった人の講演会があれば参加してみたい。」とあるように、今後はヤングケアラーの理解度を高める取り組みも検討する必要があると考えられます。

VIII 調査票

小学生（しょうがくせい）の生活（せいかつ）についてのアンケート調査（ちょうさ）

I. 基本情報（きほんじょうほう）

問1. あなたの性別（せいべつ）をおしえてください。

（あてはまる番号（ばんごう）1つに○）

- | | | | |
|-----------|-----------|--------|------------|
| 1. 男（おとこ） | 2. 女（おんな） | 3. その他 | 4. こたえたくない |
|-----------|-----------|--------|------------|

問2. あなたの住（す）んでいる市町村（しちょうそん）をおしえてください。

--

問3. あなたが一緒（いっしょ）に住（す）んでいるのは誰（だれ）ですか。

（あてはまる番号（ばんごう）すべてに○）

- | | |
|-------------|----------------|
| 1. お母（かあ）さん | 5. 兄（あに）・姉（あね） |
| 2. お父（とう）さん | ⇒（ ）人 |
| 3. おばあさん | 6. おとうと・いもうと |
| 4. おじいさん | ⇒（ ）人 |
| | 7. その他（ ） |

問4. あなたの体調（たいちょう）についておしえてください。

（あてはまる番号（ばんごう）1つに○）

- | | |
|---------|------------|
| 1. よい | 4. あまりよくない |
| 2. まあよい | 5. よくない |
| 3. ふつう | |

II. ふだんの生活（せいかつ）について

問5. あなたは学校（がっこう）を欠席（けっせき）したり、遅刻（ちこく）や早退（そうたい）をしたりすることがありますか。

① 欠席（けっせき）について（あてはまる番号（ばんごう）1つに○）

- | | | |
|------------|----------|---------|
| 1. ほとんどしない | 2. たまにする | 3. よくする |
|------------|----------|---------|

② 遅刻（ちこく）や早退（そうたい）について

（あてはまる番号（ばんごう）1つに○）

- | | | |
|------------|----------|---------|
| 1. ほとんどしない | 2. たまにする | 3. よくする |
|------------|----------|---------|

問6. 放課後（ほうかご）、習（なら）いごとなどをしていますか。

（あてはまる番号（ばんごう）1つに○）

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

問7. ふだんの学校生活（がっこうせいかつ）などにおいて、以下（いか）の中であてはまるものはありますか。（あてはまる番号（ばんごう）すべてに○）

- | | |
|---|--|
| 1. 授業中（じゅぎょうちゅう）に寝（ね）てしまうことが多（おお）い | 7. 保健室（ほけんしつ）で過ごすことが多（おお）い |
| 2. 宿題（しゅくだい）ができていないことが多（おお）い | 8. 学校（がっこう）ではひとりですごすことが多（おお）い |
| 3. 持（も）ちものの忘（わす）れものが多（おお）い | 9. 友（とも）だちと遊（あそ）んだり、おしゃべりしたりする時間（じかん）がすくない |
| 4. 習（なら）いごとを休（やす）むことが多（おお）い | 10. 特（とく）にない |
| 5. 提出物（ていしゅつぶつ）をだすのがおくれることが多（おお）い | |
| 6. 修学旅行（しゅうがくりょこう）などの泊（と）まりがけの行事（ぎょうじ）を欠席（けっせき）する | |

問8. あなたが悩（なや）んでいることはありますか。（あてはまる番号（ばんごう）すべてに○）

- | | |
|-------------------------|--|
| 1. 友（とも）だちのこと | 5. 生活（せいかつ）や勉強（べんきょう）に必要（ひつよう）なお金（かね）のこと |
| 2. 学校（がっこう）や成績（せいせき）のこと | 6. 自分（じぶん）のために使（つか）える時間（じかん）がすくないこと |
| 3. 習（なら）いごとのこと | 7. そのた（ ） |
| 4. 家族（かぞく）のこと | 8. 特（とく）にない |

問9. 問（とい）8でどれかに○をつけた人（ひと）におききます。○をつけた悩み（なやみ）について、話（はなし）をきいてくれる人（ひと）はいますか。（あてはまる番号（ばんごう）1つに○）

- | | | |
|-------|--------|-----------------|
| 1. いる | 2. いない | 3. 話（はなし）はしたくない |
|-------|--------|-----------------|

Ⅲ. 家庭（かてい）や家族（かぞく）のことについて

問10. 家族（かぞく）の中（なか）にあなたがお世話（せわ）をしている人（ひと）はいますか。（ここで「お世話（せわ）」とは、ふつう大人（おとな）がおこなうような家事（かじ）や家族（かぞく）のお世話（せわ）のことです。）

（あてはまる番号（ばんごう）1つに○）

- | | |
|--|--------|
| 1. いる | 2. いない |
| ⇒ここで回答（かいとう）はおわりです。
どうもありがとうございました。 | |

問11. 問(とい)10で「1. いる」と答(こた)えた人(ひと)におききます。

あなたは誰(だれ)に、どのようなお世話(せわ)をしていますか。

① あなたがお世話(せわ)をしている人(ひと)

(あてはまる番号(ばんごう)すべてに○)

1. お母(かあ)さん	3. おばあさん	5. きょうだい
2. お父(とう)さん	4. おじいさん	6. その他()
→「1. お母(かあ)さん」、「2. お父(とう)さん」を選(えら)んだ人(ひと)は②-aへ		
→「3. おばあさん」、「4. おじいさん」を選(えら)んだ人(ひと)は②-bへ		
→「5. きょうだい」を選(えら)んだ人(ひと)は②-cへ		
→「6. その他」を選(えら)んだ人(ひと)は②-dへ		

※お世話(せわ)をしている人(ひと)が何人(なんにん)かいる場合(ばあい)には、それぞれについてお答(こた)えください。

② お世話(せわ)を必要(ひつよう)としている人(ひと)の状況(じょうきょう)についておしえてください。

②-a お母(かあ)さん、あるいはお父(とう)さんのお世話(せわ)をしている人(ひと)におききます。それはどのような理由(りゆう)ですか。

(あてはまる番号(ばんごう)すべてに○)

1. 高齢(こうれい) (65才(さい)より年上(としようえ))	6. 心(こころ)の病気(びょうき) (おちこむことが多(おお)く、
2. 介護(かいご)が必要(ひつよう) (食事(しょくじ)や身(み)のまわり のお世話(せわ)など)	家事(かじ)ができなくなる、 ぐちが多(おお)くなるなど)
3. 認知症(にんちしょう) (夜(よる)になると歩(ある)き まわるなど)	7. 依存症(いぞんしょう) (お酒(さけ)やギャンブルなどを やめられない)
4. 身体障がい(しんたいしょうがい) (体(からだ)が自由(じゆう)に 動(うご)かせない、目(め)が 見(み)えない、耳(みみ)がきこ えないなど)	8. 6, 7以外(いがい)の病気 (びょうき) (完全(かんぜん)には治療 (ちりょう)できない病気 (びょうき)など)
5. 知的障がい(ちてきしょうがい)	9. 日本語(にほんご)が苦手(にがて)
	10. その他()
	11. わからない

②-b おばあさん、あるいはおじいさんをお世話（せわ）している人（ひと）におききます。それはどのような理由（りゆう）ですか。

（あてはまる番号（ばんごう）すべてに○）

- | | |
|--|---|
| 1. 高齢（こうれい）
（65才（さい）より年上（としようえ）） | 6. 心（こころ）の病気（びょうき）
（おちこむことが多（おお）く、
家事（かじ）ができなくなる、
ぐちが多（おお）くなるなど） |
| 2. 介護（かいご）が必要（ひつよう）
（食事（しょくじ）や身（み）のまわり
のお世話（せわ）など） | 7. 依存症（いぞんしょう）
（お酒（さけ）やギャンブルなどを
やめられない） |
| 3. 認知症（にんちしょう）
（夜（よる）になると歩（ある）き
まわるなど） | 8. 6、7以外（いがい）の病気
（びょうき）
（完全（かんぜん）には治療
（ちりょう）できない病気
（びょうき）など） |
| 4. 身体障がい（しんたいしょうがい）
（体（からだ）が自由（じゆう）に
動（うご）かせない、目（め）が
見（み）えない、耳（みみ）がきこ
えないなど） | 9. 日本語（にほんご）が苦手（にがて） |
| 5. 知的障がい（ちてきしょうがい） | 10. そのた（ ） |
| | 11. わからない |

②-c きょうだいをお世話（せわ）している人におききます。それはどのような理由（りゆう）ですか。（あてはまる番号（ばんごう）すべてに○）

- | | |
|--|----------------------|
| 1. 若い（おさない）ため、世話（せわ）
をしてあげる必要（ひつよう）がある | 5. 病気（びょうき） |
| 2. 介護（かいご）が必要（ひつよう）
（食事（しょくじ）や身（み）のまわり
のお世話（せわ）など） | 6. 日本語（にほんご）が苦手（にがて） |
| 3. 身体障がい（しんたいしょうがい）
（体（からだ）が自由（じゆう）に
動（うご）かせない、目（め）が
見（み）えない、耳（みみ）がきこ
えないなど） | 7. その他（ ） |
| 4. 知的障がい（ちてきしょうがい） | 8. わからない |

②-d 「そのた」の人(ひと)をお世話(せわ)している人(ひと)におききます。それはどのような理由(りゆう)ですか。

(あてはまる番号(ばんごう)すべてに○)

1. 高齢(こうれい) (65才(さい)より年上(としうえ))	7. 心(こころ)の病気(びょうき) (おちこむことが多(おお)く、
2. 若い(おさない)ため、世話(せわ) をしてあげる必要(ひつよう)がある	家事(かじ)ができなくなる、 ぐちが多(おお)くなるなど)
3. 介護(かいご)が必要(ひつよう) (食事(しょくじ)や身(み)のまわり のお世話(せわ)など)	8. 依存症(いぞんしょう) (お酒(さけ)やギャンブルなどを やめられない)
4. 認知症(にんちしょう) (夜(よる)になると歩(ある)き まわるなど)	9. 7, 8以外(いがい)の病気 (びょうき) (完全(かんぜん)には治療 (ちりょう)できない病気 (びょうき)など)
5. 身体障がい(しんたいしょうがい) (体(からだ)が自由(じゆう)に 動(うご)かせない、目(め)が 見(み)えない、耳(みみ)がきこ えないなど)	10. 日本語(にほんご)が苦手(にがて) 11. そのた()
6. 知的障がい(ちてきしょうがい)	12. わからない

③ あなたはどのようなお世話(せわ)をしていますか。お世話(せわ)をしている人(ひと)が何人(なんにん)かいる場合(ばあい)には、あてはまる番号(ばんごう)すべてに○をしてください。

1. 家事(かじ)(食事(しょくじ)の 準備(じゅんび)や掃除(そうじ)、 洗濯(せんたく))	7. 見守(みまも)り 8. 通訳(つうやく) (日本語(にほんご)や手話 (しゅわ)など)
2. きょうだいのお世話(せわ)や 送(おく)り迎(むか)え	9. お金(かね)の管理(かんり)
3. お風呂やトイレのお世話(せわ)	10. 薬(くすり)の管理(かんり)
4. 買(か)いものや散歩(さんぽ)に 一緒(いっしょ)に行く	11. そのた()
5. 病院(びょういん)へ一緒(いっしょ) に行く	
6. 話(はなし)をきく	

- ④ あなたはお世話（せわ）を誰（だれ）と一緒に（いっしょ）にしていますか。
何人（なんにん）かお世話（せわ）をしている人（ひと）がいる場合（ばあい）には、
あてはまる番号（ばんごう）すべてに○をしてください。

1. お母（かあ）さん	6. しんせき（おじ、おばなど）
2. お父（とう）さん	7. 自分（じぶん）のみ
3. おばあさん	8. 福祉（ふくし）サービス（ヘルパーなど）を利用（りよう）
4. おじいさん	9. そのた（ ）
5. きょうだい	

- ⑤ あなたは何才（なんさい）からお世話（せわ）をしていますか。（はっきりとわからない場合（ばあい）は、だいたいの年（とし）でかまいません）

（ ）才（さい）から

- ⑥ あなたはどのくらいお世話（せわ）をしていますか。
（あてはまる番号（ばんごう）1つに○）

1. ほぼ毎日（まいにち）	4. 1か月（いっかげつ）に数日（すうじつ）
2. 週（しゅう）に3～5日（にち）	
3. 週（しゅう）に1～2日（にち）	5. そのた（ ）

- ⑦ あなたは平日（へいじつ）何時間（なんじかん）くらいお世話（せわ）をしていますか。（日（ひ）によってちがう場合（ばあい）は、この1か月（いっかげつ）でいちばん長（なが）かった日（ひ）の時間（じかん）をおしえてください）

1日（にち）（ ）時間（じかん）くらい

- 問12. お世話（せわ）をしていることで、以下（いか）のような経験（けいけん）をしたことはありますか。（あてはまる番号（ばんごう）すべてに○）

1. 学校（がっこう）を休（やす）んでしまう	6. 習（なら）いごとができない
2. 遅刻（ちこく）や早退（そうたい）をしてしまう	7. 自分（じぶん）の時間（じかん）がとれない
3. 宿題（しゅくだい）など勉強（べんきょう）する時間（じかん）がない	8. そのた（ ）
4. 眠る（ねむる）時間（じかん）がたりない	9. 特（とく）にない
5. 友（とも）だちと遊（あそ）ぶことができない	

問13. お世話（せわ）をすることに大変（たいへん）さを感じ（かん）じていますか。
（あてはまる番号（ばんごう）すべてに○）

- | | |
|--------------------------|--------------------------------|
| 1. 体力（たいりょく）のめんで大変（たいへん） | 3. 時間（じかん）の余裕（よゆう）がない |
| 2. 気持（きも）ちのめんで大変（たいへん） | 4. 特（とく）に大変（たいへん）さを感じ（かん）じていない |

問14. あなたがお世話（せわ）をしている家族（かぞく）のことや、お世話（せわ）の悩み（なやみ）について誰（だれ）かに相談（そうだん）したことはありますか。（あてはまる番号（ばんごう）1つに○）

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. ある ⇒ 問（とい）15へ | 2. ない ⇒ 問（とい）16へ |
|------------------|------------------|

問15. 問（とい）14で「1. ある」と回答（かいとう）した人（ひと）におききます。それは誰（だれ）ですか。（あてはまる番号（ばんごう）すべてに○）

- | | |
|--|--|
| 1. 家族（かぞく）（お父（とう）さん、お母（かあ）さん、おじいさん、おばあさん、きょうだい） | 6. スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー |
| 2. しんせき（おじ、おばなど） | 7. 病院（びょういん）・福祉（ふくし）サービスの人（ひと） |
| 3. 友（とも）だち | 8. 近所（きんじょ）の人（ひと） |
| 4. 学校（がっこう）の先生（せんせい）（保健室（ほけんしつ）の先生（せんせい）以外（いがい）） | 9. SNS上（じょう）での知（し）りあい（LINE（ライン）、Twitter（ツイッター）、Instagram（インスタグラム）など） |
| 5. 保健室（ほけんしつ）の先生（せんせい） | 10. そのた（ ） |

問16. 問（とい）14で「2. ない」と回答（かいとう）した人（ひと）におききます。相談（そうだん）していない理由（りゆう）をおしえてください。（あてはまる番号（ばんごう）すべてに○）

- | | |
|---------------------------------|--------------------------------|
| 1. 相談（そうだん）するほどの悩み（なやみ）ではないから | 4. 家族（かぞく）のことを話（はな）したくないから |
| 2. 誰（だれ）に相談（そうだん）するのがよいかわからないから | 5. 相談（そうだん）しても何（なに）も変（か）わらないから |
| 3. 相談（そうだん）できる人（ひと）がいないから | 6. そのた（ ） |

問17. 問（とい）14で「2. ない」と回答（かいとう）した人（ひと）におききます。あなたがお世話（せわ）をしている家族（かぞく）のことや、お世話（せわ）の悩み（なやみ）をきいてくれる人（ひと）はいますか。（あてはまる番号（ばんごう）1つに○）

- | | |
|-------|--------|
| 1. いる | 2. いない |
|-------|--------|

問18. 学校（がっこう）やまわりの大人（おとな）にしてもらいたいことはありますか。

（あてはまる番号（ばんごう）すべてに○）

1. 自分（じぶん）のことについて話（はなし）をきいてほしい
2. 家族（かぞく）のお世話（せわ）について相談（そうだん）にのってほしい
3. 家族（かぞく）の病気（びょうき）や障がい（しょうがい）、お世話（せわ）のことなどについてわかりやすく説明（せつめい）してほしい
4. 自分（じぶん）がおこなっているお世話（せわ）のすべてを誰（だれ）にかかわってほしい
5. 自分（じぶん）がおこなっているお世話（せわ）の一部（いちぶ）を誰（だれ）にかかわってほしい
⇒具体的（ぐたいてき）にどんなお世話（せわ）、もしくはどんな時（とき）ですか（ ）
6. 自由（じゆう）につかる時間（じかん）9. そのた（ ）がほしい
10. 特（とく）にない
7. 勉強（べんきょう）をおしえてほしい
11. わからない
8. お金（かね）のめんで助（たす）けてほしい
→「1. 自分（じぶん）のことについて話（はなし）をきいてほしい」「2. 家族（かぞく）のお世話（せわ）について相談（そうだん）にのってほしい」をえらんだ人（ひと）は問（とい）19へ
→それ以外（いがい）の人（ひと）は問（とい）20へ

問19. 問（とい）18で「1. 自分（じぶん）のことについて話（はなし）をきいてほしい」

「2. 家族（かぞく）のお世話（せわ）について相談（そうだん）にのってほしい」と回答（かいとう）した人（ひと）におききます。どのような方法（ほうほう）で話（はなし）をきいたり相談（そうだん）にのってほしいですか。

（あてはまる番号（ばんごう）すべてに○）

1. 直接（ちよくせつ）あって	3. SNS	5. そのた（ ）
2. 電話（でんわ）	4. メール	

※SNSとは、LINE（ライン）、Twitter（ツイッター）、Instagram（インスタグラム）など

問20. あなたは「ヤングケアラー」にあてはまると思（おも）いますか。

（あてはまる番号（ばんごう）1つに○）

1. あてはまる	2. あてはまらない	3. わからない
----------	------------	----------

問21. 家族（かぞく）のお世話（せわ）をしているこどものために、必要（ひつよう）だと思（おも）うことや、学校（がっこう）やまわりの大人（おとな）にしてもらいたいこと（問（とい）18でかききれなかったことなど）を自由（じゆう）にかいてください。

--

「学生の生活実態に関するアンケート調査」調査票

I 基本情報

問1 あなたの性別を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1. 男性
2. 女性
3. その他

問2 現在住んでいる市町村を教えてください。

--

問3 一緒に住んでいる家族について教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

1. 母親	5. 兄・姉 ⇒ ()人
2. 父親	6. 弟・妹 ⇒ ()人
3. 祖母	7. その他 ()
4. 祖父	

問4 あなたの健康状態について教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1. よい	4. あまりよくない
2. まあよい	5. よくない
3. ふつう	

II ふだんの生活についてお伺いします。

問5 学校への通学状況等について教えてください。(あてはまる番号1つに○)

① 出席状況		
1. ほとんど欠席しない	2. たまに欠席する	3. よく欠席する
② 遅刻や早退の状況		
1. ほとんどしない	2. たまにする	3. よくする

問6 部活動(学校外での活動を含む)に参加していますか。(あてはまる番号1つに○)

1. 参加している
2. 参加していない

問7 ふだんの学校生活等において、以下の中であてはまるものはありますか(あてはまる番号すべてに○)

1. 授業中に居眠りすることが多い	6. 修学旅行などの宿泊行事を欠席する
2. 宿題や課題ができていないことが多い	7. 保健室で過ごすことが多い
3. 持ち物の忘れ物が多い	8. 学校では1人で過ごすことが多い
4. 部活動や習い事を休むことが多い	9. 友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない
5. 提出しなければならない書類などの提出が遅れることが多い	10. 特にない

問8 現在、悩んだり困っていることはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 友人との関係のこと	7. 家族の経済的状況のこと
2. 学業成績のこと	8. 自分と家族との関係のこと
3. 進路のこと	9. 家庭内の人間関係のこと
4. 部活動のこと	10. 病気や障がいのある家族のこと
5. 学費(授業料)など学校生活に必要なお金のこと	11. 自分のために使える時間が少ない
6. 塾(通信含む)や習い事ができない	12. その他 ()
	13. 特にない

問9 問8で1～12のいずれかを回答した方にお聞きします。回答した悩みや困りごとについて、相談に乗ってくれたり、話を聞いてくれる人がいますか（あてはまる番号1つに○）

- | |
|-----------------------|
| 1. 相談相手や話を聞いてくれる人がいる |
| 2. 相談相手や話を聞いてくれる人がいない |
| 3. 相談や話はしたくない |

Ⅲ 家庭や家族のことについてお伺いします。

問10 家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか。（ここで「お世話」とは、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などをすることです。）（あてはまる番号1つに○）

- | |
|---------------|
| 1. いる |
| 2. いない ⇒ 問20へ |

問11 問10で「1. いる」と答えた方にお聞きします。お世話の状況についてお教えてください。

① お世話を必要としている方（あてはまる番号すべてに○）		
1. 母親	3. 祖母	5. きょうだい
2. 父親	4. 祖父	6. その他（ ）
② お世話を必要としている方が複数いる場合はそれぞれの方についてお答えください。		
②-a 母親、あるいは父親のお世話をしている人におききます。		
お世話を必要としている方の状況を教えてください。（あてはまるものすべてに☑）		
1. 高齢（65歳以上）	5. 知的障がい	8. 6, 7以外の病気
2. 要介護（介護が必要な状態）	6. 精神疾患（疑い含む）	9. 日本語を話すことが苦手
3. 認知症	7. 依存症（アルコール依存症 ギャンブル依存症など）	10. その他（ ）
4. 身体障がい	（疑い含む）	
②-b 祖母、あるいは祖父のお世話をしている人におききます。		
お世話を必要としている方の状況を教えてください。（あてはまるものすべてに☑）		
1. 高齢（65歳以上）	5. 知的障がい	8. 6, 7以外の病気
2. 要介護（介護が必要な状態）	6. 精神疾患（疑い含む）	9. 日本語を話すことが苦手
3. 認知症	7. 依存症（アルコール依存症 ギャンブル 依存症など）	10. その他（ ）
4. 身体障がい	（疑い含む）	
②-c きょうだいのお世話をしている人におききます。		
お世話を必要としている方の状況を教えてください。（あてはまるものすべてに☑）		
1. 若い	3. 身体障がい	5. 病気
2. 要介護	4. 知的障がい	6. 日本語が苦手
		7. その他（ ）
②-d その他のお世話をしている人におききます。		
お世話を必要としている方の状況を教えてください。（あてはまるものすべてに☑）		
1. 高齢（65歳以上）	6. 知的障がい	9. 7, 8以外の病気
2. 若い	7. 精神疾患（疑い含む）	10. 日本語を話すことが苦手
3. 要介護（介護が必要な状態）	8. 依存症（アルコール依存症 ギャンブル 依存症など）	11. その他（ ）
4. 認知症	（疑い含む）	
5. 身体障がい	（疑い含む）	
※以下は、お世話を必要としている方が複数いる場合も、それぞれの方ごとではなく一括でお答えください。		
③ あなたが行っているお世話の内容を教えてください。（あてはまる番号すべてに○）		
1. 家事（食事の準備や掃除、洗濯）	6. 感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	
2. きょうだいの世話や保育所等への送迎など	7. 見守り	
3. 身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）	8. 通訳（日本語や手話など）	
4. 外出の付き添い（買い物、散歩など）	9. 金銭管理	
5. 通院の付き添い	10. 薬の管理	
	11. その他（ ）	
④ お世話は誰と行っていますか（あてはまる番号すべてに○）		
1. 母親	4. 祖父	7. 自分のみ
2. 父親	5. きょうだい	8. 福祉サービス（ヘルパーなど）を利用
3. 祖母	6. 親戚の人	9. その他（ ）
⑤ お世話はいつから行っていますか。お世話を始めた年齢をお答えください。（はっきりとわからない場合は、だいたい年齢でかまいません）		
（ ）歳から		
⑥ お世話をしている頻度を教えてください。（あてはまる番号1つに○）		
1. ほぼ毎日	3. 週に1～2日	5. その他（ ）
2. 週に3～5日	4. 1か月に数日	
⑦ 平日にお世話はどれくらい行っていますか。時間数をお答えください。（日によって異なる場合は、この1か月の中で最も長かった日の時間をお答えください）		
1日（ ）時間程度		

問12 お世話をしていることで、やりたいけど、できていないことはありますか。
(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|------------------------|-------------------------------|
| 1. 学校に行きたくても行けない | 6. 部活や習い事ができない、もしくは辞めざるを得なかった |
| 2. どうしても学校を遅刻・早退してしまう | 7. 進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変更した |
| 3. 宿題をする時間や勉強する時間が取れない | 8. 自分の時間が取れない |
| 4. 睡眠が十分に取れない | 9. その他 () |
| 5. 友人と遊ぶことができない | 10. 特にない |

問13 お世話をすることにきつきを感じていますか。(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|------------|-----------------|
| 1. 身体的にきつい | 3. 時間的余裕がない |
| 2. 精神的にきつい | 4. 特にきつきは感じていない |

問14 お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを誰かに相談したことはありますか。
(あてはまる番号1つに○)

- | |
|--------------|
| 1. ある ⇒ 問15へ |
| 2. ない ⇒ 問16へ |

問15 問14で「1. ある」と回答した方にお聞きます。それは誰ですか。(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|---------------------------------|-----------------------|
| 1. 家族(父、母、祖父、祖母、きょうだい) | 7. 医師や看護師、その他病院の人 |
| 2. 親戚(おじ、おばなど) | 8. ヘルパーやケアマネ、福祉サービスの人 |
| 3. 友人 | 9. 役所や保健センターの人 |
| 4. 学校の先生(保健室の先生以外) | 10. 近所の人 |
| 5. 保健室の先生 | 11. SNS上での知り合い |
| 6. スクールソーシャルワーカーや
スクールカウンセラー | 12. その他 () |

問16 問14で「2. ない」と回答した方にお聞きます。相談していない理由を教えてください。
(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 1. 誰かに相談するほどの悩みではない | 6. 家族のことを知られたくない |
| 2. 家族外の人に相談するような悩みではない | 7. 家族に対して偏見を持たれたくない |
| 3. 誰に相談するのがよいかわからない | 8. 相談しても状況が変わるとは思わない |
| 4. 相談できる人が身近にいない | 9. その他 () |
| 5. 家族のこのため話しくい | |

問17 問14で「2. ない」と回答した方にお聞きます。お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを聞いてくれる人はいますか。(あてはまる番号1つに○)

- | |
|--------|
| 1. いる |
| 2. いない |

問18 学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援はありますか。
(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|---------------------------------------|------------------------|
| 1. 自分のいまの状況について話を聞いてほしい | 6. 自由に使える時間がほしい |
| 2. 家族のお世話について相談にのってほしい | 7. 進路や就職など将来の相談にのってほしい |
| 3. 家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい | 8. 学校の勉強や受験勉強など学習のサポート |
| 4. 自分が行っているお世話のすべてを代わってくれる人やサービスがほしい | 9. 家庭への経済的な支援 |
| 5. 自分が行っているお世話の一部を代わってくれる人やサービスがほしい | 10. わからない |
| ⇒具体的にどんなお世話、もしくはどんな時ですか () | 11. その他 () |
| | 12. 特にない |

問19 問18で「1. 自分のいまの状況について話を聞いてほしい」「2. 家族のお世話について相談にのってほしい」と回答した方にお聞きます。どのような方法で話を聞いて欲しいですか。
(あてはまる番号すべてに○)

- | | | |
|----------|------------|--------|
| 1. 直接会って | 2. 電話 | 3. SNS |
| 4. 電子メール | 5. その他 () | |

IV ヤングケアラーについて

ヤングケアラーとは、「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っていることにより、子ども自身がやりたいことができないなど、子ども自身の権利が守られていないと思われる子ども」のことをいいます。



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りを行っている



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている



障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

©一般社団法人日本ケアラー連盟 / illustration : Izumi Shiga

問20 あなた自身は「ヤングケアラー」にあてはまると思えますか。（あてはまる番号1つに○）

1. あてはまる
2. あてはまらない
3. わからない

問21 「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありましたか。（あてはまる番号1つに○）

1. 聞いたことがあり、内容も知っている
2. 聞いたことはあるが、よく知らない
3. 聞いたことはない

問22 問21で「1. 聞いたことがあり、内容も知っている」「2. 聞いたことはあるが、よく知らない」と回答した方にお聞きします。「ヤングケアラー」という言葉をどこで知りましたか。（あてはまる番号すべてに○）

- | | |
|----------------|----------------------|
| 1. テレビや新聞、ラジオ | 5. イベントや交流会など |
| 2. 雑誌や本 | 6. 学校 |
| 3. SNSやインターネット | 7. 友人・知人から聞いた |
| 4. 広報やチラシ、掲示物 | 8. その他（ ） |

自由記述欄（ヤングケアラーへの支援を広げていくために必要だと思うことや、要望等なんでも）

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

学校におけるヤングケアラーへの対応に関するアンケート調査

I. 基本情報

問1 ご回答された方の役職をお教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1. 校長	5. スクールソーシャルワーカー (SSW)
2. 副校長・教頭	6. スクールカウンセラー (SC)
3. 主幹・主任教諭 (具体的に:)	7. その他 ()
4. 養護教諭	

問2 貴校の学校区分をお教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1. 小学校
2. 中学校
3. 高等学校 ⇒ ①課程: 全日制 ・ 定時制 ・ 通信制 ②単位制の有無: あり ・ なし
4. 特別支援学校

問3 貴校の所在地をお教えてください。

() 市・町・村

問4 小学校については小学6年生、中学校については中学2年生、高等学校については高校2年生の人数、特別支援学校については調査対象学年の合計についてお教えてください(令和4年8月1日時点)。

() 人

II. 支援が必要と思われる子どもへの対応についてお伺いします。

問5 SSW、SCの派遣・配置状況をお伺いします。

(1) SSWの派遣・配置状況 (あてはまる番号1つに○)

1. 週に2～3回以上派遣・配置されている	4. 要請に応じて派遣される
2. 週に1回程度派遣・配置されている	5. その他 ()
3. 月に数回以下で派遣・配置されている	6. 派遣・配置されていない

(2) SCの派遣・配置状況 (あてはまる番号1つに○)

1. 週に2～3回以上派遣・配置されている	4. 要請に応じて派遣される
2. 週に1回程度派遣・配置されている	5. その他 ()
3. 月に数回以下で派遣・配置されている	6. 派遣・配置されていない

問6 下記の子どものついて校内で共有しているケースはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 学校を休みがちである	8. 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い
2. 遅刻や早退が多い	9. 学校に必要なものを用意してもらえない
3. 保健室で過ごしていることが多い	10. 部活を途中でやめてしまった
4. 精神的な不安定さがある	11. 修学旅行や宿泊行事等を欠席する
5. 身だしなみが整っていない	12. 校納金が遅れる、未払い
6. 学力が低下している	13. その他 ()
7. 宿題や持ち物の忘れ物が多い	

問7 問6のケースについて、どのような体制で情報共有・対応の検討を行っていますか。最も多いケースでご回答ください。

(あてはまる番号1つに○)

1. 不登校の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している ⇒ 問8へ
2. 不登校以外の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している ⇒ 問8へ
3. 個別に対応している(決まった検討体制はない) ⇒ 問9へ

問8 問7で「1. 不登校の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」、「2. 不登校以外の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」と回答した方にお伺いします。校内ではどのような体制で情報共有・対応の検討を行っていますか。

(1) 情報共有・対応の検討方法等 (あてはまる番号すべてに○)

1. スクリーニング会議(※)	5. 教育相談コーディネーターなど学校内・関係機関との連絡調整・会議開催の調整など児童生徒の抱える課題の解決に向けて調整役として活動する教職員の配置・指名
2. ケース会議	6. その他 ()
3. 生徒指導部・委員会など	
4. 児童生徒理解・支援シートなど共通様式による情報共有	

※すべての子どもを対象として、問題の未然防止のために、データに基づいて、潜在的に支援が必要な子どもや家庭を適切な支援につなぐための迅速な識別を行う会議。

(2) (1)で「1. スクリーニング会議」「2. ケース会議」「3. 生徒指導部・委員会など」、「6. その他」と回答した方にお伺いします。
どの教職員が参加していますか。また、会議の頻度はどれくらいですか。(あてはまる欄に番号を記入)

	参加者	頻度
1. スクリーニング会議		
2. ケース会議		
3. 生徒指導部・委員会など		
6. その他		

<参加者：選択肢>

- | | |
|-----------|------------|
| 1. 校長 | 7. SSW |
| 2. 副校長・教頭 | 8. SC |
| 3. 学年主任 | 9. 外部の関係機関 |
| 4. 担任教諭 | () |
| 5. 生徒指導教諭 | 10. その他 |
| 6. 養護教諭 | () |

<頻度：選択肢>

- | |
|-------------|
| 1. 2週間に1回以上 |
| 2. 月に1回程度 |
| 3. 半年に1回程度 |
| 4. 年に1回程度 |

問9 問7で「3. 個別に対応している」と回答した方にお伺いします。問6のケースについて、貴校ではどのような体制・方法で情報共有・対応の検討を行っていますか。関わる教職員、情報共有や検討の方法、頻度等について、具体的にお教えください。

--

問10 問6のケースについて、学校以外の関係機関と連携して、必要に応じて情報共有や対応の検討を行うための体制がありますか。それぞれのケースについて、お答えください。また、連携体制がある場合は、連携する関係機関を選択肢からお選びください。

	体制（1つに○）	関係機関（あてはまる数字を記入）
①要保護児童対策地域協議会の登録ケース	1. ある 2. 特になし	→
②不登校のケース	1. ある 2. 特になし	→
③それ以外	1. ある 2. 特になし	→

<関係機関：選択肢>

- | | |
|-------------------------------------|----------------------------|
| 1. 市町村教育委員会 | 6. フリースクール・子ども食堂などの民間団体・施設 |
| 2. 市町村の福祉部門（4を除く） | 7. 児童相談所 |
| 3. 市町村の保健部門 | 8. 民生委員 |
| 4. 市町村の要保護児童対策地域協議会の調整機関
／虐待対応部門 | 9. 病院 |
| 5. 教育支援センター（適応指導教室） | 10. 警察や刑事司法関係機関 |
| | 11. その他（ ） |

問11 貴校では「ヤングケアラー」という概念を認識していますか。（あてはまる番号1つに○）

- | |
|---------------------------------------|
| 1. 言葉を知らない ⇒ 問14へ |
| 2. 言葉は聞いたことがあるが、具体的には知らない ⇒ 問14へ |
| 3. 言葉は知っているが、学校としては特別な対応をしていない ⇒ 問14へ |
| 4. 言葉を知っており、学校として意識して対応している ⇒ 問12へ |

問12 問11で「4. 言葉を知っており、学校として意識して対応している」と回答した方にお伺いします。「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態を把握していますか。（あてはまる番号1つに○）

- | |
|--|
| 1. 把握している ⇒ 問13へ |
| 2. 「ヤングケアラー」と思われる子どもはいるが、その実態は把握していない ⇒ 問14へ |
| 3. 該当する子どもはいない（これまでいなかった） ⇒ 問14へ |

問13 問12で「1. 把握している」と回答した方にお伺いします。「ヤングケアラー」と思われる子どもをどのように把握していますか。（あてはまる番号すべてに○）

- | |
|--|
| 1. アセスメントシートやチェックリストなどのツールを用いている |
| 2. 特定のツールはないが、できるだけ「ヤングケアラー」の視点を持って検討・対応している |
| 3. その他（ ） |

問14 ヤングケアラーを把握していない方も含め、全員にお伺いします。

ヤングケアラーとは、「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話を日常的に行っていることにより、子ども自身がやりたいことができないなど、子ども自身の権利が守られていないと思われる子ども」のことを言います。ヤングケアラーの定義を踏まえて、以下の設問にお答えください。



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている



障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

©一般社団法人日本ケアラー連盟 / illustration : Izumi Shiga

ヤングケアラーの定義を見て、現在、貴校にヤングケアラーと思われる（可能性も含めて）子どもはいますか。

（あてはまる番号1つに○）

- | |
|-----------------|
| 1. いる ⇒ 問15へ |
| 2. いない ⇒ 問17へ |
| 3. 分からない ⇒ 問16へ |

問15 問14で「1. いる」と回答した方にお伺いします。

(1) ヤングケアラーと思われる子どもの状況は下記のうちどれですか。 （あてはまる番号すべてに○）

- | |
|--|
| 1. 障がいや病気のある家族に代わり、家事（買い物、料理、洗濯、掃除など）をしている |
| 2. 家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている |
| 3. 家族の代わりに、障がいや病気のあるきょうだいの世話をしている |
| 4. 目を離せない家族の見守りや声掛けをしている |
| 5. 家族の通訳をしている |
| 6. 家計を支えるために、アルバイト等をしている |
| 7. アルコール・薬物・ギャンブルなどの問題のある家族に対応している |
| 8. 病気の家族の看病をしている |
| 9. 障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている |
| 10. 障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている |
| 11. その他（ ） |

(2) ヤングケアラーと思われる子どもについて、具体的に学校以外の外部（教育委員会、役所、要保護児童対策地域協議会など）の支援につないだケースはありますか。 （あてはまる番号すべてに○）

- | |
|--|
| 1. 要保護児童対策地域協議会に通告したケースがある ⇒ (3)へ |
| 2. 要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある ⇒ (3)へ |
| 3. 外部の支援にはつないでいない（学校内で対応している） ⇒ (4)へ |

(3) ②で「1. 要保護児童対策地域協議会に通告したケースがある」、「2. 要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある」と回答した方にお伺いします。それぞれの該当する直近のケースについて、1件ずつお教えてください。

① 要保護児童対策地域協議会に通告したケース

性別（1つに○）	1. 女性	2. 男性	3. その他
学年（1つに○）	1. 小学（ ）年	2. 中学（ ）年	3. 高校（ ）年
学生生活の状況 （すべてに○）	1. 学校を休みがちである 2. 遅刻や早退が多い 3. 保健室で過ごしていることが多い 4. 精神的な不安定さがある 5. 身だしなみが整っていない 6. 学力が低下している 7. 宿題や持ち物の忘れ物が多い	8. 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い 9. 学校に必要なものを用意してもらえない 10. 部活を途中でやめてしまった 11. 修学旅行や宿泊行事等を欠席する 12. 校納金が遅れる、未払い 13. その他（ ）	
家族構成 （すべてに○）	1. 母親	3. 祖母	5. きょうだい
	2. 父親	4. 祖父	6. その他（ ）
家庭でのケアの状況 （すべてに○）	①ケアの状況を把握しているか ⇒ はい・いいえ		
	②「はい」の場合、ケアの具体的な内容		
	a) ケアを必要としている人	b) ケアを必要としている人の状況	
	1. 母親 2. 父親 3. 祖母 4. 祖父 5. きょうだい 6. その他（ ）	1. 高齢（65歳以上） 2. 幼い 3. 要介護（介護が必要な状態） 4. 認知症 5. 身体障がい 6. 知的障がい	7. 精神疾患（疑い含む） 8. 依存症（疑い含む） 9. 7、8以外の病気 10. その他（ ） 11. わからない
	c) ケアの内容		
	1. 家事（食事の準備や掃除、洗濯） 2. きょうだいの世話や保育所等への送迎など 3. 身体的な介護（入浴やトイレのお世話など） 4. 外出の付き添い（買い物、散歩など） 5. 通院の付き添い 6. 感情面のサポート （愚痴を聞く、話し相手になるなど）	7. 見守り 8. 通訳（日本語や手話など） 9. 金銭管理 10. 薬の管理 11. その他（ ） 12. わからない	
ヤングケアラーと気づいた理由・きっかけ			
要保護児童対策地域協議会への通告ルート	1. 市町村教育委員会経由 2. 学校から直接連絡 3. その他（ ）		
学校で行った支援 （要対協との連携含めて）			
支援した結果、子どもへの変化			

②要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース

性別（1つに○）	1. 女性	2. 男性	3. その他
学年（1つに○）	1. 小学（ ）年	2. 中学（ ）年	3. 高校（ ）年
学生生活の状況 （すべてに○）	1. 学校を休みがちである 2. 遅刻や早退が多い 3. 保健室で過ごしていることが多い 4. 精神的な不安定さがある 5. 身だしなみが整っていない 6. 学力が低下している 7. 宿題や持ち物の忘れ物が多い	8. 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い 9. 学校に必要なものを用意してもらえない 10. 部活を途中でやめてしまった 11. 修学旅行や宿泊行事等を欠席する 12. 校納金が遅れる、未払い 13. その他（ ）	
家族構成 （すべてに○）	1. 母親	3. 祖母	5. きょうだい
	2. 父親	4. 祖父	6. その他（ ）
家庭でのケアの状況 （すべてに○）	①ケアの状況を把握しているか ⇒ はい・いいえ		
	②「はい」の場合、ケアの具体的な内容		
	a) ケアを必要としている人	b) ケアを必要としている人の状況	
	1. 母親	1. 高齢（65歳以上）	7. 精神疾患（疑い含む）
	2. 父親	2. 幼い	8. 依存症（疑い含む）
	3. 祖母	3. 要介護（介護が必要な状態）	9. 7、8以外の病気
	4. 祖父	4. 認知症	10. その他（ ）
	5. きょうだい	5. 身体障がい	11. わからない
	6. その他（ ）	6. 知的障がい	
	c) ケアの内容		
	1. 家事（食事の準備や掃除、洗濯）	7. 見守り	
	2. きょうだいの世話や保育所等への送迎など	8. 通訳（日本語や手話など）	
	3. 身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）	9. 金銭管理	
	4. 外出の付き添い（買い物、散歩など）	10. 薬の管理	
	5. 通院の付き添い	11. その他（ ）	
	6. 感情面のサポート （愚痴を聞く、話し相手になるなど）	12. わからない	
ヤングケアラーと気づいた理由・きっかけ			
つないだ機関			
外部機関へのつなぎ方	1. 市町村教育委員会経由 2. 学校から直接連絡 3. その他（ ）		
学校が行った支援 （つなぎ先との連携も含めて）			
支援した結果、子どもへの変化			

(4) ②で「3. 外部の支援にはつないでいない（学校内で対応している）」と回答した方にお伺いします。
外部の支援につながらなかった理由を教えてください。また、どのように対応しているのかお教えてください。

理由	
対応方法	

(5) ヤングケアラーの把握や支援にあたって工夫していること、気を付けていることはどのようなことですか。具体的にお答えください。

--

(6) ヤングケアラーの把握や支援にあたって難しいと感じることはどのようなことですか。具体的にお答えください。

--

(7) 問14で「1. いる」と回答した方にお伺いします。今回の貴校の調査対象の学年の児童では何人把握していますか。

() 人

問16 問14で「3. 分からない」と回答した方にお伺いします。その理由をお教えてください。（あてはまる番号すべてに○）

<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校において、「ヤングケアラー」の概念や支援対象としての認識が不足している 2. 不登校やいじめなどに比べ緊急度が低いいため、「ヤングケアラー」に関する実態の把握が後回しになる 3. 家族内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい 4. ヤングケアラーである子ども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を認識していない 5. その他 ()

問17 ヤングケアラーを支援するために、必要だと思うことはどのようなことですか。（あてはまる番号すべてに○）

<ol style="list-style-type: none"> 1. 子ども自身がヤングケアラーについて知ること 2. 教職員がヤングケアラーについて知ること 3. 学校にヤングケアラーが何人いるか把握すること 4. SSWやSCなどの専門職の配置が充実すること 5. 子どもが教員に相談しやすい関係をつくること 6. ヤングケアラーについて検討する組織を校内に作ること 7. 学校にヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口があること 8. 学校がヤングケアラーの支援について相談できる機関があること 9. ヤングケアラーを支援するNPOなどの団体が増えること 10. 福祉と教育の連携を進めること（具体的に：) 11. その他 () 12. 特になし
--

問18 ヤングケアラーに関してご自由に意見をお書きください。

--

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。